

九州大学埋蔵文化財調査室報告 第13集

九州大学箱崎キャンパス発掘調査報告 10

箱崎遺跡

—HZK1801 地点—



2025

九州大学埋蔵文化財調査室

九州大学埋蔵文化財調査室報告 第13集

九州大学箱崎キャンパス発掘調査報告 10

箱崎遺跡

—HZK1801 地点—



2025

九州大学埋蔵文化財調査室



HZK1801 地点調査区全景（北西から）



HZK1801 地点小祠跡 SB36 出土状況（西から）



HZK1801 地点甕棺墓 ST40 人骨出土状況 (東から)



HZK1801 地点甕棺墓 ST64 人骨出土状況 (西から)



HZK1801 地点土坑墓 ST101 人骨・遺物出土状況（北東から）



HZK1801 地点土坑墓 ST129 人骨出土状況（南西から）



HZK1801 地点土坑墓 ST130 人骨・遺物出土状況（南西から）



HZK1801 地点土坑墓 ST138 人骨・遺物出土状況（南から）

例 言

1. 本書は、九州大学箱崎キャンパス跡地において2018年度に実施した埋蔵文化財発掘調査の成果報告書である。「跡地」までが正式名称だが、本書では煩瑣を避け、「箱崎キャンパス」と表記する。
2. 本書には2018年度に実施した HZK1801地点の調査成果を掲載する。
3. 本書の内容は同じ箱崎キャンパス北側で行われた HZK2006地点・HZK2007地点の調査成果を掲載した『九州大学埋蔵文化財調査室報告第11・12・14集』と補完しあっており、本書と合わせて適宜参照していただきたい。
4. 調査主体は九州大学埋蔵文化財調査室である。
5. 発掘調査・整理作業の担当者・参加者は報告箇所に記した。
6. 検出遺構および土層の実測は、齋藤瑞穂、三阪一徳が行い、人骨出土状況の実測については、石川健、舟橋京子、富田啓貴が行った。製図は、石井若香菜、田邊八子、門脇義徳、田中えみが行い、株式会社パスコが測量支援を行った。
7. 出土遺物の実測は、板倉佳代子、尾座本洋子、白井恭子、田中、谷直子が行い、製図は甲斐千秋、樫本真理、白井が行った。
8. 遺構写真は齋藤、三阪が、遺物写真は石井が撮影した。
9. 本書で使用した地形図は、2020年1月に調整した電子地形図25000「福岡」である。
10. 遺構図等における X・Y の数値は平面直角座標第Ⅱ系（原点：北緯33度0分0秒、東経131度0分0秒）における座標値（m）を、方位は同座標系の座標北を表す。標高値は東京湾平均海面を基準とする海拔高（m）で表す。
11. 土層の色調は、『新版標準土色帖』（2010年度版、農林水産省農林水産技術会議事務局監修／財団法人日本色彩研究所色票監修）に準拠して表現した。
12. 本書で使用する遺構記号は、次のとおりである。
SD：溝、SK：土坑、SP：ピット、ST：墓、SX：その他性格不明遺構等、SB：小祠
13. 本書の執筆はⅠ章を齋藤、谷が、Ⅱ章を宮本一夫が分担し、担当部分を末尾に記した。
14. 表紙デザインは、石井が担当した。
15. 本書に掲載した調査記録・写真および出土遺物は、九州大学埋蔵文化財調査室が収蔵保管する。
16. 本書の編集は、宮本監修のもと谷が担当した。

目次

巻頭図版

例言

目次

挿図・表目次

写真図版一覧

I HZK1801地点（航空風洞実験室西地点）

1. 調査の経緯	1
2. 遺構と遺物	2
3. 小結	81

II まとめ

1. はじめに	104
2. 遺構の変遷	106
3. おわりに	124

報告書抄録

挿図・表目次

I HZK1801地点（航空風洞実験室西地点）	
第1図 HZK1801地点遺構配置図 ……………	3
第2図 HZK1801地点調査区【A】南壁（東）土層断面図……………	5
第3図 HZK1801地点調査区【B】南壁（西）土層断面図……………	6
第4図 HZK1801地点土坑墓 ST01平面図 ……………	7
第5図 HZK1801地点土坑墓 ST01出土遺物 ……………	7
第6図 HZK1801地点土坑墓 ST14出土遺物 ……………	7
第7図 HZK1801地点土坑墓 ST02・ピット SP05～11・土坑 SK12・ピット SP13・15・16平面・断面図……………	8
第8図 HZK1801地点ピット SP17・土坑 SK18・ピット SP19・20平面・断面図 ……………	9
第9図 HZK1801地点ピット SP20出土遺物 ……………	9
第10図 HZK1801地点甕棺集中地点 SX23・甕棺廃棄土坑 SK24平面・断面図 ……………	10
第11図 HZK1801地点甕棺廃棄土坑 SK24出土遺物 1……………	11
第12図 HZK1801地点甕棺廃棄土坑 SK24出土遺物 2……………	12
第13図 HZK1801地点ピット SP25・甕棺廃棄土坑 SK26・土坑 SK27・ピット SP28・土坑 SK29・ピット SP30・31・土坑 SK32・33・34平面・断面図……………	13
第14図 HZK1801地点甕棺廃棄土坑 SK26出土遺物……………	14
第15図 HZK1801地点ピット SP31出土遺物 ……………	15
第16図 HZK1801地点甕棺集中地点 SX35平面図 ……	16
第17図 HZK1801地点甕棺集中地点 SX35出土遺物……………	16
第18図 HZK1801地点小祠跡 SB36平面・断面図 ……	17
第19図 HZK1801地点小祠跡 SB36出土遺物 ……………	17
第20図 HZK1801地点墓石廃棄土坑 SK38・ピット SP39平面図……………	17
第21図 HZK1801地点甕棺墓 ST40平面図 ……………	17
第22図 HZK1801地点甕棺墓 ST40出土遺物 ……………	17
第23図 HZK1801地点甕棺集中地点 SX41平面図 ……	18
第24図 HZK1801地点甕棺集中地点 SX41出土遺物……………	18
第25図 HZK1801地点土坑 SK42平面・断面図 ……	19
第26図 HZK1801地点土坑 SK42出土遺物 ……………	19
第27図 HZK1801地点甕棺・墓石廃棄土坑 SK43平面図……………	20
第28図 HZK1801地点甕棺・墓石廃棄土坑 SK43出土遺物……………	20
第29図 HZK1801地点甕棺・墓石廃棄土坑 SK44平面図……………	21
第30図 HZK1801地点甕棺墓 ST45平面図 ……………	22
第31図 HZK1801地点甕棺墓 ST45出土遺物 ……………	22
第32図 HZK1801地点土坑墓 ST46平面図 ……………	22
第33図 HZK1801地点土坑墓 ST46出土遺物 ……………	22
第34図 HZK1801地点土坑墓 ST47平面図 ……………	23
第35図 HZK1801地点土坑墓 ST47出土遺物 ……………	23
第36図 HZK1801地点甕棺・墓石廃棄土坑 SK48平面図……………	23
第37図 HZK1801地点甕棺・墓石廃棄土坑 SK48出土遺物……………	23
第38図 HZK1801地点土坑 SK49～51・53・蓋付壺出土地点 SX56平面・断面図 ……………	25
第39図 HZK1801地点蓋付壺出土地点 SX56出土遺物……………	25
第40図 HZK1801地点土坑 SK54平面・断面図 ……	26
第41図 HZK1801地点土坑 SK55平面・断面図 ……	26
第42図 HZK1801地点甕棺墓 ST57平面・断面図 ……	26
第43図 HZK1801地点甕棺墓 ST57出土遺物 ……………	27
第44図 HZK1801地点甕棺墓 ST58平面図 ……………	28
第45図 HZK1801地点甕棺墓 ST58出土遺物 ……………	28
第46図 HZK1801地点木棺墓 ST59平面図 ……………	29
第47図 HZK1801地点木棺墓 ST59出土遺物 ……………	29
第48図 HZK1801地点木棺墓 ST60平面図 ……………	29
第49図 HZK1801地点木棺墓 ST60出土遺物 ……………	29
第50図 HZK1801地点甕棺墓 ST61・土坑墓 ST122平面図……………	30
第51図 HZK1801地点甕棺墓 ST61出土遺物 ……………	30
第52図 HZK1801地点土坑墓 ST122出土遺物 ……	30
第53図 HZK1801地点甕棺墓 ST62平面図 ……………	30
第54図 HZK1801地点甕棺墓 ST62出土遺物 ……………	31
第55図 HZK1801地点甕棺墓 ST63平面図 ……………	33
第56図 HZK1801地点甕棺墓 ST63出土遺物 ……………	33
第57図 HZK1801地点甕棺墓 ST64平面図 ……………	33
第58図 HZK1801地点甕棺墓 ST64出土遺物 ……………	33
第59図 HZK1801地点甕棺墓 ST65平面図 ……………	34
第60図 HZK1801地点甕棺墓 ST65出土遺物 ……………	34
第61図 HZK1801地点甕棺墓 ST66平面図 ……………	34
第62図 HZK1801地点甕棺墓 ST66出土遺物 ……………	34
第63図 HZK1801地点甕棺墓 ST67平面図 ……………	35
第64図 HZK1801地点甕棺墓 ST67出土遺物 ……………	35
第65図 HZK1801地点土坑 SK68平面・断面図 ……	35
第66図 HZK1801地点土坑 SK68出土遺物 ……………	35
第67図 HZK1801地点墓石残置地点 SX69平面図 ……	35
第68図 HZK1801地点甕棺墓 ST70平面図 ……………	36
第69図 HZK1801地点甕棺墓 ST70出土遺物 ……………	36
第70図 HZK1801地点甕棺墓 ST71平面図 ……………	36
第71図 HZK1801地点甕棺墓 ST71出土遺物 ……………	37
第72図 HZK1801地点甕棺墓 ST72平面図 ……………	37
第73図 HZK1801地点甕棺墓 ST72出土遺物 ……………	37
第74図 HZK1801地点甕棺墓 ST73平面図 ……………	38
第75図 HZK1801地点甕棺墓 ST73出土遺物 ……………	38
第76図 HZK1801地点人骨出土地点 SX74平面図 ……	39
第77図 HZK1801地点人骨出土地点 SX74出土遺物……………	39

第78図	HZK1801地点甕棺墓 ST75平面・断面図 …	40	第125図	HZK1801地点甕棺墓 ST98出土遺物 ……	59
第79図	HZK1801地点甕棺墓 ST75出土遺物 ……	40	第126図	HZK1801地点甕棺集中地点 SX99平面図 ……	59
第80図	HZK1801地点甕棺墓 ST76平面・断面図 …	41	第127図	HZK1801地点性格不明遺構 SX100平面・断面図 ……	59
第81図	HZK1801地点甕棺墓 ST76出土遺物 ……	41	第128図	HZK1801地点性格不明遺構 SX100出土遺物 ……	59
第82図	HZK1801地点甕棺片出土集中部 SX77平面図 ……	41	第129図	HZK1801地点土坑墓 ST101平面図 ……	60
第83図	HZK1801地点甕棺片出土集中部 SX77出土遺物 ……	41	第130図	HZK1801地点土坑墓 ST101出土遺物 ……	60
第84図	HZK1801地点甕棺墓 ST78平面図 ……	42	第131図	HZK1801地点甕棺墓 ST102平面図 ……	60
第85図	HZK1801地点甕棺墓 ST78出土遺物 ……	42	第132図	HZK1801地点甕棺墓 ST102出土遺物 ……	60
第86図	HZK1801地点甕棺集中地点 SX79平面図 …	43	第133図	HZK1801地点甕棺墓 ST103平面図 ……	61
第87図	HZK1801地点甕棺集中地点 SX79出土遺物 ……	43	第134図	HZK1801地点甕棺墓 ST103出土遺物 ……	61
第88図	HZK1801地点甕棺墓 ST80平面図 ……	44	第135図	HZK1801地点人骨出土地点 SX104平面図 ……	62
第89図	HZK1801地点甕棺墓 ST80出土遺物 ……	44	第136図	HZK1801地点性格不明遺構 SX105平面図 ……	62
第90図	HZK1801地点甕棺墓 ST81平面図 ……	45	第137図	HZK1801地点性格不明遺構 SX105出土遺物 ……	62
第91図	HZK1801地点甕棺墓 ST81出土遺物 ……	45	第138図	HZK1801地点甕棺墓 ST106出土遺物 ……	62
第92図	HZK1801地点甕棺集中地点 SX82平面図 …	46	第139図	HZK1801地点甕棺墓 ST107・性格不明遺構 SX123平面図 ……	63
第93図	HZK1801地点甕棺集中地点 SX82出土遺物 ……	46	第140図	HZK1801地点甕棺墓 ST107・性格不明遺構 SX123出土遺物 ……	63
第94図	HZK1801地点土坑墓 ST83平面図 ……	46	第141図	HZK1801地点甕棺墓 ST108平面図 ……	63
第95図	HZK1801地点土坑墓 ST83出土遺物 ……	46	第142図	HZK1801地点甕棺墓 ST108出土遺物 ……	63
第96図	HZK1801地点人骨出土地点 SX84平面図 …	46	第143図	HZK1801地点甕棺墓 ST109平面図 ……	64
第97図	HZK1801地点性格不明遺構 SX85平面図 …	46	第144図	HZK1801地点甕棺墓 ST109出土遺物 ……	64
第98図	HZK1801地点性格不明遺構 SX85出土遺物 ……	46	第145図	HZK1801地点甕棺墓 ST110平面図 ……	64
第99図	HZK1801地点甕棺墓 ST86平面図 ……	47	第146図	HZK1801地点甕棺墓 ST110出土遺物 ……	64
第100図	HZK1801地点甕棺墓 ST86出土遺物 ……	48	第147図	HZK1801地点土坑墓 ST112平面・断面図 ……	65
第101図	HZK1801地点甕棺墓 ST87平面図 ……	49	第148図	HZK1801地点土坑墓 ST112出土遺物 ……	65
第102図	HZK1801地点甕棺墓 ST87出土遺物 ……	49	第149図	HZK1801地点土坑墓 ST114平面図 ……	66
第103図	HZK1801地点甕棺墓 ST88・111平面図 …	49	第150図	HZK1801地点土坑墓 ST115平面・断面図 ……	66
第104図	HZK1801地点甕棺墓 ST88・111出土遺物 ……	49	第151図	HZK1801地点土坑墓 ST115出土遺物 ……	66
第105図	HZK1801地点木棺墓 ST119出土遺物 ……	50	第152図	HZK1801地点甕棺墓 ST117平面図 ……	66
第106図	HZK1801地点甕棺墓 ST89平面図 ……	51	第153図	HZK1801地点甕棺墓 ST117出土遺物 ……	66
第107図	HZK1801地点甕棺墓 ST89出土遺物 ……	51	第154図	HZK1801地点木棺墓 ST118平面・断面図 ……	67
第108図	HZK1801地点甕棺墓 ST90平面図 ……	52	第155図	HZK1801地点 ST118木棺の復元図 ……	67
第109図	HZK1801地点甕棺墓 ST90出土遺物 ……	52	第156図	HZK1801地点木棺墓 ST118出土遺物 1 …	67
第110図	HZK1801地点甕棺墓 ST91平面図 ……	53	第157図	HZK1801地点木棺墓 ST118出土遺物 2 …	68
第111図	HZK1801地点甕棺墓 ST91出土遺物 ……	53	第158図	HZK1801地点土坑墓 ST120平面図 ……	69
第112図	HZK1801地点甕棺墓 ST92平面図 ……	54	第159図	HZK1801地点土坑 SK121平面・断面図 …	69
第113図	HZK1801地点甕棺墓 ST92出土遺物 ……	54	第160図	HZK1801地点土坑 SK121出土遺物 ……	69
第114図	HZK1801地点甕棺墓 ST93平面図 ……	55	第161図	HZK1801地点甕棺墓 ST126平面図 ……	70
第115図	HZK1801地点甕棺墓 ST93出土遺物 ……	55	第162図	HZK1801地点甕棺墓 ST126出土遺物 ……	70
第116図	HZK1801地点土坑墓 ST94平面図 ……	55	第163図	HZK1801地点甕棺墓 ST127平面図 ……	72
第117図	HZK1801地点土坑墓 ST94出土遺物 ……	55	第164図	HZK1801地点甕棺墓 ST127出土遺物 ……	72
第118図	HZK1801地点甕棺墓 ST95平面図 ……	56	第165図	HZK1801地点土坑墓 ST128平面図 ……	72
第119図	HZK1801地点甕棺墓 ST95出土遺物 ……	56	第166図	HZK1801地点土坑墓 ST128出土遺物 ……	72
第120図	HZK1801地点甕棺墓 ST96平面図 ……	56			
第121図	HZK1801地点甕棺墓 ST96出土遺物 ……	56			
第122図	HZK1801地点甕棺墓 ST97平面図 ……	58			
第123図	HZK1801地点甕棺墓 ST97出土遺物 ……	58			
第124図	HZK1801地点甕棺墓 ST98平面図 ……	59			

第167図	HZK1801地点土坑墓 ST129平面図	72	第195図	HZK1801地点甕棺墓 ST147出土遺物	78
第168図	HZK1801地点土坑墓 ST129出土遺物	72	第196図	HZK1801地点甕棺墓 ST148平面図	79
第169図	HZK1801地点土坑墓 ST130平面図	72	第197図	HZK1801地点甕棺墓 ST148出土遺物	79
第170図	HZK1801地点土坑墓 ST130出土遺物	72	第198図	HZK1801地点土坑墓 ST149平面図	79
第171図	HZK1801地点土坑 SK131平面・断面図	73	第199図	HZK1801地点土坑墓 ST149出土遺物	79
第172図	HZK1801地点土坑 SK131出土遺物	73	第200図	HZK1801地点土坑 SK150平面図	79
第173図	HZK1801地点甕棺墓 ST132平面図	73	第201図	HZK1801地点甕棺墓 ST151平面図	79
第174図	HZK1801地点甕棺墓 ST132出土遺物	73	第202図	HZK1801地点甕棺墓 ST151出土遺物	79
第175図	HZK1801地点甕棺墓 ST133平面・断面図	74	第203図	HZK1801地点甕棺墓 ST152平面図	80
第176図	HZK1801地点甕棺墓 ST133出土遺物	74	第204図	HZK1801地点甕棺墓 ST152出土遺物	80
第177図	HZK1801地点人骨出土地点 SX134平面図	74	第205図	HZK1801地点ピット SP201平面・断面図	80
第178図	HZK1801地点土坑 SK136平面図	74	第206図	HZK1801地点性格不明遺構 SX202平面図	80
第179図	HZK1801地点土坑 SK136出土遺物	74	第207図	HZK1801地点遺構外出土遺物	82
第180図	HZK1801地点甕棺墓 ST137平面図	75	第1表	HZK1801地点遺物観察表	83
第181図	HZK1801地点甕棺墓 ST137出土遺物	75	II まとめ		
第182図	HZK1801地点土坑墓 ST138平面図	75	第1図	明治33(1900)年測量の陸地測量部地図	104
第183図	HZK1801地点土坑墓 ST138出土遺物	75	第2図	調査地点	105
第184図	HZK1801地点土坑 SK139平面図	77	第3図	HZK2006・立試1859地点の木棺墓・土壙墓	107
第185図	HZK1801地点土坑 SK139出土遺物	77	第4図	HZK2006・2007地点の火葬土坑	111
第186図	HZK1801地点土坑 SK140平面図	77	第5図	HZK1801・2007地点の甕棺墓・桶棺墓・木棺墓	113
第187図	HZK1801地点土坑 SK140出土遺物	77	第1表	HZK2006・2007他地点 中世の木棺墓・土壙墓一覽	109
第188図	HZK1801地点甕棺墓 ST141平面図	77	第2表	HZK2006・2007地点 火葬土坑一覽	115
第189図	HZK1801地点甕棺墓 ST141出土遺物	77	第3表	HZK2007・1801地点 土壙墓(木棺墓・桶棺墓)一覽	116
第190図	HZK1801地点土坑墓 ST143・144出土遺物	78	第4表	HZK2007・1801地点 甕棺墓一覽	119
第191図	HZK1801地点土坑墓 ST145平面図	78			
第192図	HZK1801地点土坑墓 ST145出土遺物	78			
第193図	HZK1801地点土坑 SK146平面図	78			
第194図	HZK1801地点甕棺墓 ST147平面図	78			

写真図版一覽

巻頭図版 1	HZK1801地点調査区全景(北西から)／HZK1801地点小祠跡 SB36出土状況(西から)	巻頭図版 3	HZK1801地点土坑墓 ST101人骨・遺物出土状況(北東から)／HZK1801地点土坑墓 ST129人骨出土状況(南西から)
巻頭図版 2	HZK1801地点甕棺墓 ST40人骨出土状況(東から)／HZK1801地点甕棺墓 ST64人骨出土状況(西から)	巻頭図版 4	HZK1801地点土坑墓 ST130人骨・遺物出土状況(南西から)／HZK1801地点土坑墓 ST138人骨・遺物出土状況(南から)

I HZK1801地点（航空風洞実験室西地点）

1. 調査の経緯

（1）調査の目的と経過

本調査地点は箱崎キャンパス北東部に所在した航空風洞実験室の建物西側、船舶海洋工学実験室の北東側に位置しており、キャンパス全体の発掘グリッド（九州大学埋蔵文化財調査室報告第11集第I章第2図）ではP25・26・Q25区にあたる。

明治33（1900）年測量の陸地測量部作成の地図によると、箱崎キャンパス内に位置する「地蔵の森」から本調査地点付近にかけて墓地が広がっていたことが分かっており、2016年度に実施した船舶海洋工学実験室周辺の試掘調査（HZK1602地点）では、GL-150cmから近世の甕棺が出土し、棺内から人骨が検出されたことから、この地点における近世墓地の存在が確定的となった。

以上のように、HZK1602地点の調査から本調査地点に近世を主体とする墓地が形成されていることが推察されたことから、当該地域における近世の墓域の様相を明らかにするため発掘調査の実施を計画した。平成30年4月17日付の福岡県教育委員会あて「九大統統第1号」にて埋蔵文化財発掘届を提出し、これに対して、福岡県教育委員会より平成30年5月21日付「30教文第463号」にて許可通知があった。5月21日に本調査地点の重機掘削を開始し、HZK1602地点に重複するようにして700㎡の調査区を設定した。

調査区北側の表土掘削に着手して間もなく、GL-85cmほどで甕棺の散乱、墓石の集積が検出され、あわせて人骨の散布ブロックが複数確認されたため、精査を実施した。

一方調査区南側は建物基礎等により攪乱を受けていたためその部分を除去し、GL-85cmからさらに70cmほど掘り下げたところで、近世墓に関連する遺構が複数検出された。この近世墓に関連する遺構は調査区北側にも及んでいたため、調査区のほぼ全体が墓域であることが判明した。

箱崎遺跡での大規模な近世墓の調査が初めてであり、調査に慎重を期す必要があったため、人骨の取り上げに関しては、埋蔵文化財調査室学術研究員の石川健氏、基層構造講座准教授の舟橋京子氏、大学院生の富田啓貴氏に依頼した（所属は当時）。

発掘調査は、猛暑や厳しいスケジュールに苦慮しながらも、平成30年11月8日に無事終了した。

（2）調査要項

遺跡名	箱崎遺跡
地点名	九州大学箱崎キャンパス HZK1801地点（航空風洞実験室西地点）
調査名	九州大学埋蔵文化財調査室調査番号：HZK1801 福岡市調査番号：1817、箱崎遺跡第88次調査
所在地	福岡市東区箱崎6-10-1
調査面積	700㎡
調査原因	開発事業（基礎撤去9）
調査期間	平成30年5月21日～11月8日
遺物量	コンテナ（内寸54cm×34cm×15cm）600箱
発掘主体	九州大学埋蔵文化財調査室

発掘担当者 三阪一徳 齋藤瑞穂
調査作業員 永濱弘子 井上光代 堤 末子 横谷明美 武藤真理子 田代 薫 西浦喜久子
田中悦子 田野和代 宮原ゆかり 松下さゆり 松下由希子 浦崎てい子
田中ゆみ子 宮元亜希世 中村尚美 山本加奈子 定永靖史 安里由利子
篠崎繁美 東島真弓 大浦旗江 仲前富美子 穴井和代 大藪英美 小林敏子
内山圭子 竹本葉子 門脇尚子 田中玲子 中山大輔 白石亜希子 節政善憲
三辻香奈子 山田幹裕 馬場孝子 城野勝彦 高木つた代 奥 敦子 東嶋 茜
高武奈美 伊藤未紀 原田由佳 河野さやか 真田文子 西田和廣 藤野雅基
遺物整理担当 谷 直子
整理作業員 石井若香葉 板倉佳代子 伊藤未紀 犬山真弓 岩田亜希子 尾座本洋子
小名真理子 甲斐千秋 樫本真理 門脇美德 坂口由美子 白井恭子
田中えみ 田邊八子 富田文代 富田麗子 濱古賀美和 藤田房佳

2. 遺構と遺物

HZK1801地点は、発掘担当者2名のほか、人骨の取り上げに関しては、石川、舟橋、富田の各氏を中心となって行った。調査終了から報告書の作成までに時間が経ったこともあり、当時調査に関わった方の多くが九州大学埋蔵文化財調査室から離れている。そこで、調査記録や出土遺物の精査を谷が行い、調査に携わった齋藤と協議しながら報告書を作成することとした。なお、人骨の詳細な出土状況については九州大学埋蔵文化財調査報告書第14集第I章に報告する。

土坑墓 ST01（第4図） 長軸55cm、短軸35cmの範囲から人骨と遺物が散らばって出土した。墓坑は確認されておらず、墓かどうかは判然としないが、遺物や人骨の出土状況から、土坑墓が削平あるいは改葬されたものと判断される。

出土遺物（第5図） 1は銅銭が2枚重なったもので、外面に布が付着している。1枚は洪武通寶である。2は元豊通寶、3は慶長通寶、4は嘉祐通寶、5は祥符通寶である。銭貨の直下から板材が出土した。他に土師器の坏と皿が出土したが、小片で図化に耐えない。

土坑墓 ST02（第7図） 長軸18cm、短軸12cmの範囲に人骨がまとまる。遺物は出土していない。

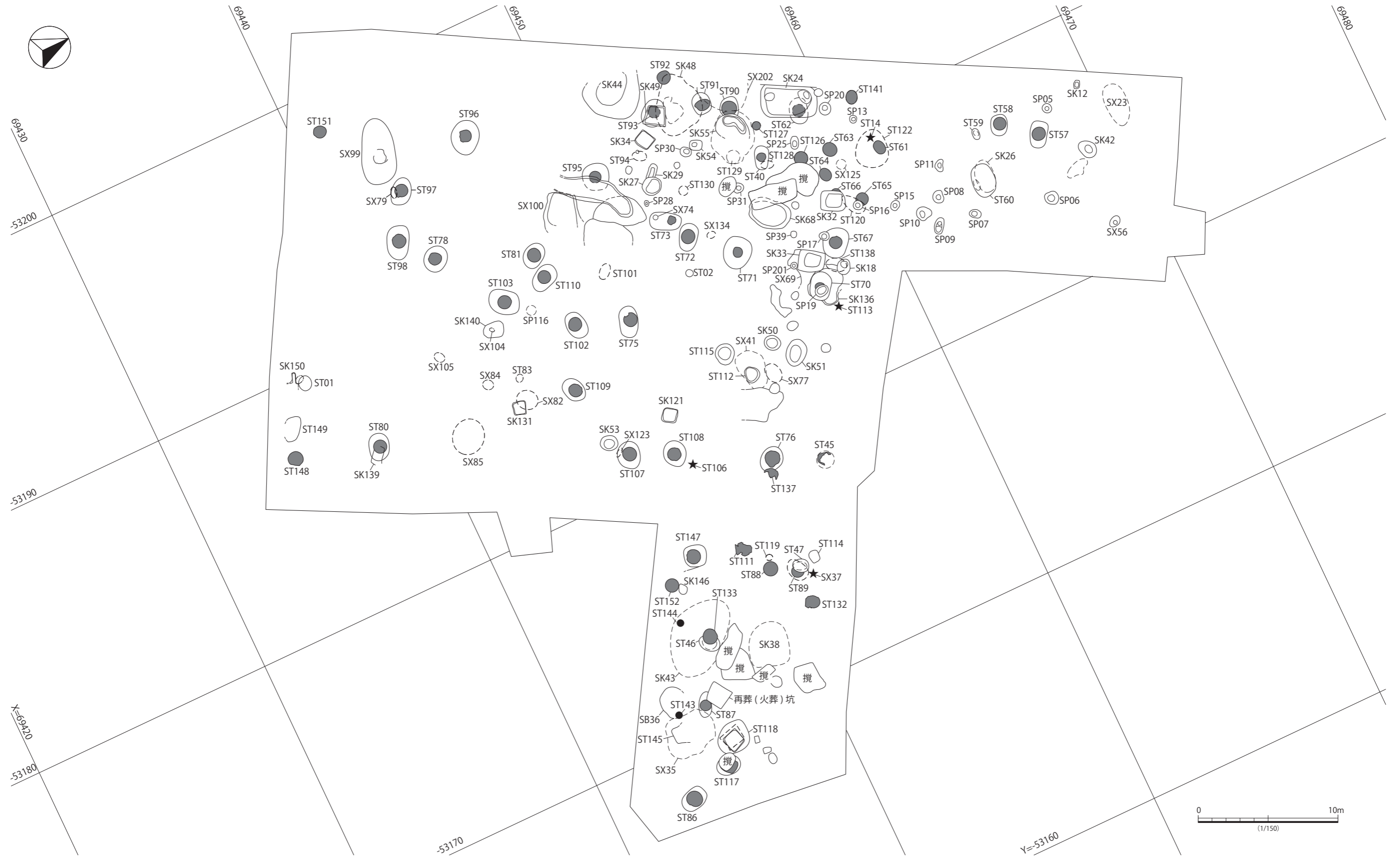
ピット SP05（第7図） 径40cmの円形ピットである。確認面からの深さは26cmである。遺物は出土していない。

ピット SP06（第7図） 径54cmの不整円形ピットである。確認面からの深さは34cmである。遺物は出土していない。

ピット SP07（第7図） 長軸50cm、短軸34cmの楕円形ピットである。確認面からの深さは22cmである。遺物は出土していない。

ピット SP08（第7図） 長軸50cm、短軸44cmの不整円形ピットである。確認面からの深さは28cmである。遺物は出土していない。

ピット SP09（第7図） 長軸68cm、短軸37cmの楕円形ピットである。西側底面がやや深くなっており、確認面からの深さは最大48cmである。陶器の注口部が出土したが小片で図化し得ない。

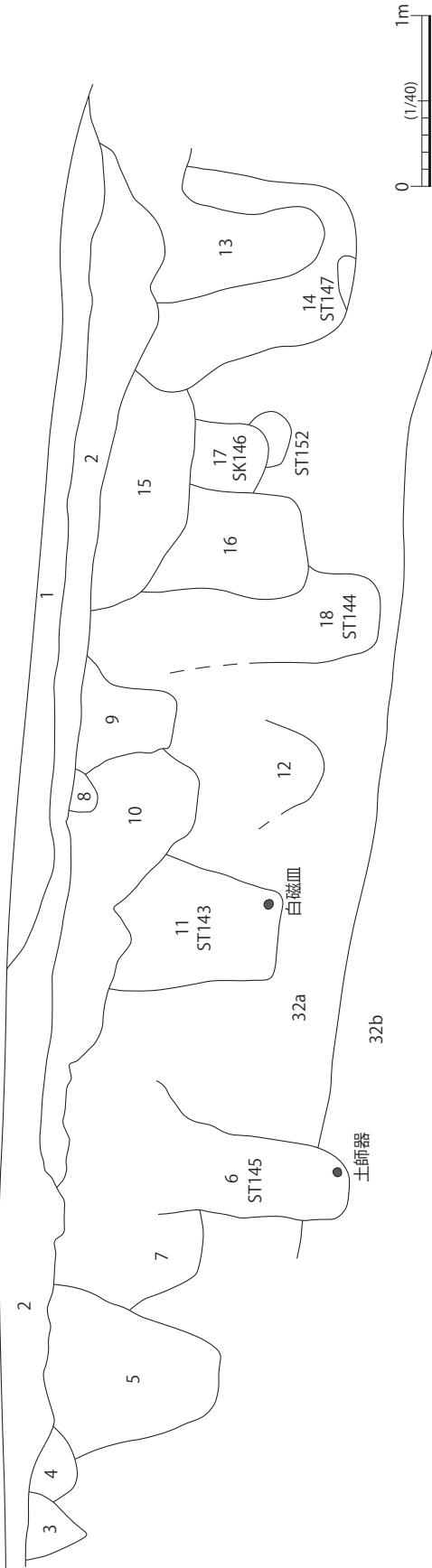


第1图 HZK1801地点遺構配置図

[A] 南壁(東)

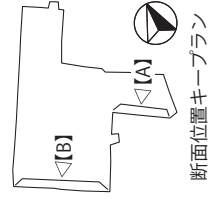
E.

W. 4.0m



- 1 砕石
- 2 2.5YR3/2 黒褐、整地層、ゴミ・砂利を多く含む
- 3 5YR3/1 黒褐、しまりなし、粘性なし、2層と32層の混濁層、4層より新しい
- 4 10YR3/4 暗褐、しまりなし、粘性なし、ゴミや砂利は含まないが炭化物あり、5層より新しい
- 5 10YR5/4 にぶい黄褐、しまりぶつう、粘性なし、墓坑の可能性が高いが遺物はなし、7層より新しい
- 6 10YR4/6 褐、しまり弱い、粘性なし、かなり深くまで掘り込まれている：ST145、土師器出土
- 7 7.5YR3/4 暗褐(11層と瓜二つの色調)しまりなし、粘性なし、遺物なし、5・6層に切られる
- 8 塩ビ管理設時の埋め土
- 9 10YR2/3 黒褐、しまり強い、粘性なし、小砂利・炭・礫を多く含む、10層を切り、8層に切られる
- 10 7.5YR5/6 明褐、しまり強い、粘性なし、ところどころに小礫等含む、この下のラインあたりに鑿棺が挟まる(第1遺構面である)
- 11 7.5YR3/4 暗褐(他の土より赤みがかっている印象)、しまりなし、粘性なし、土師器・骨片・白磁皿出土

- 12 7.5YR3/4 暗褐、しまりなし、粘性なし、上の方はラインが見えずぼんやり消える
- 13 ゴミ・ガラ・レンガ等の棄て坑、しまりなし、粘性なし、14層より新しい
- 14 7.5YR5/6 明褐、しまりなし、粘性なし、鑿棺片が下端にある：ST147
- 15 鉄管理設時の埋め土、大礫等含む
- 16 10YR5/4 にぶい黄褐、しまりなし、粘性なし、大礫含む、炭化物含む、土師器小片・骨片あり：改葬坑か
- 17 10YR4/6 褐、しまりなし、粘性なし、頭蓋骨片等残る、16層に切られる、改葬を受けなかった墓坑のよう：SK146
- 18 7.5YR5/6 明褐、しまりなし、粘性なし、周りより若干赤が濃いほど変わらない、土師皿・足の骨?含む、炭化物含む：ST144
- 32a・b 10YR6/6 ~ 7/6 明黄褐、しまり強い、粘性なし、場所により色調は異なるが平均して10YR6/6 ~ 7/6 明黄褐くらい、32bの方が白味がかり32aはやや赤く明褐のようなどころもある

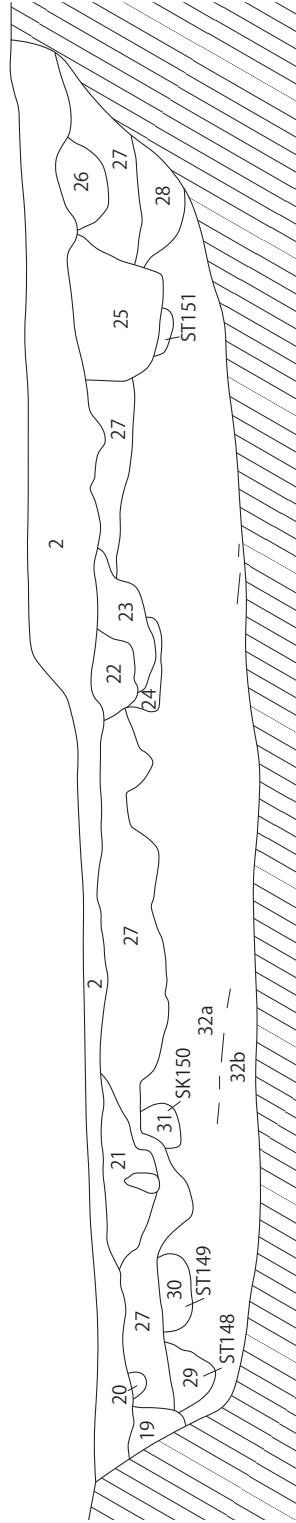


第2図 HZK1801地点調査区 [A] 南壁(東) 土層断面図

【B】南壁 (西)

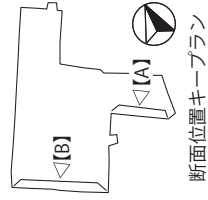
E.

W 5.5m



- 2 2.5Y3/2 黒褐、整地層、ゴミ・砂利を多く含む
- 19 10YR3/4 暗褐、しまりなし、粘性なし、29層より新しい
- 20 5YR3/1 黒褐、しまりなし、粘性なし、スレートのガラスを含む
- 21 2.5Y4/3 オリーブ褐、しまりなし、粘性なし、炭化物を多く含む、墓石と鉄塊が捨
てられた廃棄坑
- 22 5YR3/1 黒褐、しまり強い、粘性なし、土管が埋まる 23・24・27層を切る
- 23 10YR4/6 褐、しまり強い、粘性なし、底面に焼土その上方に炭化物あり
- 24 10YR5/8 黄褐、しまり弱い、粘性なし、23層に切られる、23層にみられる焼土状
の赤色粒子のプロックφ1cmくらいのもものが少量入る
- 25 2.5Y5/1 黄灰、しまり強い、粘性ふつう、27・28層を切る、坑底一番深い部分に
墓箱(横になっている)
- 26 5YR3/1 黒褐、ゴミ穴、鉄板、溶液をかき回すようなガラス棒、半焼のビニール等
含む

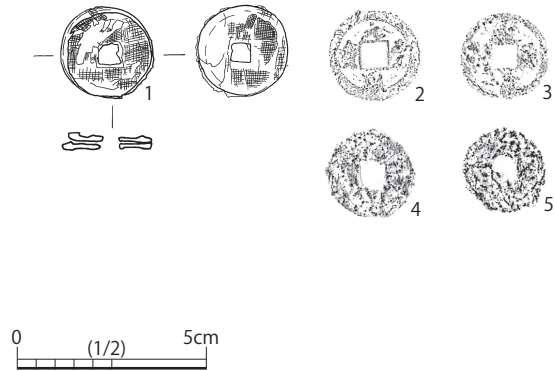
- 27 レンガが並んでいいるが並べてある感ではなく、奥まで続いていかない
- 28 10YR5/4 にぶい黄褐、しまり強い、粘性なし、墓箱あり、改葬坑か
- 29 10YR5/4 にぶい黄褐、しまりなし、粘性なし、墓箱片が下端にまとも、改葬坑の可
能性が高い：ST148
- 30 10YR4/6 褐、しまりふつう、粘性なし、骨がまともって出土：ST149
- 31 7.5YR3/4 暗褐、しまりふつう、粘性なし、この31層の上の方はもう少し明るい色で
下の方が7.5YR3/4の暗褐であるが漸移的分層はできない：SK150
- 32a・b 10YR6/6～7/6 明黄褐、しまり強い、粘性なし、場所により色調は異なるが平
均して10YR6/6～7/6くらい、32bの方が白味がかり 32aはやや赤く明褐のよ
うなところもある



第3図 HZK1801地点調査区【B】南壁 (西) 土層断面図



第4図 HZK1801地点土坑墓 ST01平面図



第5図 HZK1801地点土坑墓 ST01出土遺物

ピット SP10 (第7図) 長軸64cm、短軸56cmの不整円形ピットである。土師器片が出土したが、図化に耐えない。

ピット SP11 (第7図) 長軸50cm、短軸30cmの不整円形ピットである。確認面からの深さは10cmである。遺物は出土していない。

土坑 SK12 (第7図) 長軸33cm、短軸24cmの長方形土坑である。確認面からの深さは11cmである。遺物は出土していない。

ピット SP13 (第7図) 径30cmの円形ピットである。確認面からの深さは16cmである。遺物は出土していない。

土坑墓 ST14 土坑墓と判断したが、調査の過程で詳細な図を取ることができなかった。

出土遺物 (第6図) 1は刀子である。他に人骨片、土師器片と石が出土したが、小片で図化に耐えない。

ピット SP15 (第7図) 40cm×37cmの不整円形ピットである。確認面からの深さは33cmである。土師器片が出土したが、図化に耐えない。

ピット SP16 (第7図) 40cm×36cmの不整円形ピットである。確認面からの深さは20cmである。土師器片と近代の瓦が出土したが図化に耐えない。

ピット SP17 (第8図) 40cm×34cmの不整円形ピットである。確認面からの深さは22cmである。遺物は出土していない。

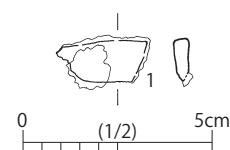
土坑 SK18 (第8図) 長軸62cm、短軸52cmの楕円形土坑である。

確認面からの深さは最大60cmである。土師皿が出土したが、図化し得ない。

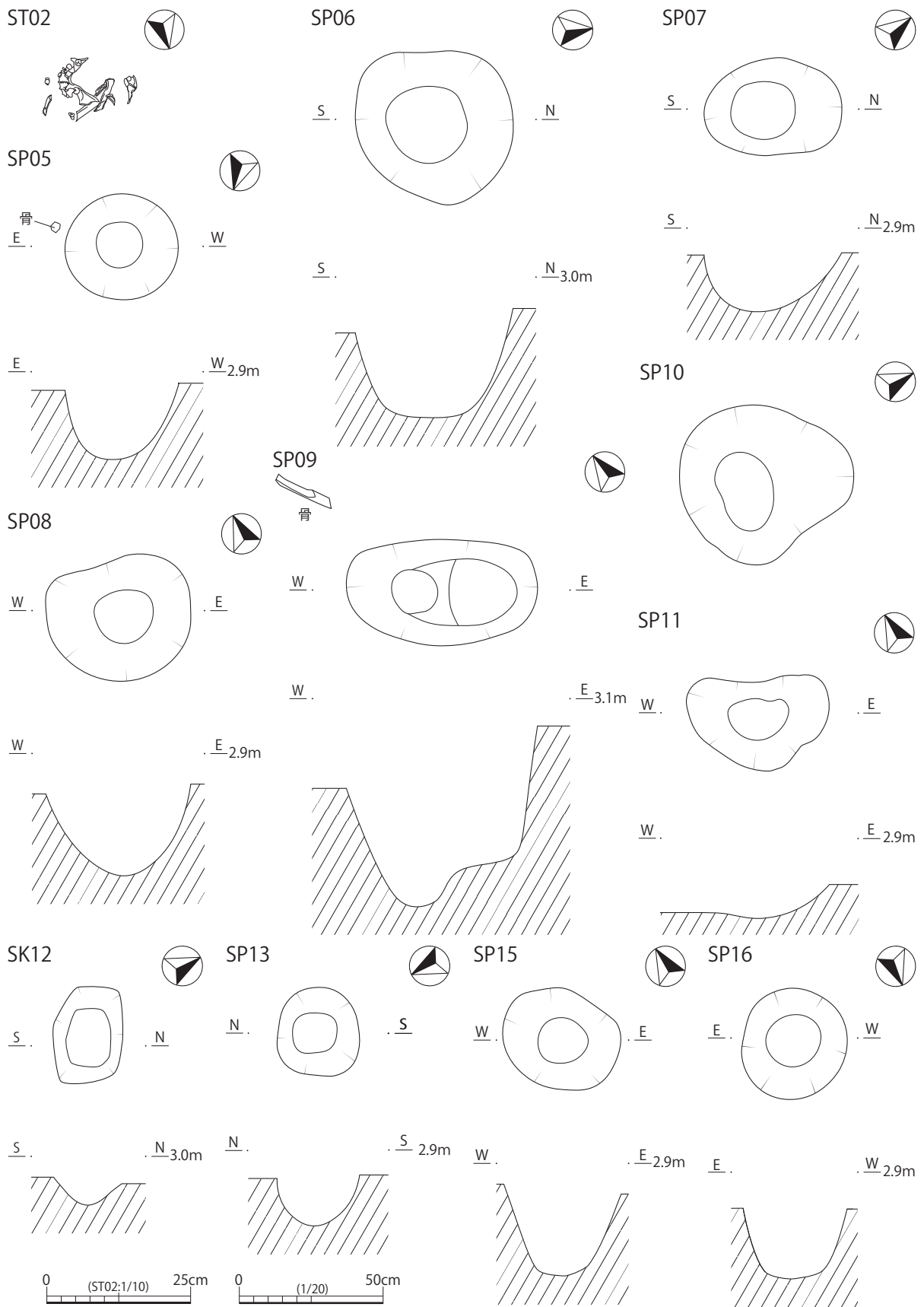
ピット SP19 (第8図) 長軸55cm、短軸43cmの楕円形ピットである。確認面からの深さは52cmである。土師器片の他、近代の陶磁器片が出土したが図化し得ない。

ピット SP20 (第8図) 55cm×53cmの円形ピットである。確認面からの深さは30cmである。

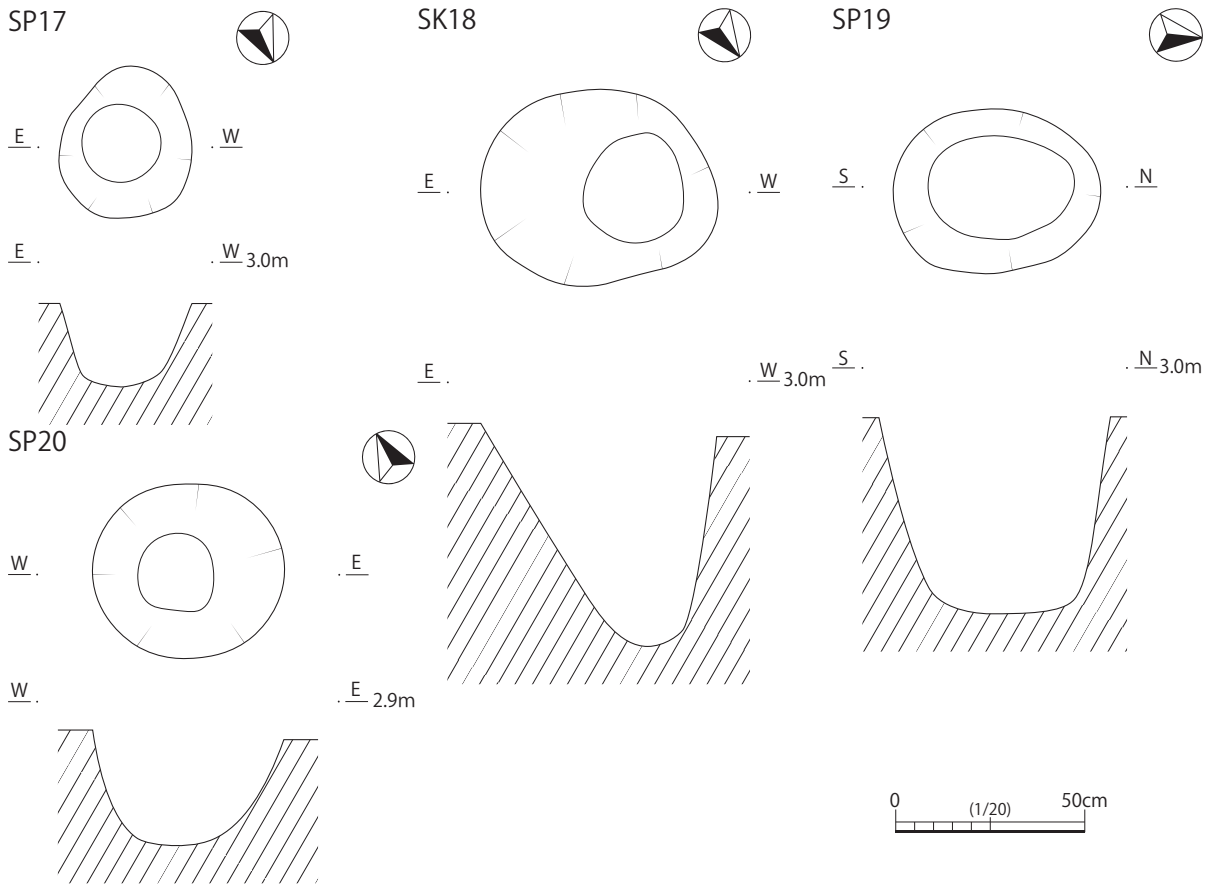
出土遺物 (第9図) 1～6は糸切り底の土師器で、1～3が坏、4～6が皿である。



第6図 HZK1801地点土坑墓 ST14出土遺物



第7図 HZK1801地点土坑墓 ST02・ピット SP05～11・土坑 SK12・
ピット SP13・15・16平面・断面図

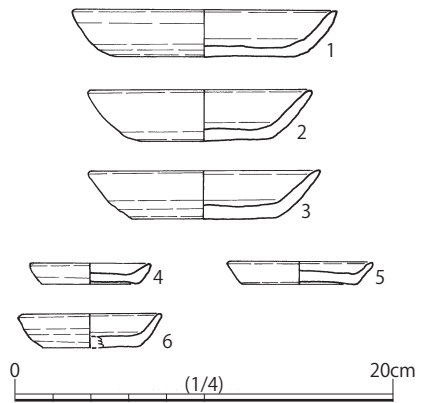


第8図 HZK1801地点ピット SP17・土坑 SK18・ピット SP19・20平面・断面図

甕棺集中地点 SX23 (第10図) 長軸160cm、短軸90cm ほどの範囲に陶器の甕棺片が集中している。改葬の際に不要になった甕棺を割り、集めて廃棄した土坑の底面部分にあたるものと推測される。

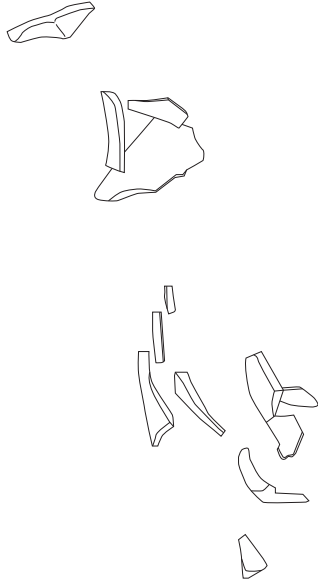
甕棺廃棄土坑 SK24 (第10図) 長軸226cm、短軸126cm の隅丸長方形の土坑で、上部から甕棺片と人骨片が出土している。甕棺片は底部が上になっており、改葬などで抜き取った甕棺を廃棄したものであろう。甕棺直下からの土坑の深さは44cmである。

出土遺物 (第11・12図) 第11図1～8と第12図1～3は陶器の甕棺である。第11図1～3は小形で、口縁部内面に粘土紐を貼り付けて丸く成形する。口縁部の釉は拭き取り、砂メアトが付く。1は肩部から胴部上半にかけて6条の沈線がめぐる。2は肩部に沈線を3条、沈線直下に波状文を施す。波状文下から胴部中央にかけて沈線が3条めぐる。3は底部を欠損する。4・5は口縁部内面に粘土紐が付き、釉を拭き取る。頸部の屈曲がやや弱い。肩部に沈線が4は3条、5は2条めぐる。底部を欠損する。6は口縁部内面に帯状の粘土紐が付き、頸部に向かってゆるくカーブする。口縁部下に2条、肩部に3条沈線がめぐる。底部を欠損する。7は口縁部内側に粘土紐を帯状に貼り付け、端部を丸く仕上げる。頸部の屈曲はややゆるい。肩部に3条の螺旋状沈線がめぐる。8

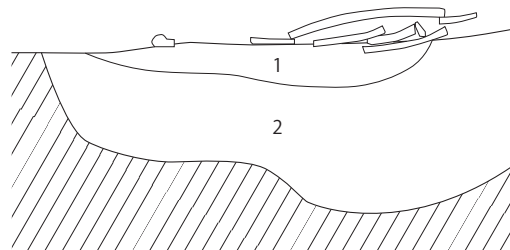
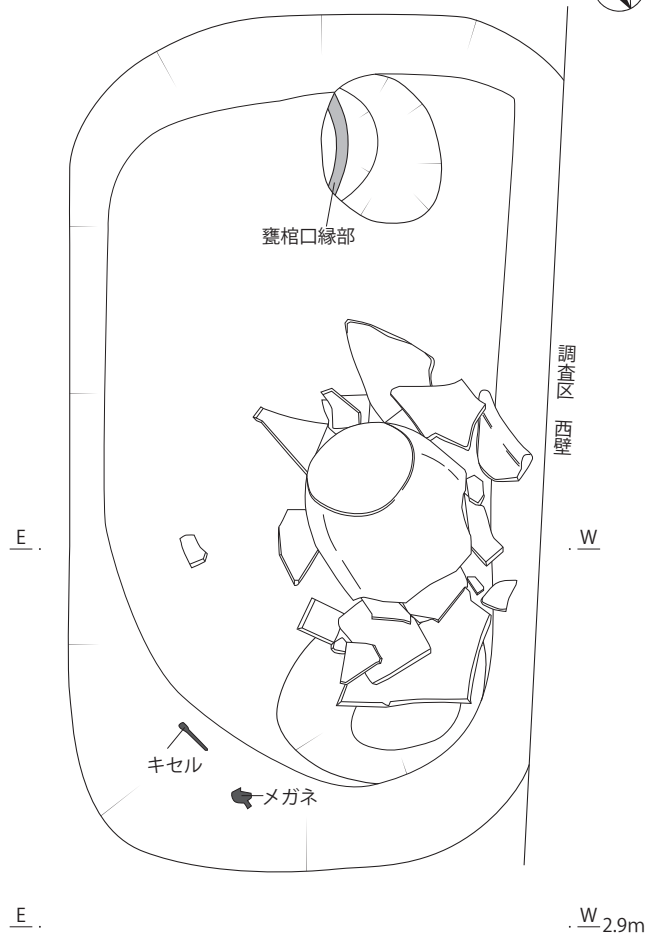


第9図 HZK1801地点
ピット SP20出土遺物

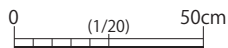
SX23



SK24

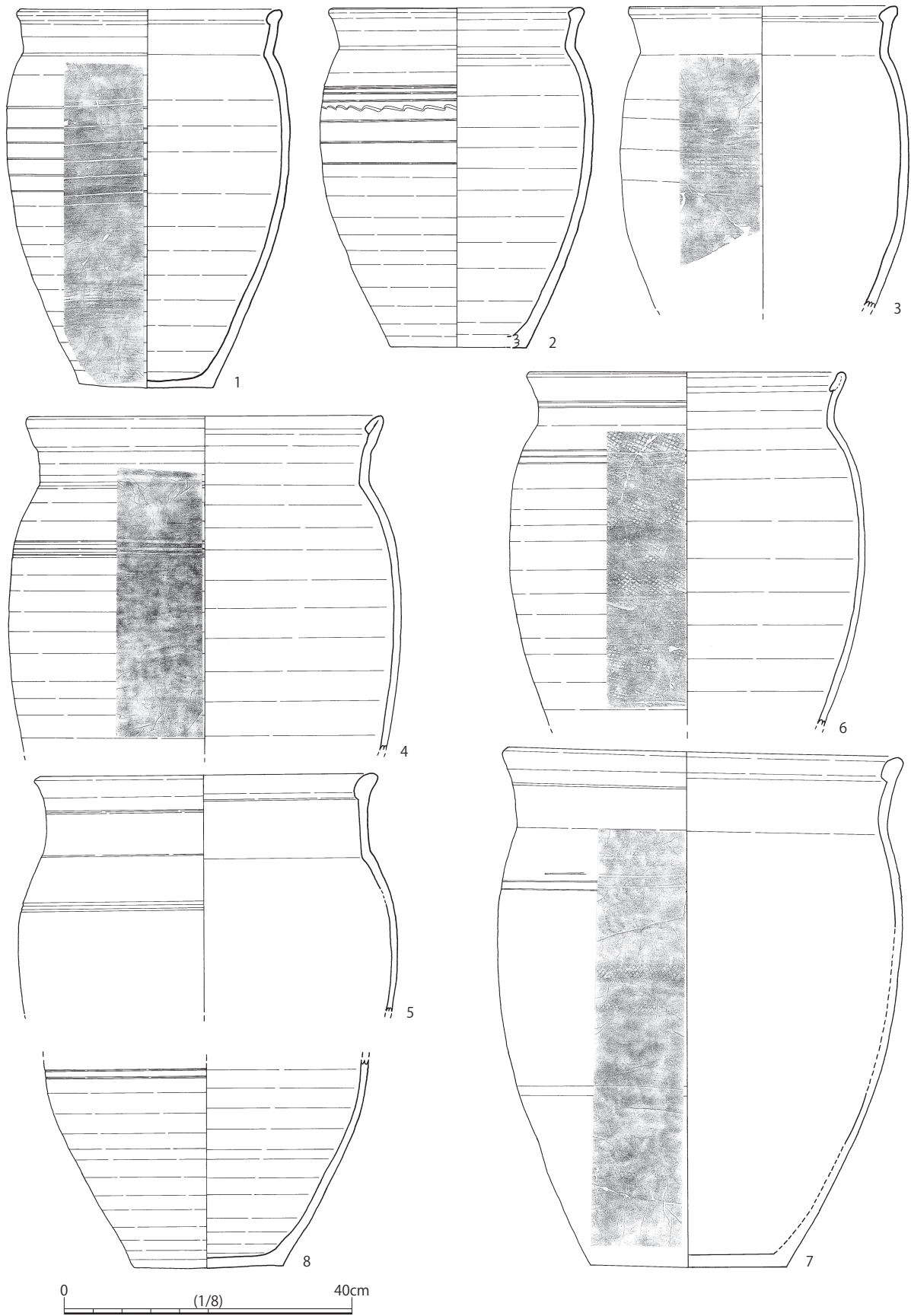


1 110YR4/4 褐、中砂（粗砂多く含む）、遺物多く含む
 2 110YR5/6 黄褐、中砂（粗砂多く含む）、遺物少量含む

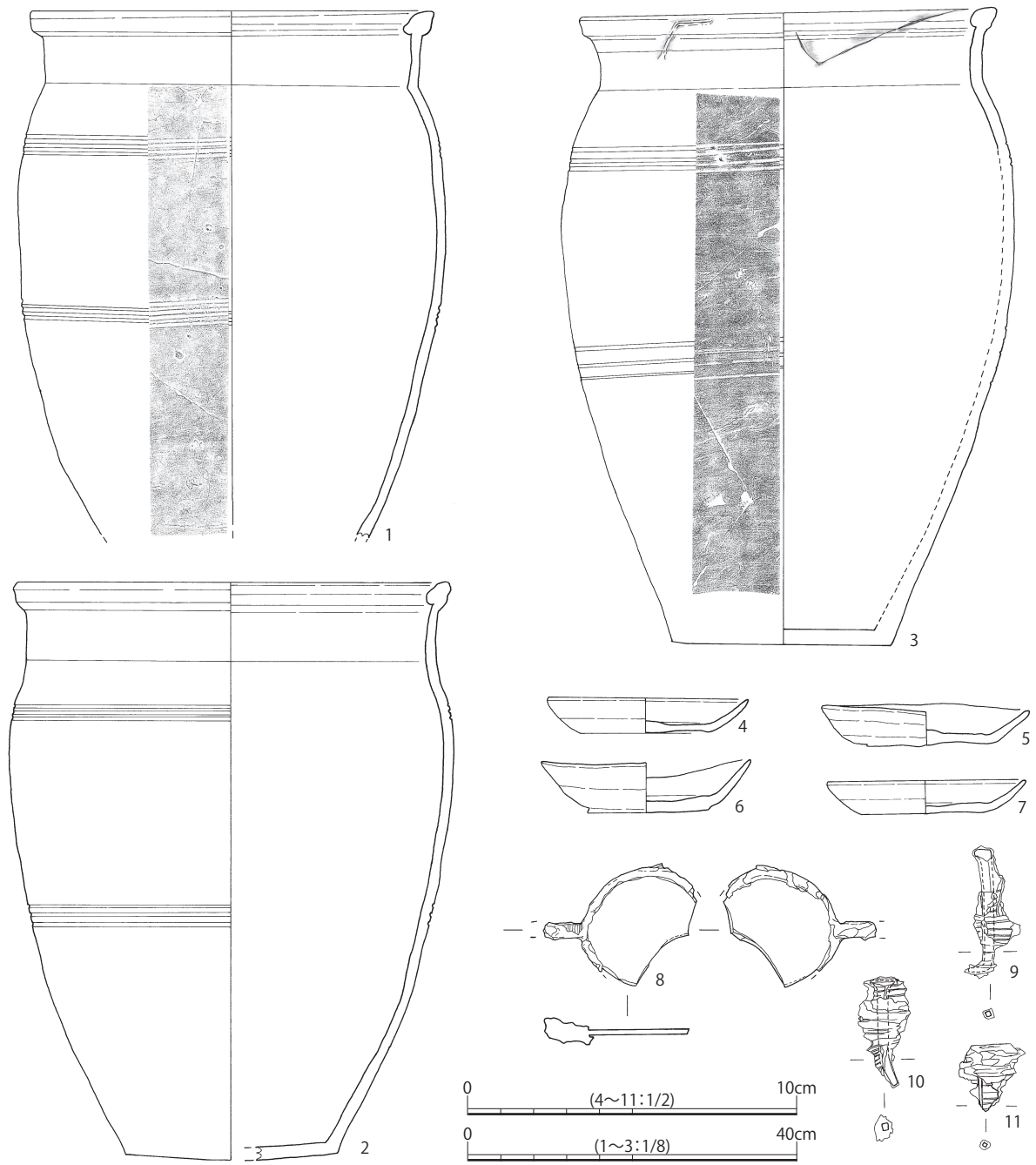


第10図 HZK1801地点甕棺集中地点 SX23・甕棺廃棄土坑 SK24平面・断面図

は胴部から上半を欠損し、胴部下半に沈線が2条めぐる。第12図1は、口縁部内側に粘土紐を貼り付け、外側端部は面取りする。下端の貼り付けは弱い。頸部は屈曲する。肩部と胴部中央付近に沈線が3条ずつめぐる。底部を欠損する。2は口縁内部の粘土紐はやや膨らみをもち、口縁外面にも段が付く。頸部の屈曲は弱い。肩部と胴部中央に3条ずつ沈線がめぐる。3は口縁端部に丸い粘土紐を貼り付けるが、面取りしており断面が四角形に近い。内外面とも工具痕が見られる。肩部に4条と胴部下半に3条の沈線を施す。いずれも18世紀から19世紀の所産である（東中川 2000）。4～7は糸切り底の土師皿である。8はメガネのレンズ部分の片方である。銅製の縁が付き、ツルやレンズの下端は欠損する。9～11は断面四角形の鉄釘である。いずれも木質が付着する。



第11図 HZK1801地点甕棺廃棄土坑 SK24出土遺物 1

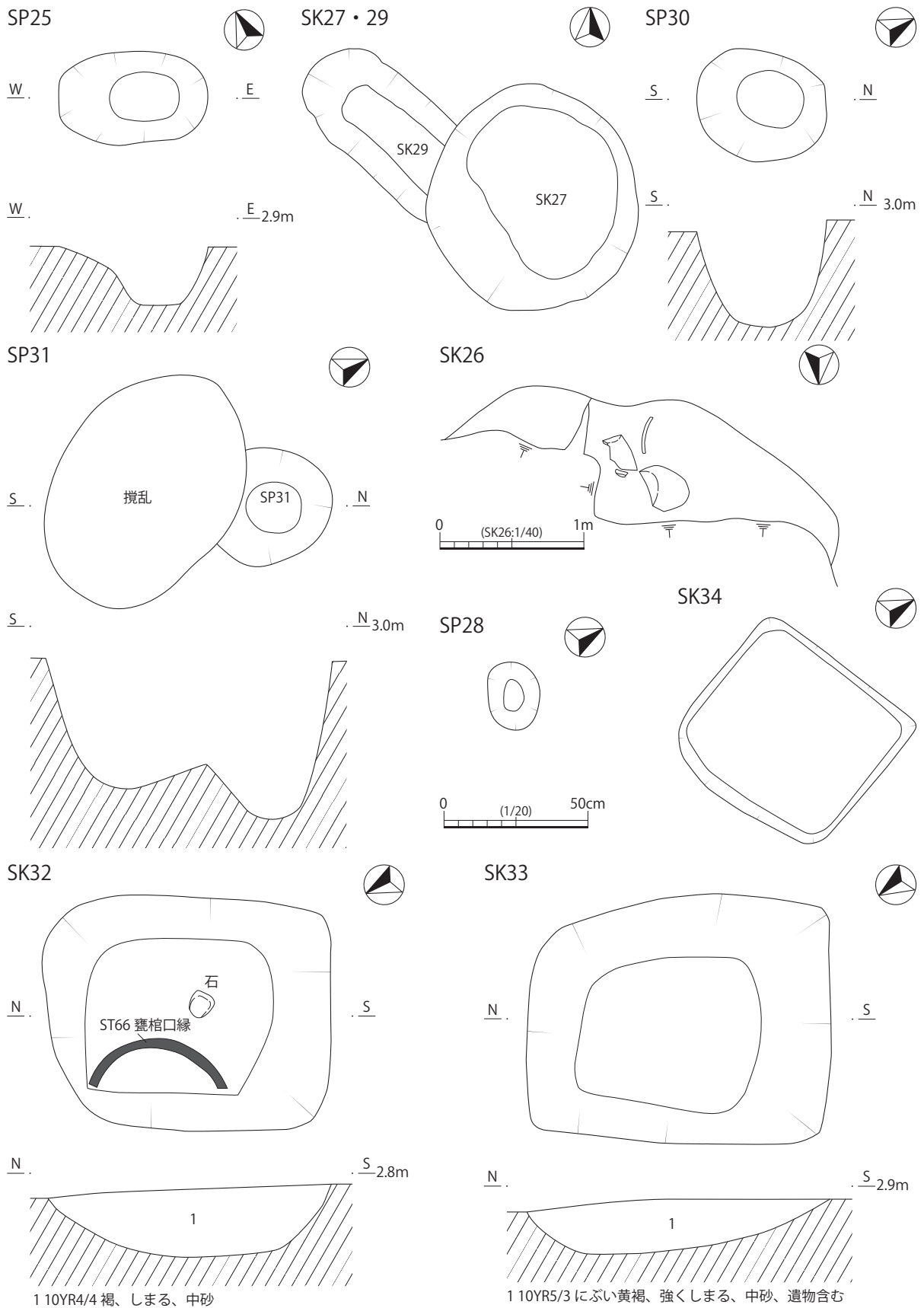


第12図 HZK1801地点甕棺廃棄土坑 SK24出土遺物2

ピット SP25（第13図） 長軸53cm、短軸32cmの楕円形ピットである。確認面からの深さは20cmである。遺物は出土していない。

甕棺廃棄土坑 SK26（第13図） 長軸286cm、短軸90cmの不整形の土坑で、北側半分が攪乱により壊されている。甕棺片と人骨片が出土している。改葬で不要になった甕棺を割り、集めて廃棄した土坑であろう。

出土遺物（第14図） 1～4は陶器の甕棺である。1は口縁部に粘土紐を付けて楕円形に仕上げる。粘土紐下端の貼り付けは弱い。頸部の屈曲は明瞭である。肩部に2条、胴部下半に3条の沈線がめぐ

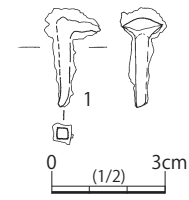


第13図 HZK1801地点ピット SP25・甕棺廃棄土坑 SK26・土坑 SK27・ピット SP28・土坑 SK29・ピット SP30・31・土坑 SK32・33・34平面・断面図



第14図 HZK1801地点甕棺廃棄土坑 SK26出土遺物

る。2は口縁部内面に粘土紐を貼り付けて丸く作る。頸部の屈曲はやや弱く外面に浅い段が付く。肩部、胴部中央に2条、胴部下半に3条の沈線がめぐる。内面の胴部下半に工具痕が残る。3は口縁端部内面に丸い粘土紐を貼り付けて作り、外面に浅い段が付く。頸部の屈曲は明瞭である。肩部と胴部中央付近に2条、胴部下半に3条の沈線がめぐる。4は口縁部内側に粘土紐を帯状に貼り付け、端部を丸く仕上げる。頸部は屈曲し、頸部のくびれに沈線状の段が付く。肩部に2条、胴部下半に4条の沈線がめぐる。甕棺はいずれも18世紀から19世紀の所産（東中川 2000）。他に染付片が出土したが、図化し得ない。



第15図 HZK1801地点
ピット SP31出土遺物

土坑 SK27・SK29（第13図） SK27は80cm×74cmの不整円形土坑である。長軸63cm以上、短軸32cmの楕円形土坑SK29を切る。SK27からは瓦質土器の湯釜、青磁片が出土したが、図化に耐えない。

ピット SP28（第13図） 長軸24cm、短軸16cmの楕円形ピットである。遺物は出土していない。

ピット SP30（第13図） 長軸46cm、短軸40cmの楕円形ピットである。確認面からの深さは38cmである。遺物は出土していない。

ピット SP31（第13図） 径44cmの円形ピットである。確認面からの深さは54cmである。南西側の攪乱に切られている。

出土遺物（第15図） 1は鉄釘で、釘頭を曲げる。他に土師器片、青磁片が出土したが、図化に耐えない。

土坑 SK32（第13図） 長軸101cm、短軸82cmの長方形土坑で、ST66より新しい。確認面からの深さは24cmである。底面からST66の甕棺の口縁部が検出されている。SK32からは土師器の坏・皿のほか、磁器の香炉や近世の陶磁器が出土したが、図化し得ない。

土坑 SK33（第13図） 長軸108cm、短軸86cmの長方形土坑である。確認面からの深さは18cmである。土師皿と土錘が出土したが、小片で図化し得ない。

土坑 SK34（第13図） 長軸66cm、短軸64cmの方形土坑である。土坑の深さは記録し得なかった。遺物は出土していない。

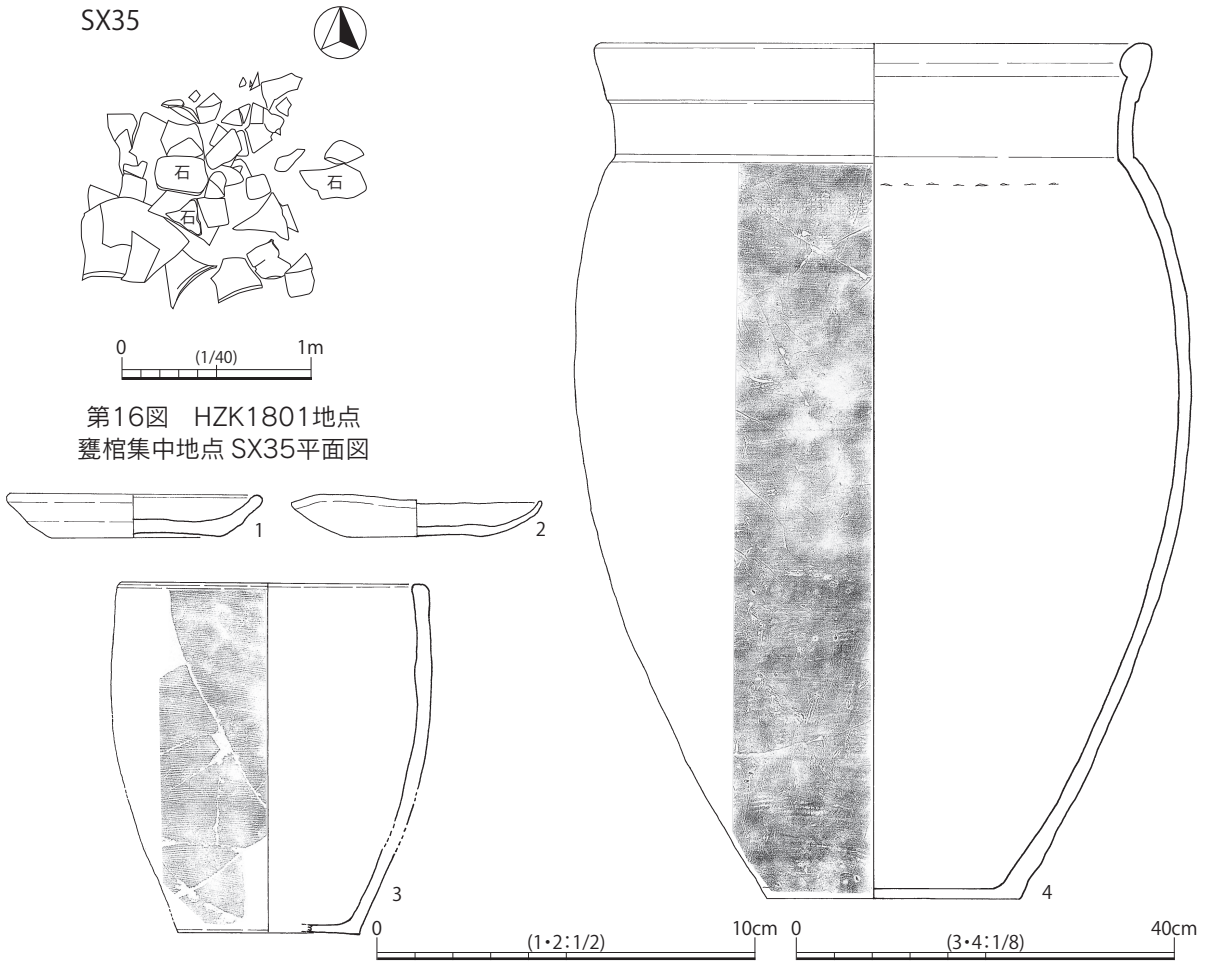
甕棺集中地点 SX35（第16図） 長軸150cm、短軸120cmの範囲に甕棺の破片と石が散乱している。改葬などで不要になった甕棺を廃棄したものであろう。

出土遺物（第17図） 1・2は糸切り底の土師皿である。3は素焼きの甕である。素口縁で、砲弾形を呈す。4は陶器の甕棺である。口縁内面に粘土紐を貼り付けて、口縁端部全体丸く作る。口縁部外面に段が付き、頸部の屈曲が明瞭である。

小祠跡 SB36（第18図） 長方形の部材が方形に組み立てられた遺構である。したがって部材が配されたレベルは、遺構が設置された江戸時代後半代の旧地表面と推測される。

一辺を一石で作る部分と三石で作る部分とがある。香炉を正置していた西側を正面と見て良ければ、最も大きい部材を奥側に配置したことになる。部材に囲まれた中央は礫を撒いてある。ほかにも、人骨片、石材や茶碗が散乱している。土坑は円形で径126cmほどを測る。深さは36cmである。土坑内に埋葬の形跡はない。

出土遺物（第19図） 1・2は白磁の香炉で、1は口縁部が外反し、低い高台が付く。2は底部のみである。3・4は糸切り底の土師皿である。5は金銅製の板状の銚金具で、一方の端部が四角形に加工されることから、櫃の角に取り付けられたと思われる。もう一方の端部は装飾的に加工し、表面に毛



第17図 HZK1801地点甕棺集中地点 SX35出土遺物

彫りがみられる。SB36の周辺から染付の湯呑みや陶器の花瓶が出土したが、図化に耐えない。

人骨集中地点 SX37 調査の過程で詳細な図を作成することができなかったが、人骨片が出土した。

墓石廃棄土坑 SK38（第20図） 長軸260cm、短軸150cmの範囲に、墓石の残欠と考えられる石材が散乱している。改葬で不要になった墓標を集めて廃棄した土坑とみられる。出土した墓石については、2025年度報告予定である。

ピット SP39（第20図） 径26cmの円形ピットである。遺物は出土していない。

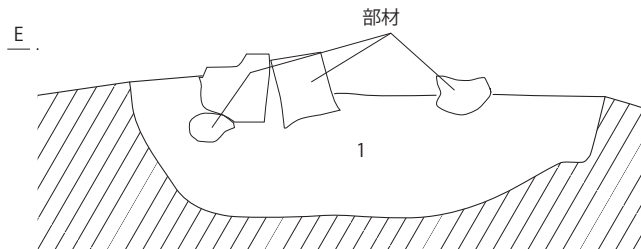
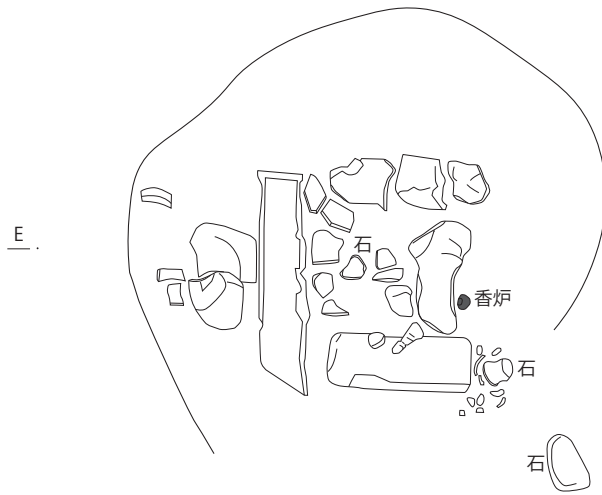
甕棺墓 ST40（第21図） 墓坑のプランは確認できていない。改葬されており、甕棺の口縁部が一部破壊されている。ST40の周辺から人骨が出土しており、この甕棺墓に先行して土坑墓もしくは桶棺墓が存在していたとみられる。

出土遺物（第22図） 1は陶器の甕棺である。小形で、口縁部は平坦に作り、頸部下に粘土でボタン状文を貼り付ける。肩部から胴部上半にかけて沈線が9条めぐる。ボタン状文が付く甕は17世紀後半の所産である（東中川 2000）。周辺からは土師器片が出土したが、小片で図化に耐えない。

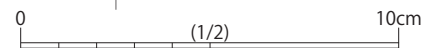
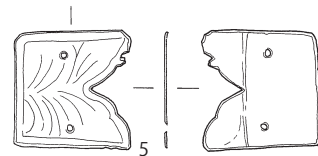
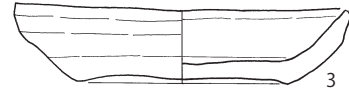
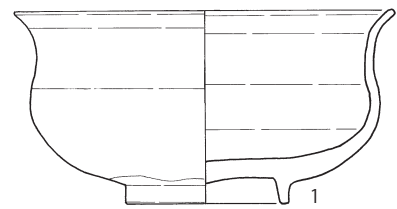
甕棺集中地点 SX41（第23図） 長軸166cm、短軸112cmの範囲から、甕棺片が出土している。改葬の際に不要になった甕棺を割り、集めて廃棄した不整楕円形土坑の底面部分にあたるものと推測される。

出土遺物（第24図） 1～3は陶器の甕棺である。1は小形品で、口縁部は平坦に作り外側に張り出す。肩部の沈線上に粘土で貼花文を貼り付ける。胴部下半にも沈線が4条めぐる。貼花文が付く甕

SB36



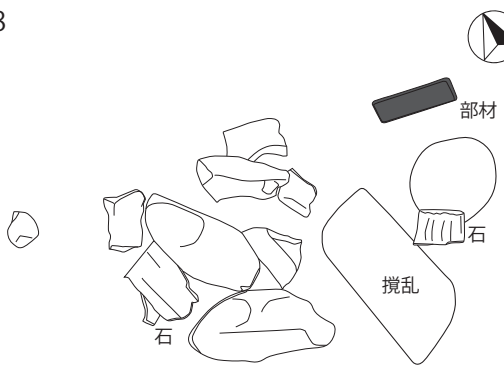
1 10YR5/4 にぶい黄褐、しまり強い、粘性弱、砂質の土（周りと違って砂ではない）、つき固めたような固さ、混じりものなし



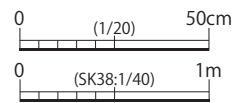
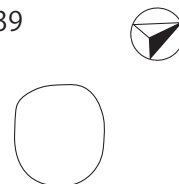
第19図 HZK1801地点
小祠跡 SB36出土遺物

第18図 HZK1801地点小祠跡 SB36平面・断面図

SK38

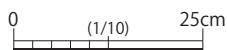


SP39

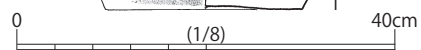
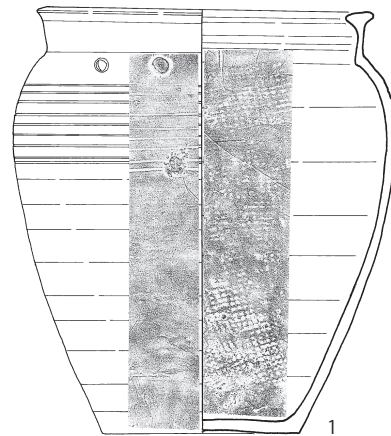


第20図 HZK1801地点墓石廃棄土坑 SK38・ピット SP39平面図

ST40

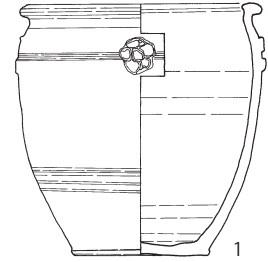
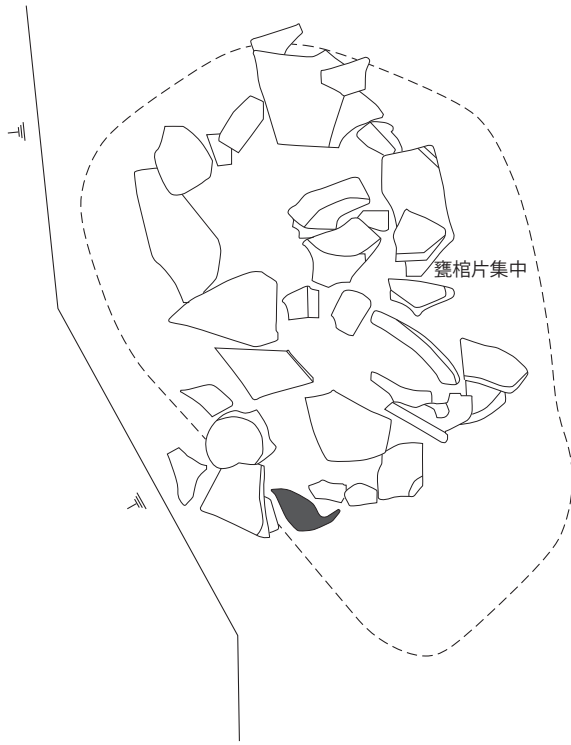


第21図 HZK1801地点
甕棺墓 ST40平面図

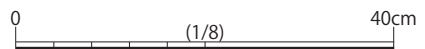
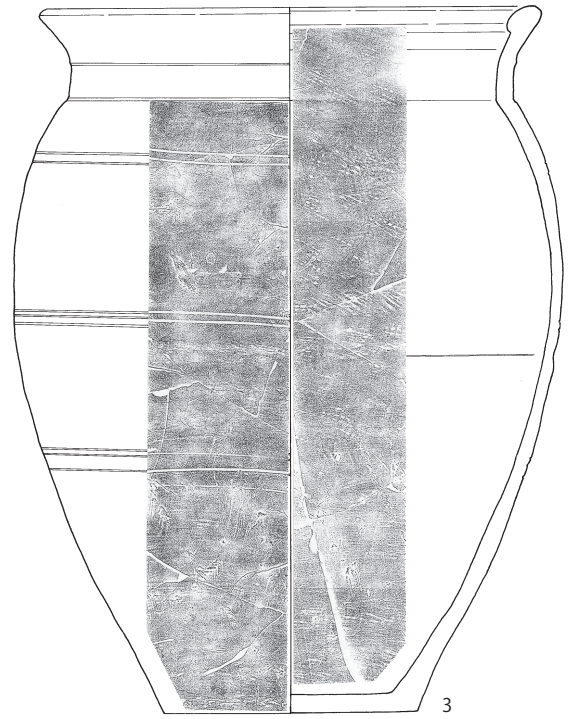
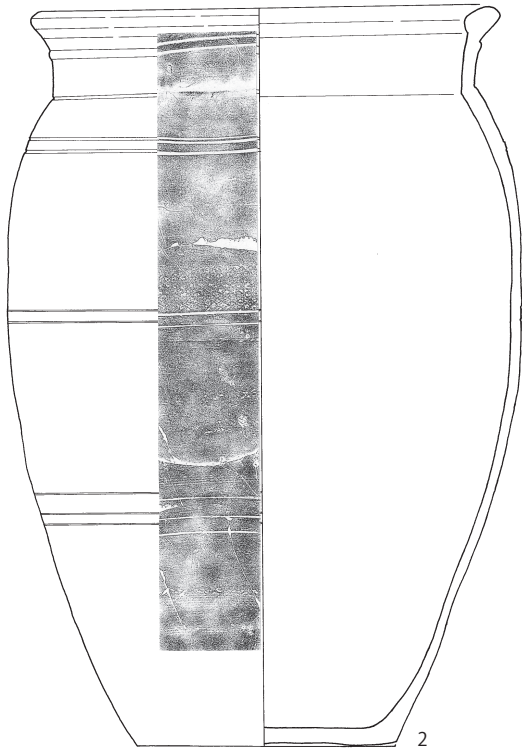


第22図 HZK1801地点
甕棺墓 ST40出土遺物

SX41



第23図 HZK1801地点甕棺集中地点 SX41平面図



第24図 HZK1801地点甕棺集中地点 SX41出土遺物

は17世紀前半の所産である（東中川 2000）。2・3は
いずれも口縁部内側に粘土紐を貼り付けてやや丸く仕
上げ、口縁端部の釉を拭き取り、メアトが付く。頸部
は屈曲する。肩部と胴部中央付近に螺旋状に3条、胴
部下半に3条沈線がめぐる。18世紀から19世紀の所産
である（東中川 2000）。他に土師器片や白磁の香炉、
陶器の壺が出土したが、図化し得ない。

土坑 SK42（第25図） 長軸78cm、短軸62cmの楕
円形土坑である。確認面からの深さは46cmである。
土坑は1・2層に分かれるが、いずれも遺物を含む。
土坑東側から甕棺片が出土した。

出土遺物（第26図） 1は断面四角形の鉄釘である。
木質が付着している。他に土師皿・土師質の播鉢、七
輪のすのこが出土したが図化に耐えない。

甕棺・墓石廃棄土坑 SK43（第27図） 長軸210cm、
短軸200cmの範囲から、人骨片の他、甕棺片や墓石が
出土している。改葬で不要になった墓標や甕棺を集め
て廃棄した土坑とみられる。

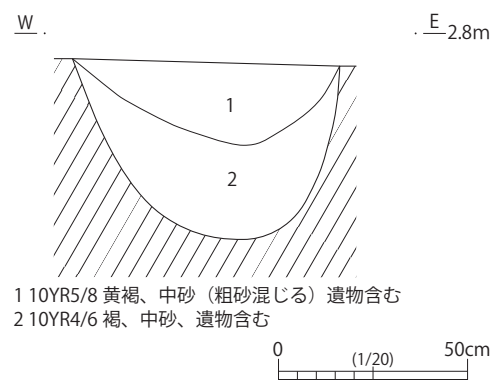
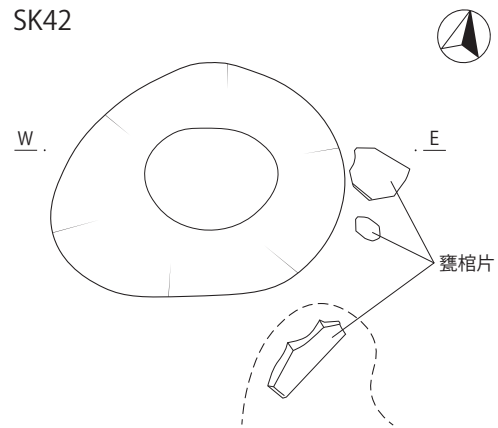
出土遺物（第28図） 1～7は陶器の甕棺である。1
はやや小形品で、口縁部はやや内傾して、内側に張り
出す。頸部は屈曲し口縁部に向けて垂直にのびる。肩
部に縄状突帯が1条めぐり、以下胴部上半に5条の沈
線がめぐる。17世紀後半の所産と考える。2～7は、
口縁部内側に粘土紐を貼り付けてやや丸く仕上げる。
頸部は屈曲する。2～4・6・7は肩部から胴部中央
付近に沈線がめぐる。18世紀から19世紀の所産である
（東中川 2000）。8・9は糸切り底の土師皿である。
10は白磁の香炉である。肩部が強く屈曲し、口縁部
に向けて反り返るが、口縁端部を欠損する。土錘や石が出土したが図化に耐えない。

甕棺・墓石廃棄土坑 SK44（第29図） 長軸232cm、短軸180cm以上の円形土坑の中から、墓石の
残欠が多数出土した。墓石同士の加工や石材が一樣ではなく、組み合わせられないものもあるので、
墓地の廃絶や改葬の際にまとめて廃棄したものであろう。墓石については、2025年度報告予定である。

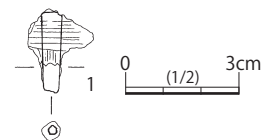
甕棺墓 ST45（第30図） 横転した甕棺と人骨片が出土している。改葬に際して棺を引き上げ、遺
存している骨を回収した後、不要の甕棺が残置されたのであろう。

出土遺物（第31図） 1・2は陶器の甕棺である。1は口縁部を平坦に作り、頸部は短い。肩部
から胴部上半にかけて6条の沈線がめぐる。17世紀後半の所産である。2は口縁部内側に粘土紐を貼り
付けてやや丸く仕上げる。頸部は屈曲する。肩部に沈線が螺旋状に4条めぐる。18世紀から19世紀の
所産である（東中川 2000）。3は陶器の碗である。内面から外面底部付近まで釉が厚くかかる。畳付
から底部は露胎。4は糸切り底の土師皿である。他に陶器碗、土人形、レンガ片が少量出土した。

土坑墓 ST46（第32図） 長軸70cm、短軸40cmの範囲に人骨が散乱している。火葬骨が混入して

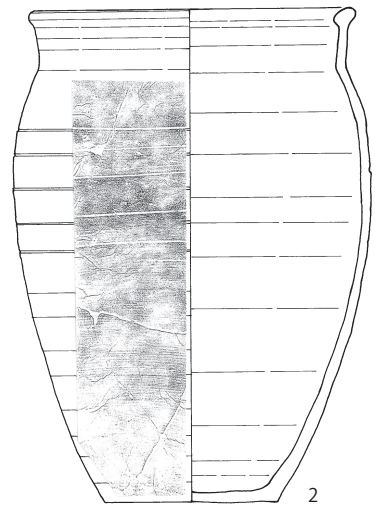
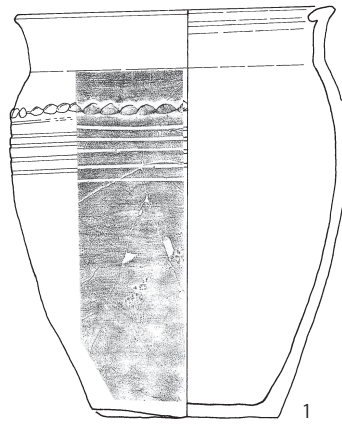
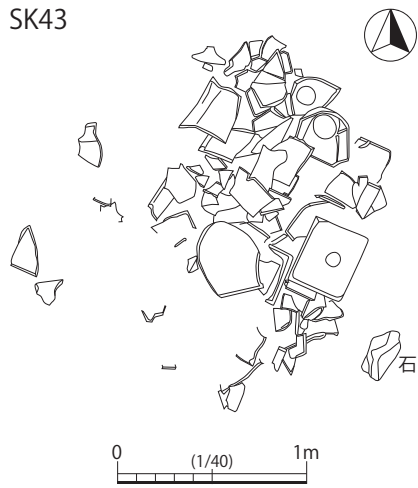


第25図 HZK1801地点
土坑 SK42平面・断面図

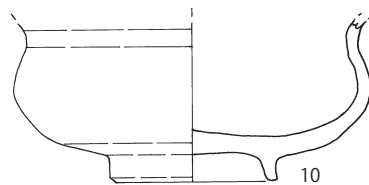
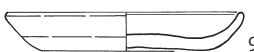
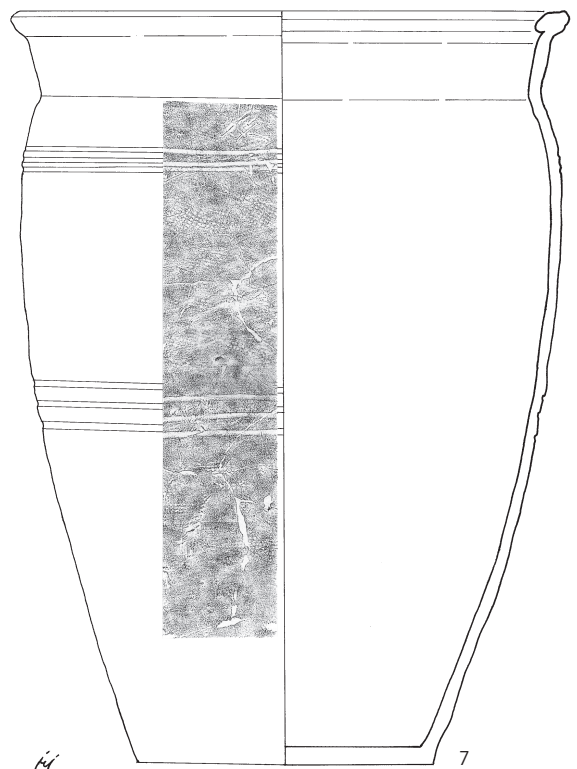
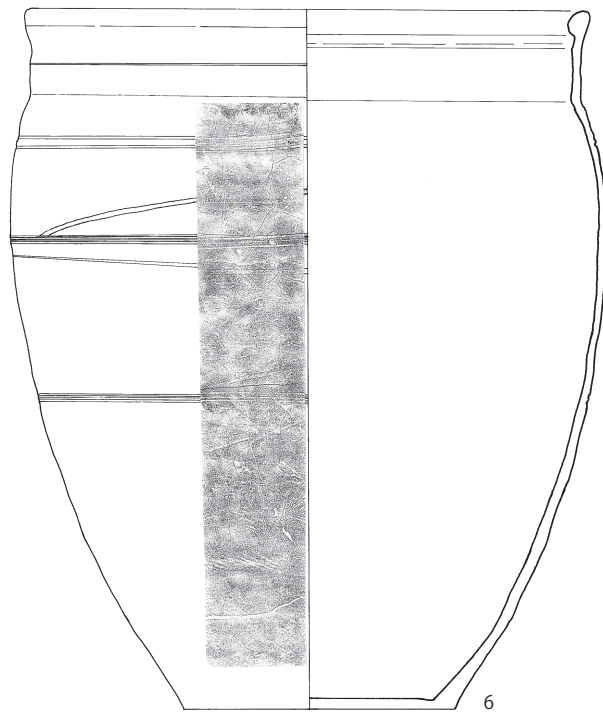
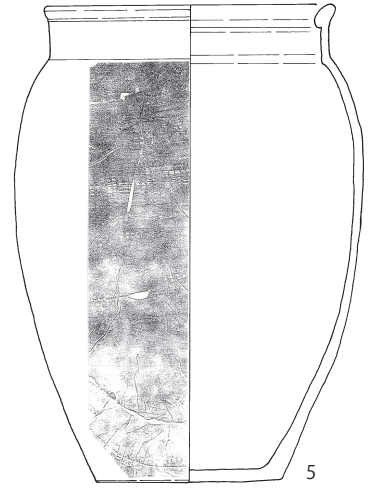
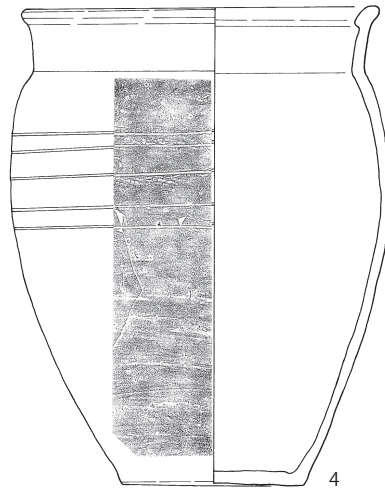
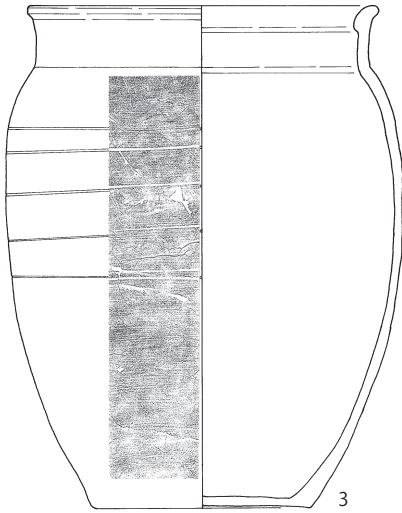


第26図 HZK1801地点
土坑 SK42出土遺物

SK43



第27图 HZK1801地点
甕棺・墓石廃棄土坑 SK43平面图



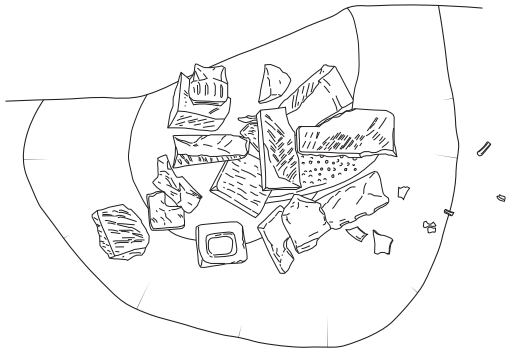
0 (8~10:1/2) 10cm

0 (1~7:1/8) 40cm

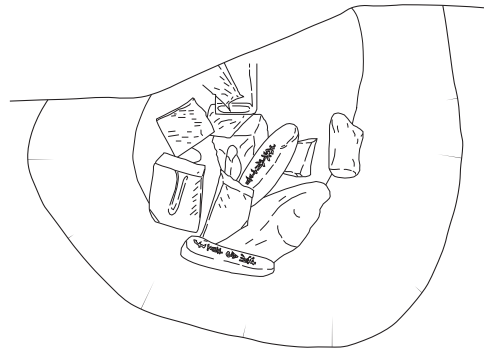
SK44



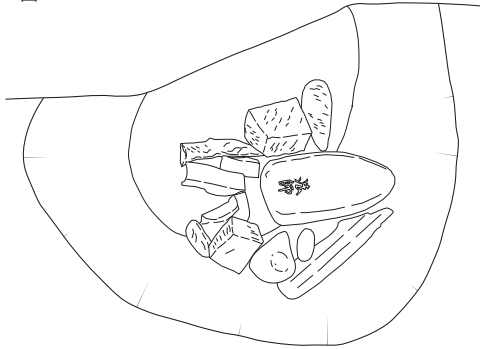
1面



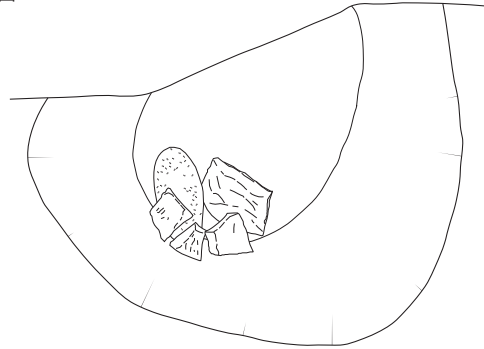
3面



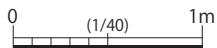
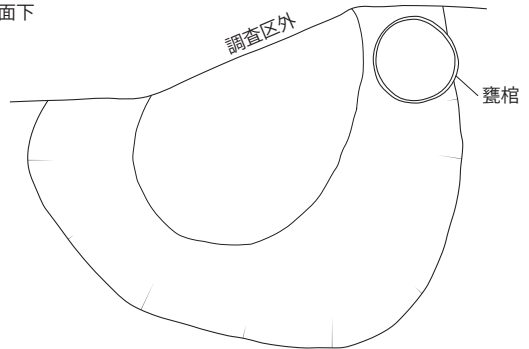
2面



4面



4面下



第29図 HZK1801地点甕棺・墓石廃棄土坑 SK44平面図

いることや、頭蓋骨や四肢骨が出土していないことから、改葬または攪乱を受けていると判断される。

出土遺物（第33図）1・2は断面四角形の鉄釘である。

土坑墓 ST47（第34図）長軸50cm、短軸37cmの範囲から人骨が出土している。土坑の南端から鼻骨と鉄釘が出土していることから、木棺墓の可能性もある。人骨の南西側から土師器片がまとまって出土している。

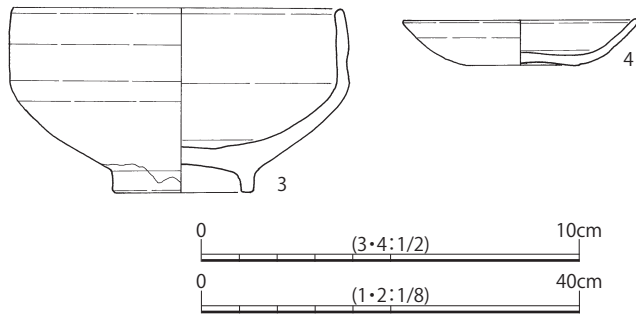
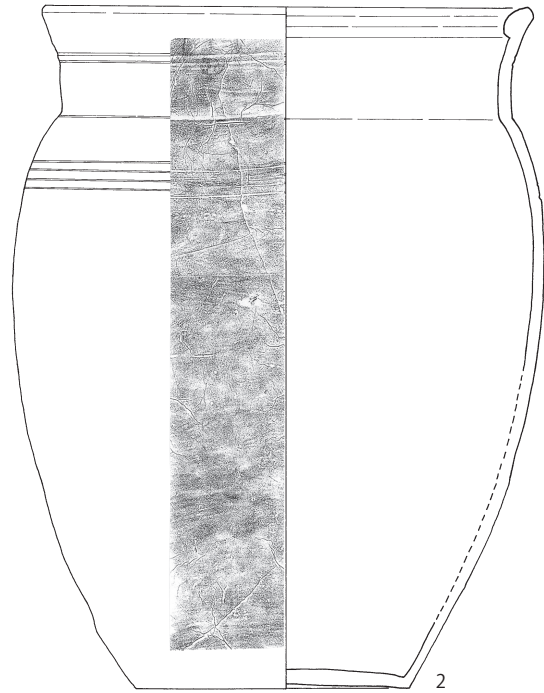
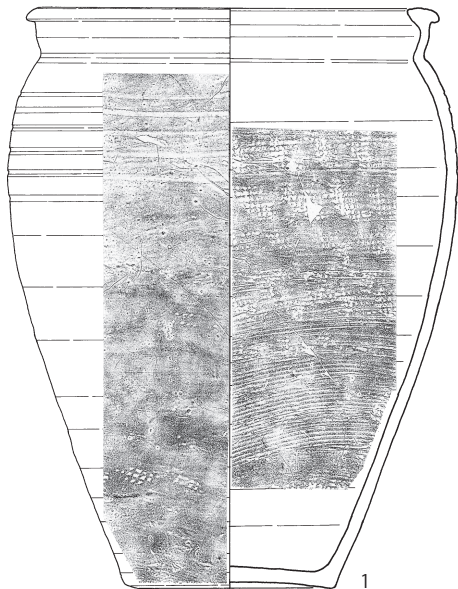
出土遺物（第35図）1・2は糸切り底の土師皿である。3・4は断面四角形の鉄釘である。

ST45



0 (1/20) 50cm

第30図 HZK1801地点
甕棺墓 ST45平面図



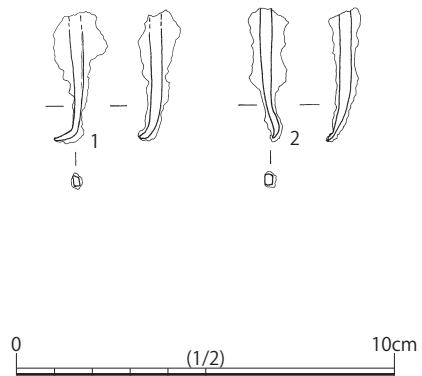
第31図 HZK1801地点甕棺墓 ST45出土遺物

ST46



0 (1/10) 25cm

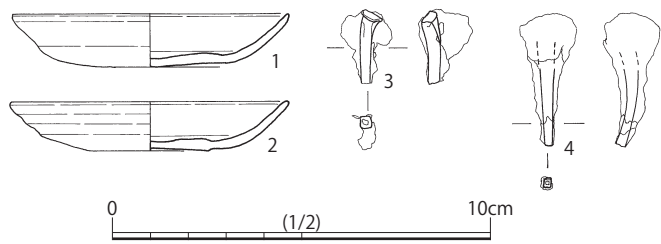
第32図 HZK1801地点土坑墓 ST46平面図



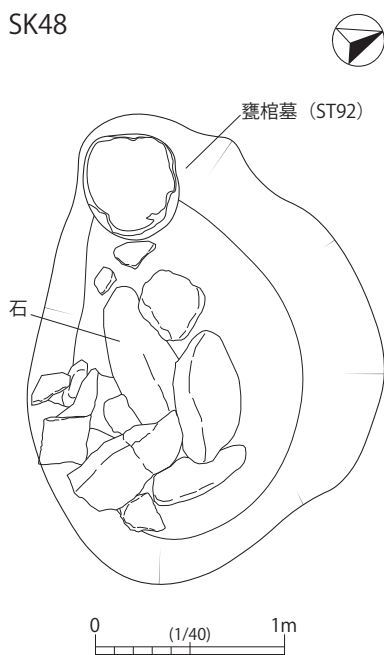
第33図 HZK1801地点
土坑墓 ST46出土遺物



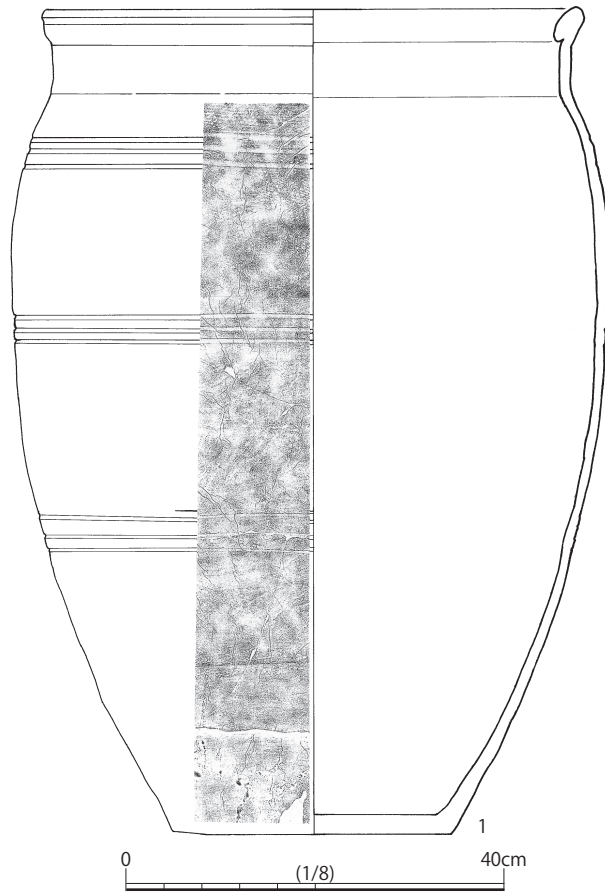
第34図 HZK1801地点土坑墓 ST47平面図



第35図 HZK1801地点土坑墓 ST47出土遺物



第36図 HZK1801地点
甕棺・墓石廃棄土坑 SK48平面図



第37図 HZK1801地点
甕棺・墓石廃棄土坑 SK48出土遺物

甕棺・墓石廃棄土坑 SK48（第36図） 長軸246cm、短軸188cmの楕円形土坑で、人骨片、甕棺、墓の構築石材が出土した。土坑の底面には、先行して埋納されていた甕棺墓 ST92が検出された。土坑の掘削者はST92の存在に気付きつつも、そのまま甕棺や墓石を廃棄したものと推測される。

出土遺物（第37図） 1は陶器の甕棺である。口縁部内側に粘土紐を貼り付けてやや丸く仕上げる。頸部は屈曲する。肩部・胴部中央・胴部下半に3条ずつ沈線がめぐる。18世紀から19世紀の所産である（東中川 2000）。他に土師皿が出土したが、図化し得ない。

土坑 SK49（第38図） 長軸90cm、短軸74cm の方形土坑の中から、炭化物と焼けた範囲と思われる痕跡が検出された。この方形土坑の北側からは墓石の残欠が出土しており、墓地の廃絶や改葬の際に、人骨を再火葬した土坑と、廃棄された墓石と考えられる。出土した墓石については、2025年度報告予定である。

土坑 SK50（第38図） 66cm×60cm の円形土坑である。確認面からの深さは30cm である。石錘が出土したが、図化に耐えない。

土坑 SK51（第38図） 長軸108cm、短軸80cm の楕円形土坑である。確認面からの深さは36cm である。土師皿が出土したが、図化し得ない。

土坑 SK52 土坑であるが調査時に作図し得なかった。遺物は出土していない。

土坑 SK53（第38図） 長軸70cm、短軸60cm の楕円形土坑である。確認面からの深さは20cm である。人骨片と銅銭の破片が出土した。

土坑 SK54（第40図） 長軸50cm、短軸40cm の楕円形土坑で、確認面からの深さは9cm を測る。遺物は出土していない。

土坑 SK55（第41図） 確認面で長軸200cm、短軸170cm 焼土の広がり認められ、その下位から検出された長軸108cm、短軸42cm の不整楕円形土坑である。確認面からの深さは32cm を測る。土師皿と炭化物が出土したが、図化し得ない。

蓋付壺出土地点 SX56（第38図） 素焼きの蓋付壺が単体で出土した地点にあたる。周囲が墓地であり、単体の正位置で出土したため、当初は火葬骨を納める骨壺であると考えたが、口径や容量が小さいことや、両方の肩部に穿孔があり、紐や持ち手が付いていた可能性があること、他に同様の骨壺が周囲から出土しておらず、骨壺ではない可能性もある。

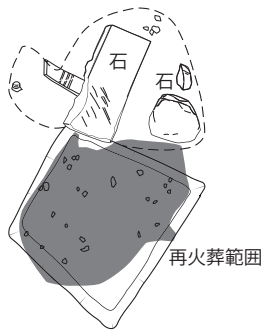
出土遺物（第39図）素焼きの蓋付の壺である。1は蓋で、宝珠形のつまみが付く。かえしは深く、2の口縁部内に納まる。2は無頸壺で、胴部下半が膨らむ。胴部上半に2条と胴部中央に1条沈線がめぐり、肩部の両側に穿孔があり、孔に持ち手を通していたと考えられる。底部付近の外面に刻印がある。いずれも胎土や形態が均一であることから近代の所産である。

甕棺墓 ST57（第42図） 墓坑のプランは確認できていない。甕棺の口縁部に接するように棺の内部から石が、加工板材の一部や木の節とともに出土しており、棺蓋の腐朽に伴い、蓋を押さえていた石が甕棺内部に落ち込んだものと考えられる。人骨が出土している。

出土遺物（第43図）1は陶器の甕棺である。2・3は糸切り底の土師皿である。4・5は鏡箱で、4が蓋、5が身である。蓋・身とも柄鏡に合わせた底板の縁に、細い板を木釘で固定している。特に円形部分は曲げ物状に板を曲げて木釘で固定する。6は4・5の鏡箱に納められていた青銅製の柄鏡で背面に鉄製の毛抜が錆着している。鏡の背面には「杵村因幡守重歳」という銘がある。7は七星板である。長方形の厚みのあるスギの板目板を用い8個の孔を円形に配するが、孔は貫通していない。孔のある面には鋸引きの痕跡が残り、裏面は端部に向かい薄くなっており、工具痕が見られる。転用材と考えられる。8は木製の刻歯式の横櫛である。毛抜と一緒に4・5の鏡箱に入っていた。9～14は断面四角形の鉄釘である。15・16は銭貨である。15は2枚錆着しており、寛永通寶と鉄銭、16は3枚錆着しており、一番上は寛永通寶で2枚は鉄銭である。他に棺蓋などの加工板材の一部と木の節が5個出土した。

甕棺墓 ST58（第44図） 墓坑のプランは確認できていない。甕棺に破損はないものの、人骨の出土状況から一部改葬されている。

SK49

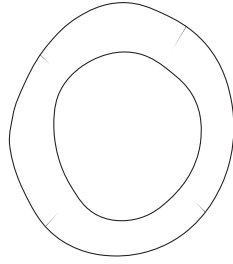


0 (SK49:1/40) 1m

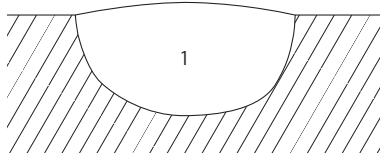


SK50

W



W



1 10YR4/4 褐、わずかにしまる、炭化物含む



SX56



E

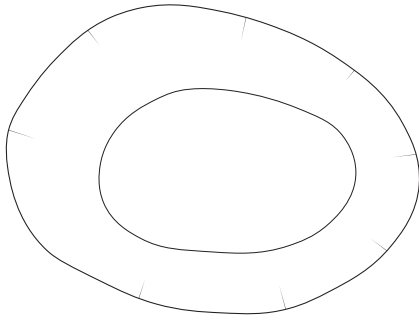


E 2.5m

0 (1/20) 50cm

SK51

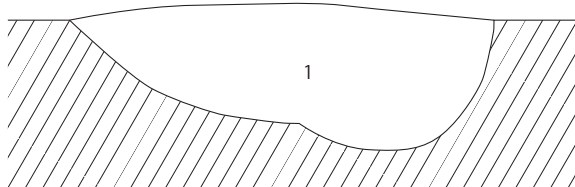
W



E



W



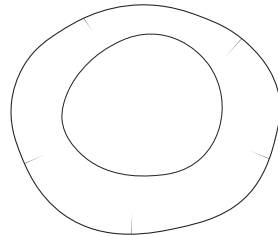
1 10YR4/4 褐、わずかにしまる、中砂（粗砂含む）、炭化物含む、遺物・人骨片少量含む

第38図 HZK1801地点土坑 SK49~51・53・蓋付壺出土地点 SX56平面・断面図

出土遺物（第45図）1は陶器の甕棺で、口縁部は粘土紐を貼り付けて丸く作り、頸部はゆるく屈曲する。肩部と胴部中央付近、胴部下半に螺旋状の沈線が3条ずつめぐる。底部外面に墨書を施し、「七古」と読める。18世紀から19世紀の所産である（東中川 2000）。2・3は糸切り底の土師皿である。4は鉄製の鉢に毛抜が錆着したものである。5は銭貨で、6枚錆着しており、いずれも寛永通寶（新寛永）である。他に青磁片と木片が出土した。

SK53

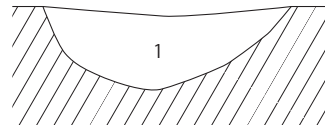
N



S



N



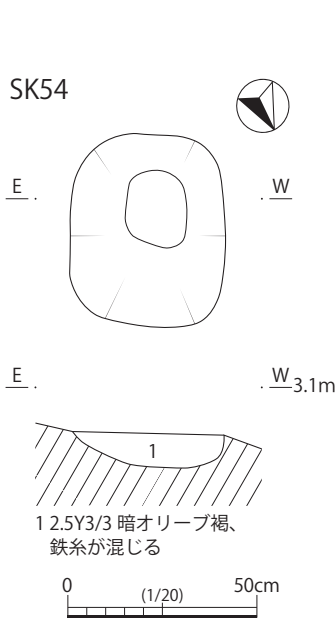
1 10YR3/3 暗褐、わずかにしまる、中砂（粗砂多く含む）、人骨片含む

S 2.2m

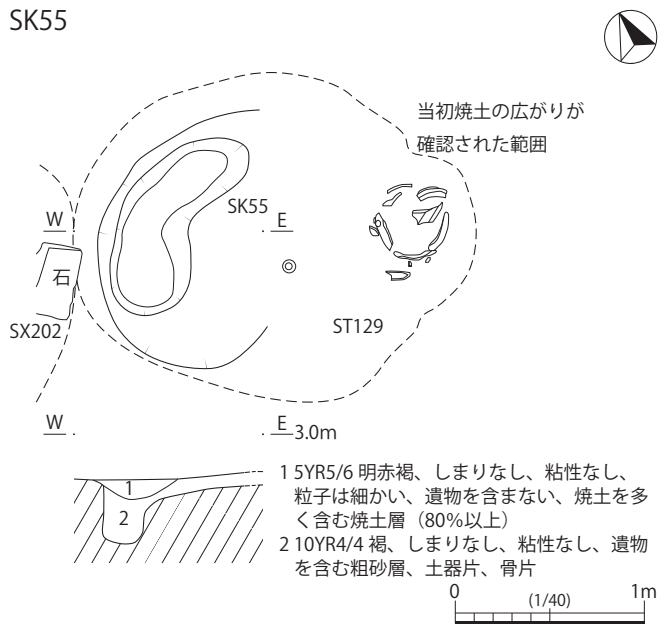
0 (1/4) 20cm



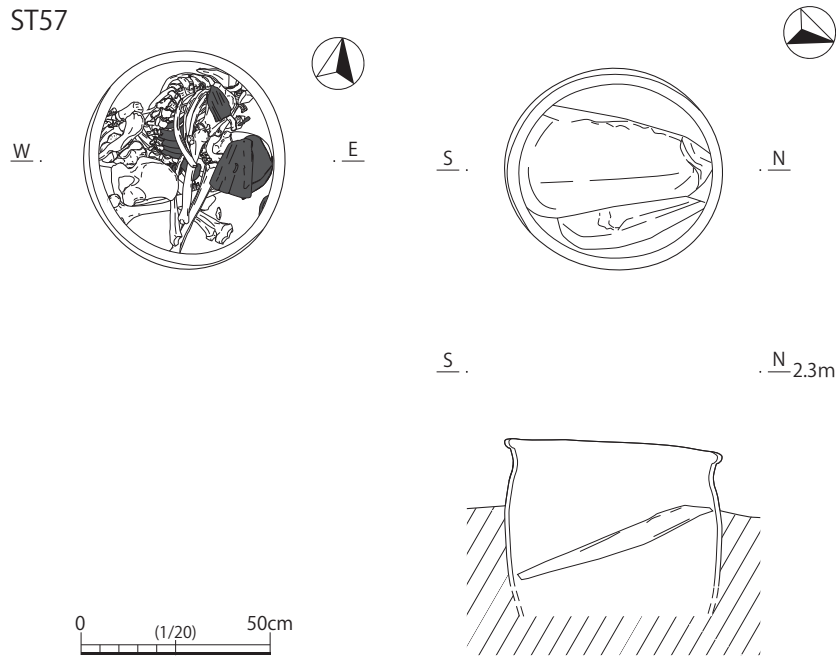
第39図 HZK1801地点蓋付壺出土地点 SX56出土遺物



第40図 HZK1801地点
土坑 SK54平面・断面図



第41図 HZK1801地点土坑 SK55平面・断面図

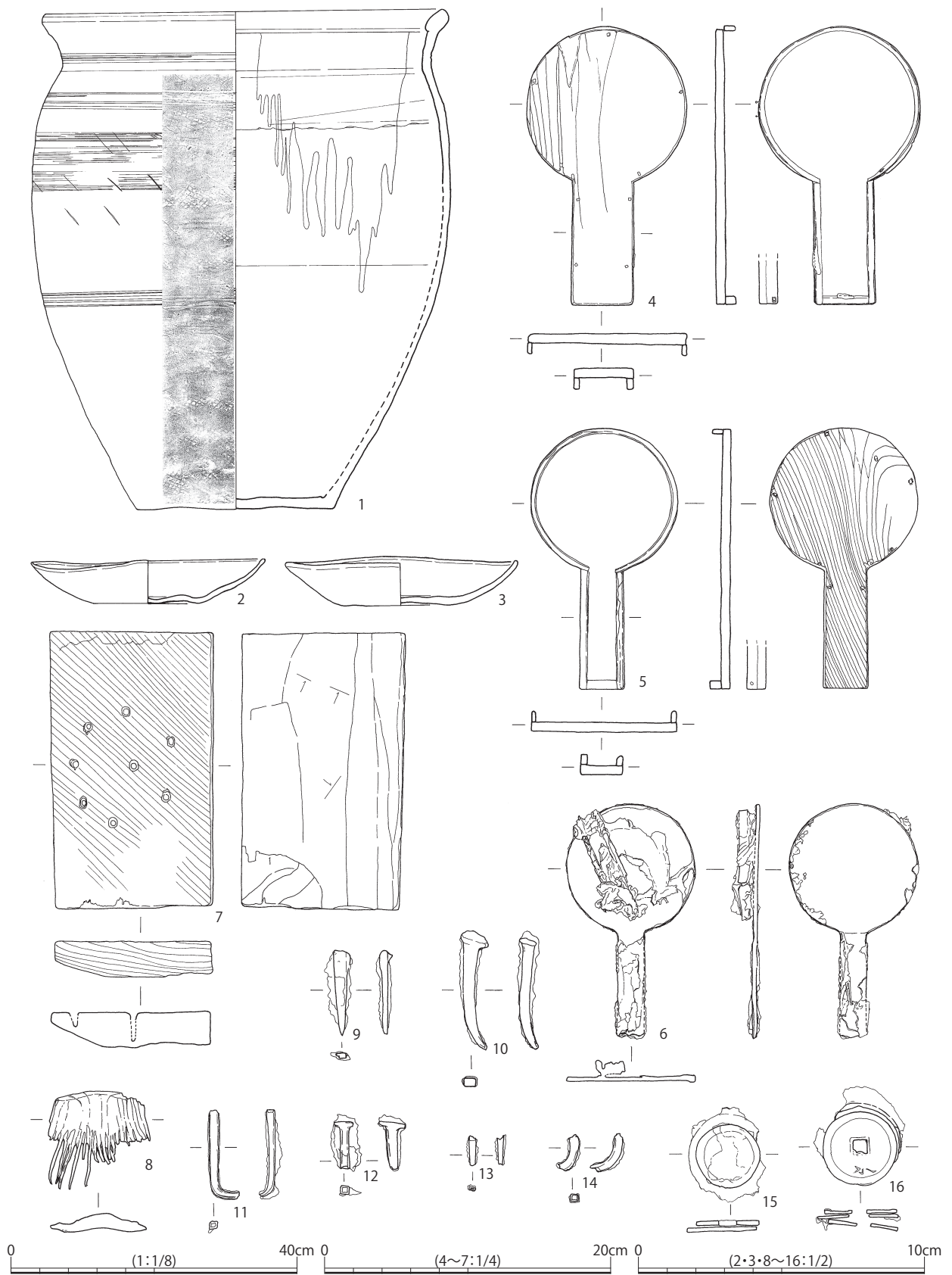


第42図 HZK1801地点甕棺墓 ST57平面・断面図

木棺墓 ST59（第46図） 長軸95cm、短軸45cm の範囲から人骨と土師器、キセル、銭貨、木片が出土した。人骨の出土状況や出土した木片が銹金具に付随していたと判断されることから木棺墓とした。

出土遺物（第47図） 1・2は糸切り底の土師皿である。3～9は銭貨である。3～7は寛永通寶で、3は文銭である。8・9は破片である。他にキセルの一部とスギの柁目板の小片で、銹金具に付随したものと思われる木片が出土したが、残存状態が悪く図化できない。

木棺墓 ST60（第48図） 長軸70cm、短軸40cm の範囲から人骨と鉄釘、土師器、鉄製品、銭貨が出土した。人骨の出土状況や鉄釘の出土から木棺墓とした。



第43図 HZK1801地点甕棺墓 ST57出土遺物



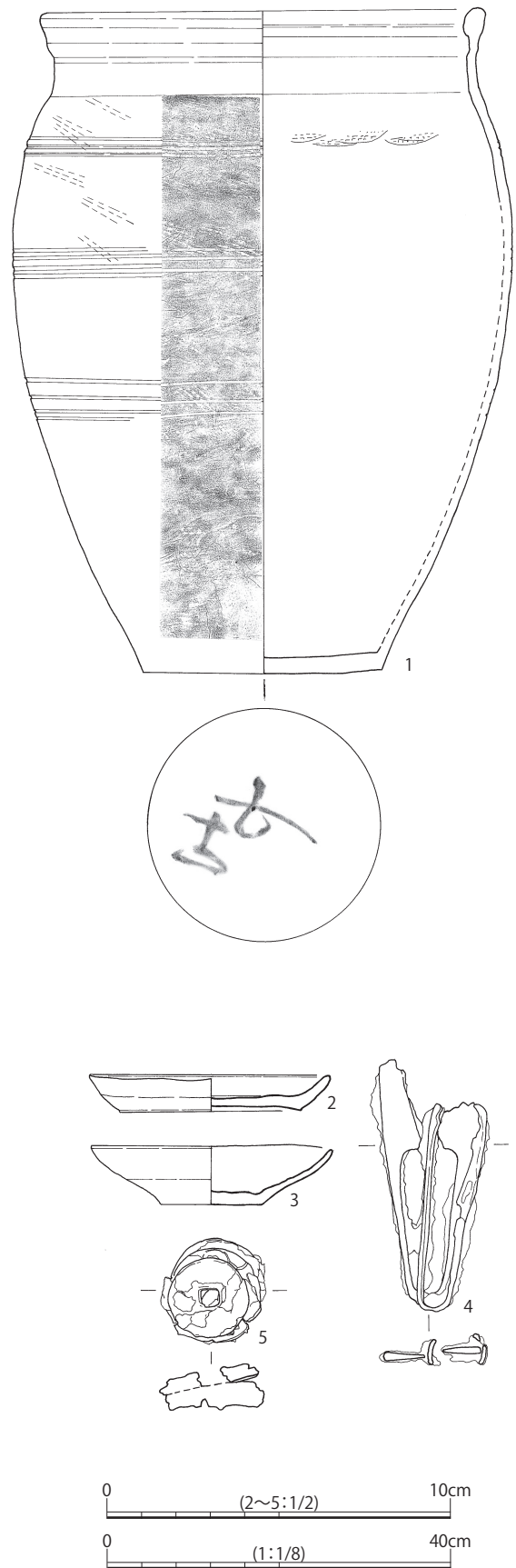
第44図 HZK1801地点甕棺墓 ST58平面図

出土遺物（第49図） 1・2は糸切り底の土師皿である。3は鉄製の毛抜である。4は鉄製の刀子と思われる。5～9は断面四角形の鉄釘である。10は銅銭で6枚重なっており、表面に布が付着する。4枚目が無文銭で、他は文銭を含む寛永通寶である。

甕棺墓 ST61・土坑墓 ST122（第50図） 甕棺墓 ST61が土坑墓 ST122を切っている。ST61は甕棺の口縁部に平たい石がのっており、棺蓋を押さえるための石と考えられる。棺内から人骨が出土した。

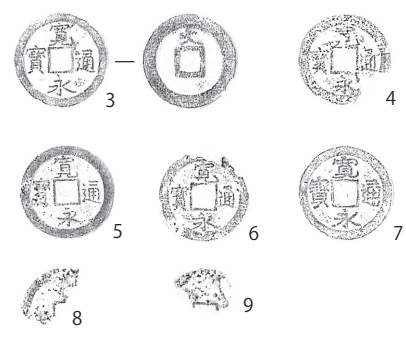
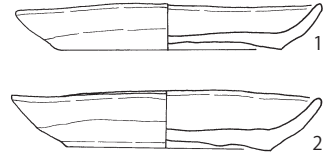
ST122は長軸130cm、短軸50cmの範囲から人骨が出土しており、ST61によって墓坑の北側が破壊され、東西に分かれている。ST122の南側から人骨が出土しているが、ST61・ST122とは異なる遺構である。

出土遺物（第51・52図） 第51図はST61出土である。1は陶器の甕棺で、口縁端部は肥厚してやや角張っている。頸部は屈曲し、外面の釉を拭き取る。肩部に2条、胴部下半に4条の沈線が螺旋状にめぐる。18世紀から19世紀の所産である（東中川 2000）。2は糸切り底の土師皿の底部である。3・4は断面四角形の鉄釘である。5・6は同一個体のキセルで、5が雁首、6が吸い口である。いずれも羅字の一部が残る。7は鉄製の毛抜で、表面に繊維質が残る。8・9は銭貨である。8は銭貨が1枚以上ある。9は激しく錆着しており、一番上は寛永通寶（新寛永）で、他に4枚ほど鉄銭が含まれる。

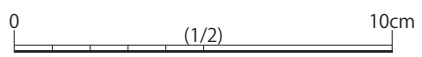
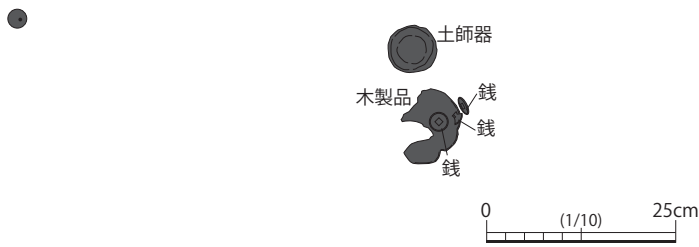


第45図 HZK1801地点甕棺墓 ST58出土遺物

ST59



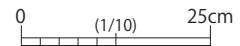
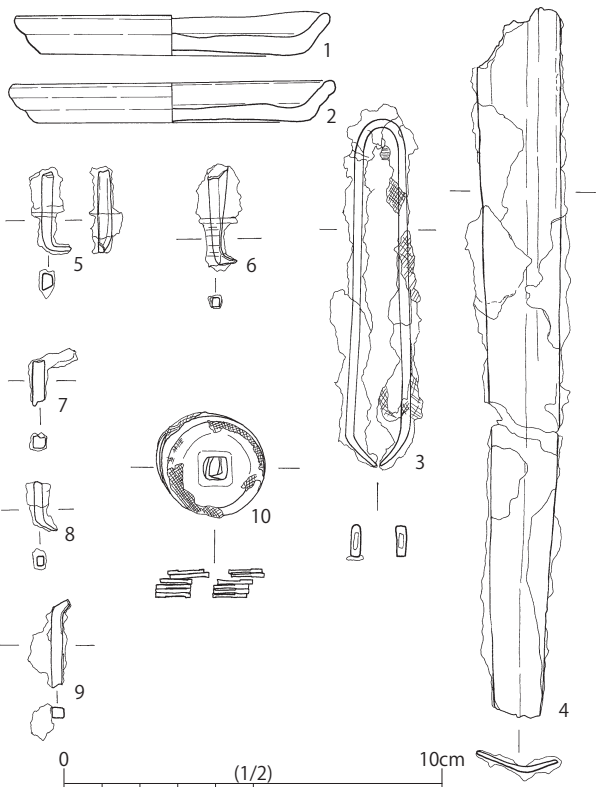
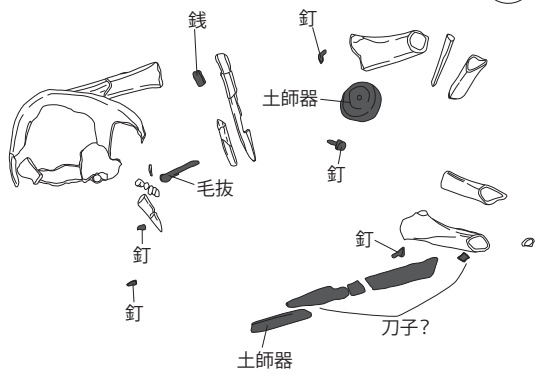
下位の銭・木製品の図



第46図 HZK1801地点木棺墓 ST59平面図

第47図 HZK1801地点木棺墓 ST59出土遺物

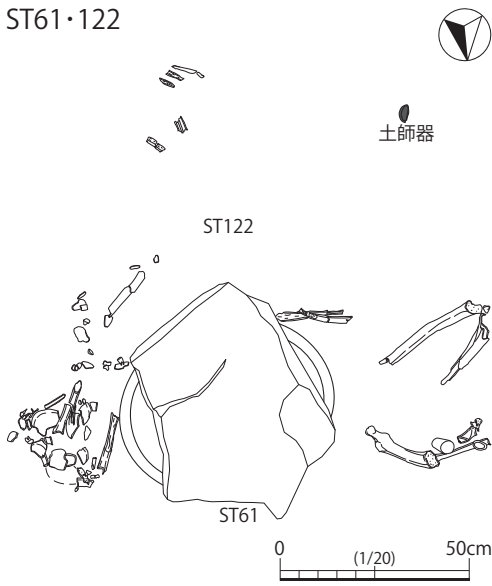
ST60



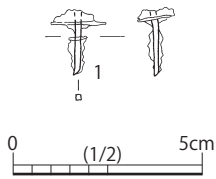
第48図 HZK1801地点木棺墓 ST60平面図

第49図 HZK1801地点木棺墓 ST60出土遺物

ST61・122

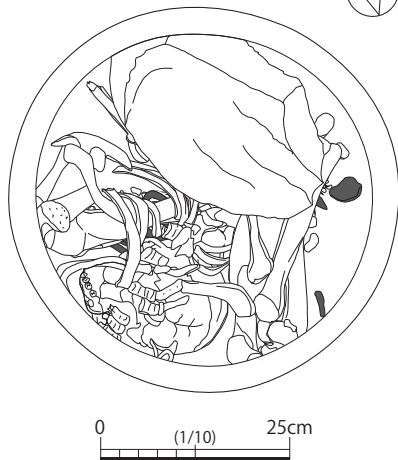


第50図 HZK1801地点
甕棺墓 ST61・土坑墓 ST122平面図

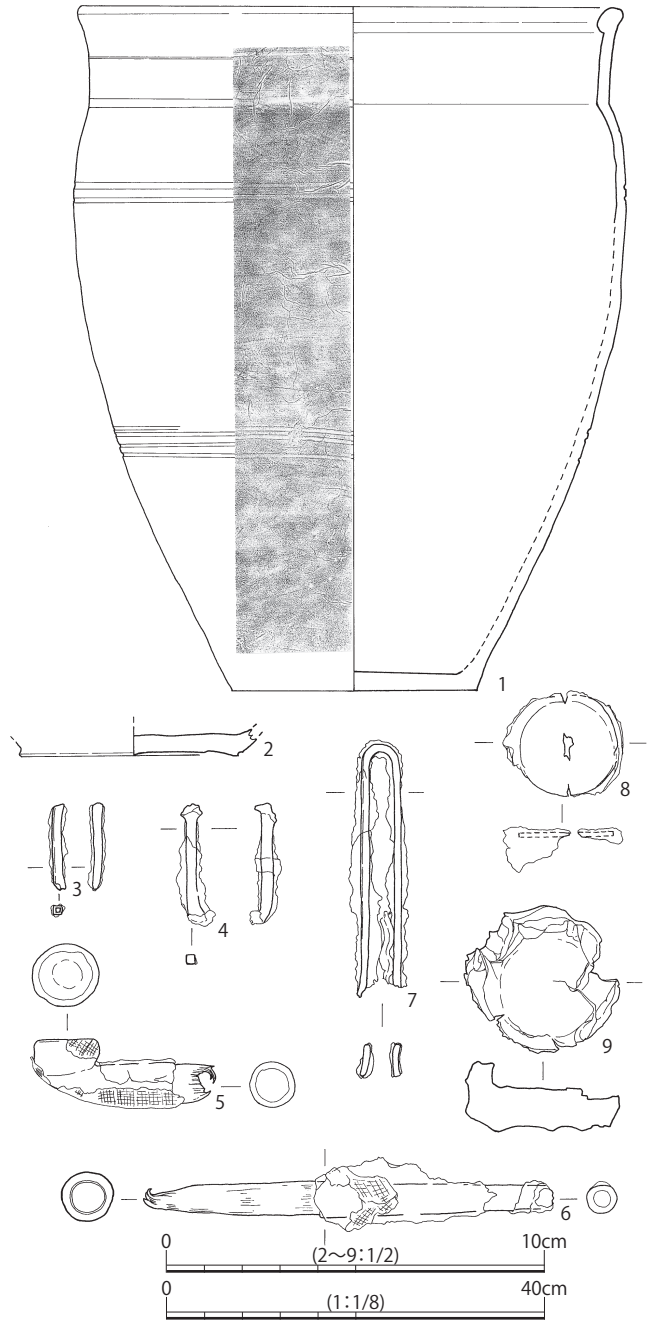


第52図 HZK1801地点
土坑墓 ST122出土遺物

ST62



第53図 HZK1801地点
甕棺墓 ST62平面図

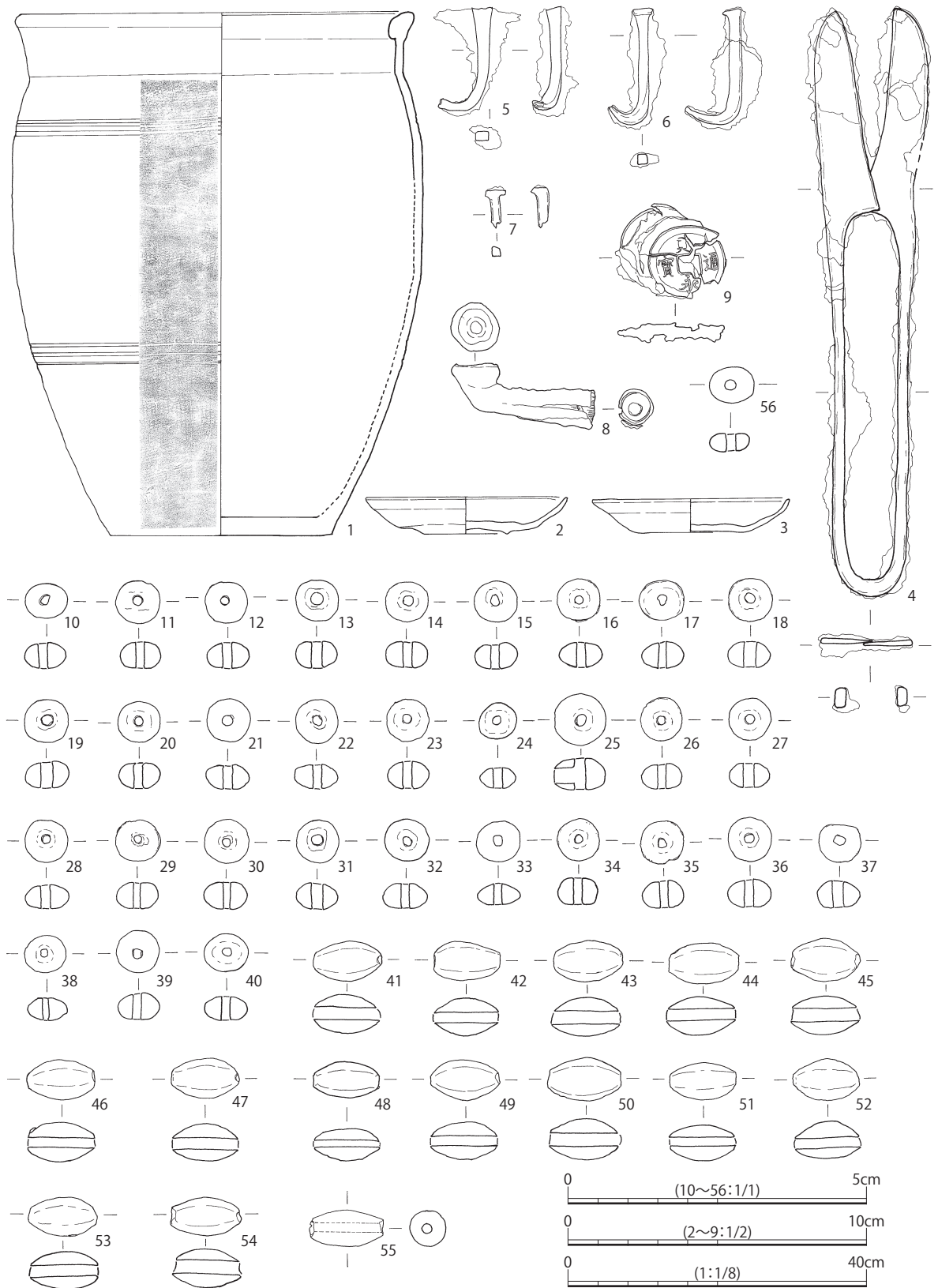


第51図 HZK1801地点甕棺墓 ST61出土遺物

第52図はST122出土の断面四角形の鉄釘である。

甕棺墓 ST62（第53図） 墓坑のプランは確認できていない。甕棺の中に石が落ち込んでおり、出土遺物に木の節があることから、木蓋を押さえていた石が木蓋の腐朽に伴い落ち込んだものと判断される。棺内から人骨が出土した。

出土遺物（第54図） 1は陶器の甕棺で、口縁部内側に粘土紐を貼り付けてやや丸く仕上げる。頸部はゆるく屈曲する。肩部と胴部下半に沈線が3条ずつめぐる。18世紀から19世紀



第54図 HZK1801地点甕棺墓 ST62出土遺物

の所産である（東中川 2000）。2・3は糸切り底の土師皿である。4は鉄製の鉢である。握り部分が長く大型である。5～7は断面四角形の鉄釘である。8は銅製のキセルの雁首である。9は銭貨で3枚以上が銹着しており、一番上と一番下は銅銭で寛永通寶（新寛永）である。間に鉄銭が2枚ほど含まれていた。10～40は木製の丸玉、41～55は木製の玉で紡錘形を呈する。いずれもサイズや形状がよく似ていることから、本来は一連で数珠であったと考えられる。56は石製の玉である。他に棺内から石と扇の骨、木の節が2点、周辺からは白磁碗が出土したが、図化し得ない。

甕棺墓 ST63（第55図） 墓坑のプランは確認できていない。甕棺に破損はないが棺蓋の存在は不明である。棺内から人骨が出土した。

出土遺物（第56図） 1は陶器の甕棺である。口縁部内面に粘土紐が付き、頸部に向かってゆるくカーブする。口縁部下に2条、肩部と胴部下半に3条ずつ沈線がめぐる。口縁部外面に「ヨシ川」の刻印、底部外面に墨書とメアトが付く。18世紀から19世紀の所産である（東中川 2000）。2・3は糸切り底の土師皿である。4・5は同一個体のキセルで4が雁首、5が吸い口である。6～8は断面四角形の鉄釘である。9は銅銭で寛永通寶が6枚銹着している。

甕棺墓 ST64（第57図） 墓坑のプランは確認できていない。甕棺に破損はないが棺蓋の存在は不明である。棺内から人骨が出土した。

出土遺物（第58図） 1は陶器の甕棺で口縁部内面に粘土紐が付き、頸部に向かってゆるくカーブする。18世紀から19世紀の所産である（東中川 2000）。2・3は糸切り底の土師皿である。4・5は同一個体のキセルで4が雁首、5が吸い口である。4・5とも羅字に装着する部分の断面が六角形を呈する。6は七星板である。スギの追柁目板を八角形に加工し、孔を8個配する。孔は貫通している。他に棺内から石と木の節が2点出土した。

甕棺墓 ST65（第59図） 墓坑のプランは確認できていない。甕棺に破損はないが棺蓋の存在は不明である。棺内から人骨が出土した。

出土遺物（第60図） 1は陶器の甕棺で、2・3は糸切り底の土師皿である。4は断面四角形の鉄釘の一部である。5は銭貨で6枚銹着している。5枚は寛永通寶であるが、1枚鉄銭が含まれており、外観からは鑄がひどく判然としない。指の骨が付着している。6はキセルの吸い口である。7はガラス製の玉である。孔に繊維が残っている。棺内最下層から七星板の可能性のある加工板材が出土したが、残存状態が悪く図化し得ない。

甕棺墓 ST66（第61図） 甕棺の口縁部に石がのっており、出土遺物に加工板材と木の節があることから、棺蓋を押さえるための石と考えられる。棺内から人骨が出土した。

出土遺物（第62図） 1は陶器の甕棺で、口縁端部は肥厚してやや角張っている。頸部の屈曲はゆるい。肩部と胴部中央付近に3条ずつ螺旋状の沈線を施す。18世紀から19世紀の所産（東中川 2000）。2・3は糸切り底の土師皿である。4は銭貨で7枚が銹着している。5枚は寛永通寶で、2枚が鉄銭である。他に棺蓋か棺底に敷いたと思われる加工板材と木の節が出土した。

甕棺墓 ST67（第63図） 墓坑のプランは確認できていない。検出時には甕棺の口縁部が割れており、棺蓋の存在は不明である。棺内から人骨が出土した。

出土遺物（第64図） 1は陶器の甕棺で、口縁部内側に粘土紐を貼り付けてやや丸く仕上げ、外面には浅い段が付く。頸部はゆるく外反気味に屈曲する。18世紀から19世紀の所産である（東中川 2000）。2・3は糸切り底の土師皿である。他に漆器片が出土したが、残存状態が悪く図化し得ない。

土坑 SK68（第65図） 長軸170cm、短軸118cmの楕円形土坑で、確認面からの深さは20cmである。中央部付近から土師器と銭貨が出土した。

ST63



0 (1/10) 25cm

第55図 HZK1801地点甕棺墓 ST63平面図

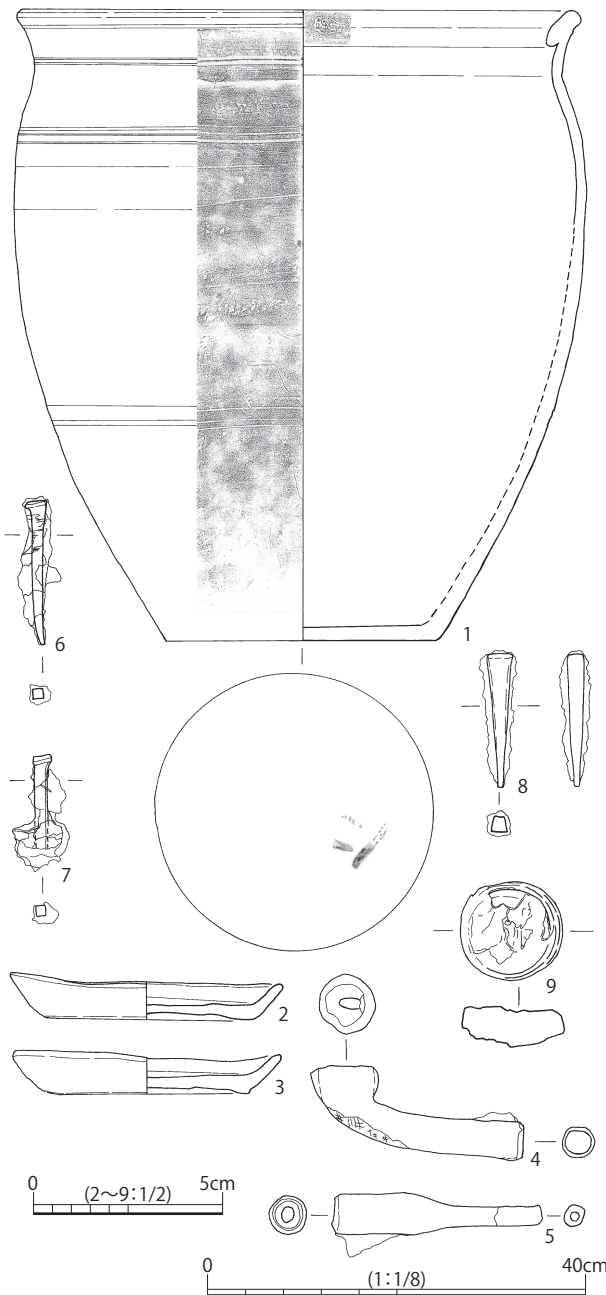
2. 遺構と遺物

ST64

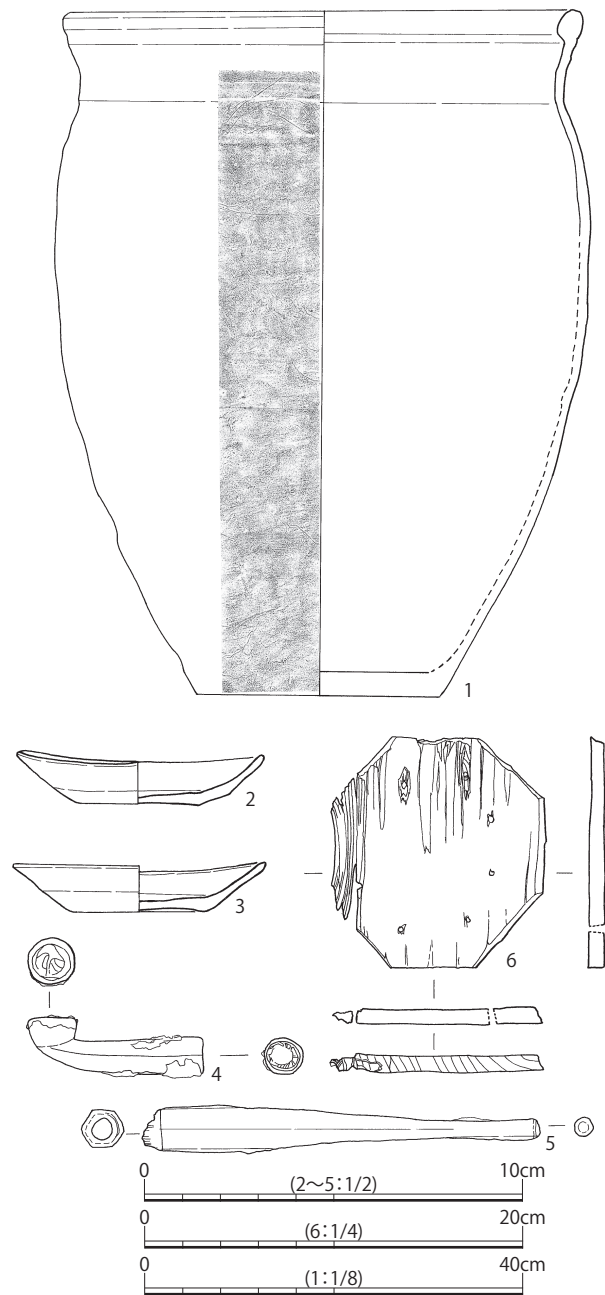


0 (1/10) 25cm

第57図 HZK1801地点甕棺墓 ST64平面図

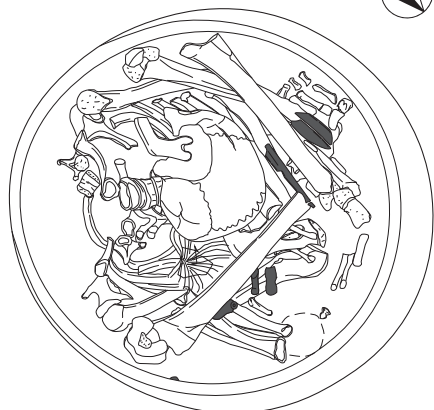


第56図 HZK1801地点甕棺墓 ST63出土遺物



第58図 HZK1801地点甕棺墓 ST64出土遺物

ST65



0 (1/10) 25cm

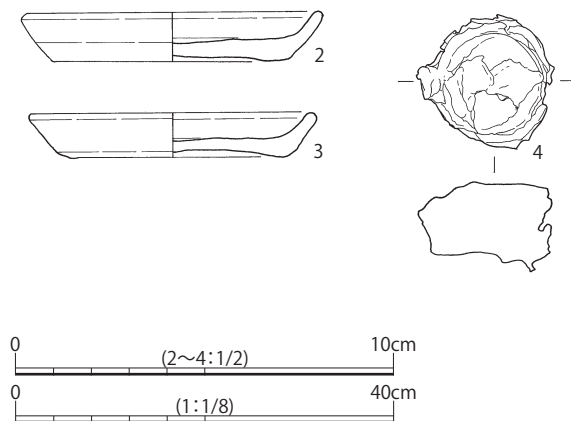
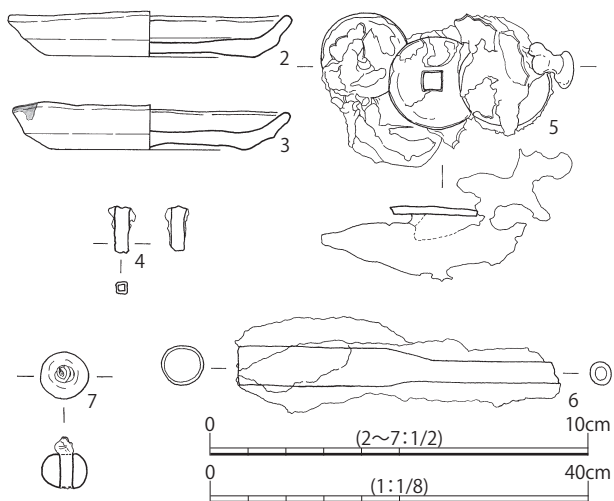
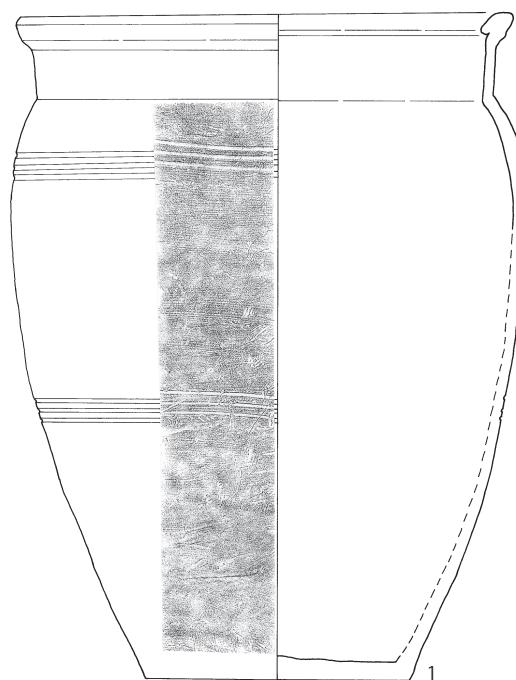
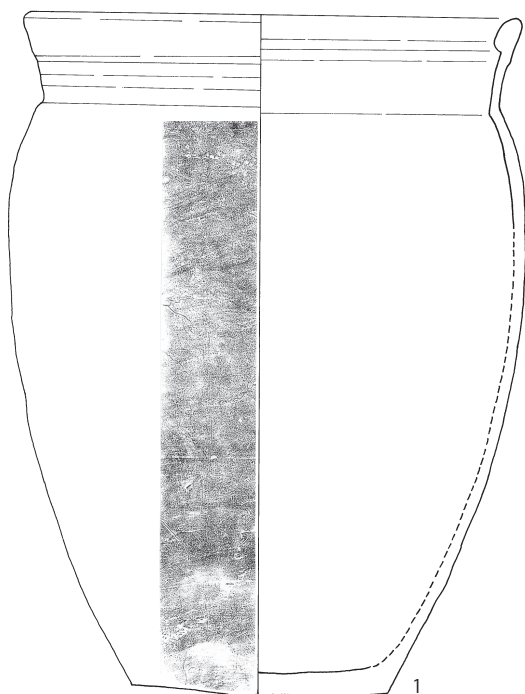
第59图 HZK1801地点甕棺墓 ST65平面图

ST66



0 (1/10) 25cm

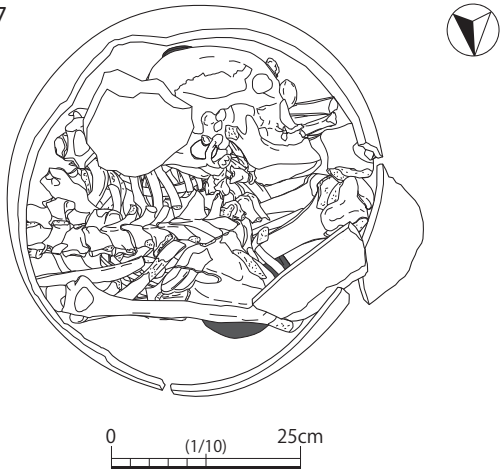
第61图 HZK1801地点甕棺墓 ST66平面图



第60图 HZK1801地点甕棺墓 ST65出土遺物

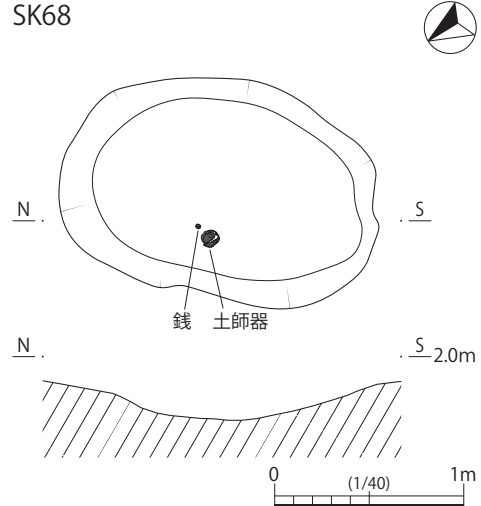
第62图 HZK1801地点甕棺墓 ST66出土遺物

ST67

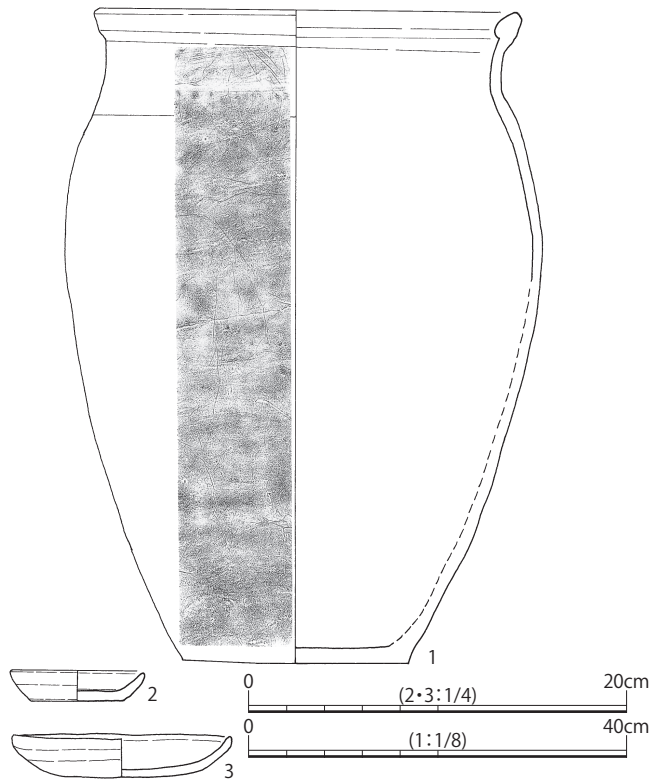


第63図 HZK1801地点甕棺墓 ST67平面図

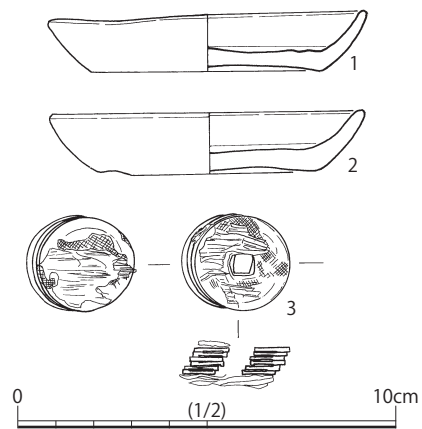
SK68



第65図 HZK1801地点土坑 SK68平面・断面図

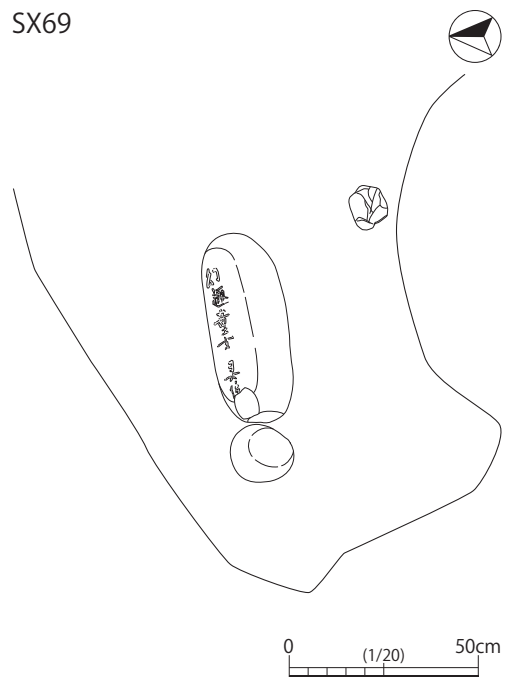


第64図 HZK1801地点甕棺墓 ST67出土遺物



第66図 HZK1801地点土坑 SK68出土遺物

SX69



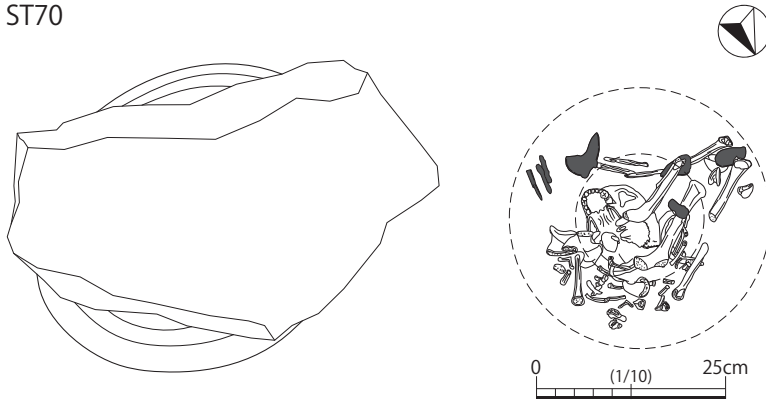
第67図 HZK1801地点
墓石残置地点 SX69平面図

出土遺物（第66図） 1・2は糸切り底の土師皿である。3は銭貨で、寛永通寶が6枚重なっており、表裏とも木質と布が付着している。

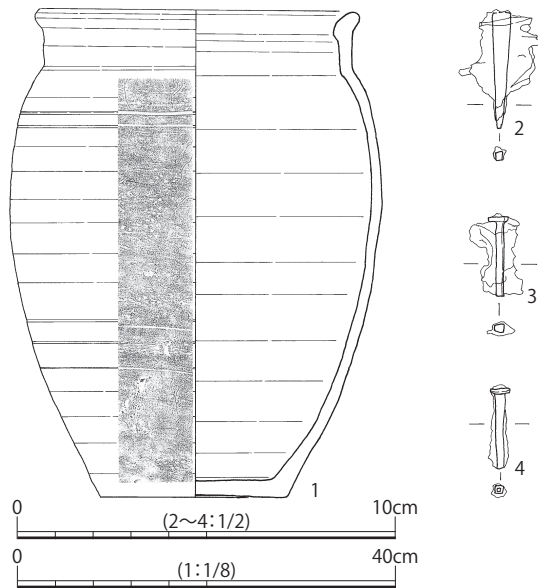
墓石残置地点 SX69（第67図） 横倒しになった墓石の出土地点で、傍に径14cmの円形ピットも検出されている。改葬の際に不要になった墓標を残置したものであろう。墓石については2025年度報告予定である。他に土師器の坏・皿が出土したが、小片で図化し得ない。

甕棺墓 ST70（第68図） 墓坑のプランは確認できていない。甕棺の口縁部に平らな石がのっており、出

ST70

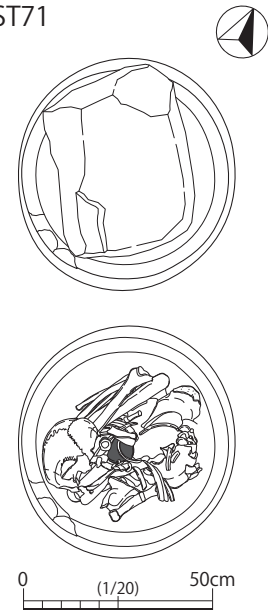


第68図 HZK1801地点甕棺墓 ST70平面図



第69図 HZK1801地点甕棺墓 ST70出土遺物

ST71



第70図 HZK1801地点
甕棺墓 ST71平面図

土遺物に加工板材と木の節があることから、棺蓋を押さえるための石と考えられる。棺内から人骨が出土した。

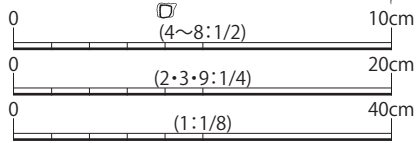
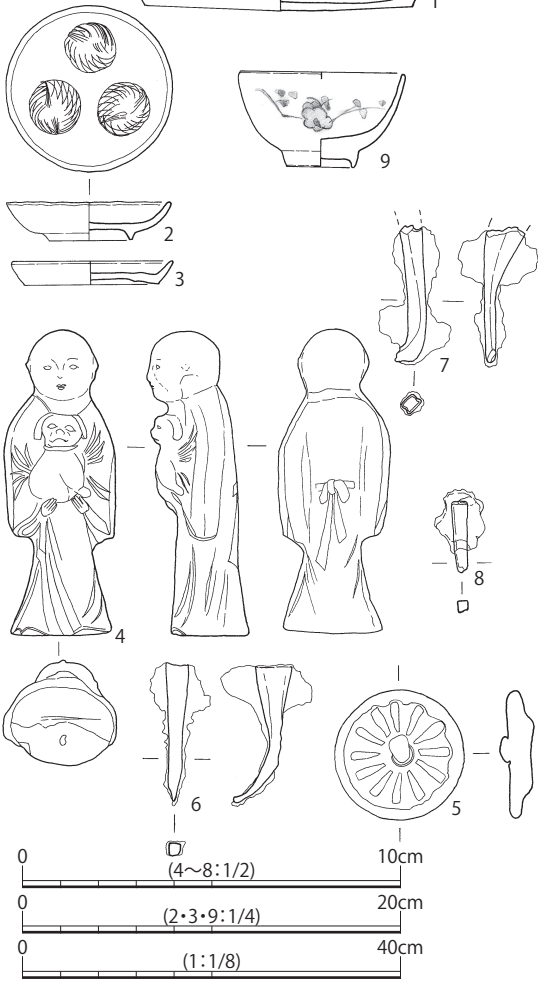
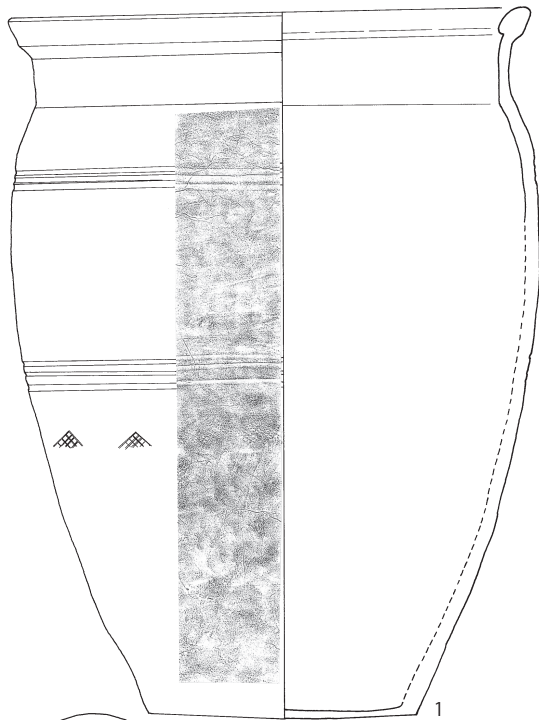
出土遺物（第69図） 1は陶器の甕棺で、口縁部内面に粘土紐が付き、釉を拭き取る。頸部は短く、屈曲がやや弱い。肩部と胴部下半に沈線が2条ずつめぐる。18世紀から19世紀の所産である（東中川2000）。2～4は断面四角形の鉄釘である。棺内から棺蓋か棺底に敷いたと思われる加工板材と木の節が出土し、周辺から土師器片が出土したが、小片で図化し得ない。

甕棺墓 ST71（第70図） 墓坑のプランは確認できていない。甕棺の口縁部に平らな石がのっており、棺蓋を押さえるための石と考えられる。棺内から人骨が出土した。

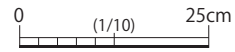
出土遺物（第71図） 1は陶器の甕棺で、口縁端部は肥厚してやや角張っており、頸部の屈曲はややゆるい。肩部と胴部中央付近に3条ずつ沈線がめぐる。胴部下半の外表面は格子状のタタキを施した後ナデ消す。18世紀から19世紀の所産である（東中川2000）。2・4・5はST71周辺出土で、2は陶器の皿で内面に施文する。3は棺外出土の糸切り底の土師皿である。4は陶器の人形で、童子が犬を抱えた意匠である。5は陶器製の蓋で、車輪状の模様を施す。6～8は断面四角形の鉄釘である。9は染付の湯呑みで、外表面に草花文を施す。周辺からも土師皿が出土したが、小片で図化し得ない。

甕棺墓 ST72（第72図） 墓坑のプランは確認できていない。甕棺に破損はないが棺蓋の存在は不明である。棺内から人骨が出土した。

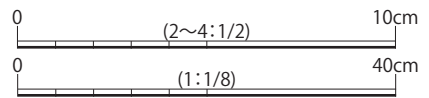
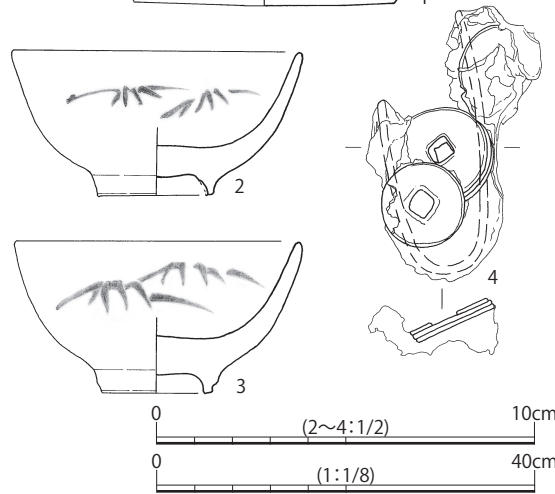
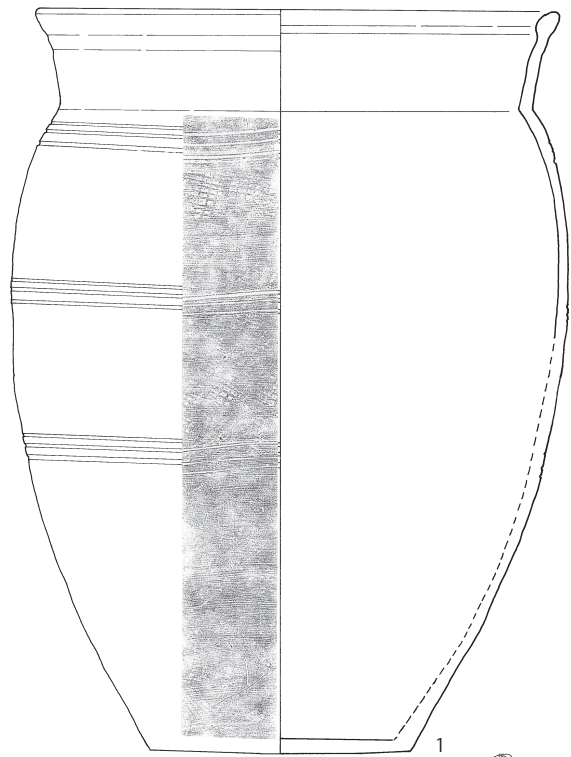
ST72



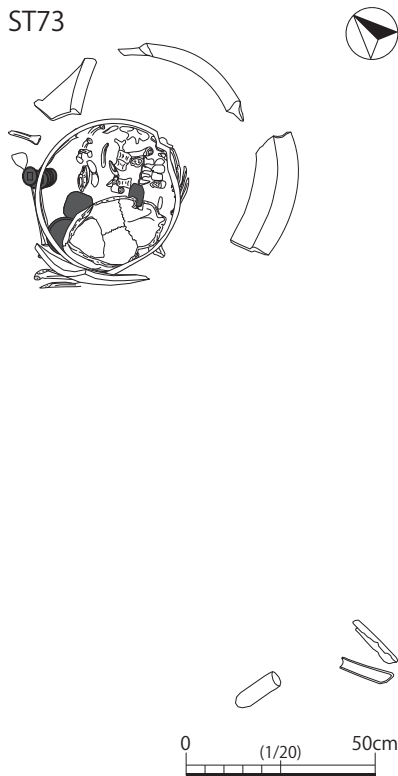
第71图 HZK1801地点甕棺墓 ST71出土遺物



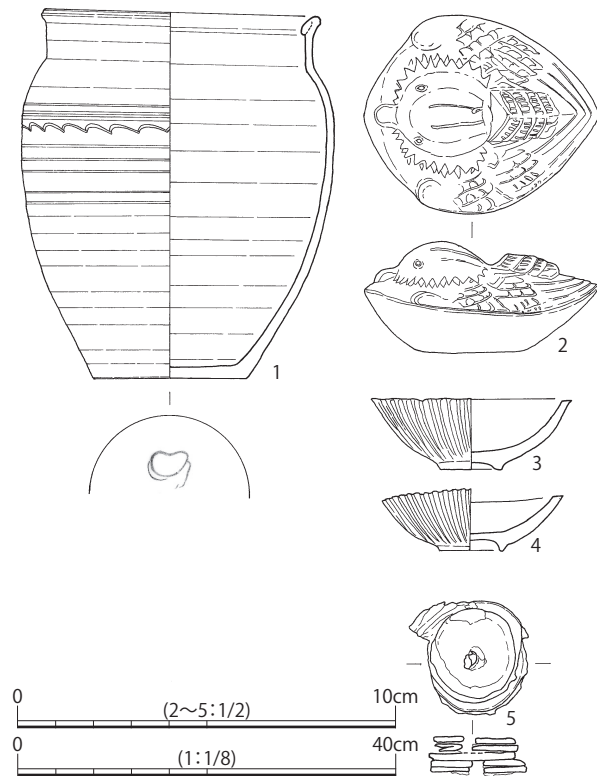
第72图 HZK1801地点甕棺墓 ST72平面图



第73图 HZK1801地点甕棺墓 ST72出土遺物



第74図 HZK1801地点甕棺墓 ST73平面図



第75図 HZK1801地点甕棺墓 ST73出土遺物

出土遺物（第73図） 1は陶器の甕棺で、口縁端部は内面に丸い粘土紐を貼り付けて作り、外面に段が付く。頸部の屈曲は明瞭で、肩部、胴部中央付近と胴部下半に3条ずつ沈線がめぐる。肩部の沈線下には格子状の調整を施す。18世紀から19世紀の所産である（東中川 2000）。2・3は陶器の茶碗である。いずれも外面に鉄絵で竹葉文を施す。4は鉄製の鉢の輪の部分に5枚の銭貨が錆着している。銭貨のうち、4枚は寛永通寶で、1枚は開元通寶である。棺内から土師器の坏や木片が出土したが、小片で図化し得ない。

甕棺墓 ST73（第74図） 墓坑のプランは確認できていない。甕棺の口縁部が周囲に散乱しており、棺蓋の存在は不明である。棺内から人骨が出土した。

出土遺物（第75図） 1は陶器の甕棺で、やや小形である。口縁部内面に粘土紐を貼り付け成形し、肩部から胴部上半にかけて、2～3条単位の沈線を施し、肩部と胴部上半の沈線の間には波状文を施す。底部外面に記号状の墨書を施す。18世紀から19世紀の所産である（東中川 2000）。2はおしどりの形をした鈴である。土師質の素焼きで、おしどりの羽の意匠が精緻である。3・4は白磁の紅皿である。5は銭貨で、銅銭などが5枚重なっている。上から2枚目が鉄銭であるほかは寛永通寶（新寛永）で5枚目は文銭である。他に木片が出土したが図化し得ない。

人骨出土地点 SX74（第76図） 人骨がまとまって出土したものの、墓との判定には到らない例である。

出土遺物（第77図） 1は石製の玉である。他に SX74の周辺から土師器片が出土したが図化に耐えない。

甕棺墓 ST75（第78図） 墓坑のプランは確認できていない。甕棺の口縁部は破損しており、棺内の1層下端に破片が重なっていることから、1層は甕棺の破損時以降に流入した土層である。2層は

人骨の小片が解剖学的位置と関係なく出土することから、改葬時に取りこぼした骨を含む層である。3層は最下層で6枚銹着した錢貨がこの層から出土した。

出土遺物（第79図）1は陶器の甕棺で、口縁内部の粘土紐はやや膨らみをもち、口縁外面にも段が付く。頸部の屈曲はゆるく、肩部と胴部中央に3条ずつ沈線がめぐる。18世紀から19世紀の所産である（東中川 2000）。2は陶器の播鉢である。逆L字状の口縁端部は丸く作り、内面全体にスリ溝を施す。3は銅錢で6枚銹着している。いずれも寛永通寶である。

甕棺墓 ST76（第80図）墓坑のプランは確認できていない。検出時には口縁部が破損しており、2層に甕棺の破片を含むことから、改葬後に破損した甕棺片が棺内に落ち込んだものである。棺内から人骨が出土した。

出土遺物（第81図）1は陶器の甕棺で、口縁部内側に粘土紐が付き、釉を拭き取る。頸部の屈曲がやや弱い。肩部と胴部中央付近に沈線が2条ずつめぐる。胴部下半には沈線が3条めぐる。18世紀から19世紀の所産である（東中川 2000）。2は錢貨で、寛永通寶である。

甕棺片出土集中部 SX77（第82図）長軸72cm、短軸52cmの範囲から割れた甕棺と石が検出された。

出土遺物（第83図）1は陶器の甕棺で、口縁端部は肥厚してやや角張っており、外面にも段が付く。頸部の屈曲はゆるいが、頸部と肩部の境に沈線を1条めぐらせる。肩部に2条と胴部中央付近に3条の沈線を施す。18世紀から19世紀の所産（東中川 2000）。2・3は糸切り底の土師皿である。4は木製の櫛で、刻歯式の横櫛である。5は断面四角形の鉄釘で、頂部を折り曲げる。6は錢貨で、2枚重なっている。

甕棺墓 ST78（第84図）墓坑のプランは確認できていない。検出時には口縁部が破損しており、改葬が行われている。棺内から人骨が出土した。

出土遺物（第85図）1・2は陶器の甕棺である。1は口縁部内側に粘土紐を帯状に貼り付け、端部を丸く仕上げる。頸部の屈曲はややゆるい。頸部のくびれに沈線状の段が付き、肩部と胴部中央に2条、胴部下半に3条の沈線がめぐる。18世紀から19世紀の所産である（東中川 2000）。2は口縁端部を丸く作り、頸部の屈曲はゆるい。頸部から胴部上半にかけて沈線で連弧文を施す。18世紀から19世紀の所産（東中川 2000）。3は染付の茶碗で、外面に草花文を施す。

甕棺集中地点 SX79（第86図）割れた甕棺の口縁部片が散らばる。周辺から土師器の坏の他、レンガ片やスレートが出土した。

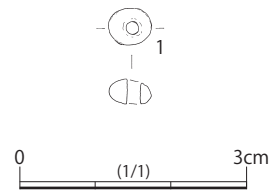
SX74



方位・縮尺不明

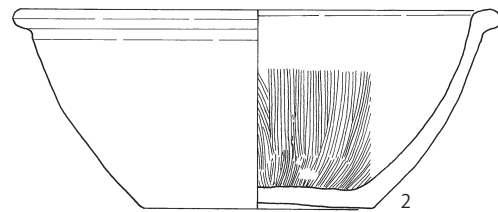
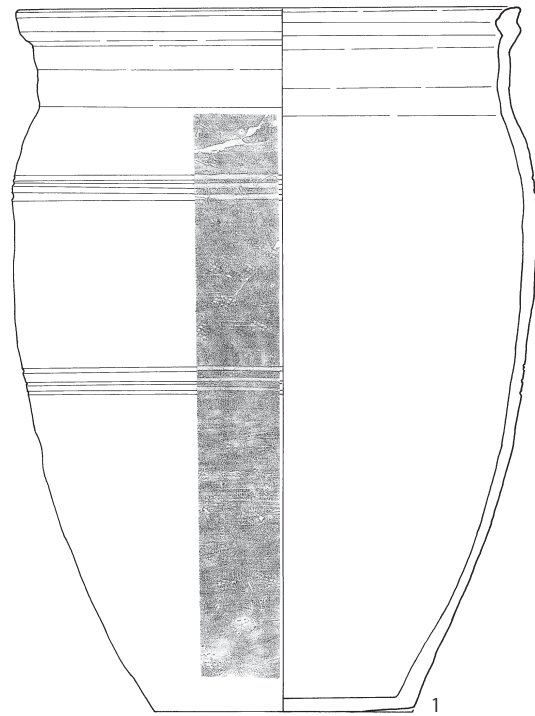
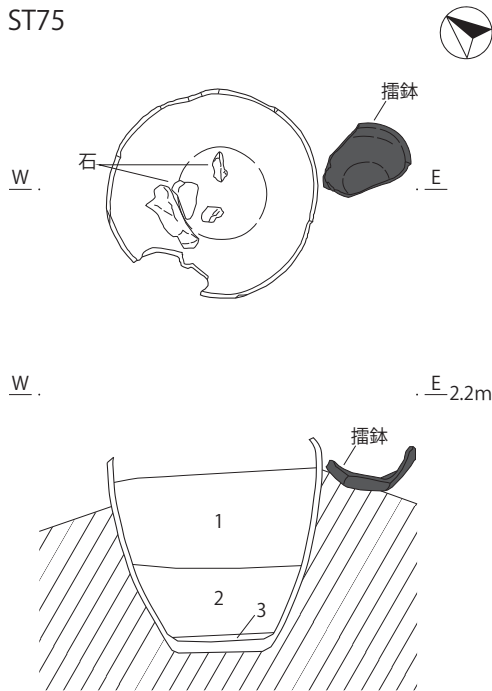


第76図 HZK1801地点人骨出土地点 SX74平面図

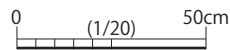


第77図 HZK1801地点人骨出土地点 SX74出土遺物

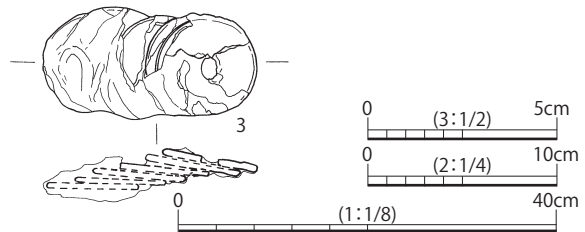
ST75



- 1 10YR4/3 にぶい黄褐、しまり弱い、粘性なし、1層
下端に甕棺片が重なっておりその上に入った新しい
土であることがわかる
- 2 2.5YR6/4 にぶい黄、しまり弱い、粘性弱い、小骨片
群が解剖学的な位置にない状態でバラバラ出てくる
- 3 7.5YR3/2 黒褐、しまり弱い、粘性ぶつう、水分を含
む、六道銭がこの層から出土している



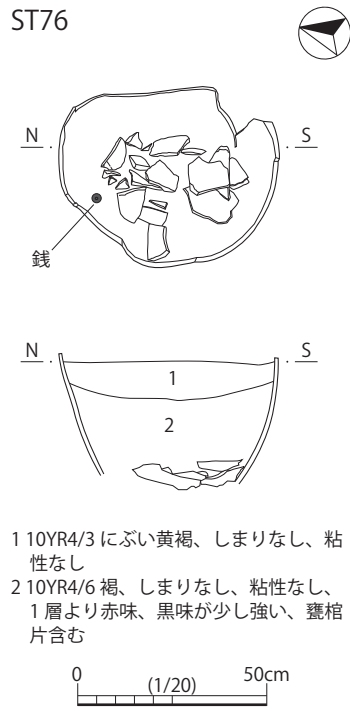
第78図 HZK1801地点
甕棺墓 ST75平面・断面図



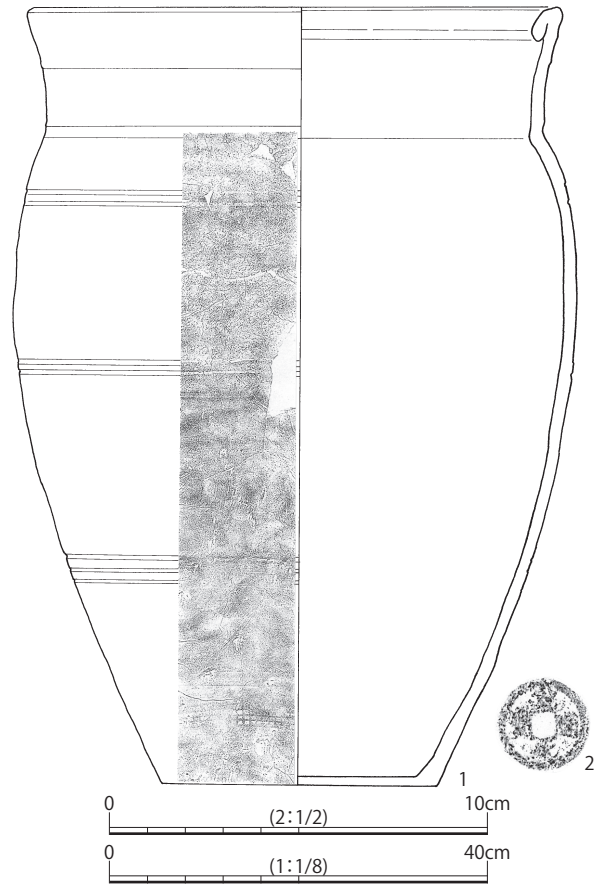
第79図 HZK1801地点甕棺墓 ST75出土遺物

出土遺物（第87図） 1～5は陶器の甕棺で、1・3は口縁内面に粘土紐を貼り付けて、口縁端部全体を丸く作る。肩部から胴部中央にかけて沈線が1は6条、3は5条めぐる。2は上半部を欠損する。内外面ともロクロ成形時の工具痕が残る。4は口縁端部内面に丸い粘土紐を貼り付けて作り、外面に段が付く。頸部の屈曲は明瞭で、口縁部内面と頸部外面は釉を拭き取る。肩部に2条、胴部下半に4条の沈線がめぐる。胴部外面にはタタキの痕跡が残る。5は口縁内側に帯状の粘土紐を貼り付ける。粘土紐の下端部の貼り付けは弱い。肩部に4条、胴部中央付近に3条の沈線がめぐる。甕棺はいずれも18世紀から19世紀の所産である（東中川 2000）。

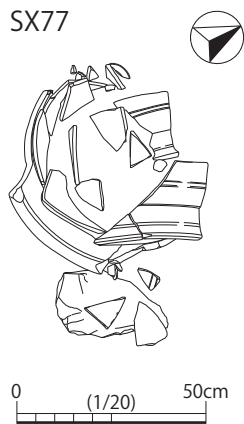
甕棺墓 ST80（第88図） 墓坑のプランは確認できていない。棺内からは人骨は出土せず、棺底から銭貨が出土していることから、改葬を受けていると判断した。



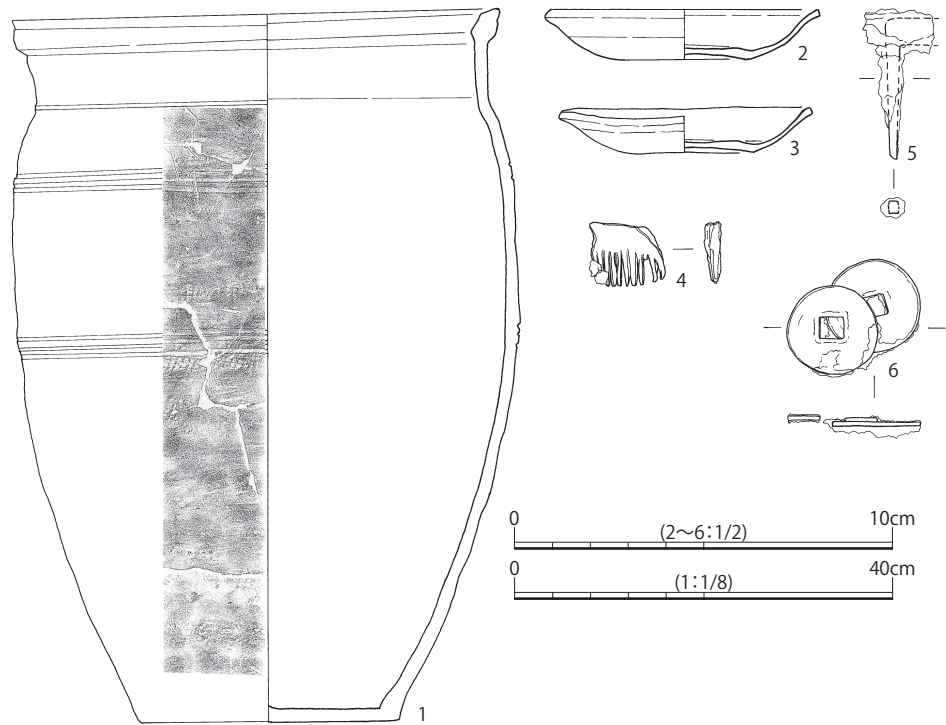
第80図 HZK1801地点
甕棺墓 ST76平面・断面図



第81図 HZK1801地点甕棺墓 ST76出土遺物

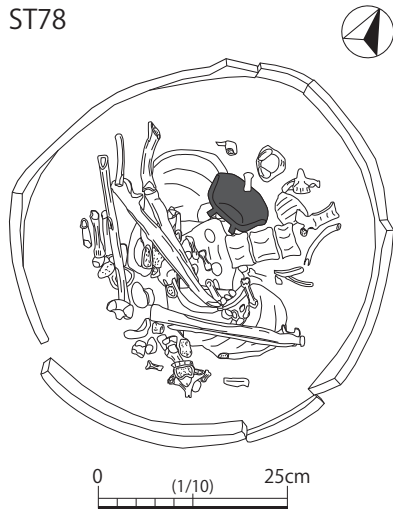


第82図 HZK1801地点
甕棺片出土集中部 SX77平面図



第83図 HZK1801地点甕棺片出土集中部 SX77出土遺物

ST78

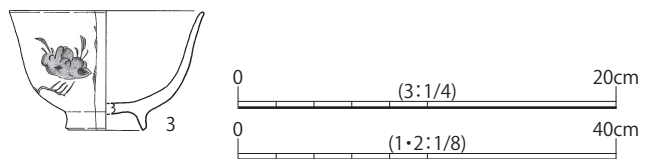
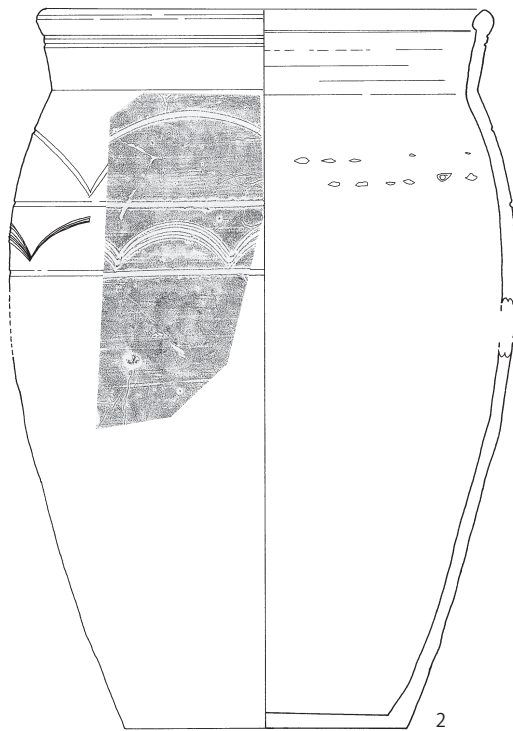
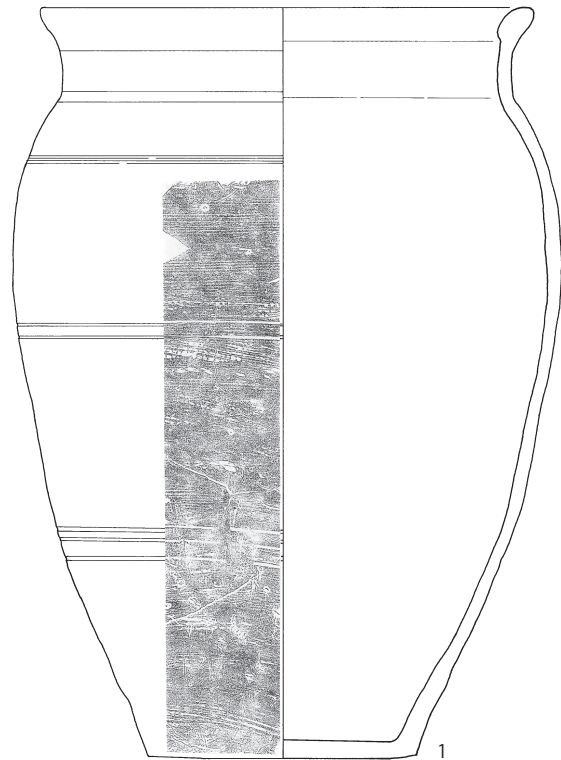


第84図 HZK1801地点
甕棺墓 ST78平面図

出土遺物（第89図） 1は陶器の甕棺である。口縁部に粘土紐を付けて楕円形に仕上げ上げる。頸部の屈曲はゆるい。肩部と胴部中央付近に2条、胴部下半に4条の沈線がめぐり、胴部中央付近と底部の内面に格子状のタタキを施す。底部外面にメアトが7箇所付く。18世紀から19世紀の所産（東中川 2000）。2は銭貨であるが、鑄出しが悪く文字は判然としない。周辺から土師皿や近代の染付片が出土したが、小片で図化し得ない。

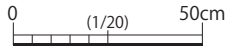
甕棺墓 ST81（第90図） 墓坑のプランは確認できていない。検出時は口縁部が大きく破損しており、棺蓋の存在は不明である。棺内から人骨が出土した。

出土遺物（第91図） 1は陶器の甕棺で、口縁部内側に粘土紐を帯状に貼り付け、端部を丸く仕上げ上げる。頸部の屈曲はややゆるい。肩部と胴部中央付近に3条ずつ、胴部下半に4条の沈線がめぐり、底部外面にメアトが付く。18世紀から19世紀の所産である（東中川 2000）。2は木製の玉で、断面は扁平である。3は七星板である。スギの追柂目板を八角形に加工し、8箇所穿孔する。4・5は同一個体のキセルで4が雁首、

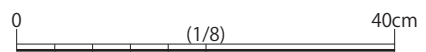
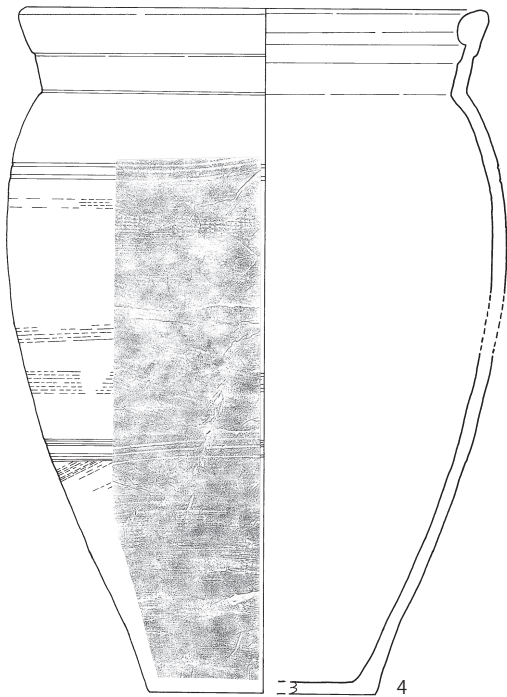
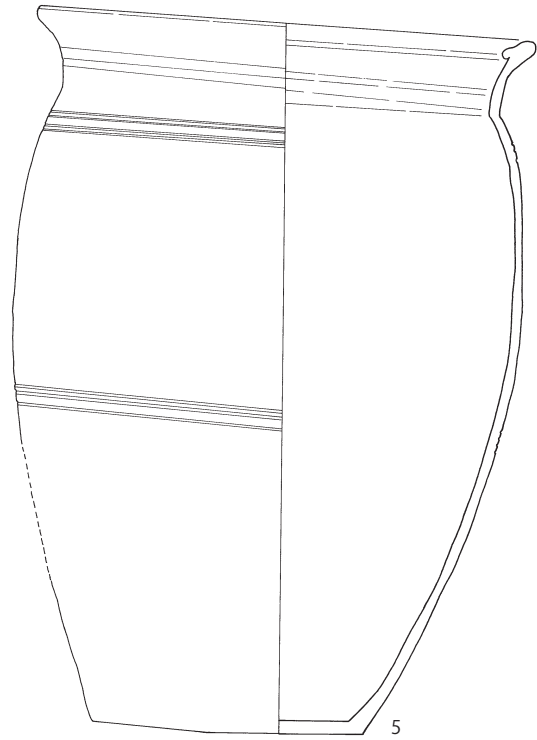
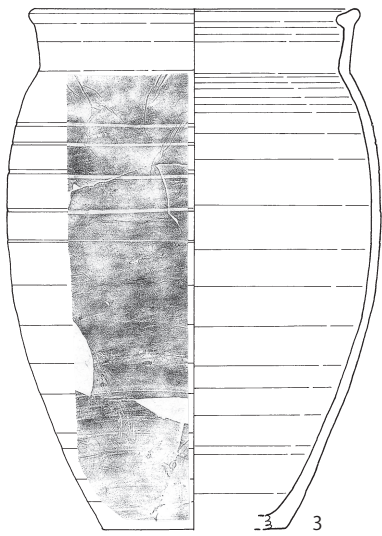
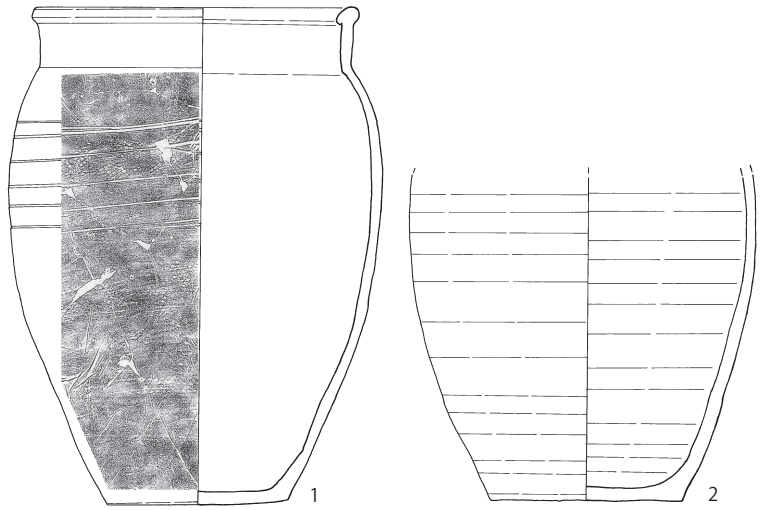


第85図 HZK1801地点甕棺墓 ST78出土遺物

SX79



第86図 HZK1801地点
甕棺集中地点 SX79平面図



第87図 HZK1801地点甕棺集中地点 SX79出土遺物

5が吸い口である。6は鉄製の鋏に毛抜が錆着したものである。いずれも先端側半分を欠損する。7は銭貨で3枚重なっている。いずれも寛永通寶である。8は断面四角形の鉄釘である。9は棺外から出土した朝鮮通寶である。他に木片が出土した。

甕棺集中地点 SX82（第92図） 74cm×74cm の範囲から割れた甕棺片が出土した。改葬の際に不要になった甕棺を割って廃棄した土坑の底面部分にあたるものと推測される。

出土遺物（第93図） 1は陶器の甕棺で、胴部より下半を欠損する。口縁部に粘土紐を貼り付けて楕円形に仕上げる。頸部の屈曲はゆるく、肩部に2条の沈線がめぐる。18世紀から19世紀の所産（東中川 2000）。2は断面四角形の鉄釘である。他に土師器片が出土したが、図化に耐えない。

土坑墓 ST83（第94図） 40cm×40cm の範囲から人骨と遺物が出土した。人骨の出土状況から土坑墓である。

出土遺物（第95図） 1～3は糸切り底の土師皿である。4～6は鉄製の毛抜である。5・6は同一個体である。4も5・6と同一の可能性が高い。7は銭貨で6枚重なっている。いずれも寛永通寶で文銭を含む。

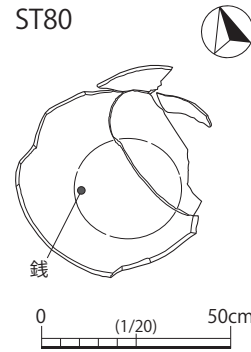
人骨出土地点 SX84（第96図） 人骨がまとまるものの、墓との判定には到らないものである。長軸36cm、短軸22cm の範囲から人骨が出土している。中世から近代までの陶磁器片が出土したが、図化し得ない。

性格不明遺構 SX85（第97図） 長軸128cm、短軸118cm の範囲から墓石の残欠、甕棺片が出土した。まとまりに欠け、坑にまとめて捨てるなどの行為の結果には見えない。

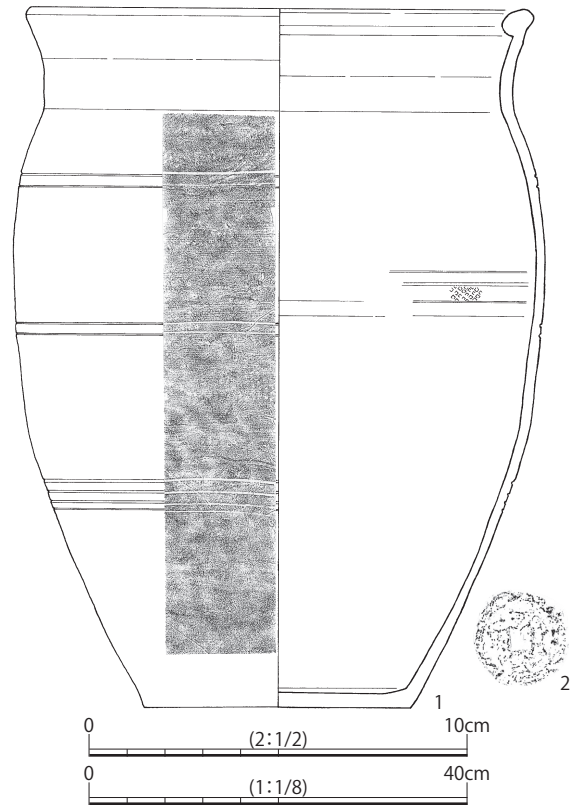
出土遺物（第98図） 1は陶器の甕棺で、胴部より下半を欠損する。口縁端部は内面に丸い粘土紐を貼り付けて作り、外面に浅い段が付く。頸部の屈曲はゆるく、口縁部内面は釉を拭き取る。18世紀から19世紀の所産である（東中川 2000）。他に土師器片が出土したが、図化に耐えない。

甕棺墓 ST86（第99図） 墓坑のプランは確認できていない。検出時は口縁部が大きく破損しており、棺蓋の存在は不明である。棺内から人骨が出土した。

出土遺物（第100図） 1は陶器の甕棺で、口縁部内面に粘土紐を貼り付け、口縁部下外面に沈線が2条めぐる。頸部の屈曲は弱く肩部との境を強くナデる。肩部には「司」の刻印がある。胴部は丸みを持つ。いずれも18世紀から19世紀の所産である（東中川 2000）。2・3は糸切り底の土師皿である。4は鉄製の毛抜である。端部を欠損する。5は鉛製と思われる玉である。白化が激しい。6・7は銭



第88図 HZK1801地点甕棺墓 ST80平面図



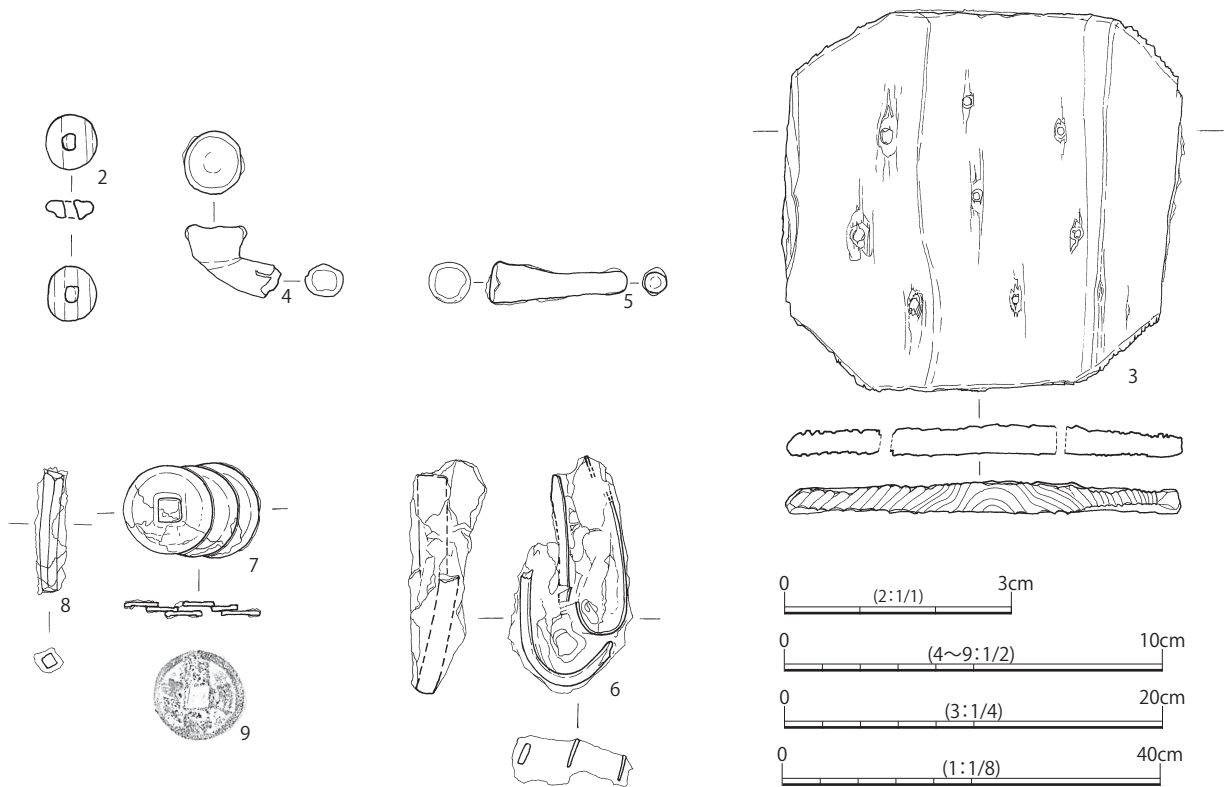
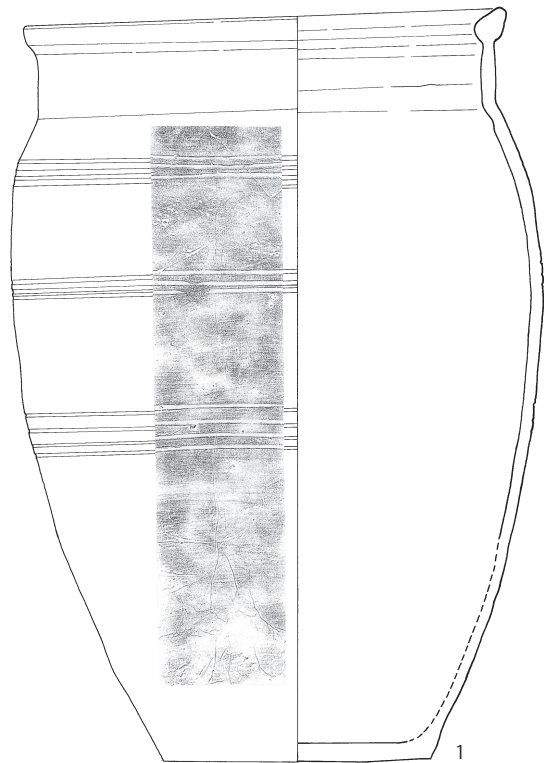
第89図 HZK1801地点甕棺墓 ST80出土遺物

ST81

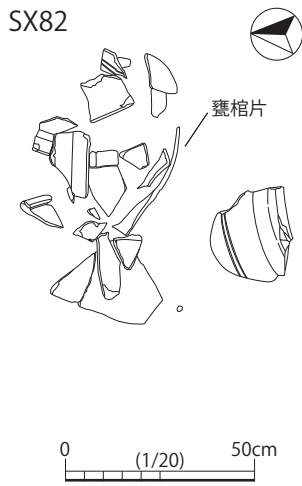


0 (1/10) 25cm

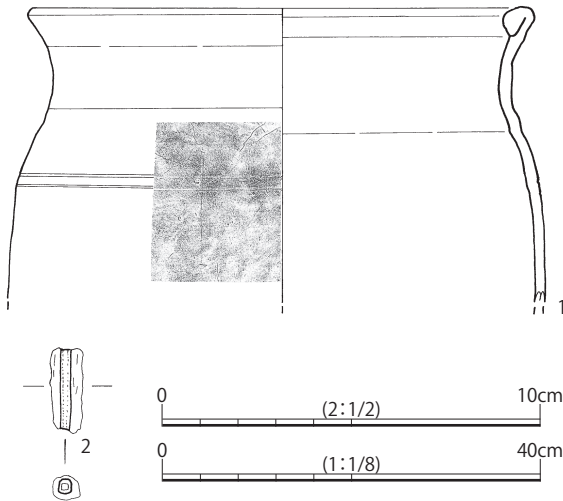
第90図 HZK1801地点甕棺墓 ST81平面図



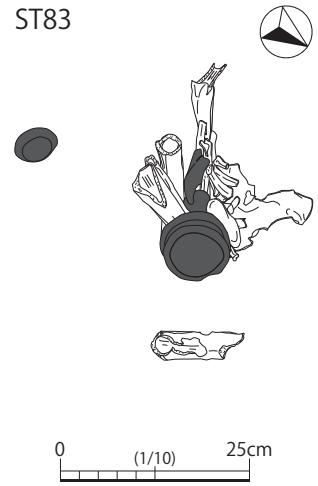
第91図 HZK1801地点甕棺墓 ST81出土遺物



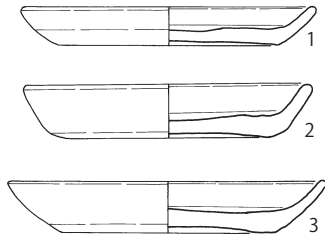
第92図 HZK1801地点
甕棺集中地点 SX82平面図



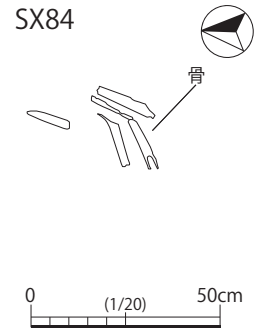
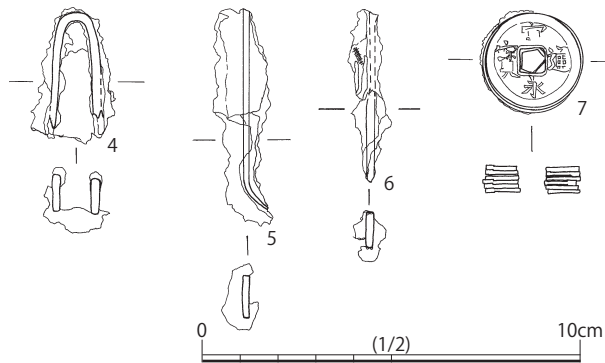
第93図 HZK1801地点
甕棺集中地点 SX82出土遺物



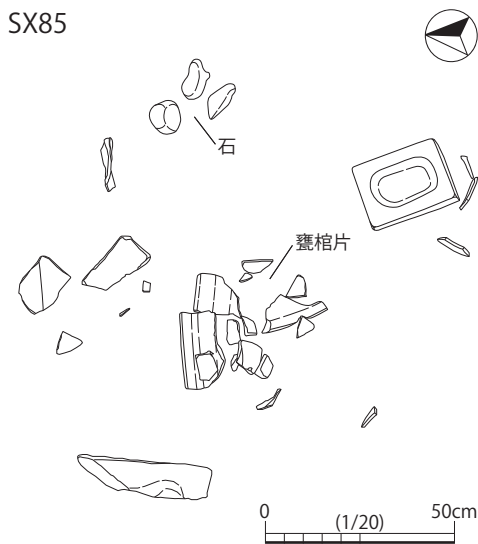
第94図 HZK1801地点
土坑墓 ST83平面図



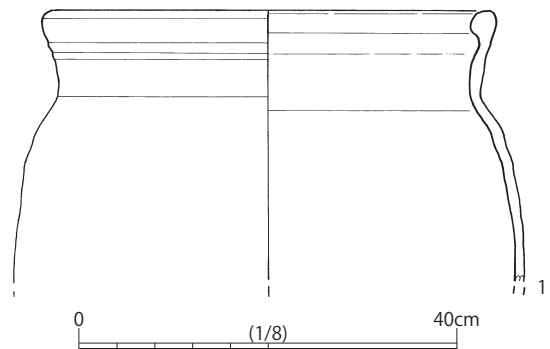
第95図 HZK1801地点土坑墓 ST83出土遺物



第96図 HZK1801地点
人骨出土地点 SX84平面図



第97図 HZK1801地点性格不明遺構 SX85平面図



第98図 HZK1801地点性格不明遺構 SX85出土遺物

貨である。8~10は木製のサイコロである。いずれもサイズや作りが似ている。11はガラス板で表側の縁部を四辺とも面取りする。12は銅製の金具である。長方形の板状金具の両側に厚みのある六角形の金具を取り付けた組み合わせの金具である。六角形の金具は孔の部分に別の細带状の金具を通して、

長方形の板状金具に固定する。金具の表面に布の痕跡が残っていることから、布あるいは革などの有機質のパーツを組み合わせた煙草入れであった可能性が高く、三重県浄土近世墓地（小山 2006）、埼玉県久喜市栗橋宿跡（村山 2022・2023）に類例がある。13は織物の布地である。12の金具と組み合わせる可能性がある。14・15はキセルである。14は火皿から吸い口まで一体の銅製である。15は雁首と吸い口は銅製で、間を竹製の羅宇でつなぐ。16は樹皮である。刃物などで筋を入れて折り目を付けている。土師器の坏・皿のほか、染付片と棺蓋か棺底に敷くための加工板材と思われる木片が出土したが、図化し得ない。

甕棺墓 ST87（第101図） 墓坑のプランは確認できていない。小形の甕棺で破損はみられないが、棺蓋の存在は不明である。棺内から人骨が出土した。

出土遺物（第102図） 1は陶器の甕棺で、口縁内面に粘土紐を貼り付けて、口縁端部全体を丸く作る。頸部は強く屈曲し、外面の釉を拭き取る。肩部に連弧文を施し、その下から胴部中央にかけて沈線が5条めぐり。2～5は断面四角形の鉄釘である。6・7は糸切り底の土師皿である。8は銭貨で、大観通寶と思われる。

甕棺墓 ST88・ST111・木棺墓 ST119（第103図） 木棺墓 ST119が先行し、甕棺墓 ST88が切る。ST88は甕棺の下半分のみ遺存した。ST88のすぐ脇から人骨片、銕金具や針葉樹の板材が出土している。ST88を設置する際に木棺墓 ST119が破壊されたため、このような出土状況になったものであろう。甕棺墓 ST111は ST88の西側から割れた状態で検出されている。改葬時に割られたものとみられ、整理作業により接合した。なお、割れた甕棺の下方から板材が検出されており、これは ST111に先行して木棺墓 ST119が存在した可能性を示す。人骨のほか、銕金具や釘、銭貨が出土しているが、これらも木棺墓 ST119の遺物である。

出土遺物（第104・105図） 第104図 1～3は ST88出土である。1は陶器の甕棺で、口縁部内側に粘土紐を丸く貼り付ける。肩部と胴部上半に連弧文と沈線が1条ずつめぐり。18世紀から19世紀の所産（東中川 2000）。2・3は糸切り底の土師皿である。

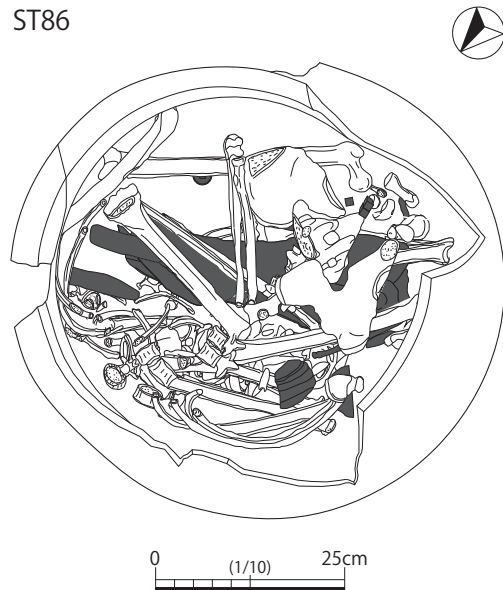
第104図 4～7は ST111出土である。4は棺材と考えられる板材に銕金具が2個付いている。板材は乾燥時の変形や腐食で正確な形状は不明であるが、表面に金銅製の金具が銅製の釘で固定されており、一つは花菱形、もう一つは菊花形である。5・6は断面四角形の鉄釘である。7は銭貨で、寛永通寶である。

第105図は ST119出土である。1は糸切り底の土師皿である。2は棒状の鉄製品である。断面は円形を呈し、全体の形状は少し反る。3は長方形の銕金具で、小さな釘で固定する。針葉樹の柁目板材に固定している。4は銭貨である。6枚重なっており、表面に付着物がある。いずれも寛永通寶である。他に青磁碗が出土したが、小片で図化に耐えない。

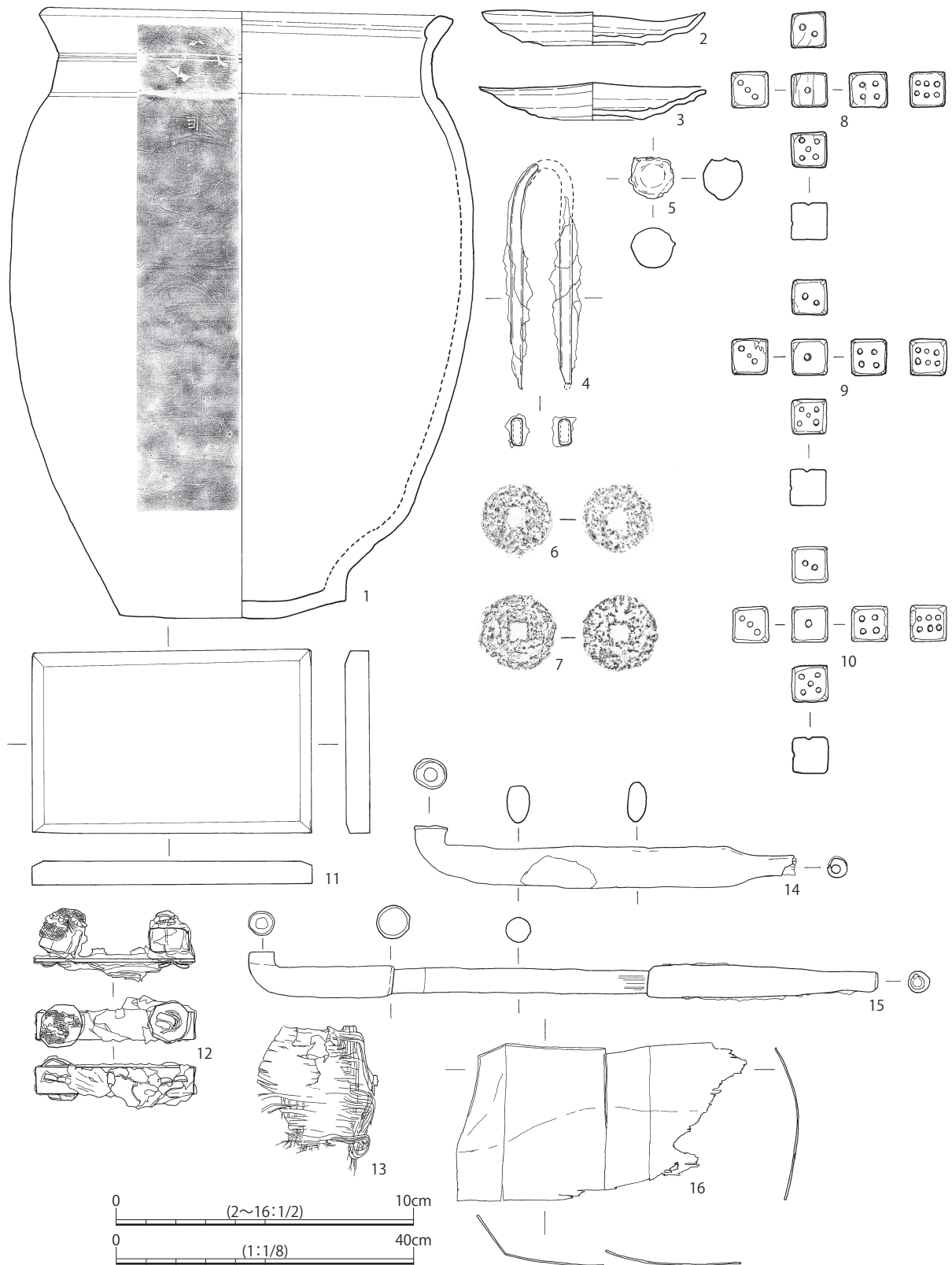
甕棺墓 ST89（第106図） 墓坑のプランは確認できていない。削平を受けており、検出時には大きく破損していた。蓋石は横にズレた位置で検出されている。棺内から人骨が出土した。

出土遺物（第107図） 1は陶器の甕棺で、口縁部内側に粘土紐を貼り付けてやや丸く仕上げる。頸

ST86

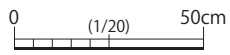


第99図 HZK1801地点甕棺墓 ST86平面図



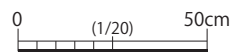
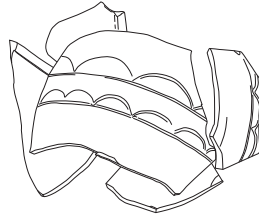
第100図 HZK1801地点甕棺墓 ST86出土遺物

ST87



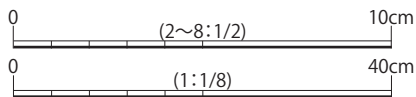
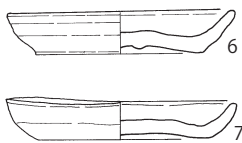
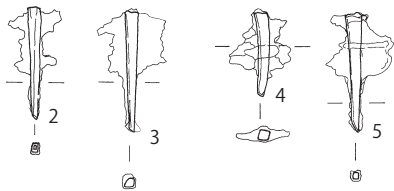
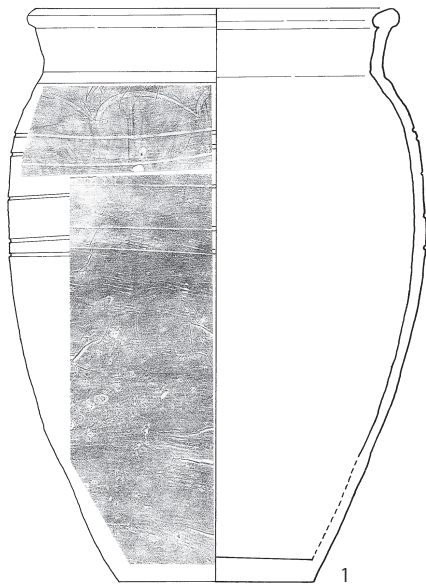
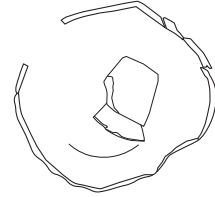
第101図 HZK1801地点
甕棺墓 ST87平面図

ST111

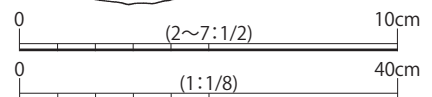
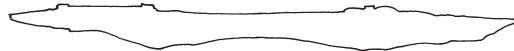
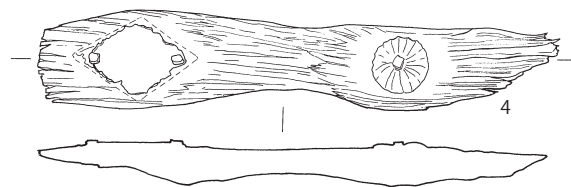
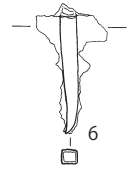
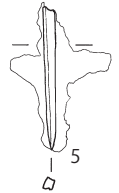
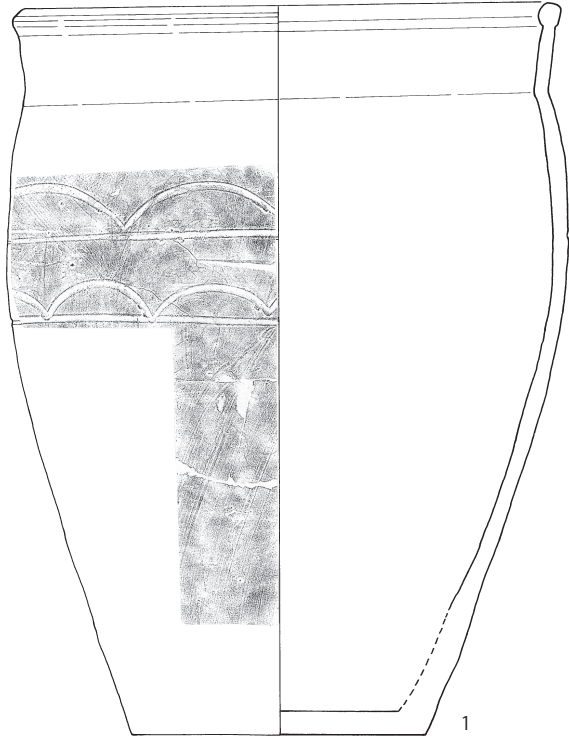


第103図 HZK1801地点甕棺墓 ST88・111平面図

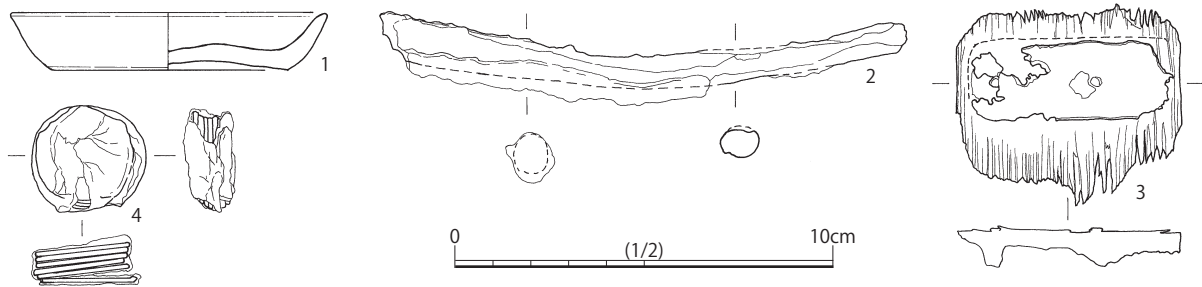
ST88



第102図 HZK1801地点甕棺墓 ST87出土遺物



第104図 HZK1801地点甕棺墓 ST88・111出土遺物



第105図 HZK1801地点木棺墓 ST119出土遺物

部はゆるく屈曲する。底部外面に墨書がみられる。18世紀から19世紀の所産である（東中川 2000）。2～4は糸切り底の土師皿である。5～7は鋳金具で、5・6は金具を付けた板材が残る。いずれも板の厚みが最大10mmほどで、同じ木箱などに取り付けられた一連の金具である。5～7とも金銅製の長方形の薄い板状金具を銅製の釘で固定している。8は鉄製の毛抜の輪の部分である。9・10は断面四角形の鉄釘で、先端部が曲がる。11・12は同一個体のキセルで、11が雁首、12が吸い口である。いずれも羅字の一部が残存する。13は銭貨で6枚重なっている。いずれも寛永通寶である。

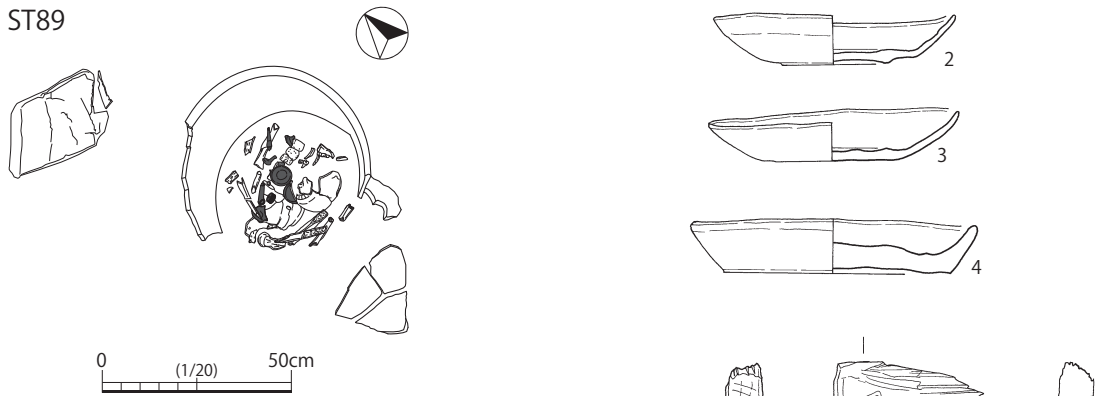
甕棺墓 ST90（第108図） 墓坑のプランは確認できていない。甕棺の内部から石が2点と加工板材の一部と木の節が出土しており、棺蓋の腐朽とともに、蓋を押さえていた石が甕棺内部に落ち込んだものと考えられる。棺内から人骨が出土した。

出土遺物（第109図） 1は陶器の甕棺で、口縁内面に粘土紐を貼り付けて、口縁端部全体を丸く作る。肩部と胴部下半に螺旋状に4条の沈線がめぐる。18世紀から19世紀の所産である（東中川 2000）。2・3は糸切り底の土師皿である。4は糸切り底の土師器の坏である。5・6は蓋付きの木製の火入れである。6は木材を削り抜いた身の胴部に鉄製の金具を差し込んでいる。金具に紐などを通して煙草入れなど他の喫煙具と結び付けたと考えられる。中には炭化物が残存していた。5の蓋にも鉄製の金具が付いており、ここも紐を通すことができるようになっている。7は扇である。先端部は欠損するが両方の親骨と要が残存している。8は七星板である。桶の側板を再利用しているため、桶としての使用時の加工痕が残る。柁目板で、中央付近に8個の孔を配する。孔は7個が貫通している。9は鉄製の火打ち金である。10・11は同一個体のキセルで10が雁首、11が吸い口である。いずれも羅字の一部が残存する。12・13は銭貨である。12は6枚重なっており、いずれも寛永通寶で、一番上は文銭である。13も寛永通寶である。他に加工板の節の部分と思われる木片や、棺蓋か棺底に敷くための板材が出土した。

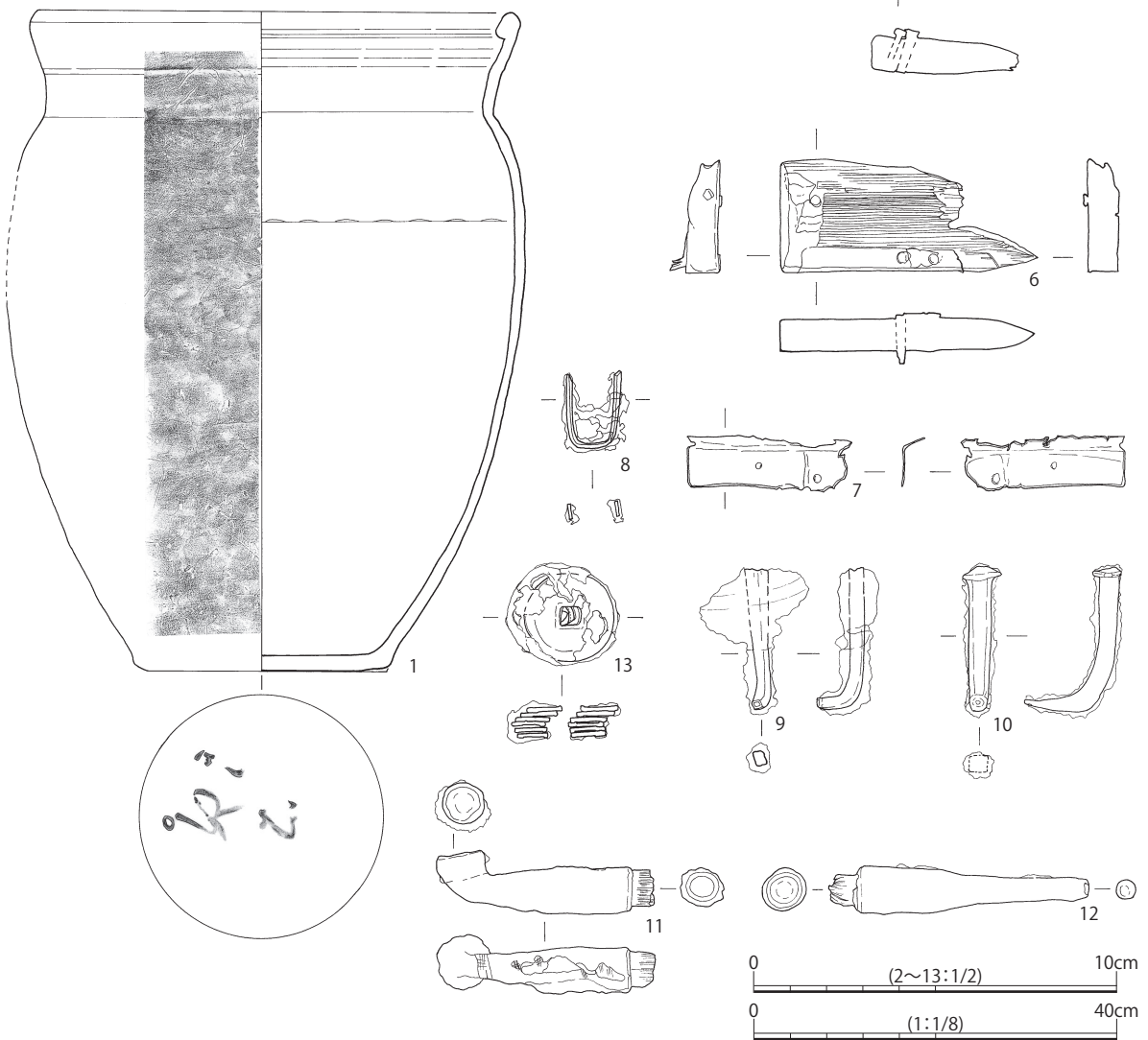
甕棺墓 ST91（第110図） 墓坑のプランは確認できていない。甕棺の口縁部に平らな石がのっており、棺蓋を押さえるための石と考えられる。棺内から人骨が出土した。

出土遺物（第111図） 1は陶器の甕棺で、口縁端部内側を丸く作り、頸部の屈曲はややゆるい。肩部と胴部中央付近に1条ずつ連弧文と沈線を施す。18世紀から19世紀の所産である（東中川 2000）。2・3は糸切り底の土師皿である。4は鉄製の火打ち金である。5～11は断面四角形の鉄釘である。12は鉄製の毛抜で、表面に櫛と思われる木質が付着する。13は鉄製の鋏である。14・15は同一個体のキセルで14が雁首、15が吸い口である。いずれも羅字の一部が残存する。16・17は銭貨である。16は2枚重なっており、表面に布が付着する。どちらも寛永通寶で一番上は文銭である。17は5枚重なっており、裏面に櫛状の痕跡が残る。一番上は寛永通寶で、2・3枚目は鉄銭である。4・5枚目も寛永通寶である。

ST89



第106図 HZK1801地点甕棺墓 ST89平面図



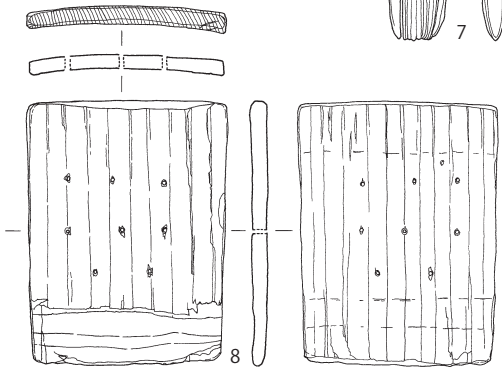
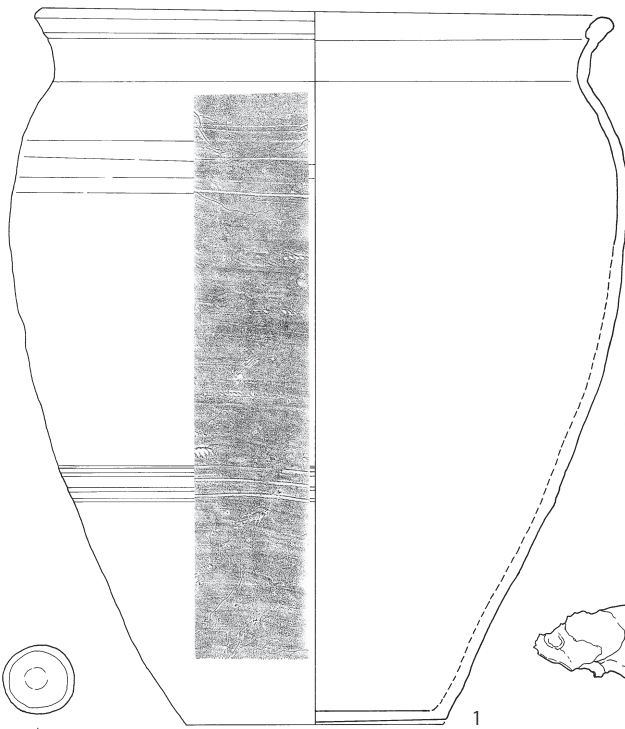
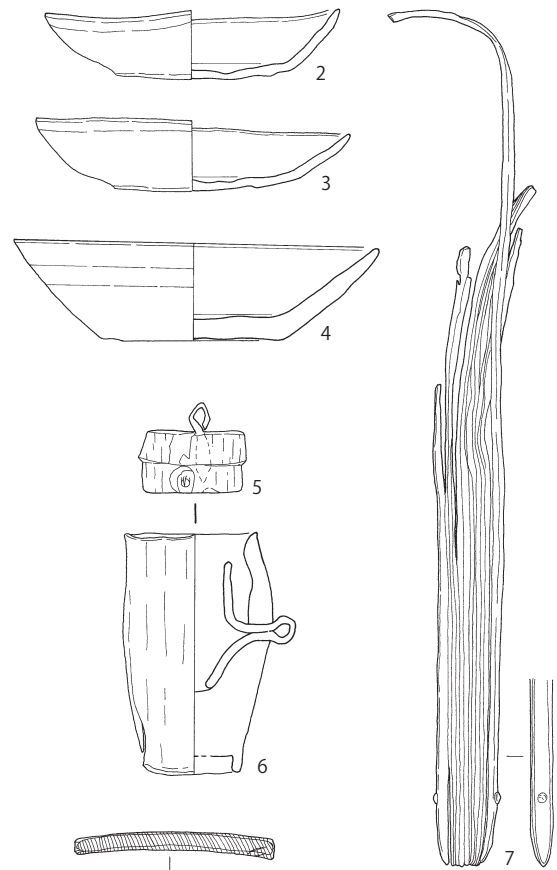
第107図 HZK1801地点甕棺墓 ST89出土遺物

ST90

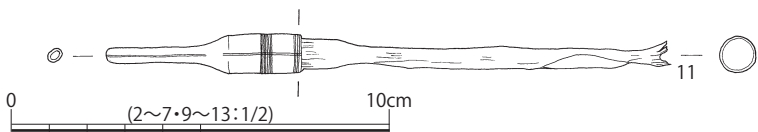
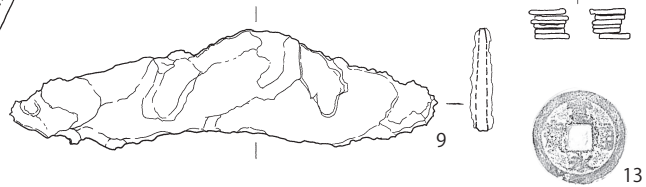
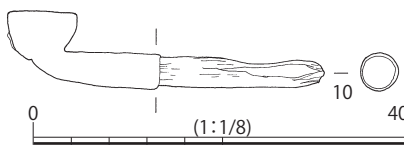


0 (1/10) 25cm

第108図 HZK1801地点
甕棺墓 ST90平面図

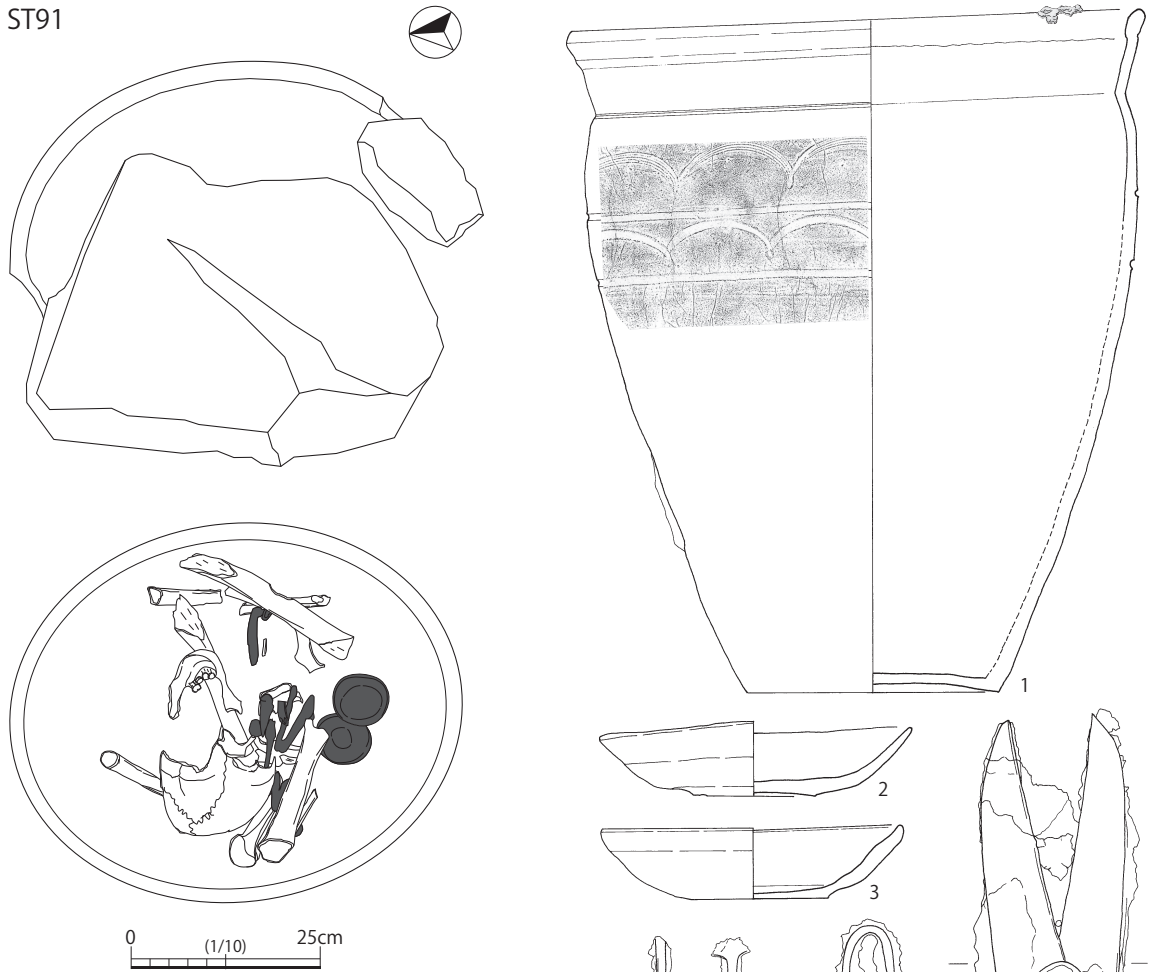


0 (8:1/4) 20cm

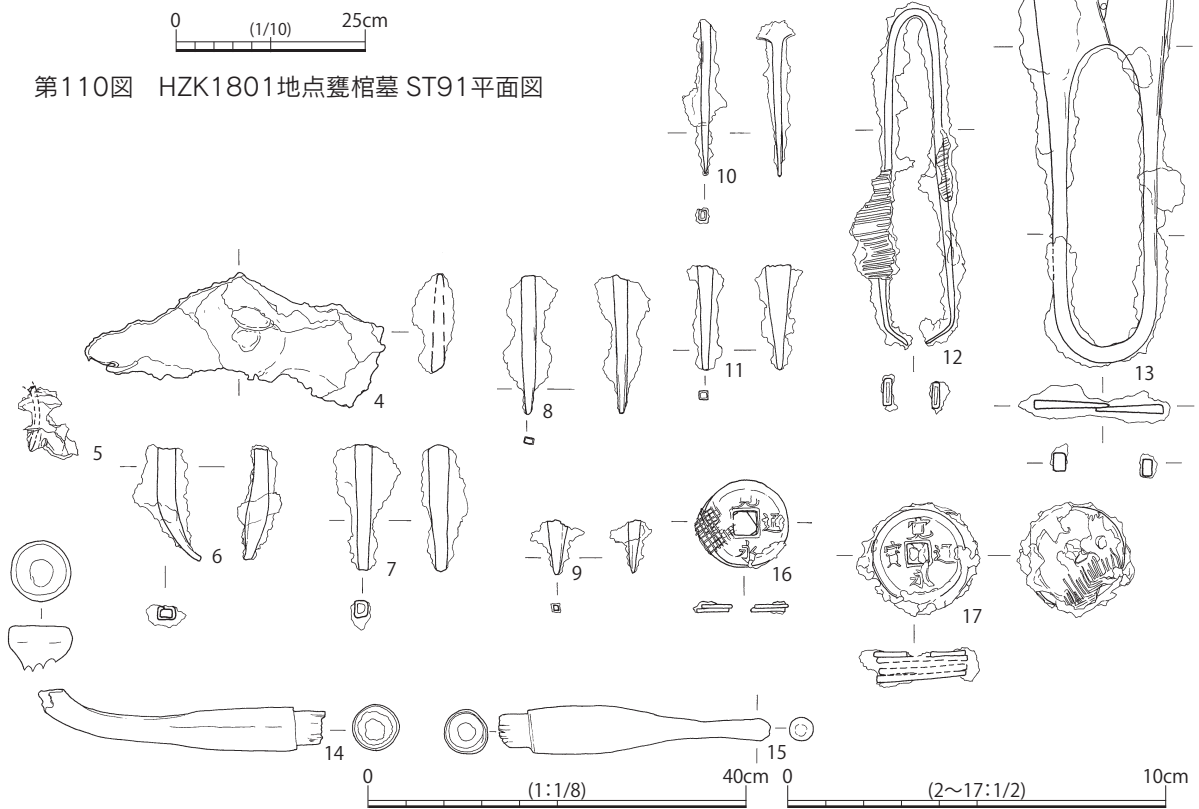


第109図 HZK1801地点甕棺墓 ST90出土遺物

ST91



第110図 HZK1801地点甕棺墓 ST91平面図



第111図 HZK1801地点甕棺墓 ST91出土遺物

甕棺墓 ST92（第112図） 墓坑のプランは確認できていない。検出時は甕棺の口縁部が破損しており、棺蓋の存在は不明である。改葬を受けた可能性がある。棺内から人骨が出土した。

出土遺物（第113図） 1は陶器の甕棺で、口縁端部は内面に丸い粘土紐を貼り付けて作り、外面の段は不明瞭である。頸部の屈曲は明瞭で、口縁部内面と頸部外面は釉を拭き取る。肩部に2条、胴部下半に螺旋状に4条の沈線がめぐる。18世紀から19世紀の所産である（東中川 2000）。2は糸切り底の土師皿である。3は鉄釘であるが、断面や釘頭が丸く近代以降の所産である。他にレンガ片、加工板材が出土したが図化し得ない。

甕棺墓 ST93（第114図） 甕棺の口縁部に平らな石がのっており、加工板の節と思われる木片も出土していることから、棺蓋を押さえるための石と考えられる。棺内から人骨が出土した。

出土遺物（第115図） 1は陶器の甕棺で、口縁端部は内面に丸い粘土紐を貼り付けて作り、外面の段は不明瞭である。頸部の屈曲は明瞭で、口縁部内面と頸部外面は釉を拭き取る。肩部に3条、胴部下半に3条の沈線がめぐる。18世紀から19世紀の所産である（東中川 2000）。2は糸切り底の土師皿である。3・4は同一個体のキセルで3が雁首、4が吸い口である。いずれも羅字の一部が残存する。5は石製品で、環状に加工している。6は銭貨で2枚が鏽着している。いずれも寛永通寶である。他に加工板の節と思われる木片が出土した。

土坑墓 ST94（第116図） 長軸40cm、短軸33cmの範囲から人骨と土師皿が出土した。

出土遺物（第117図） 1・2は土師器の坏である。3は鉄製の鋏、4は鉄製の毛抜で、いずれも櫛と思われる木質が付くことから、本来は3・4が鏽着していたと思われる。5は青銅製品である。用途は不明。6は銭貨が6枚重なったもので、一番上は寛永通寶である。

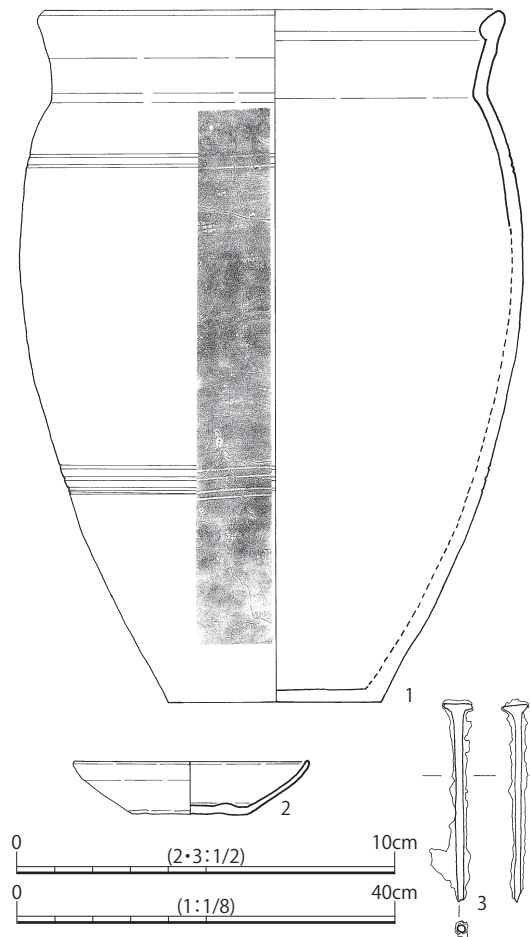
甕棺墓 ST95（第118図） 墓坑のプランは確認できていない。検出時は甕棺の口縁の一部が破損しており、棺蓋の存在は不明である。棺内から人骨が出土した。

出土遺物（第119図） 1は陶器の甕棺で、口縁内側に粘土紐を貼り付ける。粘土紐の下端部の貼り付けは弱い。肩部に波状文を施し、その下から胴部中央付近にかけて6条の沈線が螺旋状にめぐる。

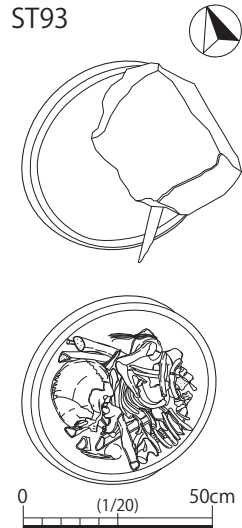
ST92



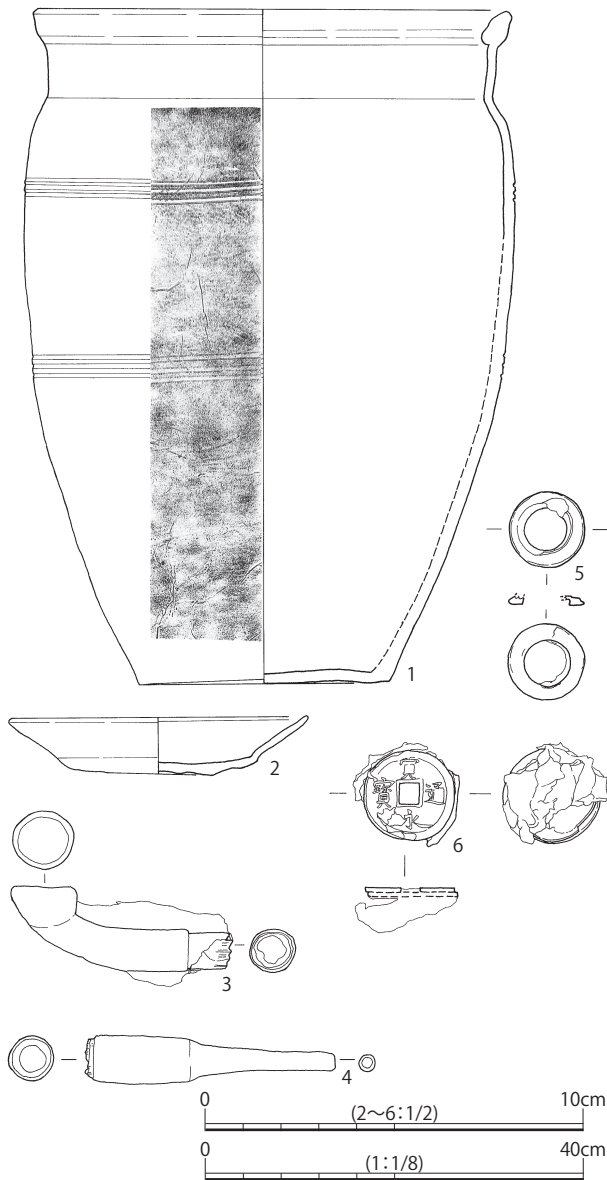
第112図 HZK1801地点甕棺墓 ST92平面図



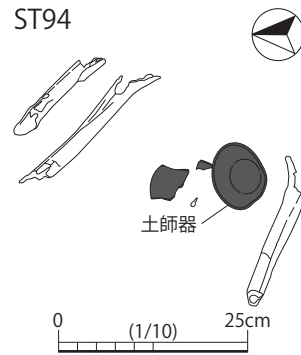
第113図 HZK1801地点甕棺墓 ST92出土遺物



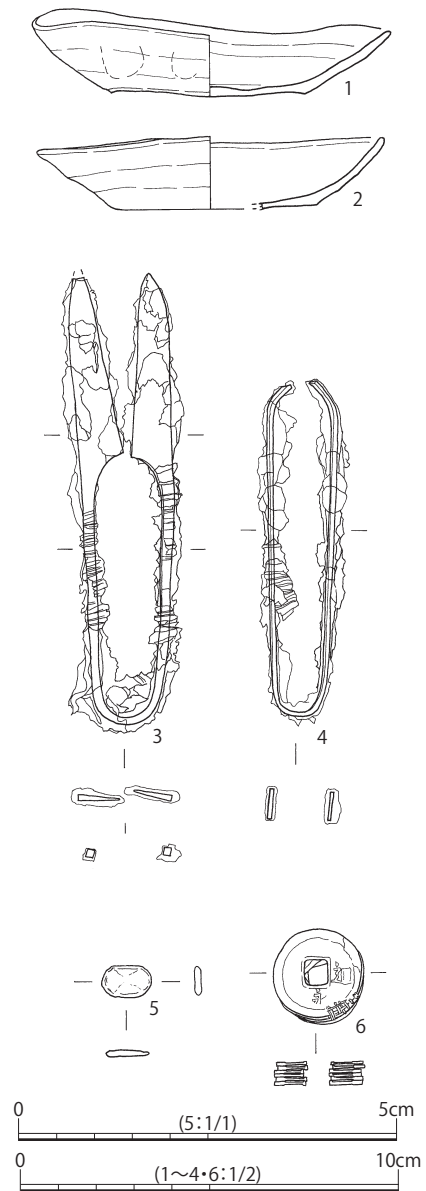
第114図 HZK1801地点甕棺墓 ST93平面図



第115図 HZK1801地点甕棺墓 ST93出土遺物

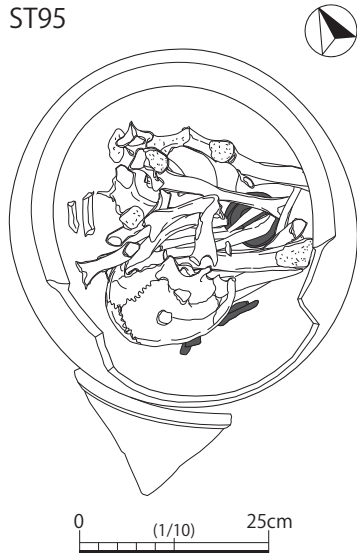


第116図 HZK1801地点土坑墓 ST94平面図



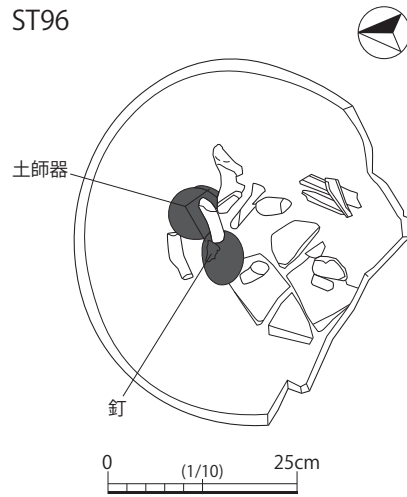
第117図 HZK1801地点土坑墓 ST94出土遺物

ST95

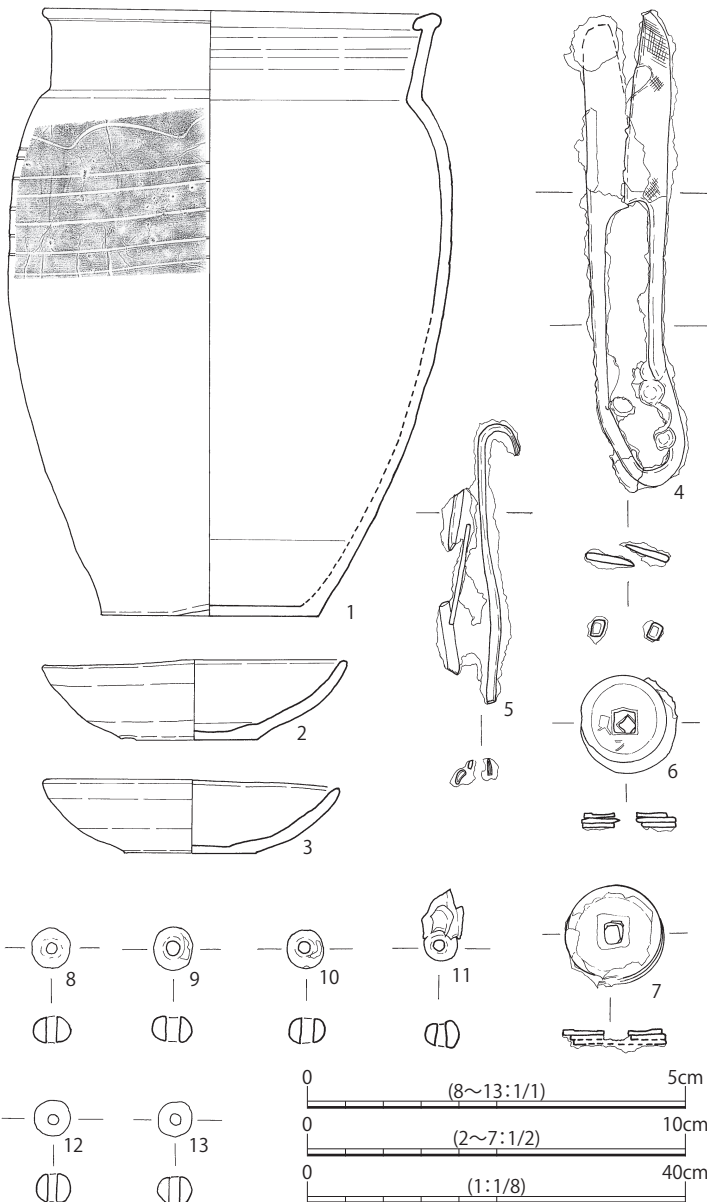


第118図 HZK1801地点甕棺墓 ST95平面図

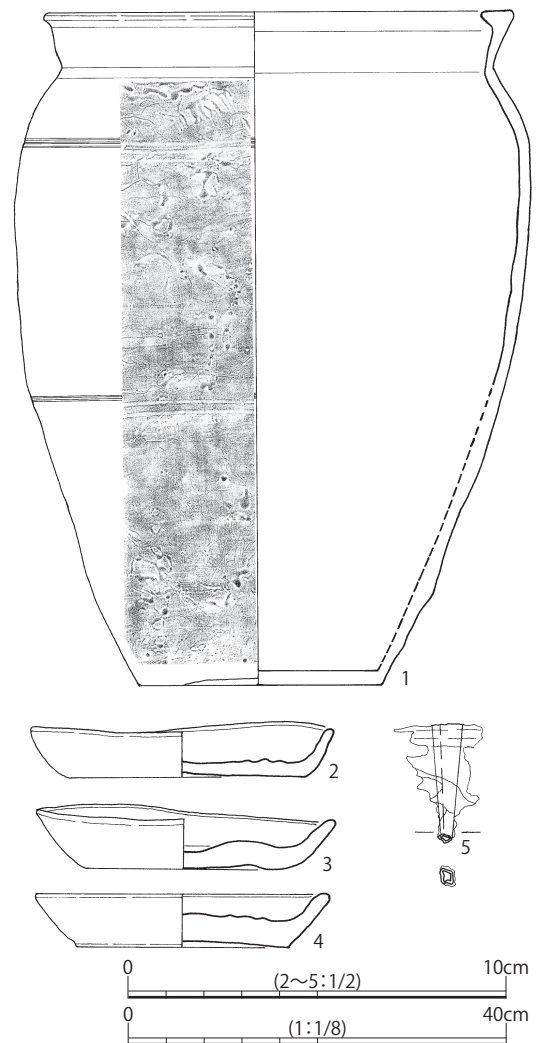
ST96



第120図 HZK1801地点甕棺墓 ST96平面図



第119図 HZK1801地点甕棺墓 ST95出土遺物



第121図 HZK1801地点甕棺墓 ST96出土遺物

18世紀から19世紀の所産である（東中川 2000）。2・3は糸切り底の土師皿である。4は鉄製の鉢である。5は鉄製の毛抜である。6・7は銭貨である。本来は6枚が一体であったと考えられ、いずれも寛永通寶（新寛永）である。8～13は石製の玉である。

甕棺墓 ST96（第120図） 墓坑のプランは確認できていない。甕棺は大きく破損しており、改葬を受けている。棺内から人骨が出土した。

出土遺物（第121図） 1は陶器の甕棺で、口縁部を平坦に作り、頸部は短い。肩部と胴部中央に2条ずつ沈線がめぐり、17世紀後半の所産である（東中川 2000）。2～4は糸切り底の土師皿である。5は断面四角形の鉄釘で、木質が付着している。

甕棺墓 ST97（第122図） 墓坑のプランは確認できていない。口縁部が一部破損しており、棺蓋の存在は不明である。改葬を受けている。棺内から人骨が出土した。

出土遺物（第123図） 1は陶器の甕棺で、口縁内部の粘土紐はやや膨らみをもち、口縁外面に面を作る。肩部と胴部中央付近に3条ずつ、胴部下半に4条の沈線が螺旋状にめぐり、胴部中央付近に格子状のタタキを施す。底部外面には墨書がみられる。18世紀から19世紀の所産である（東中川 2000）。2は七星板である。長方形の柁目板で少しカーブしており、桶の側板の転用かもしれない。孔は5箇所確認できる。3はキセルの雁首である。4は陶器の茶碗である。5～8は糸切り底の土師皿である。他に加工板材が出土したが、図化し得ない。

甕棺墓 ST98（第124図） 墓坑のプランは確認できていない。検出時は上半部が破損しており、棺内からは人骨や遺物が出土していないことから、改葬を受けていると判断した。

出土遺物（第125図） 1は陶器の甕棺である。口縁内側に粘土を帯状に折り返す。折り返した粘土の下端部の貼り付けは弱い。口縁部下に段が付き、肩部と胴部下半に3条ずつ螺旋状の沈線がめぐり、18世紀から19世紀の所産である（東中川 2000）。

甕棺集中地点 SX99（第126図） 長軸220cm、短軸130cmほどの範囲から甕棺片と人骨が散乱した状態で出土した。そのうち長軸23cm、短軸10cmの範囲から人骨が出土した。土師器片が出土したが、図化し得ない。

性格不明遺構 SX100（第127図） 長軸153cm以上、短軸150cmの土坑である。東側ははっきりしない。確認面からの深さは10cmほどである。土坑内西側から人骨片が出土した。

出土遺物（第128図） 1・2は銭貨で、1は5枚重なっており、3枚目が治平元寶、他は寛永通寶（古寛永）である。2は寛永通寶である。ほかに土師質の捏鉢が出土したが図化に耐えない。

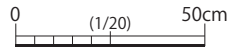
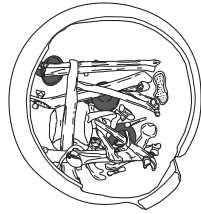
土坑墓 ST101（第129図） 長軸42cm、短軸38cmの範囲から、人骨と土師皿が出土した。人骨の出土状況から土坑墓である。

出土遺物（第130図） 1～3は糸切り底の土師皿である。4は石製の玉である。5は鉄製の毛抜で、表面に櫛と思われる木質が付く。6は鉄製の鉢に銭貨が6枚重なって錆着したもので、こちらにも表面に櫛と思われる木質が付着していることから、5・6とも本来はまとめて棺に納められていたものである。6は5枚目が嘉祐通寶である以外は寛永通寶（新寛永）で、1枚目と2枚目は文銭である。

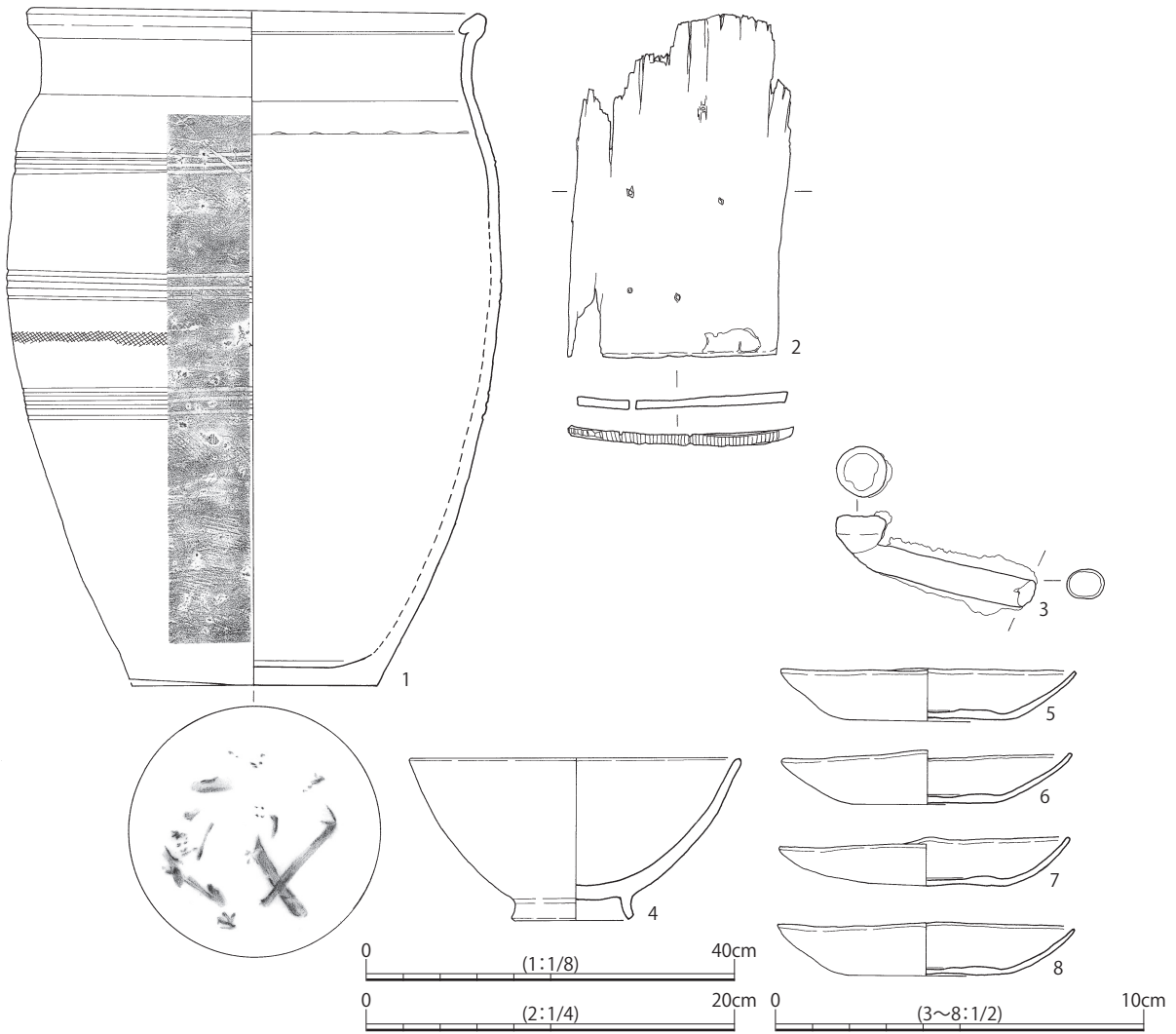
甕棺墓 ST102（第131図） 墓坑のプランは確認できていない。検出時は口縁部と胴部の一部が破損しており、棺内からは人骨の一部と遺物が出土していることから、改葬を受けていると判断した。

出土遺物（第132図） 1は土師質の素焼きの甕棺で、口縁部は頸部直上に小さく作る。口縁端部は平坦におさめる。2は糸切り底の土師皿である。3・4は同一個体のキセルで、4が雁首で大きく曲がり、3が吸い口で端部がつぶれる。いずれも羅宇の一部が残存する。5～8は断面四角形の鉄釘の一部である。9は鉄製の鉢で先端を欠き、骨片が付着する。10は鉄製の毛抜である。11は銭貨である。

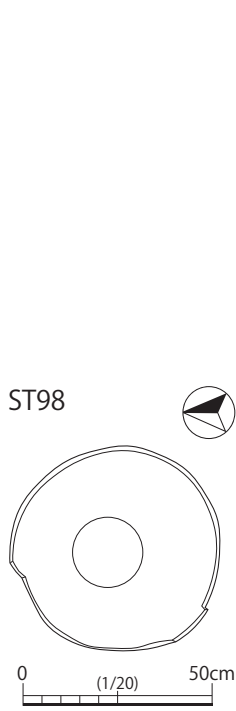
ST97



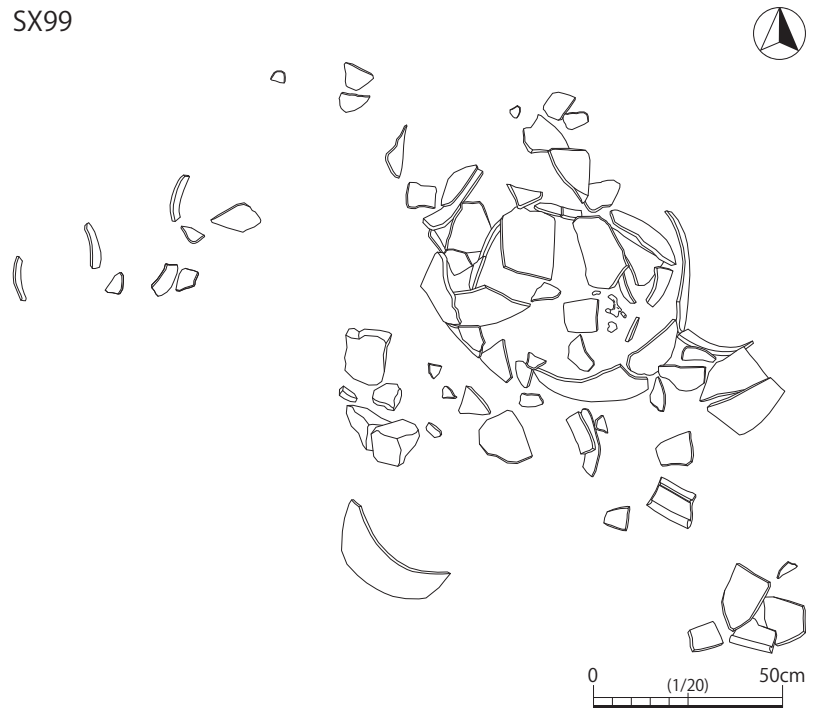
第122図 HZK1801地点甕棺墓 ST97平面図



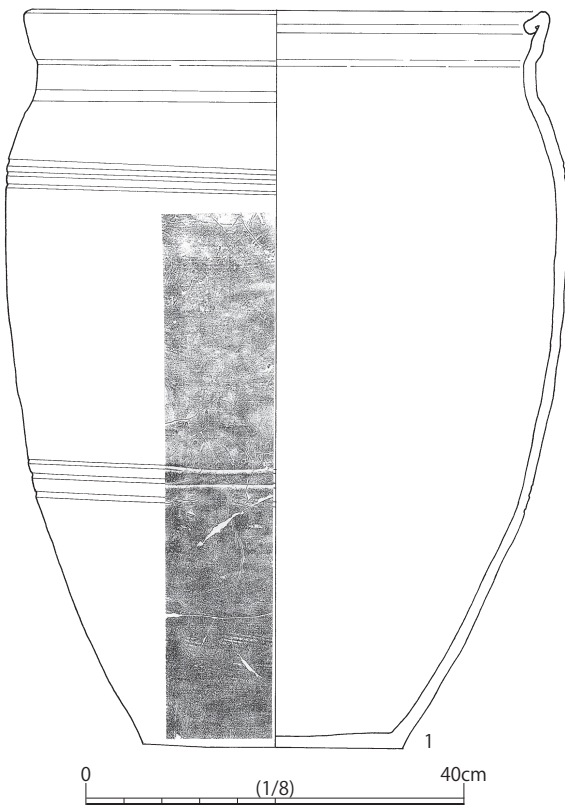
第123図 HZK1801地点甕棺墓 ST97出土遺物



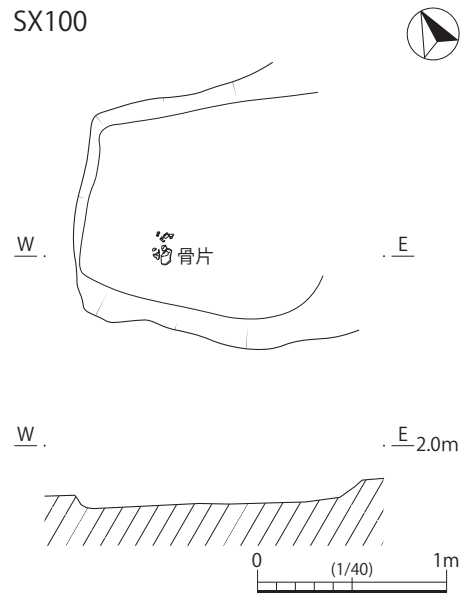
第124図 HZK1801地点
甕棺墓 ST98平面図



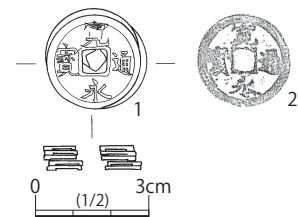
第126図 HZK1801地点甕棺集中地点 SX99平面図



第125図 HZK1801地点甕棺墓 ST98出土遺物

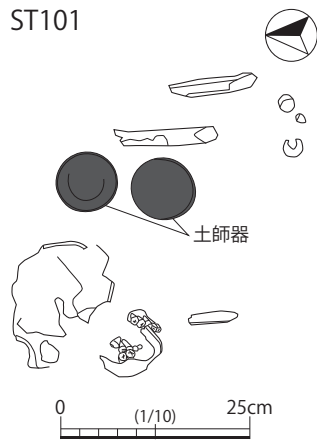


第127図 HZK1801地点
性格不明遺構 SX100平面・断面図

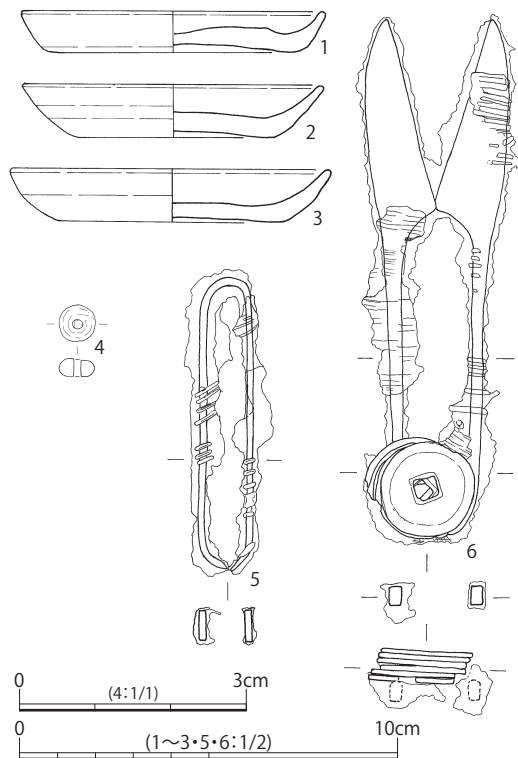


第128図 HZK1801地点
性格不明遺構 SX100出土遺物

ST101



第129図 HZK1801地点土坑墓 ST101平面図

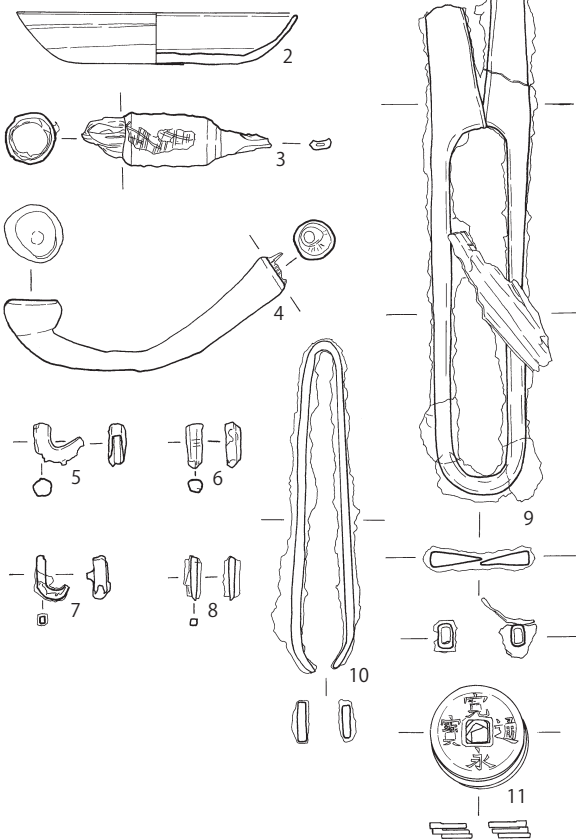
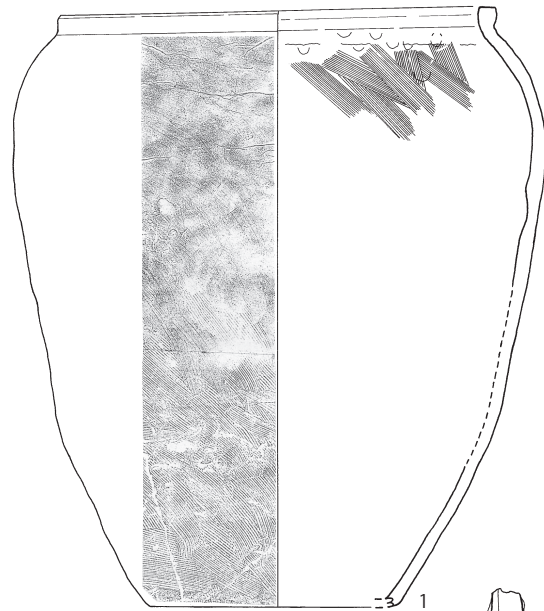


第130図 HZK1801地点土坑墓 ST101出土遺物

ST102

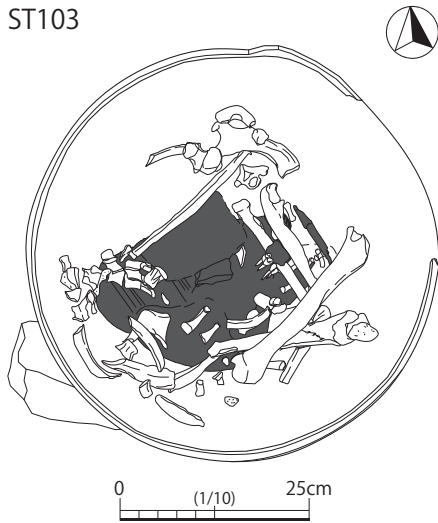


第131図 HZK1801地点甕棺墓 ST102平面図



第132図 HZK1801地点甕棺墓 ST102出土遺物

ST103



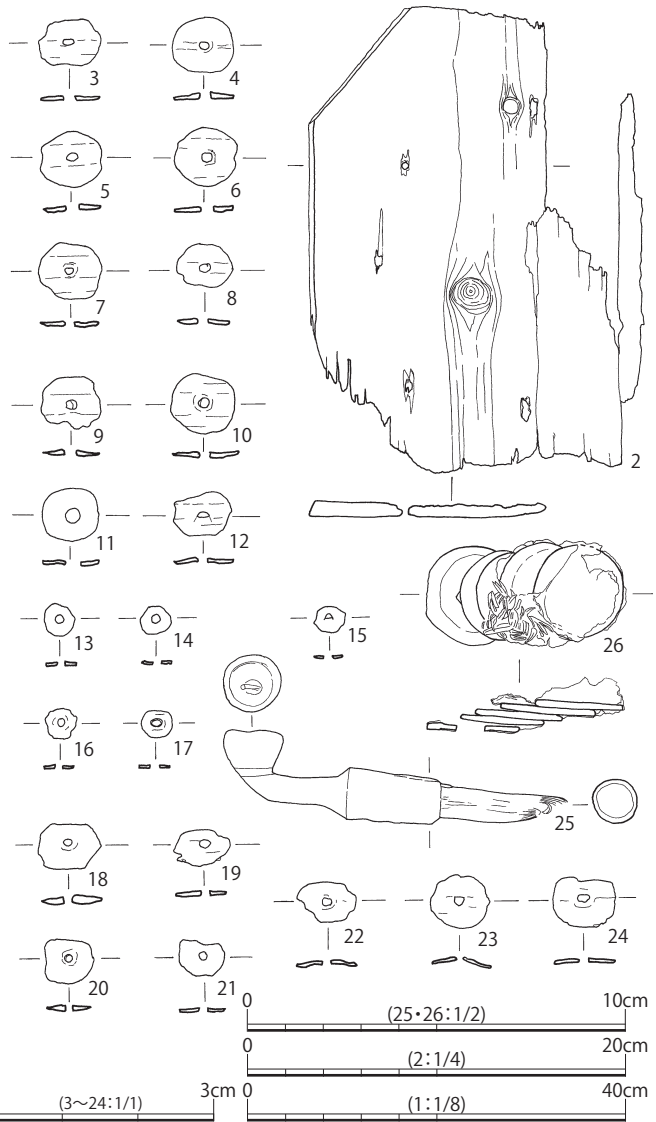
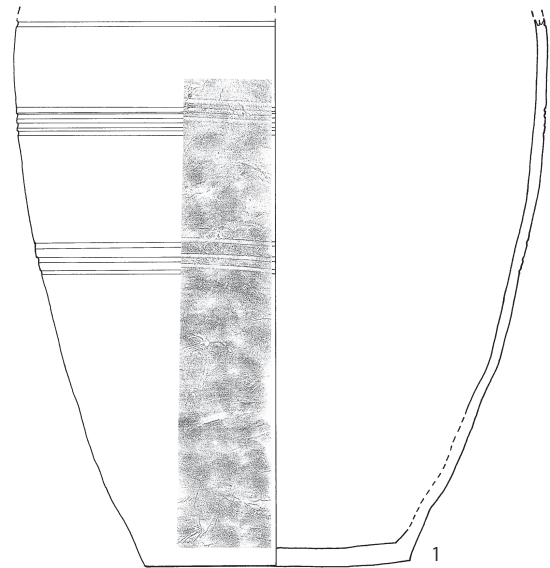
第133図 HZK1801地点甕棺墓 ST103平面図

4枚重なっており、1・4枚目は寛永通寶で、2枚目は寛永通寶の文銭である。3枚目は無文銭である。

甕棺墓 ST103 (第133図) 墓坑のプランは確認できていない。検出時は口縁部と胴部の一部が破損しており、棺内からは人骨の一部と遺物が出土しているが、遺存状態が良くない。

出土遺物 (第134図) 1は陶器の甕棺で、上半部を欠損する。胴部上半のほか、胴部中央、胴部下半にそれぞれ3条ずつ沈線がめぐる。2は七星板である。八角形に加工した板目板に5箇所穿孔がみられる。1/3ほどを欠損しているが、本来は7~8箇所の穿孔が施されたものである。3~24はスパンコール状の木製品である。数珠玉にしては薄く、糸で布などに縫い付けた飾りであろう。25はキセルの雁首で、羅字の一部が残る。26は銭貨である。5枚重なっており、表面にモミガラが付着する。4枚は寛永通寶、1枚は鉄銭の可能性はある。他に土師皿と扇の骨、漆器の一部、加工板、モミガラが出土したが、小片で図化し得ない。

人骨出土地点 SX104 (第135図) 人骨がまとまるものの、墓との判定には到らない例である。10cm×10cmほどの範囲から人骨が



第134図 HZK1801地点甕棺墓 ST103出土遺物

SX104 



0 (1/10) 25cm

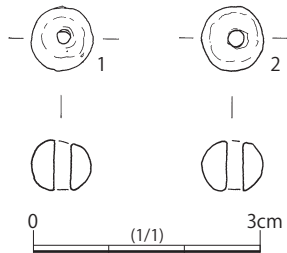
第135図 HZK1801地点
人骨出土地点 SX104平面図

SX105 

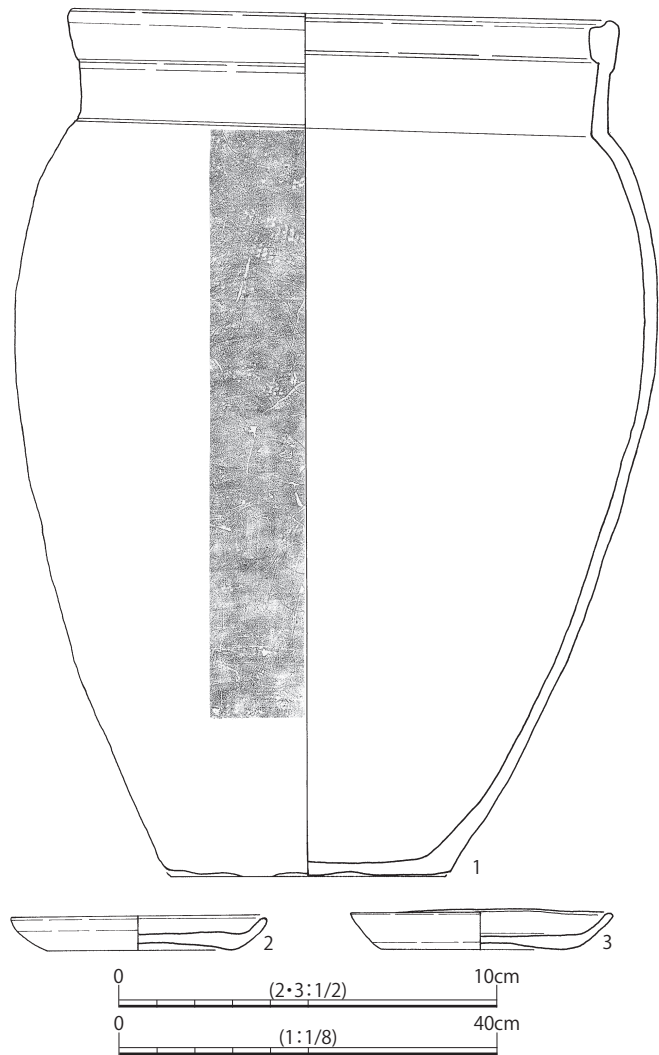


0 (1/10) 25cm

第136図 HZK1801地点
性格不明遺構 SX105平面図



第137図 HZK1801地点
性格不明遺構 SX105出土遺物



第138図 HZK1801地点甕棺墓 ST106出土遺物

出土した。土師器片、陶器片が出土したが図化に耐えない。

性格不明遺構 SX105（第136図）長軸43cm、短軸31cmの範囲から、石や玉が散乱して出土した。

出土遺物（第137図） 1・2は石製の玉である。丸玉でほぼ同じサイズであり、本来同一の製品として組み合わせたものであろう。

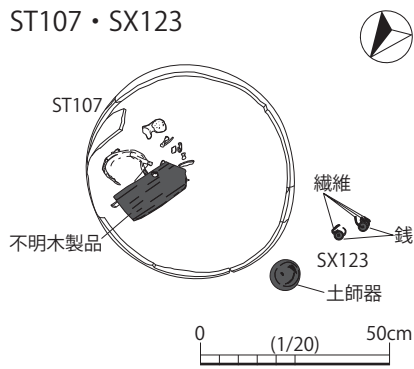
甕棺墓 ST106 ST108の東側で検出された甕棺墓で、甕棺の下半部と人骨がまとまって出土した。改葬などで不要になった甕棺を廃棄したものであろう。

出土遺物（第138図） 1は陶器の甕棺で、口縁部は角張って断面四角形を呈し、端部に平坦面を作る。頸部外面を強くナデて成形し、屈曲は明瞭である。18世紀から19世紀の所産（東中川 2000）。2・3は糸切り底の土師皿である。他に白磁の香炉が出土したが、小片で図化し得ない。

甕棺墓 ST107・性格不明遺構 SX123（第139図） ST107は甕棺墓で墓坑のプランは確認できていない。検出時は口縁部と胴部の一部が破損しており、棺内からは人骨の一部と遺物が出土しているが、遺存状態が良くないため、改葬を受けているか不明である。SX123はST107の西側に位置し、土師皿と銭貨がまとまって出土した。ST107に先行する墓の可能性がある。

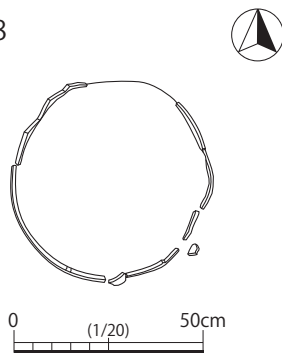
出土遺物（第140図） 1はST107出土の陶器の甕棺である。口縁部内面に粘土紐を貼り付け楕円

ST107・SX123

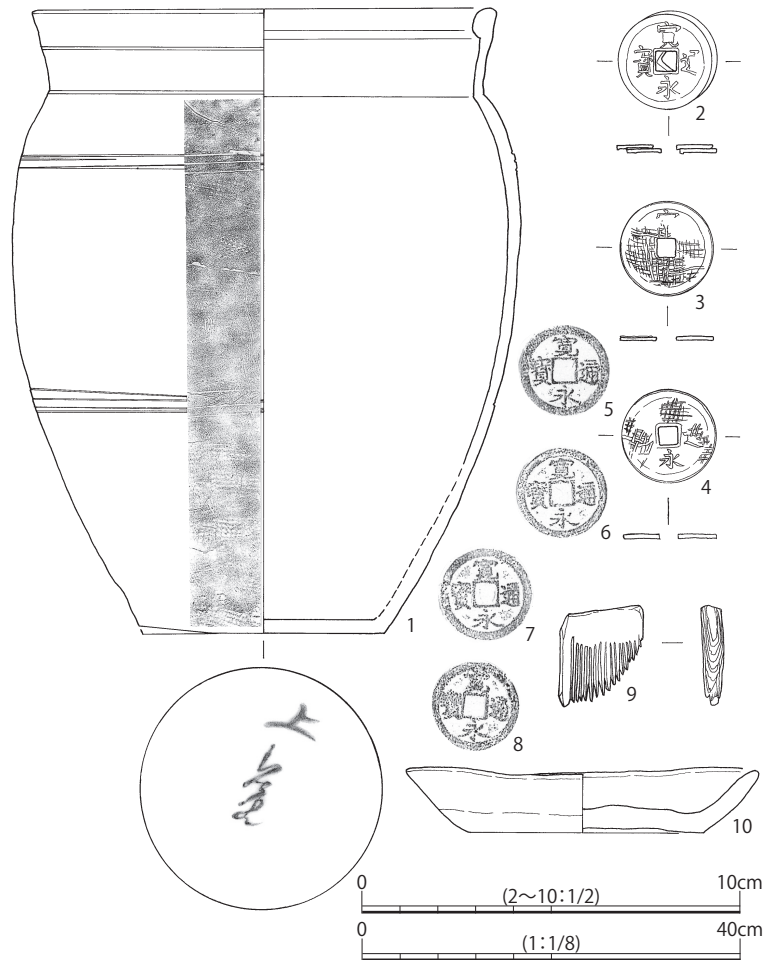


第139図 HZK1801地点甕棺墓 ST107・性格不明遺構 SX123平面図

ST108



第141図 HZK1801地点甕棺墓 ST108平面図



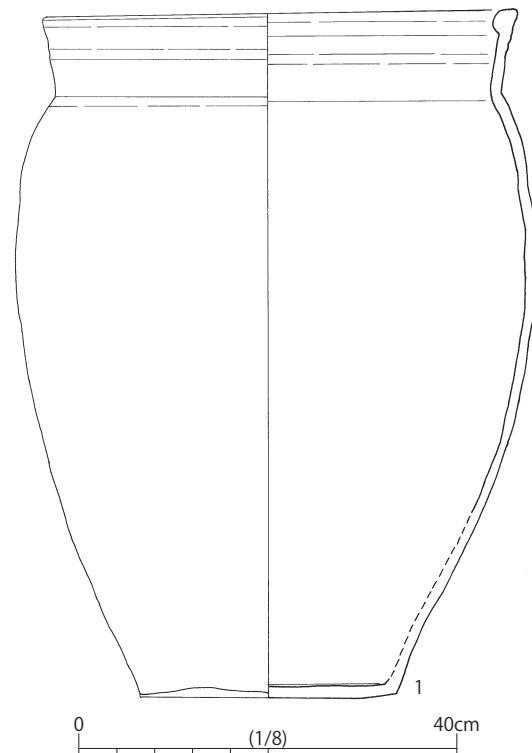
第140図 HZK1801地点甕棺墓 ST107・性格不明遺構 SX123出土遺物

形にする。外面には段が付く。頸部の屈曲は明瞭である。肩部に2条、胴部下半に3条の螺旋状沈線がめぐる。底部外面に墨書を施す。18世紀から19世紀の所産である（東中川 2000）。他に加工板と思われる木質が出土した。

2～10はSX123出土である。2～8は銭貨でいずれも寛永通寶である。2は2枚重なっている。3・4は表面に布が付着する。9は木製の刻歯式の横櫛である。10は糸切り底の土師皿である。

甕棺墓 ST108（第141図） 墓坑のプランは確認できていない。検出時は甕棺が大きく破損しており、棺内からは人骨の一部が出土しているが、遺存状態が良くない。

出土遺物（第142図） 1は陶器の甕棺である。口縁部に丸い粘土紐を貼り付けるが、端部を面取りして平坦に仕上げる。18世紀から19世紀の所産である（東中川 2000）。



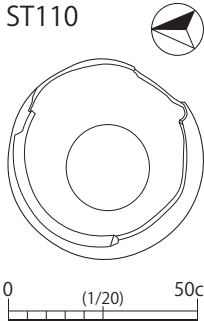
第142図 HZK1801地点甕棺墓 ST108出土遺物

ST109

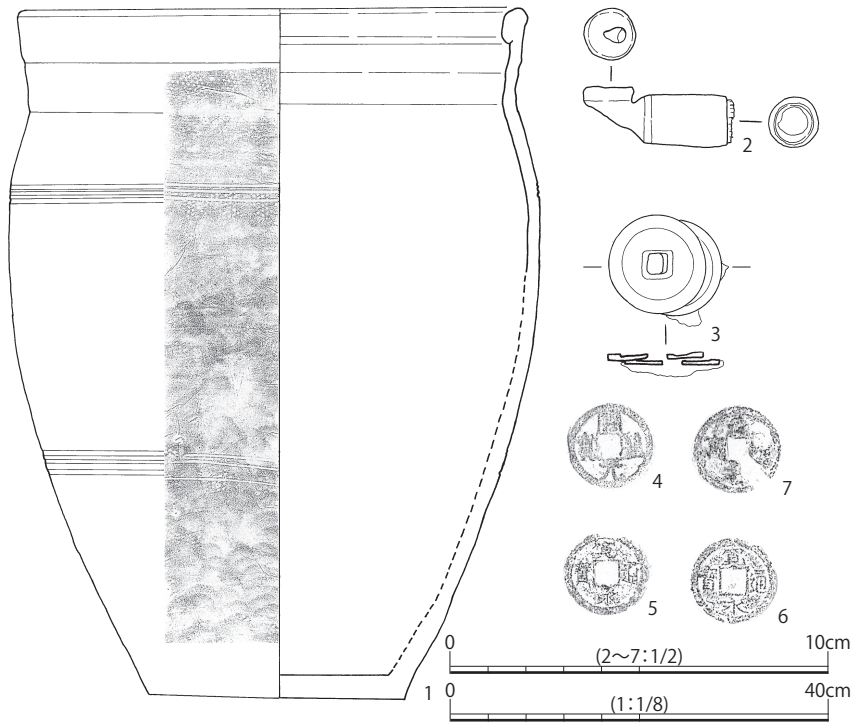


第143図 HZK1801地点甕棺墓 ST109平面図

ST110



第145図 HZK1801地点甕棺墓 ST110平面図



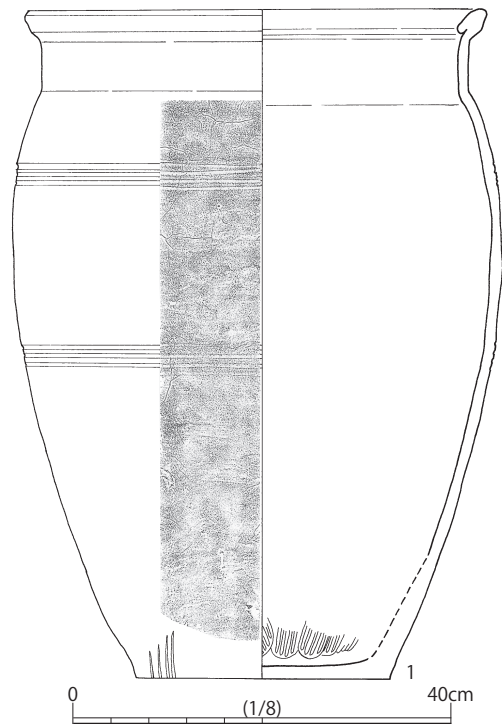
第144図 HZK1801地点甕棺墓 ST109出土遺物

甕棺墓 ST109（第143図） 墓坑のプランは確認できていない。検出時は甕棺の口縁の一部が破損しており、棺蓋の存在は不明である。棺内から人骨が出土した。

出土遺物（第144図） 1は陶器の甕棺で、口縁端部内側を丸く作り、頸部の屈曲はゆるい。肩部と胴部下半に3条ずつ沈線を施す。18世紀から19世紀の所産である（東中川 2000）。2はキセルの雁首で、火皿の曲げ部が短く、直線的である。一部に羅字が残る。3～7は銭貨である。3は寛永通寶が2枚重なっている。4は開元通寶の私鑄銭で、裏面には加工が見られない。5・6は寛永通寶である。7は鑄出しが悪く判然としない。他に七星板あるいは棺蓋か棺底に敷く加工板の節や木質が出土した。

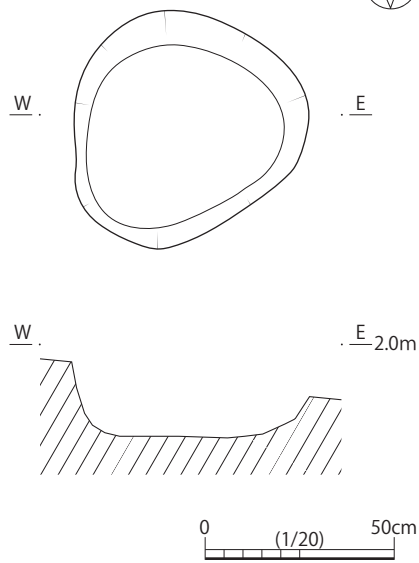
甕棺墓 ST110（第145図） 墓坑のプランは確認できていない。検出時は甕棺の口縁の一部が破損しており、棺蓋の存在は不明である。棺内に遺物などはなく、改葬を受けている。棺内から人骨が出土した。

出土遺物（第146図） 1は陶器の甕棺である。口縁

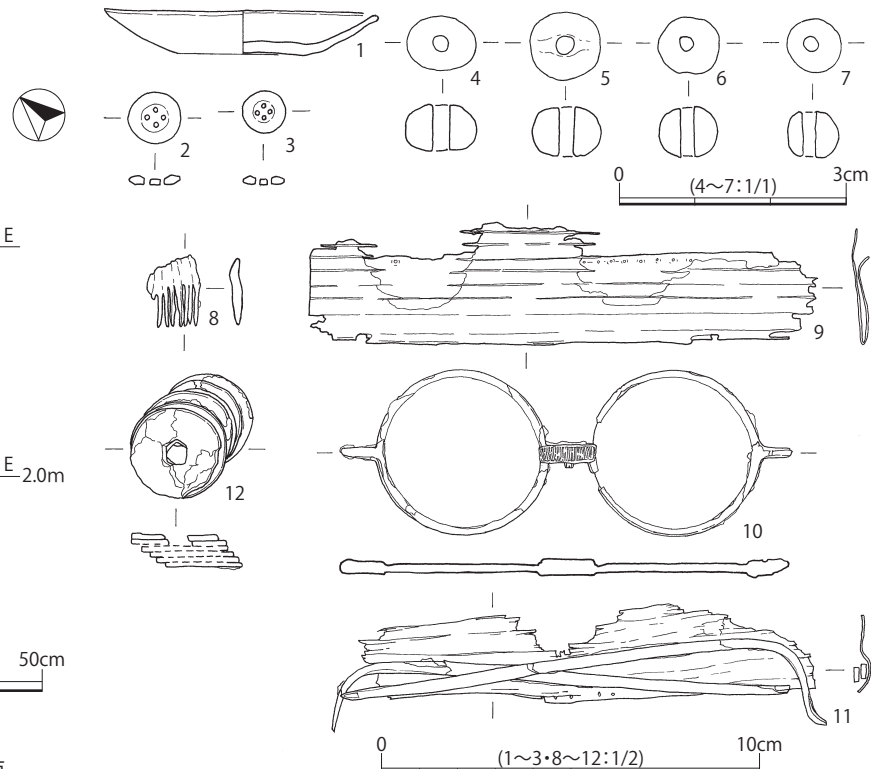


第146図 HZK1801地点甕棺墓 ST110出土遺物

ST112



第147図 HZK1801地点
土坑墓 ST112平面・断面図



第148図 HZK1801地点土坑墓 ST112出土遺物

端部は肥厚してやや角張っている。頸部の屈曲は明瞭である。肩部と胴部中央付近に3条ずつ沈線が螺旋状にめぐる。内・外面にそれぞれ形の違う縦方向の工具痕が残る。18世紀から19世紀の所産である（東中川 2000）。

土坑墓 ST112（第147図） 径62cmの不整円形土坑墓である。確認面からの深さは20cmである。人骨片、土師皿、メガネとメガネ入れ、櫛、ボタンなどが出土した。

出土遺物（第148図） 1は糸切り底の土師皿である。2・3は樹脂製と思われるボタンである。4～7は木製の玉である。8は木製の櫛で、刻歯式の横櫛である。9は10のメガネが入っていた木製のメガネ入れである。10・11はメガネである。11のツルが折りたたまれた銅製のフレームに10の丸いガラスレンズが付く。12は銅銭である。寛永通寶が6枚重なっている。

土坑墓 ST113 土坑 SK136の東側で検出されている。人骨片、土師器片が出土したが図化に耐えない。

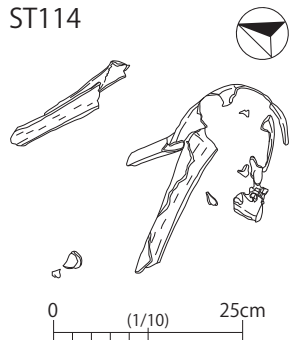
土坑墓 ST114（第149図） 長軸38cm、短軸30cmの範囲から人骨が出土した。

土坑墓 ST115（第150図） 長軸86cm、短軸76cmの楕円形土坑の中から人骨と土師皿、銭貨が出土した。1層に人骨と炭化物を含み、2層は人骨少量を含むことから、桶棺墓の可能性が高い。

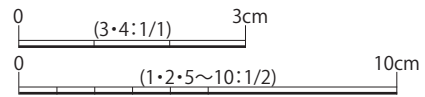
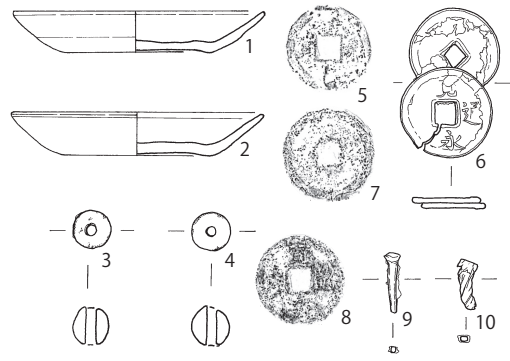
出土遺物（第151図） 1・2は糸切り底の土師皿である。3・4はガラス製の玉である。5～8は銭貨である。6は寛永通寶で2枚が銹着している。9・10は断面四角形の鉄釘である。他にガラス片と石が出土している。

甕棺墓 ST117（第152図） 墓坑のプランは確認できていない。検出時は甕棺の口縁部と胴部の一部が破損しており、棺蓋の存在は不明である。棺内に遺物などはなく、改葬を受けている。棺内から人骨が出土した。

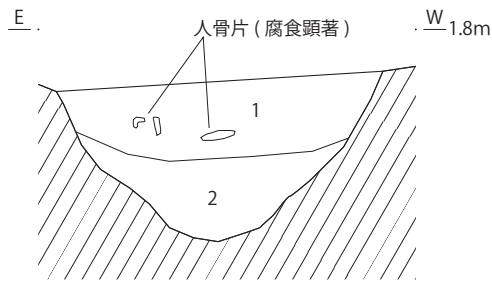
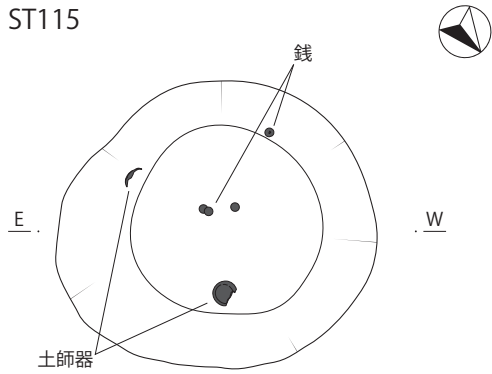
出土遺物（第153図） 1は陶器の甕棺である。口縁端部に粘土紐を带状に貼り付ける。肩部と胴部下半に3条の沈線を螺旋状に施す。18世紀から19世紀の所産である（東中川 2000）。他に瓦質土器片が出土したが、小片で図化し得ない。



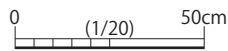
第149図 HZK1801地点
土坑墓 ST114平面図



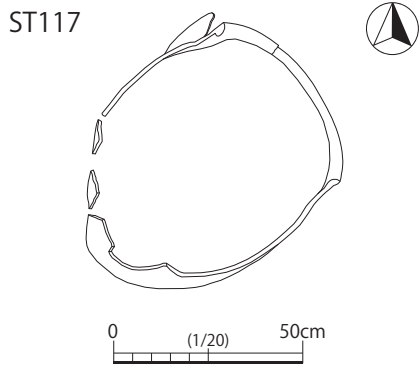
第151図 HZK1801地点
土坑墓 ST115出土遺物



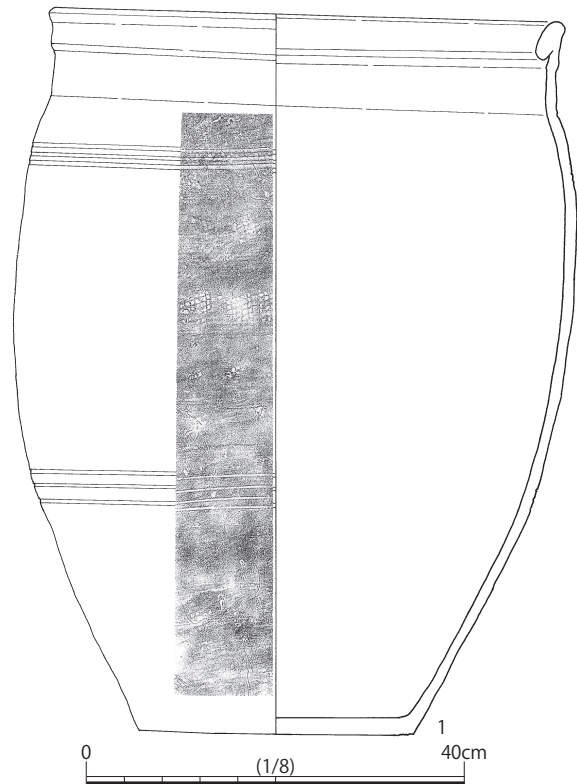
- 1 10YR5/3 にぶい黄褐、中砂（粗砂含む）わずかにしまる、人骨、遺物含む、炭化物を多く含む、桶棺痕跡？
- 2 10YR5/8 黄褐、細～中砂（粗砂少量含む）わずかにしまる、上位に人骨ごくわずかに含む、掘方に充填された砂か？



第150図 HZK1801地点
土坑墓 ST115平面・断面図

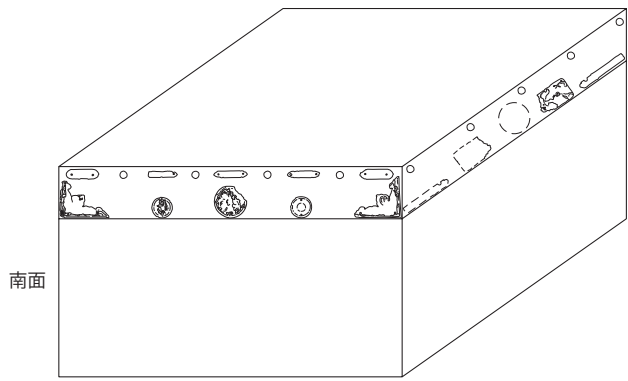
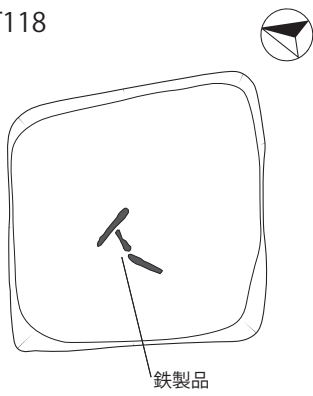


第152図 HZK1801地点甕棺墓 ST117平面図

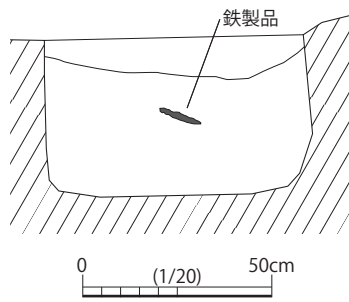


第153図 HZK1801地点甕棺墓 ST117出土遺物

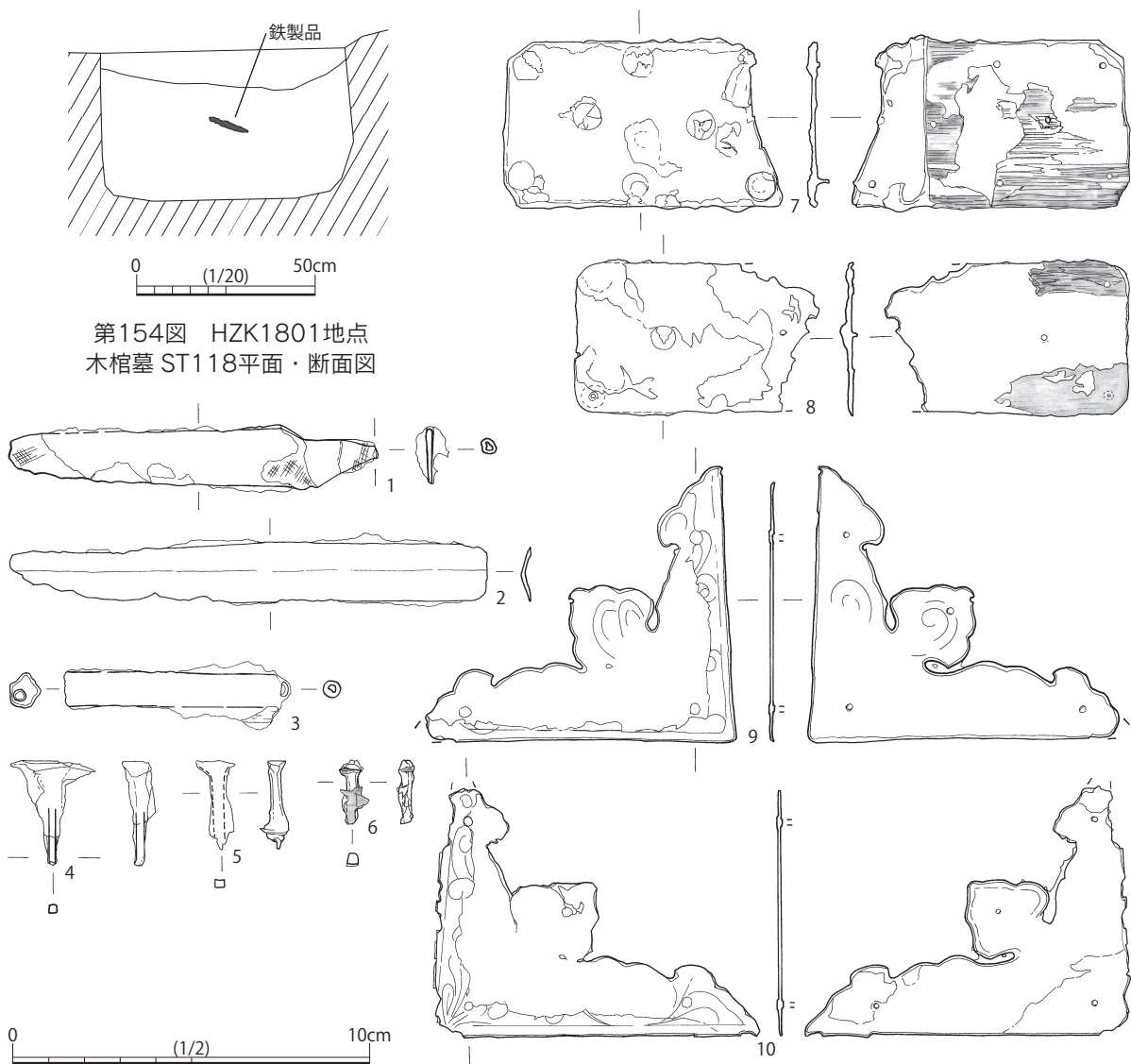
ST118



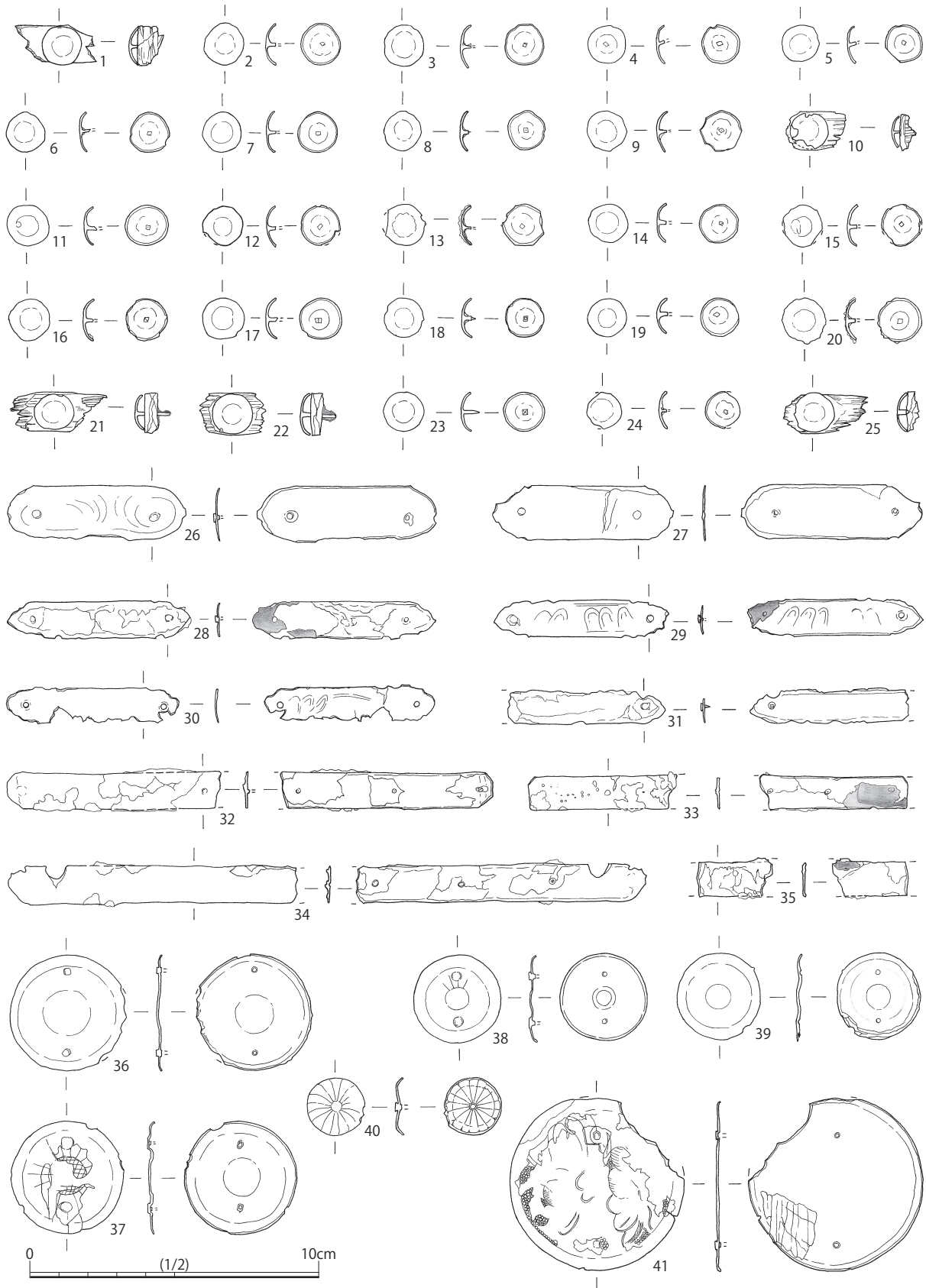
第155図 HZK1801地点 ST118木棺の復元図



第154図 HZK1801地点
木棺墓 ST118平面・断面図



第156図 HZK1801地点木棺墓 ST118出土遺物1



第157图 HZK1801地点木棺墓 ST118出土遺物2

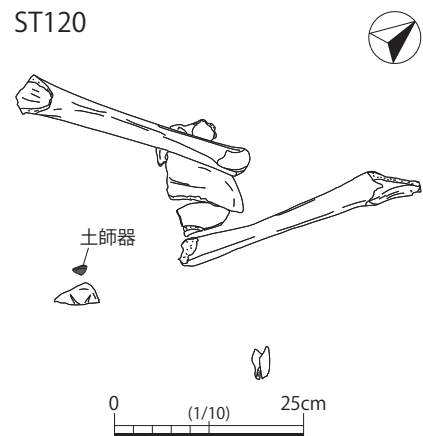
木棺墓 ST118（第154図） 70cm×70cm の方形土坑である。確認面からの深さは42cm である。銹金具が方形に並んで出土しており、一部に木質が残ることから方形木棺墓である。木棺の銹金具の配置を復元すると第155図のようになる。土層の中位から鉄製品が出土した。

出土遺物（第156・157図）第156図1は鉄製の刀子である。2も鉄製の刀子かと考えたが、断面がくの字形を呈し、上下端が薄くなる。3は銅製のキセルの吸い口であるが、端部が欠損する。4～6は断面四角形の鉄釘である。いずれも木質が付着している。7・8は長方形の金銅製銹金具で、小さな釘で木材に固定する。大型で端部が隅丸になっていることから、櫃や櫃の蓋の角に取り付けたものである。9・10は大型のL字型の金銅製銹金具で、小さな釘で木材に固定する。櫃の角に取り付けたものである。端部が葉のような意匠で、表面に毛彫りで文様を施す金具の裏面には木質が残っていた。第157図1～25は円形の金銅製銹金具で、表面は円弧状に膨らみ、裏面の針状の突起で木材と固定する。一部に木質が残る。26～31は楕円形の金銅製銹金具で、両端を小さな釘で木材に固定する。両端部は装飾的に加工されており、一部に木質が残る。32～35は長楕円形の金銅製銹金具で、端部など数ヶ所を小さな釘で固定する。端部は角を落とすなど装飾的な加工を施す。36～41は円形の金銅製銹金具で、上下（あるいは左右）を小さな釘で固定する。サイズは大小あり、菊花文を施すものや魚々子、毛彫りなどで精緻に装飾を施したものなどがある。これらの金具を、出土状況に即して配置すると、第155図のような飾りの付いた櫃が想定できる。他に土師器の坏・皿が出土したが、小片で図化し得ない。

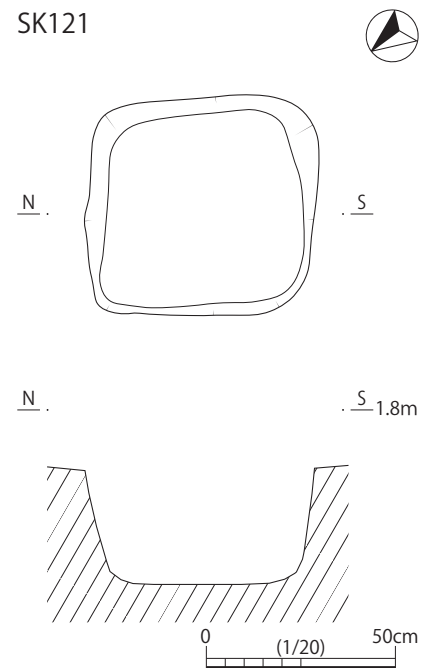
土坑墓 ST120（第158図） 長軸52cm、短軸32cm の範囲から、人骨と土師器片が出土した。甕棺墓 ST65 に切られた土坑墓である。土師器片については小片で図化し得ない。

土坑 SK121（第159図） 60cm×58cm の方形土坑である。確認面からの深さは32cm である。方形木棺墓の可能性が高い。

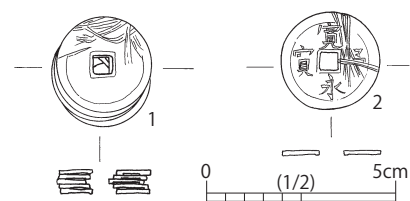
出土遺物（第160図）1・2は銭貨である。1は銅銭が5枚重なっており、表面に繊維質が付着する。い



第158図 HZK1801地点
土坑墓 ST120平面図

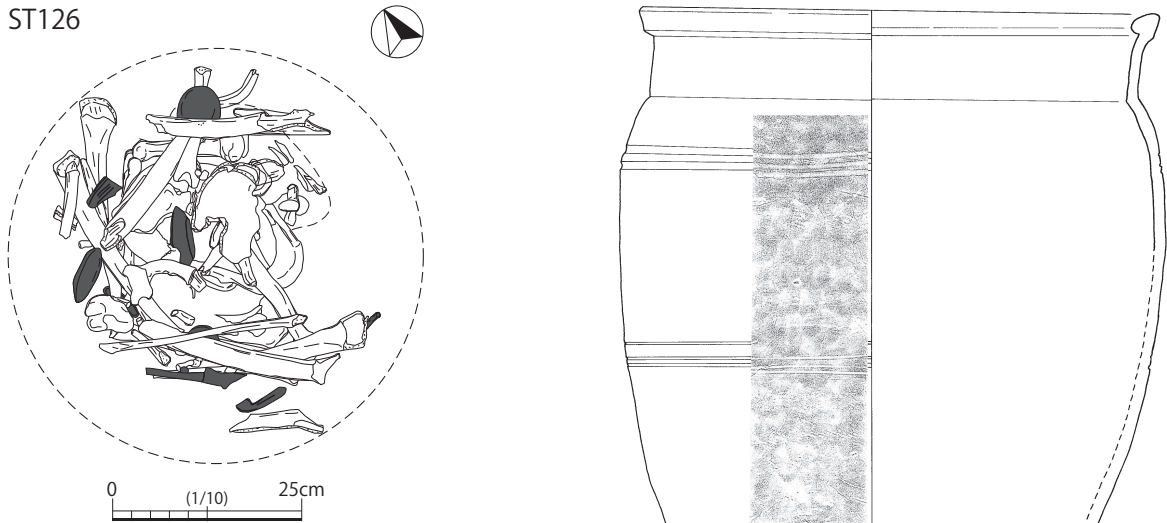


第159図 HZK1801地点
土坑 SK121平面・断面図

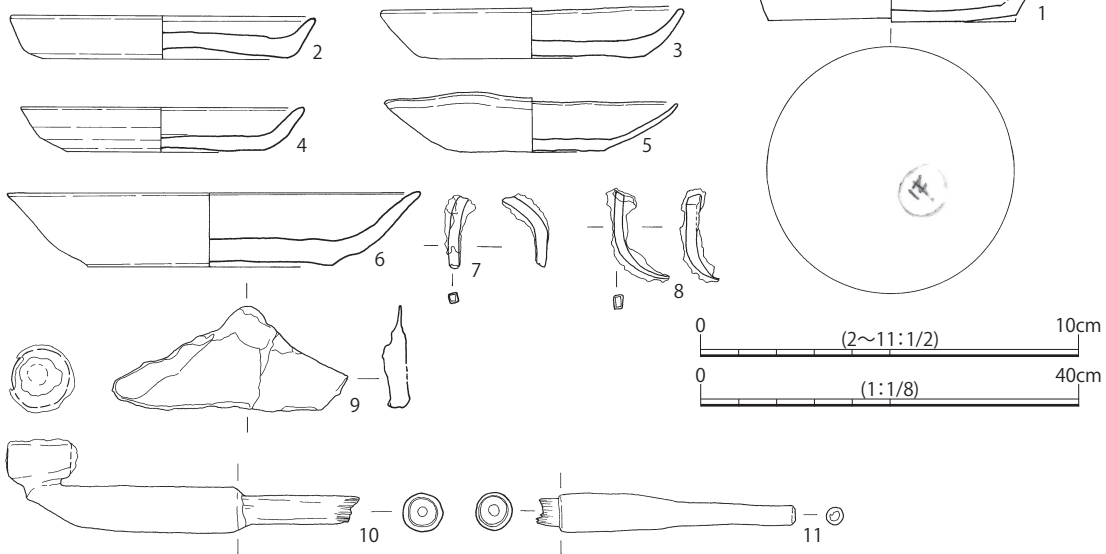


第160図 HZK1801地点
土坑 SK121出土遺物

ST126



第161図 HZK1801地点
甕棺墓 ST126平面図



第162図 HZK1801地点甕棺墓 ST126出土遺物

ずれも寛永通寶である。2は寛永通寶で表面に繊維が付着しており、1と一連であったが外れたもので文銭である。ほかに土師器片が出土したが、小片で図化し得ない。

人骨出土地点 SX125 人骨が出土したものの、墓とは判定し得なかった例である。瓦質土器の火鉢が出土したが、小片で図化し得ない。

甕棺墓 ST126（第161図） 墓坑のプランは確認できていない。甕棺に破損はみられないが、棺内から人骨が出土したほか、別個体の人骨が棺内上面から出土している。先行する墓を ST126埋設時に破壊し、人骨が埋土に混入した可能性がある。

出土遺物（第162図） 1は陶器の甕棺で、口縁内部の粘土紐はやや膨らみをもち、口縁外面を面取りして仕上げる。頸部の屈曲は明瞭である。肩部と胴部中央付近に3条ずつ螺旋状の沈線がめぐる。

底部外面に墨書を施す。18世紀から19世紀の所産である（東中川 2000）。2～5は糸切り底の土師皿、6は糸切り底の土師器の坏である。7・8は断面四角形の鉄釘である。9は鉄製の火打金である。平面形がへの字を呈する。10・11は同一個体のキセルで、10が雁首、11が吸い口である。いずれも羅字の一部が残る。

甕棺墓 ST127（第163図） 墓坑のプランは確認できていない。小形の甕棺で破損はみられないが、棺蓋の存在は不明である。棺内から人骨が出土した。

出土遺物（第164図） 1は陶器の甕棺で、口縁内側に帯状の粘土紐を貼り付ける。粘土紐の下端部の貼り付けは弱い。肩部に3条、胴部中央付近に4条沈線がめぐり、その間に波状文を施す。18世紀から19世紀の所産（東中川 2000）。2は銭貨である。文銭を含む寛永通寶が5枚重なっており、銅銭と鉄銭とが銹着している。他に土師器片が出土したが、小片で図化し得ない。

土坑墓 ST128（第165図） 長軸48cm、短軸27cmの範囲から人骨と不明銅製品が出土した。

出土遺物（第166図） 1・2は糸切り底の土師皿である。3は銅線を折り曲げて輪にしたような形状の金具である。

土坑墓 ST129（第167図） 長軸50cm、短軸40cmの範囲から人骨が出土した。方形木棺墓の可能性が高い。

出土遺物（第168図） 1は鉄製の鉄である。他に土師皿が出土したが、小片で図化し得ない。

土坑墓 ST130（第169図） 長軸33cm、短軸30cmの範囲から人骨と木片、銭貨が出土した。

出土遺物（第170図） 1～4は銭貨である。1は寛永通寶である。2・3は鑄出しが悪く文字は判然としないが、いずれも寛永通寶である。4の銭銘は不明である。

土坑 SK131（第171図） 54cm×54cmの方形土坑で、確認面からの深さは35cmである。人骨片、鉄製品が出土した。方形木棺墓の可能性が高い。

出土遺物（第172図） 1～9はいずれも断面四角形の鉄釘である。HZK1801地点出土の鉄釘の中では大型である。他に土師器片、陶器片が出土したが、小片で図化し得ない。

甕棺墓 ST132（第173図） 割れた状態で検出された甕棺で、改葬時に割られたものとみられる。長軸90cm、短軸70cmの範囲に甕棺片と人骨片が出土した。

出土遺物（第174図） 1は陶器の甕棺で、口縁部内側に粘土紐を貼り付ける。粘土紐の下端部の貼り付けは弱い。口縁部内面と頸部は釉を拭き取り、肩部に3条、胴部下半に螺旋状に3条の沈線がめぐり、18世紀から19世紀の所産である（東中川 2000）。2～4は断面四角形の鉄釘である。一部に木質が残る。5・6は銭貨である。いずれも2枚ずつ重なっている。6は1枚目が寛永通寶、2枚目が鉄銭である。他に土師器の坏・皿、青磁片が出土したが、図化に耐えない。

甕棺墓 ST133（第175図） 墓坑のプランは確認できていない。検出時は甕棺の上半部が破損しており、棺蓋の存在は不明である。棺内から土師皿が出土したが、人骨は出土しておらず、改葬を受けている。

出土遺物（第176図） 1は陶器の甕棺で、上半部を欠損する。胴部中央付近に2条、胴部下半に3条の沈線がめぐり、底部外面に大小の丸を描いたような墨書が残る。2は印判手の皿である。内面に藤と網目、外面に草花文を施し、高台内に銘を施す。3・4は糸切り底の土師皿である。

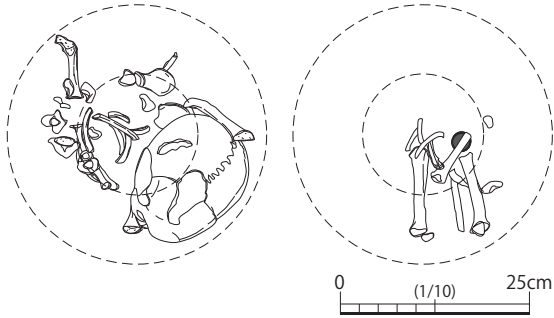
人骨出土地点 SX134（第177図） 長軸33cm、短軸20cmの範囲から人骨が出土した。他に石が出土した。

土坑 SK136（第178図） 長軸180cm以上、短軸162cmの不整形土坑である。人骨片、土師器片と石が出土した。

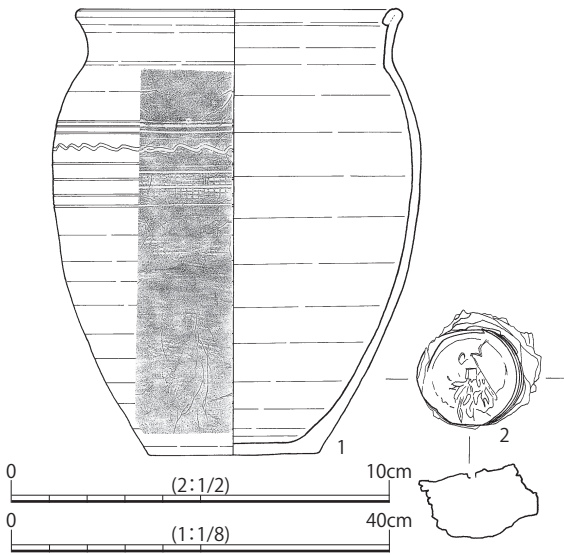
ST127

1面

2面

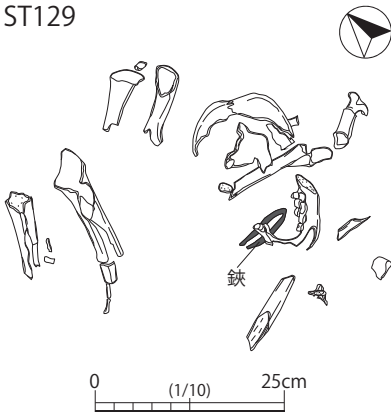


第163図 HZK1801地点
甕棺墓 ST127平面図

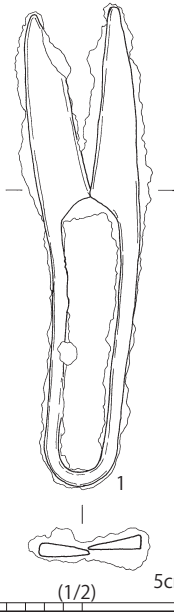


第164図 HZK1801地点
甕棺墓 ST127出土遺物

ST129

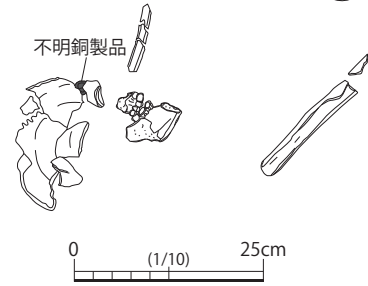


第167図 HZK1801地点
土坑墓 ST129平面図

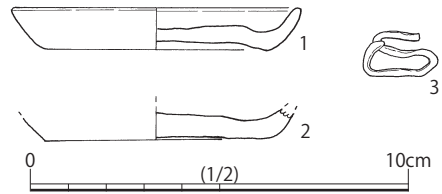


第168図 HZK1801地点
土坑墓 ST129出土遺物

ST128

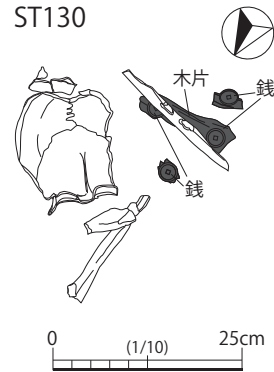


第165図 HZK1801地点
土坑墓 ST128平面図

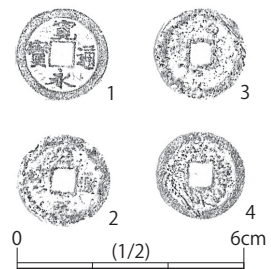


第166図 HZK1801地点
土坑墓 ST128出土遺物

ST130

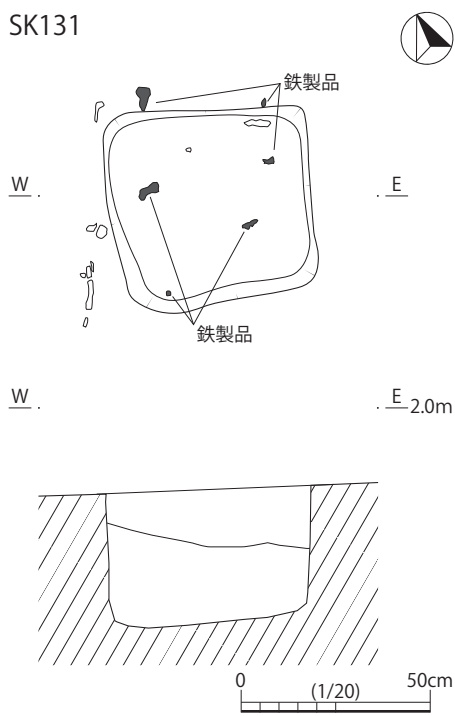


第169図 HZK1801地点
土坑墓 ST130平面図

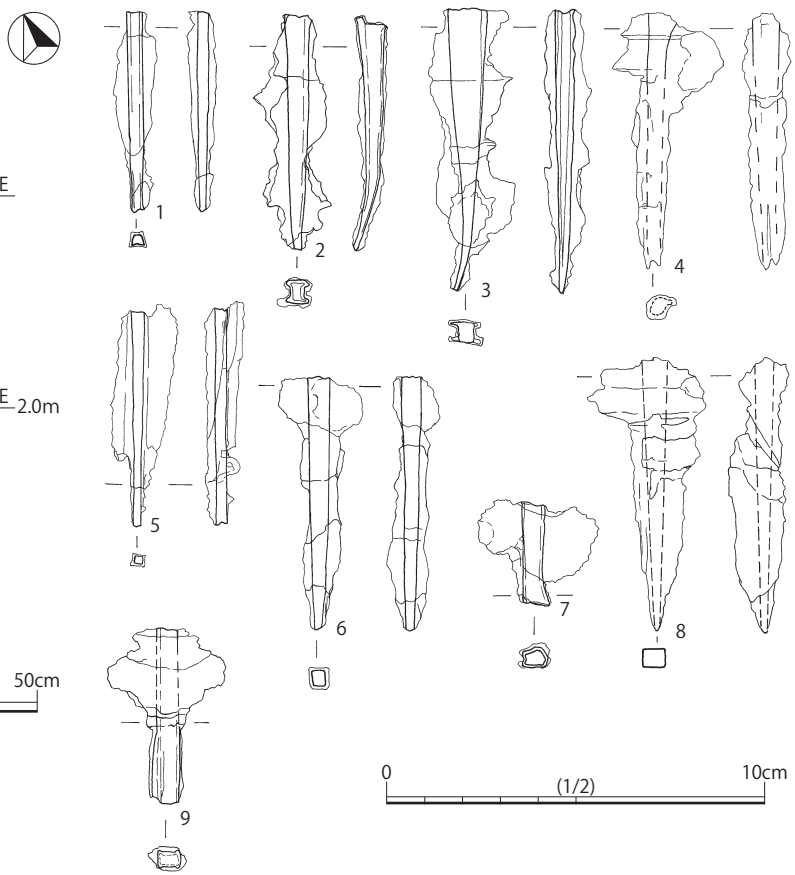


第170図 HZK1801地点
土坑墓 ST130出土遺物

SK131



第171図 HZK1801地点
土坑 SK131平面・断面図

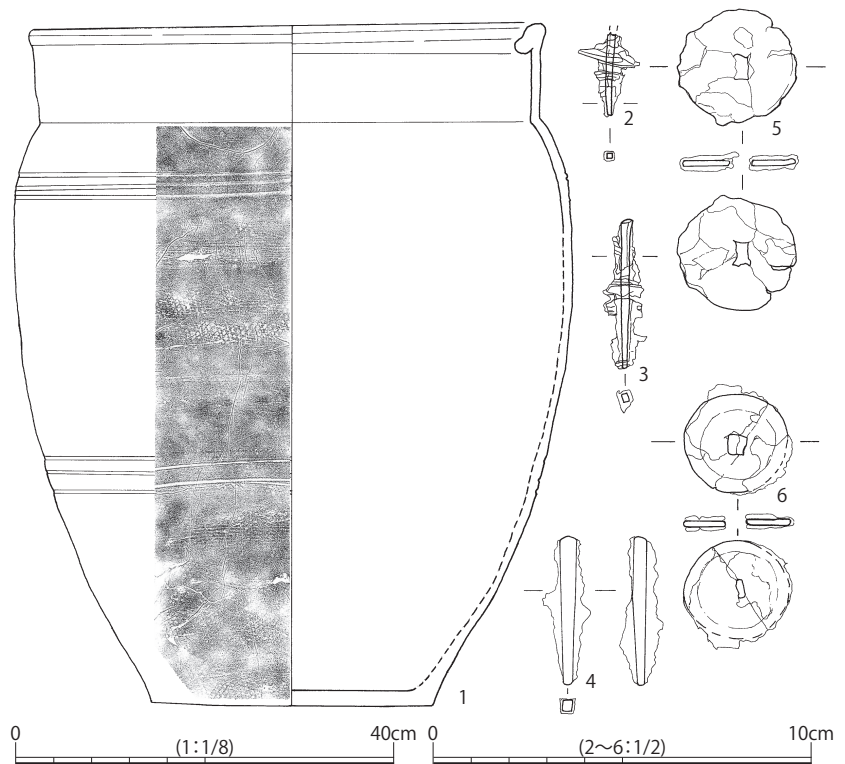


第172図 HZK1801地点土坑 SK131出土遺物

ST132

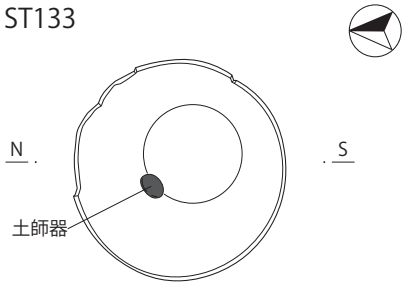


第173図 HZK1801地点
甕棺墓 ST132平面図

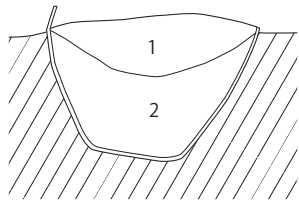


第174図 HZK1801地点甕棺墓 ST132出土遺物

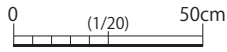
ST133



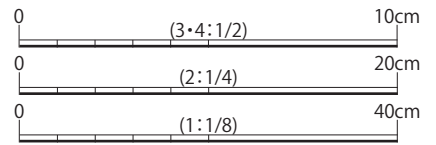
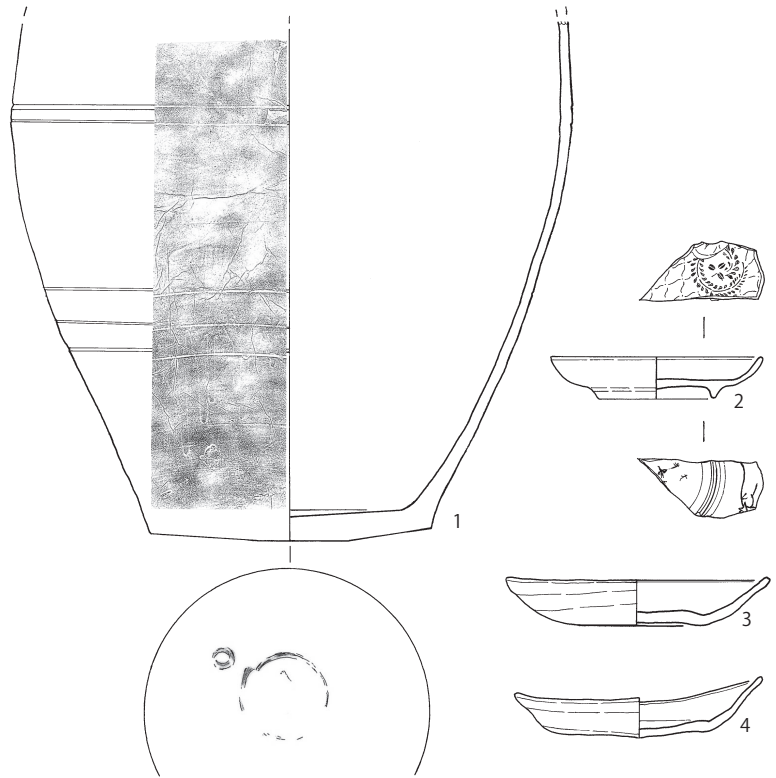
N S 2.1m



1 5Y4/3 暗オリーブ、しまりなし、粘性なし
2 10YR4/6 褐、しまりなし、粘性なし

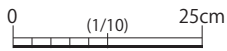
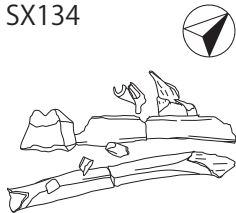


第175図 HZK1801地点
甕棺墓 ST133平面・断面図



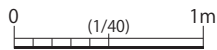
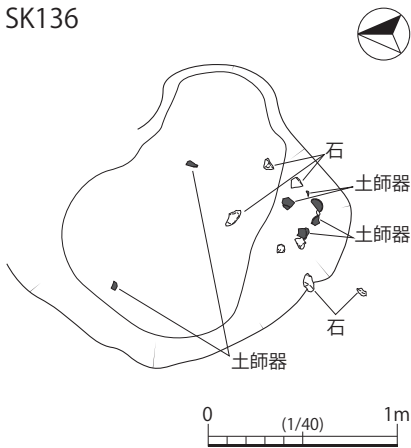
第176図 HZK1801地点甕棺墓 ST133出土遺物

SX134

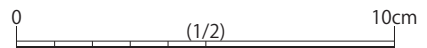
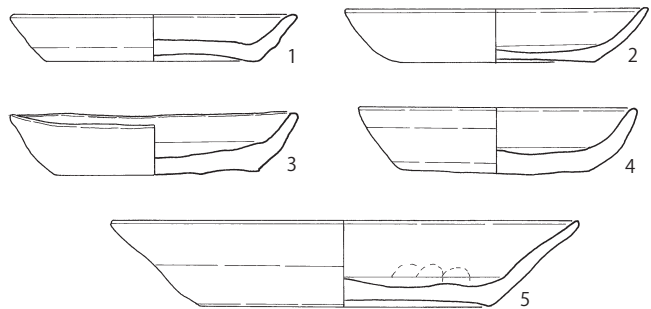


第177図 HZK1801地点
人骨出地点 SX134平面図

SK136

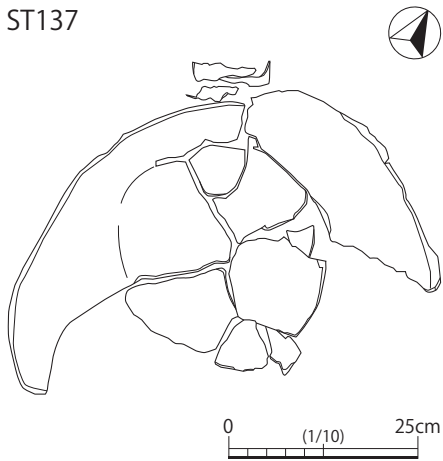


第178図 HZK1801地点
土坑 SK136平面図



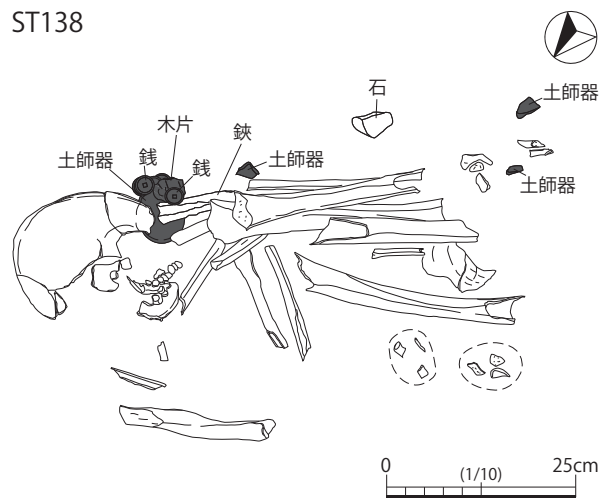
第179図 HZK1801地点土坑 SK136出土遺物

ST137

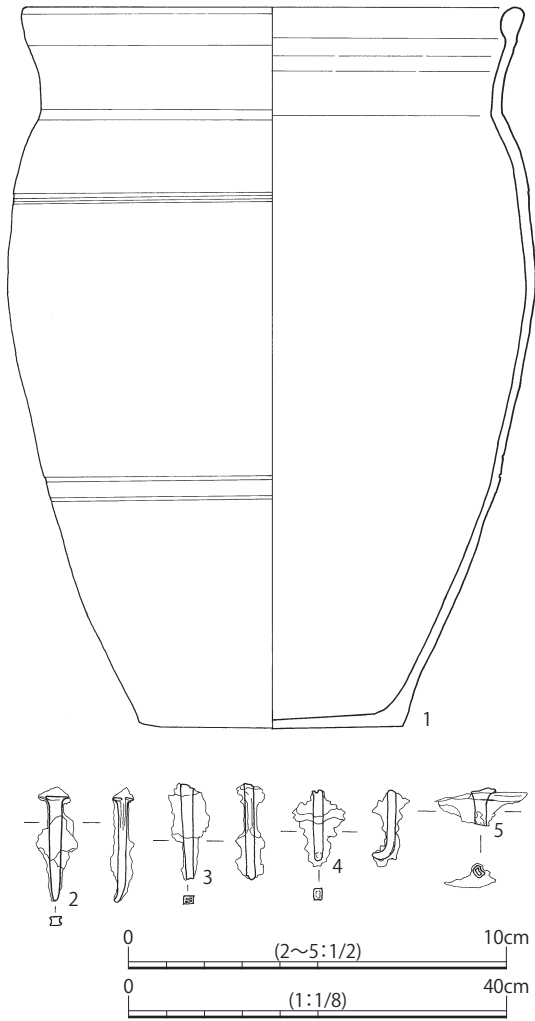


第180図 HZK1801地点
甕棺墓 ST137平面図

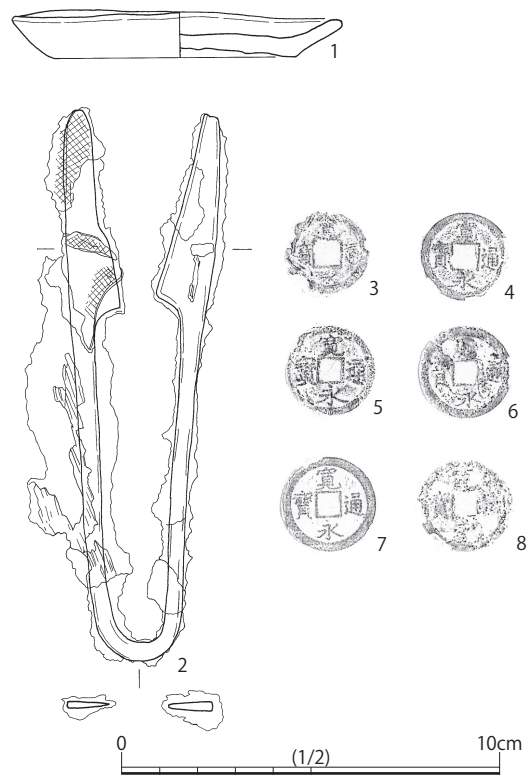
ST138



第182図 HZK1801地点土坑墓 ST138平面図



第181図 HZK1801地点
甕棺墓 ST137出土遺物



第183図 HZK1801地点
土坑墓 ST138出土遺物

出土遺物（第179図） 1～5は糸切り底の土師器で、1～4は皿、5は坏である。他に土師質の控鉢・播鉢、瓦、石が出土したが図化に耐えない。

甕棺墓 ST137（第180図） 墓坑のプランは確認できていない。検出時は甕棺の上半部が破損しており、棺蓋の存在は不明である。棺内から出土した人骨や遺物は少量のみで、改葬を受けている。

出土遺物（第181図） 1は陶器の甕棺で、口縁部内側に粘土紐を丸く貼り付ける。頸部の釉を拭き取り、肩部、胴部上半に沈線が2条ずつめぐり、18世紀から19世紀の所産（東中川 2000）。2～5は断面四角形の鉄釘である。一部に木質が付着する。他に土師器片、石が出土したが、小片で図化し得ない。

土坑墓 ST138（第182図） 長軸80cm、短軸50cmの範囲から人骨が出土した。他に土師皿、銭貨、木片が出土しており、土坑墓である。木片の出土や人骨の状態から桶棺であった可能性がある。

出土遺物（第183図） 1は糸切り底の土師皿である。2は鉄製の鋏である。3～8は銭貨である。いずれも寛永通寶である。

土坑 SK139（第184図） 長軸150cm、短軸80cmの長方形土坑である。中から人骨の他、土師皿と陶器片が出土し、土坑墓の可能性はある。

出土遺物（第185図） 1は糸切り底の土師皿である。他に石が出土した。

土坑 SK140（第186図） 長軸87cm、短軸64cmの楕円形土坑である。中から茶碗と人骨が出土しており、土坑墓の可能性はある。

出土遺物（第187図） 1は染付の茶碗で、草花文と雲文を施し、高台内に「大明年製」と書かれている。2は糸切り底の土師皿である。3は石製の玉である。

甕棺墓 ST141（第188図） 墓坑のプランは確認できていない。甕棺に破損はみられないが、棺蓋の存在は不明である。棺内から人骨が出土した。

出土遺物（第189図） 1は陶器の甕棺である。口縁の粘土を内側に折り返し、折り返した粘土の下端部の貼り付けは弱い。頸部の屈曲はゆるい。肩部に2条、胴部下半に3条の沈線がめぐり、18世紀から19世紀の所産（東中川 2000）。2～4は断面四角形の鉄釘で、いずれも木質が残る。

土坑墓 ST143（第2図） 調査区【A】南壁（東）で検出した墓坑である。深さは52cmを測る。人骨片が出土した。

出土遺物（第190図） 1はST143出土の低く幅広の高台の付いた白磁皿である。

土坑墓 ST144（第2図） 同じく調査区【A】南壁（東）で検出した墓坑である。墓坑東側の立ち上がりは明瞭でない。人骨片が出土した。

出土遺物（第190図） 2はST144出土の糸切り底の土師皿である。

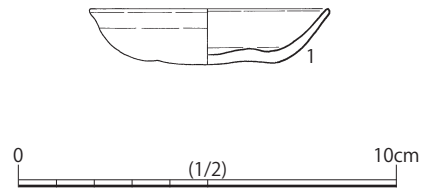
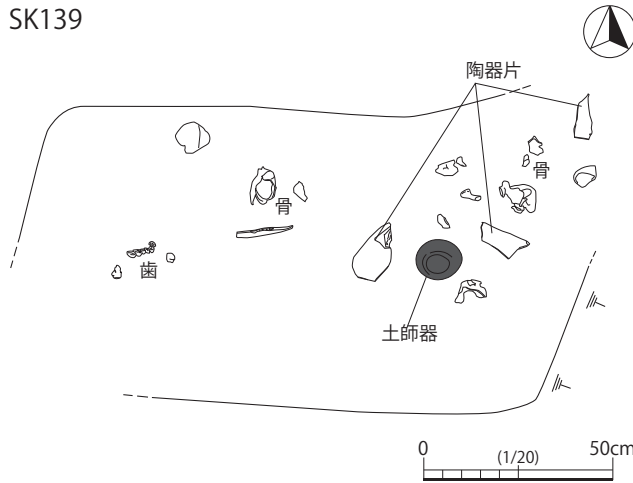
土坑墓 ST145（第2・191図） 調査区【A】南壁（東）で検出した墓坑である。長軸45cm以上、短軸70cmほどの方形土坑である。中から人骨と土師皿、銭貨が出土した。

出土遺物（第192図） 1は糸切り底の土師皿である。2は鉄製の毛抜であるが、変形して大きく開いている。先端部に櫛の一部と思われる木質が付く。3は銭貨で、5枚重なっている。一番下以外は寛永通寶（新寛永）である。

土坑 SK146（第2・193図） 調査区【A】南壁（東）で検出した長軸44cm、短軸35cmの不整楕円形土坑である。中から人骨と炭化物が出土した。土師器の坏・皿・鍋が出土したが、小片で図化し得ない。

甕棺墓 ST147（第2・194図） 調査区【A】南壁（東）で検出した墓坑である。検出時は甕棺の上半部が破損しており、棺蓋の存在は不明である。棺内から出土した人骨や遺物は少量のみで、改葬

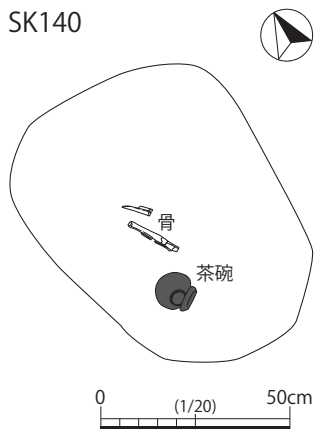
SK139



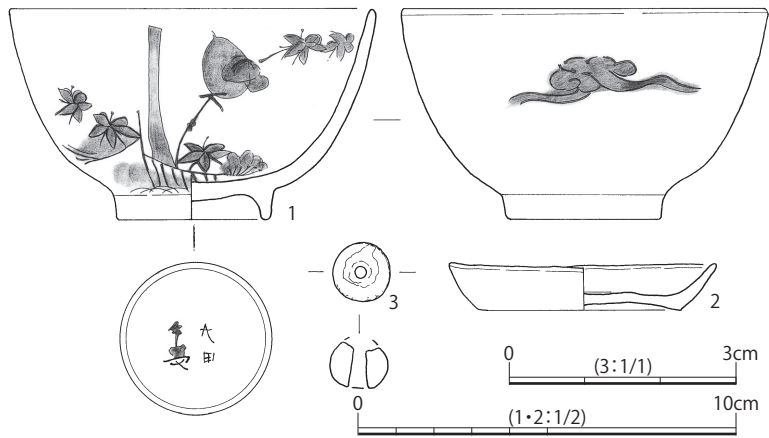
第185図 HZK1801地点
土坑 SK139出土遺物

第184図 HZK1801地点土坑 SK139平面図

SK140

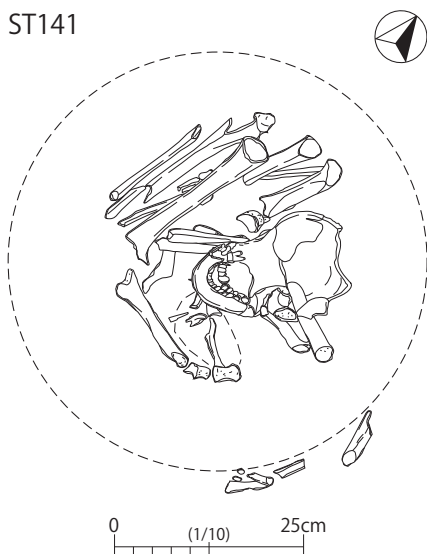


第186図 HZK1801地点
土坑 SK140平面図

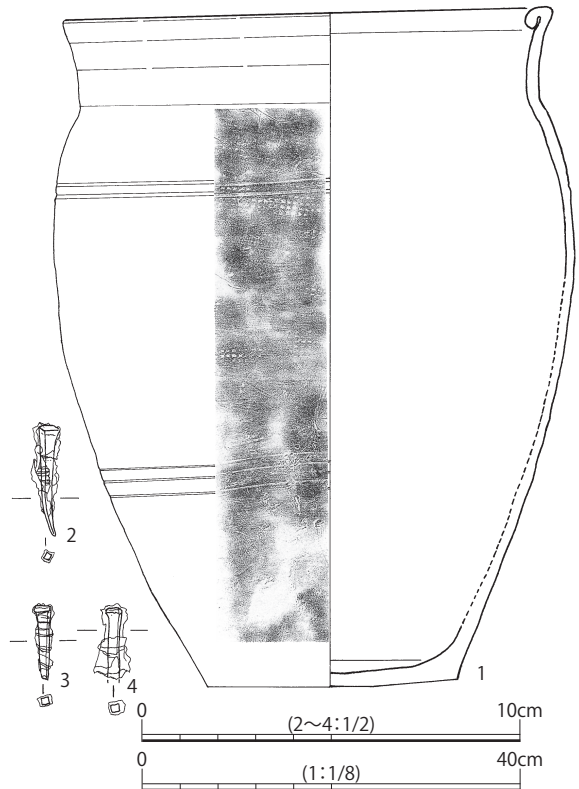


第187図 HZK1801地点土坑 SK140出土遺物

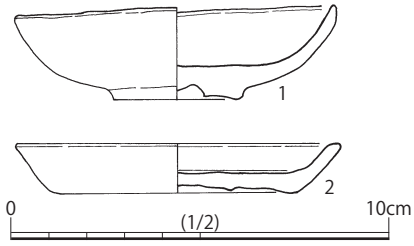
ST141



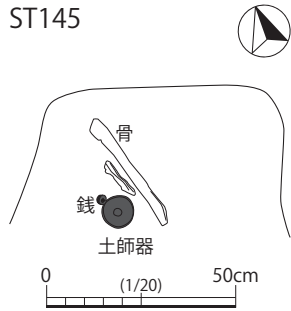
第188図 HZK1801地点甕棺墓 ST141平面図



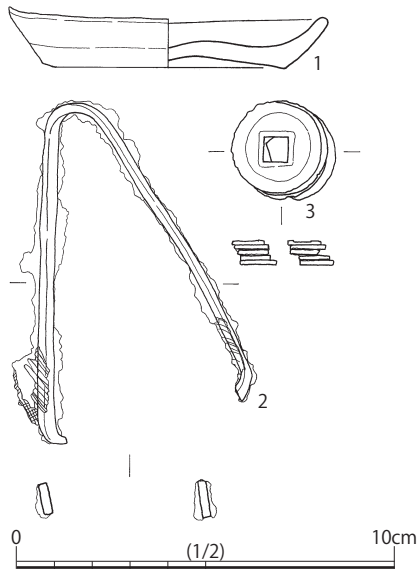
第189図 HZK1801地点甕棺墓 ST141出土遺物



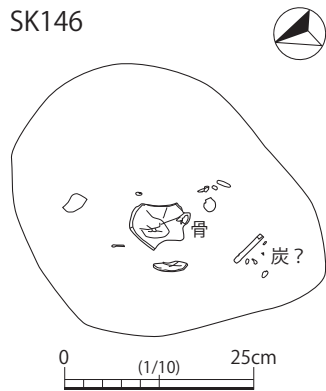
第190図 HZK1801地点
土坑墓 ST143・144出土遺物



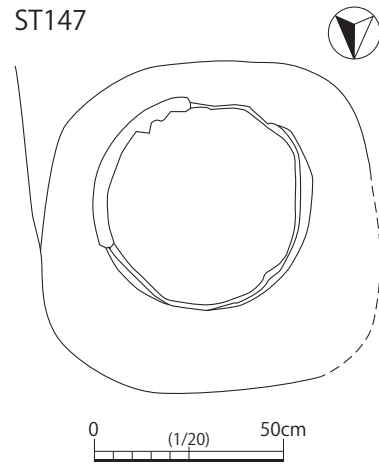
第191図 HZK1801地点
土坑墓 SK145平面図



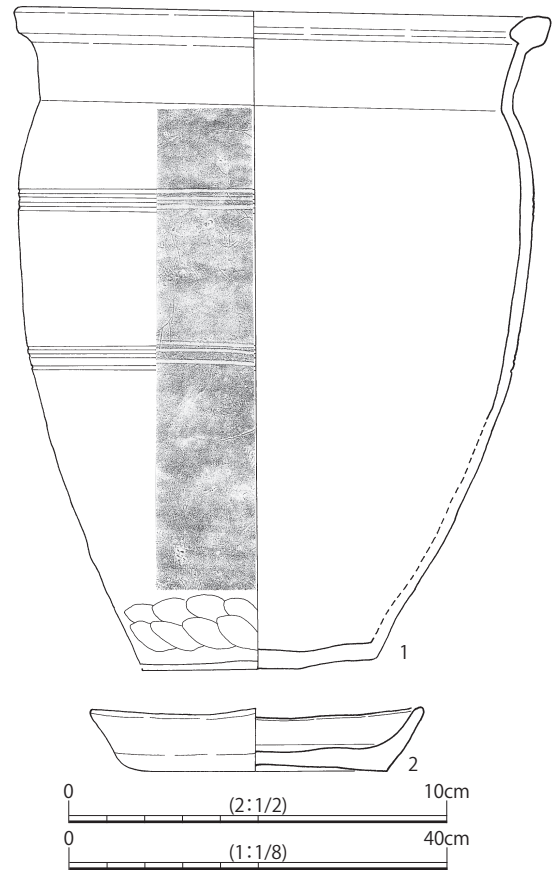
第192図 HZK1801地点
土坑墓 SK145出土遺物



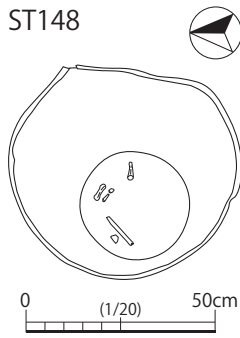
第193図 HZK1801地点
土坑 SK146平面図



第194図 HZK1801地点甕棺墓 ST147平面図



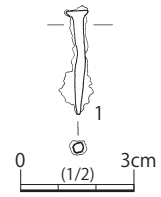
第195図 HZK1801地点甕棺墓 SK147出土遺物



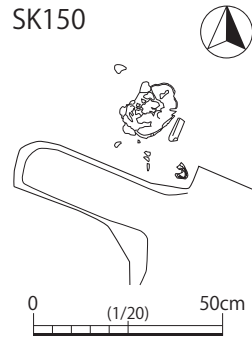
第196図 HZK1801地点
甕棺墓 ST148平面図



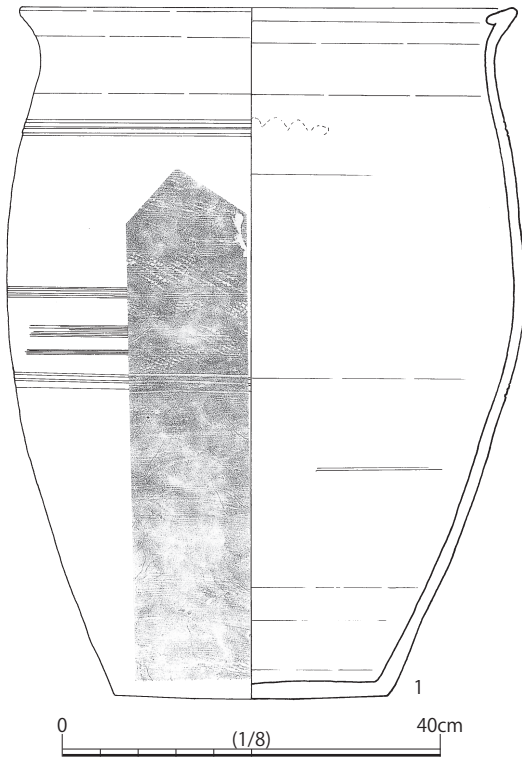
第198図 HZK1801地点
土坑墓 ST149平面図



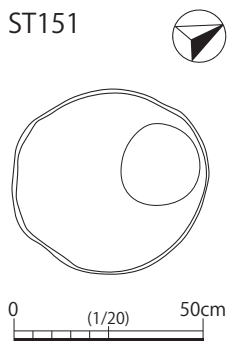
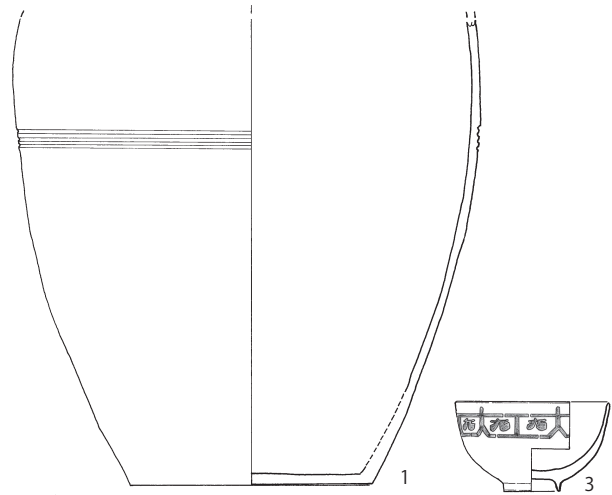
第199図 HZK1801地点
土坑墓 ST149出土遺物



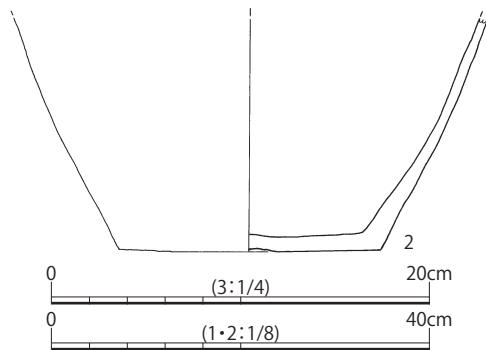
第200図 HZK1801地点
土坑 SK150平面図



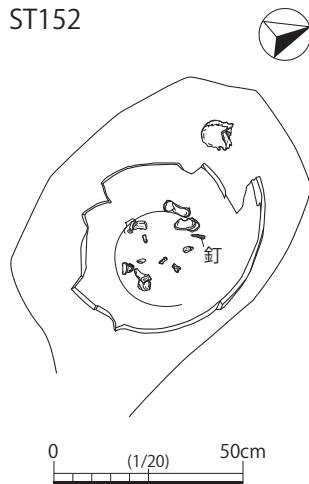
第197図 HZK1801地点
甕棺墓 ST148出土遺物



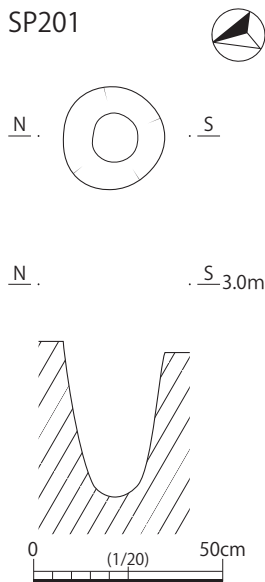
第201図 HZK1801地点
甕棺墓 ST151平面図



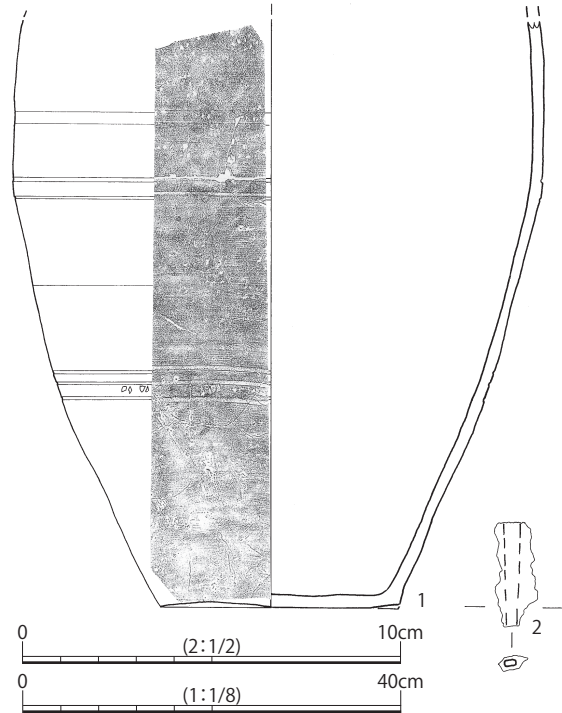
第202図 HZK1801地点甕棺墓 ST151出土遺物



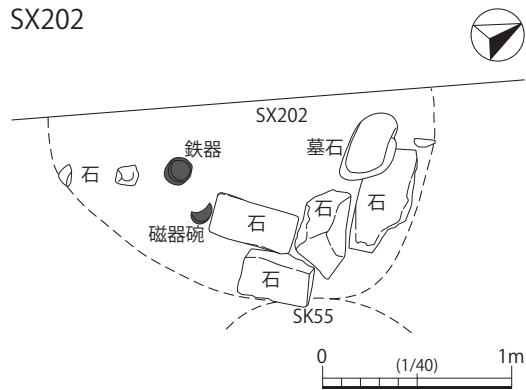
第203図 HZK1801地点甕棺墓 ST152平面図



第205図 HZK1801地点
ピット SP201平面・断面図



第204図 HZK1801地点甕棺墓 ST152出土遺物



第206図 HZK1801地点性格不明遺構 SX202平面図

を受けている。

出土遺物（第195図） 1は陶器の甕棺である。口縁部は粘土を貼り付けて内側を丸く作り、端部と外面に平坦部を作り出す。頸部から口縁にかけて屈曲して開く。肩部と胴部中央付近に沈線が3条ずつめぐる。18世紀から19世紀の所産である（東中川 2000）。2は糸切り底の土師皿である。他に白磁片が出土したが図化に耐えない。

甕棺墓 ST148（第3・196図） 墓坑のプランは確認できていない。検出時は甕棺の上半部が破損しており、棺蓋の存在は不明である。棺内から出土した人骨や遺物は少量のみで、改葬を受けている。

出土遺物（第197図） 1は陶器の甕棺である。口縁部内面に粘土紐が付き、頸部に向かってゆるくカーブする。肩部と胴部下半に3条ずつ沈線がめぐる。18世紀から19世紀の所産である（東中川 2000）。他に土師器片、染付片、石が出土したが図化に耐えない。

土坑墓 ST149（第3・198図） 調査区【B】南壁（西）で検出した土坑墓で、長軸108cm、短軸

60cmほどの楕円形土坑である。中から人骨が出土した。

出土遺物（第199図） 1は断面四角形の鉄釘である。両端部を欠損する。他に土師皿が出土したが、小片で図化に耐えない。

土坑 SK150（第3・200図） 調査区【B】南壁（西）で検出した土坑で、30cm四方の範囲から人骨が出土した。土坑墓の可能性はある。土師器片が出土したが、図化に耐えない。

甕棺墓 ST151（第3・201図） 調査区【B】南壁（西）で検出した墓坑である。検出時は甕棺の上半部が破損しており、棺蓋の存在は不明である。棺内から出土した遺物は少量のみで、改葬を受けている。

出土遺物（第202図） 1・2は陶器の甕棺である。1は口縁部から肩部を欠損し、胴部中央付近に沈線が3条めぐり、2は底部のみ残存する。3は九州大学食器の茶碗で、九大工学部の「大工」を組み合わせた区画の中に「九」を描く。ほかにレンガ片が出土したが、図化に耐えない。

甕棺墓 ST152（第2・203図） 調査区【A】南壁（東）で検出したが、墓坑プランは検出できなかった。検出時は甕棺の上半部が破損しており、棺蓋の存在は不明である。棺内から出土した人骨や遺物は少量のみである。

出土遺物（第204図） 1は陶器の甕棺で口縁部から頸部を欠損する。胴部中央付近に2条と胴部下半に3条沈線がめぐり、2は断面四角形の鉄釘である。

ピット SP201（第205図） 径27cmの円形ピットである。確認面からの深さは43cmである。遺物は出土していない。

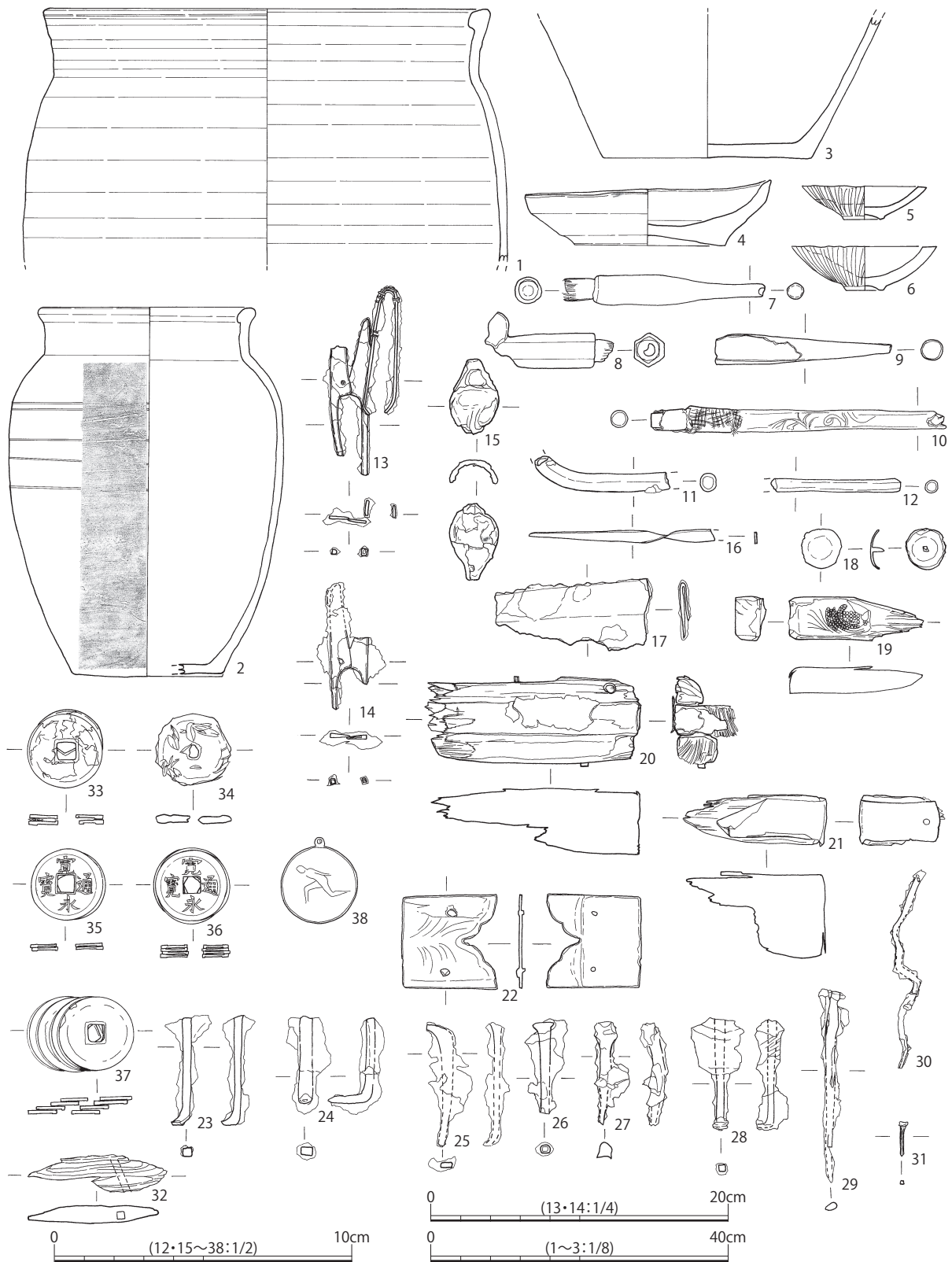
性格不明遺構 SX202（第206図） 長軸204cm、短軸100cm以上の範囲に墓石や墓石に使用されたと考えられる加工石材が集中して出土した。遺構の西側は調査区の西壁に当たり半円形を呈する。調査区より西に遺構が延びるかどうかは判然としない。東側にSK55が隣接する。

遺構外

第207図は遺構外出土である。1～3は陶器の甕棺である。4は糸切り底の土師皿である。5・6は白磁の紅皿である。7～10は銅製のキセルで、7・9・10は吸い口、8は雁首である。7は羅字の一部が残存する。8は羅字との接合部の断面が六角形を呈する。10は毛彫りで草花文をあしらひ、一部に羅字が残り、布が付着している。11・12は筒状の銅製品で、キセルの可能性はあるがやや細い。13は鉄製の鉢に毛抜が錆着したもの、14は鉄製の鉢である。15は銅製の鈴である。16は銅製の簪状の飾り金具で、細い带状の銅板を捩って成形する。17は銅製の板を折りたたんで長方形にした金具で刀子状である。18は円形の金銅製鍔金具で、表面は円弧状に膨らみ、裏面の針状の突起で木材と固定する。19～21は長方形の板状の鍔金具である。いずれも木質が残る。19には魚々子と毛彫りが施される。22は板状の鍔金具で、一方が四角形に加工されることから、櫃の角に取り付けたものと思われる。もう一方の端部は装飾的に加工し、表面に毛彫りが見られる。23～28は断面四角形の鉄釘である。29～31は鉄釘である。32は木質に釘が刺さったものである。扇の要部分と思われる。33～37は銭貨である。33は2枚重なっている。34は表面にモミガラが付着する。35は2枚、36は4枚重なっており、いずれも一番上は寛永通寶である。37は4枚重なっている。38は森永製菓が戦前に作製したノベルティのメダルである。

3. 小結

HZK1801地点（航空風洞実験室西地点）は、近世の甕棺墓が確認されたHZK1602地点に一部重複



第207图 HZK1801地点遺構外出土遺物

して隣接する。

調査の結果、土坑墓22基、甕棺墓51基、甕棺片出土集中部7箇所、土坑20基、性格不明遺構5基を確認した。

甕棺墓の調査においては、九州帝国大学設置時に削平されたり、造成以前に墓地の移転に伴うと考えられる改葬が行われたりと埋設当時以降改変を多く受けていたため、墓坑の検出が困難を極めた。一方で良好な人骨の他、多くの遺物が出土した。特に七星板は、今までに類例の少ない資料であることから、今後類例の増加や新たな知見が得られることに期待したい。

土坑墓については、木質の残る銚金具や鉄釘が出土した例も多く、木棺墓であった可能性があるものを多く含んでいる。

甕棺片出土集中部や性格不明遺構とした中に多く含まれる不要になった墓石の集積は、意図しない結果によるものであるが、改葬や墓地移転に伴う行動の一端を表して興味深い。

墓域は調査区の外側に広がっていることが明白であったため、本調査以降 HZK2006地点・HZK2007地点の調査が行われた。詳細は各地点の発掘調査報告である九州大学埋蔵文化財調査室報告第11集・第12集、および人骨の出土状況について報告した九州大学埋蔵文化財調査室報告第14集をご覧いただきたい。これらの調査結果も含めると、近世の墓域の把握に始まった調査は、火葬土坑や中世墓の検出、中世から近世にかけての墓地形成など多くの成果を上げたことから、本調査地点の成果と合わせ、中近世の墓葬研究がさらに進展することを期待する。
(谷 直子・齋藤瑞穂)

参考文献

- 阿部泰之（編）2022『箱崎64—第92次・第102次・第108次発掘調査報告書—』福岡市埋蔵文化財調査報告書第1457集、福岡市教育委員会
- 小山憲一（編）2006『浄土近世墓地調査報告 近世墓地の発掘調査と周辺文化財』三重県埋蔵文化財調査報告265、三重県埋蔵文化財センター
- 田上勇一郎（編）2004『博多87—博多遺跡群124次調査の報告—』福岡市埋蔵文化財調査報告書758、福岡市教育委員会
- 東中川忠美 2000「陶器の編年」『九州陶磁の編年 九州近世陶磁学会10周年記念』九州近世陶磁学会
- 福永将大（編）2021『九州大学箱崎キャンパス発掘調査報告4 箱崎遺跡—HZK1901・1905・2001・2002・2004地点—』九州大学埋蔵文化財調査室報告第5集、九州大学埋蔵文化財調査室
- 福永将大（編）2022『九州大学箱崎キャンパス発掘調査報告5 箱崎キャンパス地区元寇防塁調査総括報告書』九州大学埋蔵文化財調査室報告第7集、九州大学埋蔵文化財調査室
- 本田浩二郎（編）2022『箱崎68—第102次・第113次・第118次発掘調査報告書—』福岡市埋蔵文化財調査報告書第1485集、福岡市教育委員会
- 宮崎亮一（編）2000『大宰府条坊跡 XV—陶磁器分類編』太宰府市教育委員会
- 村山卓（編）2022『栗橋宿遺跡Ⅶ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書474集、埼玉県埋蔵文化財事業団

第1表 HZK1801地点遺物観察表 *計測値の単位は cm

図	遺構	種類	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	胎土	焼成	色調	調整	備考
5-1	ST01	銅製品 銭	2.5	2.5	0.6					2枚：洪武通寶ほか 布付着
5-2	ST01	銅製品 銭	2.4	2.4	0.1					元豊通寶
5-3	ST01	銅製品 銭	2.3	2.3	0.1					慶長通寶 布付着
5-4	ST01	銅製品 銭	2.2	2.2	0.1					嘉祐通寶 布付着
5-5	ST01	銅製品 銭	2.2	2.2	0.1					祥符通寶 布付着

I HZK1801地点（航空風洞実験室西地点）

図	遺構	種類	口径/ 長さ	底径/ 幅	器高/ 厚さ	胎土	焼成	色調	調整	備考
6-1	ST14	鉄製品 刀子?	[2.4]	[1.4]	0.4					
9-1	SP20	土師器 坏	(13.9)	(9.4)	2.5	緻密, 直径1~2mmの砂 粒・赤色粒子を含む	良好	外: 7.5YR7/4にぶい橙 内: 7.5YR7/6橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
9-2	SP20	土師器 坏	(11.8)	7.0	2.7	緻密, 直径1mm大の砂 粒を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	
9-3	SP20	土師器 坏	(12.2)	(7.4)	2.5	緻密, 直径1~2mmの砂 粒・赤色粒子を含む	良好	外: 7.5YR7/4にぶい橙 内: 7.5YR8/4浅黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	外面に爪痕跡有
9-4	SP20	土師器 皿	(6.4)	5.0	1.05	緻密, 直径1mm大の砂 粒を含む	良好	外: 7.5YR7/4にぶい橙 内: 7.5YR8/4浅黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
9-5	SP20	土師器 皿	(7.8)	6.0	1.2	緻密, 直径1~2mmの砂 粒を含む	良好	5YR6/6橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
9-6	SP20	土師器 皿	(7.4)	5.0	1.75	緻密, 直径1mm大の砂 粒を含む	良好	外: 7.5YR7/4にぶい橙 内: 7.5YR7/6橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
11-1	SK24	陶器 甕棺	36.9	18.7	52.8	緻密, 直径1~2mmの砂 粒を少し含む	良好	外: 7.5YR2/2黒褐 内: 10YR3/2黒褐	外: 施釉, 露胎 内: 施釉, 底打ち	口縁部にメアト有
11-2	SK24	陶器 甕棺	35.6	(18.8)	47.5	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を含む	良好	外: 2.5YR3/2暗赤褐 内: 5YR5/2灰褐	外: ナデ, 施釉, 施文 内: ナデ, 施釉	口縁部にメアト有 肩部に波状文有
11-3	SK24	陶器 甕棺	37.3		[42.0]	緻密, 赤色・黄色の粘 土が混ざる	良好	7.5YR2/3極暗褐	外: タタキ, 施釉, 露胎 内: タタキ, 施釉	口縁部にメアト有
11-4	SK24	陶器 甕棺	(49.4)		[46.8]	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を含む	良好	2.5YR4/2灰赤	外: タタキ, ナデ, 施釉, 露胎 内: タタキ, ナデ, 施釉	
11-5	SK24	陶器 甕棺	(48.2)		[33.2]	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を少し含む	良好	外: 7.5YR2/2黒褐 内: 10YR5/2灰黄褐	外: タタキ, ナデ, 施釉, 露胎 内: ナデ, 施釉	
11-6	SK24	陶器 甕棺	(44.3)		[49.2]	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を含む	良好	7.5YR4/3褐	外: タタキ, ナデ, 施釉 内: タタキ, ナデ, 施釉	
11-7	SK24	陶器 甕棺	55.4	27.3	72.1	緻密, 直径1~4mmの砂 粒・赤色粒子を含む	良好	外: 5YR2/3極暗赤褐 内: 7.5YR2/3極暗褐	外: タタキ, ナデ, 施釉, 露胎 内: タタキ, ナデ, 施釉	底部にメアト有
11-8	SK24	陶器 甕棺		21.0	[29.2]	緻密, 直径5mm大の砂 粒を少し含む	良好	外: 7.5YR4/2灰褐 内: 7.5YR3/2黒褐	外: ナデ, 施釉 内: ナデ, 施釉	
12-1	SK24	陶器 甕棺	49.0		[63.8]	緻密, 直径1~2mm大の 砂粒・赤色粒子を少し 含む	良好	外: 2.5YR3/3暗赤褐 内: 5YR3/3暗赤褐	外: タタキ, ナデ, 施釉 内: タタキ, ナデ, 施釉	
12-2	SK24	陶器 甕棺	(54.8)	(25.6)	70.3	緻密, 直径1~2mm大の 砂粒・赤色粒子を含む	良好	外: 2.5Y3/3暗オリーブ褐 内: 2.5Y4/3オリーブ褐	外: タタキ, ナデ, 施釉 内: タタキ, ナデ, 施釉	口縁部にメアト有
12-3	SK24	陶器 甕棺	50.3	26.5	77.2	緻密, 直径1mm大の砂 粒・赤色粒子を少し含 む	良好	外: 10YR5/4にぶい黄褐 内: 10YR5/2灰黄褐	外: タタキ, ナデ, 施釉, 施文 内: タタキ, ナデ, 施釉	口縁部にメアト有
12-4	SK24	土師器 皿	6.1	4.0	1.1	緻密, 直径1mm大の砂 粒・雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
12-5	SK24	土師器 皿	6.4	3.8	1.3	緻密, 直径1mm大の砂 粒・雲母片を含む	良好	5YR7/3にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
12-6	SK24	土師器 皿	6.4	3.7	1.6	緻密, 直径1mm大の砂 粒・雲母片を含む	良好	5YR7/3にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
12-7	SK24	土師器 皿	6.1	3.7	1.0	緻密, 直径1mm大の砂 粒・雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
12-8	SK24	銅・ガラス 製品 メガネ	[4.6]	[3.7]	0.8					
12-9	SK24	鉄製品 釘	[4.0]	[1.7]	0.3					木質付着
12-10	SK24	鉄製品 釘	[3.4]	[1.5]	0.8					木質付着
12-11	SK24	鉄製品 釘	[2.1]	[2.1]	0.2					木質付着
14-1	SK26	陶器 甕棺	(49.6)	26.0	70.5	緻密, 直径1~5mmの砂 粒・赤色粒子を多く含 む	良好	外: 2.5Y4/3オリーブ褐 内: 2.5Y3/2黒褐	外: タタキ, ナデ, 施釉, 露胎 内: タタキ, ナデ, 施釉	
14-2	SK26	陶器 甕棺	51.6	29.6	[75.8]	緻密, 直径1~3mm大の 砂粒を含む	良好	外: 2.5Y3/3暗オリーブ褐 内: 7.5YR3/3暗褐	外: タタキ, ナデ, 施釉, 露胎 内: タタキ, ナデ, 施釉	
14-3	SK26	陶器 甕棺	55.8	27.5	82.5	緻密, 直径1~3mmの砂 粒を多く含む	良好	外: 10YR5/4にぶい黄褐 内: 7.5YR4/4褐	外: タタキ, ナデ, 施釉 内: タタキ, ナデ, 施釉	
14-4	SK26	陶器 甕棺	54.7	(27.5)	80.7	緻密, 直径1~8mmの砂 粒・黒色粒子を多く含 む	良好	外: 7.5YR3/4暗褐 内: 7.5YR2/3極暗褐	外: タタキ, ナデ, 施釉 内: タタキ, ナデ, 施釉	底部にメアト有
15-1	SP31	鉄製品 釘	[2.7]	[1.5]	0.6					
17-1	SX35	土師器 皿	6.75	4.7	1.2	緻密, 直径1mm大の砂 粒を含む, 雲母片を多 く含む	良好	10YR6/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	

図	遺構	種類	口径/ 長さ	底径/ 幅	器高/ 厚さ	胎土	焼成	色調	調整	備考
17-2	SX35	土師器 皿	6.6	3.6	1.2	緻密, 直径1mm大の砂 粒・雲母片を少し含む	良好	5YR4/4にぶい赤褐	外: ナデ, 系切り 内: ナデ	
17-3	SX35	土師器 甕	32.6	18.75	38.0	緻密, 直径1mm大の砂 粒・赤色粒子を含む	良好	外: 2.5Y5/2暗灰黄 内: 2.5Y4/1黄灰	外: ナデ, ハケメ 内: ナデ, ハケメ	
17-4	SX35	陶器 甕棺	58.8	(26.6)	92.0	緻密, 直径1~2mmの砂 粒・黒色粒子を少し含 む	良好	2.5Y5/4黄褐	外: タタキ, ナデ, 施釉 内: タタキ, ナデ, 施釉	
19-1	SB36	白磁 香炉	(10.0)	(4.3)	5.1	緻密	良好	外: 7.5Y5/2灰オリーブ 内: 2.5YR4/6赤褐	外: 施釉, 露胎 内: 施釉	
19-2	SB36	白磁 香炉		4.6	[1.7]	緻密	良好	外: 10GY8/1明緑灰 内: 7.5YR7/4にぶい橙	外: 施釉, 露胎 内: 施釉	底部内面にメアト 有
19-3	SB36	土師器 皿	8.8	5.6	2.2	緻密, 直径1mm大の砂 粒・雲母片を含む	良好	10YR6/4にぶい黄橙	外: ナデ, 系切り 内: ナデ	
19-4	SB36	土師器 皿	7.3	5.0	1.4	緻密, 直径1mm大の砂 粒・雲母片を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 系切り 内: ナデ	
19-5	SB36	金銅製品 銚金具	3.1	3.2	0.1				外: 金メッキ, 模様有	
22-1	ST40	陶器 甕棺	35.6	20.8	45.2	緻密, 直径1~5mmの砂 粒を少し含む	良好	外: 2.5YR3/2暗赤褐 内: 5YR4/2灰褐	外: タタキ, ナデ, 施釉 内: タタキ, ナデ, 施釉	貼付けボタン文有
24-1	SX41	陶器 甕棺	25.5	14.0	27.65	緻密, 直径3mm大の砂 粒・黒色粒子を含む	良好	外: 2.5Y6/4にぶい黄 内: 2.5YR3/2暗赤褐	外: ナデ, 施釉, 露胎 内: ナデ, 施釉	貼花文有
24-2	SX41	陶器 甕棺	49.2	27.2	78.2	緻密, 直径1~2mmの砂 粒・赤色粒子を少し含 む	良好	外: 2.5YR2/4極暗赤褐 内: 5YR5/2灰褐	外: タタキ, ナデ, 施釉, 露胎 内: タタキ, ナデ, 施釉	口縁部にスス付着 ・メアト有
24-3	SX41	陶器 甕棺	53.0	(26.8)	74.6	緻密, 直径1~2mm大の 砂粒を少し含む	良好	外: 7.5YR6/4にぶい橙 内: 10YR5/4にぶい黄褐	外: タタキ, ナデ, 施釉 内: タタキ, ナデ, 施釉	口縁・底部にメアト 有
26-1	SK42	鉄製品 釘	[2.3]	[1.7]	0.6					木質付着
28-1	SK43	陶器 甕棺	34.0	19.7	43.5	緻密, 直径3mm大の砂 粒を少し含む	良好	2.5YR3/2暗赤褐	外: 施釉, 縄状突帯 内: 施釉, タタキ, 底打ち	口縁部にメアト有
28-2	SK43	陶器 甕棺	34.6	18.3	52.2	緻密, 直径1~2mmの砂 粒を少し含む	良好	10YR3/2黒褐	外: ナデ, 施釉, 露胎 内: ナデ, 施釉, 底打ち	
28-3	SK43	陶器 甕棺	(37.0)	23.1	52.4	緻密, 直径3mm大の砂 粒を少し含む	良好	外: 7.5YR3/3暗褐 内: 7.5YR3/2黒褐	外: タタキ, 施釉 内: タタキ, 施釉	
28-4	SK43	陶器 甕棺	37.5	19.4	50.5	緻密, 直径1~5mmの黒 ・赤色粒子を含む	良好	外: 5YR3/2暗赤褐 内: 7.5YR3/2黒褐	外: ナデ, 施釉, 露胎 内: タタキ, 施釉	口縁部にメアト有
28-5	SK43	陶器 甕棺	30.6	19.2	50.3	緻密, 直径3mm大の砂 粒を少し含む	良好	外: 10YR3/2黒褐 内: 10YR4/2灰黄褐	外: タタキ, ナデ, 施釉, 露胎 内: ナデ, 施釉	口縁・底部にメアト 有
28-6	SK43	陶器 甕棺	59.6	(28.8)	73.9	緻密, 直径1mm大の砂 粒を多く含む	良好	外: 10YR7/3にぶい黄橙 内: 7.5YR5/3にぶい褐	外: タタキ, ナデ, 施釉 内: タタキ, ナデ, 施釉	
28-7	SK43	陶器 甕棺	56.7	31.5	79.6	緻密, 直径2~6mmの砂 粒を多く含む	良好	外: 7.5YR3/2黒褐 内: 2.5Y6/2灰黄	外: タタキ, ナデ, 施釉 内: タタキ, ナデ, 施釉	口縁部にメアト有 肩部に刻字有
28-8	SK43	土師器 皿	6.1	4.8	1.0	緻密, 直径1mm大の砂 粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外: ナデ, 系切り 内: ナデ	
28-9	SK43	土師器 皿	6.3	4.4	1.0	緻密, 直径1mm大の砂 粒・雲母片を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 系切り 内: ナデ	
28-10	SK43	白磁 香炉		4.4	[4.3]	緻密, 直径1mm大の砂 粒を少し含む	良好	10GY8/1明緑灰	外: ナデ, 施釉, 露胎 内: ナデ, 施釉, 露胎	
31-1	ST45	陶器 甕棺	(43.5)	22.1	61.0	緻密, 直径1~2mmの砂 粒を少し含む	良好	外: 10YR3/2黒褐 内: 2.5YR4/2灰赤	外: タタキ, ナデ, 施釉, 露胎 内: タタキ, ナデ, 施釉	
31-2	ST45	陶器 甕棺	52.0	29.0	72.4	緻密, 直径1~2mmの砂 粒・赤色粒子を少し含 む	良好	外: 10YR5/4にぶい黄褐 内: 10YR3/3暗褐	外: タタキ, ナデ, 施釉, 露胎 内: タタキ, ナデ, 施釉	
31-3	ST45	陶器 碗	8.7	3.7	4.85	緻密	良好	2.5Y7/4浅黄	外: ナデ, 施釉, 露胎 内: ナデ, 施釉	
31-4	ST45	土師器 皿	6.2	3.1	1.2	緻密, 直径1mm大の砂 粒・雲母片を含む	良好	10YR6/3にぶい黄橙	外: ナデ, 系切り 内: ナデ	
33-1	ST46	鉄製品 釘	[3.5]	[1.5]	0.5					木質付着
33-2	ST46	鉄製品 釘	[3.5]	[1.1]	0.5					
35-1	ST47	土師器 皿	7.4	4.0	1.4	緻密	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 系切り 内: ナデ	
35-2	ST47	土師器 皿	7.4	4.0	1.3	緻密	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 系切り 内: ナデ	
35-3	ST47	鉄製品 釘	[2.0]	[1.4]	0.9					
35-4	ST47	鉄製品 釘	[3.6]	[1.5]	0.4					

I HZK1801地点（航空風洞実験室西地点）

図	遺構	種類	口径/ 長さ	底径/ 幅	器高/ 厚さ	胎土	焼成	色調	調整	備考
37-1	SK48	陶器 甕棺	57.5	28.5	87.6	緻密, 直径1~3mmの砂 粒を多く含む	良好	外: 10YR6/3にぶい黄橙 内: 7.5YR6/6橙	外: タタキ, ナデ, 施釉 内: タタキ, ナデ, 施釉	
39-1	SX56	陶器 蓋	9.0		3.7	緻密	良好	10YR8/2灰白	外: ナデ 内: ナデ	無釉 底部側面に刻印有
39-2	SX56	陶器 壺	10.2		14.5	緻密	良好	10YR8/2灰白	外: ナデ, ミガキ, 施文 内: ナデ	無釉
43-1	ST57	陶器 甕棺	56.8	27.2	70.2	緻密, 直径1~2mmの砂 粒を多く含む	良好	外: 7.5YR5/6明褐 内: 5YR3/4暗赤褐	外: タタキ, ナデ, 施釉 内: タタキ, ナデ, 施釉	底部にメアト有
43-2	ST57	土師器 皿	8.2	3.8	1.6	緻密	良好	10YR6/2灰黄褐	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
43-3	ST57	土師器 皿	8.2	3.8	1.7	緻密	良好	10YR6/2灰黄褐	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
43-4	ST57	木製品 鏡箱蓋	19.4	11.2	1.6				縁板は11本の木釘で固定	
43-5	ST57	木製品 鏡箱	18.2	10.2	1.5				縁板は8本の木釘で固定	
43-6	ST57	銅・鉄製品 柄鏡・毛抜	16.4	9.0	2.1				銘: 奈村因幡守重歳	毛抜は長さ8.0幅 1.9厚さ0.9cm
43-7	ST57	木製品 七星板	19.4	11.4	2.5				ナナメの鋸挽痕, 面取り, 8箇 所穿孔 (貫通無し)	
43-8	ST57	木製品 櫛	[3.5]	[3.5]	0.6					柄鏡と共伴
43-9	ST57	鉄製品 釘	[3.0]	[1.0]	0.3					
43-10	ST57	鉄製品 釘	[4.3]	[1.1]	0.4					
43-11	ST57	鉄製品 釘	[3.2]	[1.2]	0.3					木質付着
43-12	ST57	鉄製品 釘	[2.0]	[1.1]	0.4					木質付着
43-13	ST57	鉄製品 釘	[1.2]	[0.4]	0.3					
43-14	ST57	鉄製品 釘	[1.4]	[1.2]	0.4					
43-15	ST57	銅・鉄製品 銭	3.4	2.7	0.4					5枚のうち下2枚: 寛永通寶・鉄銭1
43-16	ST57	銅・鉄製品 銭	3.5	3.4	0.9					5枚のうち上3枚: 寛永通寶・鉄銭1
45-1	ST58	陶器 甕棺	51.6	27.0	77.3	緻密, 直径3~5mmの砂 粒を少し含む	良好	外: 2.5YR3/4暗赤褐 内: 5YR4/2灰褐	外: タタキ, ナデ, 施釉 内: タタキ, ナデ, 施釉	底部に「七古」の 墨書有
45-2	ST58	土師器 皿	7.0	5.3	1.1	緻密	不良	10YR7/2にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
45-3	ST58	土師器 皿	7.0	3.0	1.6	緻密	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
45-4	ST58	鉄製品 鈇・毛抜	[7.4]	3.7	1.0					
45-5	ST58	銅製品 銭	3.1	3.1	1.4					6枚: 寛永通寶 布か紙のようなもの が付着
47-1	ST59	土師器 皿	8.2	6.0	1.3	緻密, 直径1mm大の砂 粒・赤色粒子を含む	不良	外: 7.5YR7/4にぶい橙 内: 7.5YR7/6橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
47-2	ST59	土師器 皿	8.2	5.5	1.6	緻密, 直径1mm大の砂 粒・赤色粒子を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
47-3	ST59	銅製品 銭	2.5	2.5	0.1					寛永通寶で文銭
47-4	ST59	銅製品 銭	[2.3]	2.4	0.1					寛永通寶 鑄出しが悪い
47-5	ST59	銅製品 銭	2.4	2.4	0.15					寛永通寶
47-6	ST59	銅製品 銭	[2.2]	2.4	0.1					寛永通寶 鑄出しが悪い
47-7	ST59	銅製品 銭	2.5	2.5	0.1					寛永通寶
47-8	ST59	銅製品 銭	[1.4]	[1.2]	0.1					
47-9	ST59	銅製品 銭	[1.0]	[1.2]	0.1					

図	遺構	種類	口径/ 長さ	底径/ 幅	器高/ 厚さ	胎土	焼成	色調	調整	備考
49-1	ST60	土師器 皿	8.4	7.0	1.2	緻密, 直径1mm大の砂 粒・雲母片を多く含む	やや 不良	10YR7/4にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
49-2	ST60	土師器 皿	8.6	7.2	1.1	緻密, 直径1mm大の砂 粒・雲母片を含む	良好	10YR7/4にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
49-3	ST60	鉄製品 毛抜	9.7	2.5	0.8					繊維片・木質付着
49-4	ST60	鉄製品 刀子	[18.9]	[2.8]	0.8					
49-5	ST60	鉄製品 釘	[2.4]	[1.2]	0.8					
49-6	ST60	鉄製品 釘	[2.9]	[1.3]	0.4					
49-7	ST60	鉄製品 釘	[1.5]	[1.3]	0.6					木質付着
49-8	ST60	鉄製品 釘	[1.4]	[0.8]	0.7					
49-9	ST60	鉄製品 釘	[2.4]	[1.2]	1.0					
49-10	ST60	銅製品 銭	2.8	2.9	0.8					6枚: 寛永通寶で 文銭有 布付着
51-1	ST61	陶器 甕棺	57.3	25.8	72.1	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を多く含む	良好	5YR2/3極暗赤褐	外: タタキ, ナデ, 施釉, 露胎 内: タタキ, ナデ, 施釉	
51-2	ST61	土師器 皿		(5.8)	[0.7]	緻密, 直径1~2mmの砂 粒を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	
51-3	ST61	鉄製品 釘	[2.4]	[0.6]	0.3					
51-4	ST61	鉄製品 釘	[3.3]	[1.0]	0.4					木質付着
51-5	ST61	銅製品 キセル首部	[4.9]	1.8	1.8					羅宇の一部が残存 繊維片付着
51-6	ST61	銅製品 キセル吸口	10.9	2.1	1.4					羅宇の一部が残存 繊維片付着
51-7	ST61	鉄製品 毛抜	[6.7]	1.6	1.0					繊維片付着
51-8	ST61	銅・鉄製品 銭	2.7	3.3	1.2					2枚?
51-9	ST61	銅・鉄製品 銭	3.9	4.1	1.9					4枚: 寛永通寶ほ か・鉄銭有
52-1	ST122	鉄製品 釘	[1.8]	[1.6]	0.3					
54-1	ST62	陶器 甕棺	53.2	29.7	70.2	緻密	良好	外: 2.5YR2/2極暗赤褐 内: 5YR4/2灰褐	外: タタキ, ナデ, 施釉 内: タタキ, ナデ, 施釉	口縁部にメアト有
54-2	ST62	土師器 皿	6.8	3.0	1.2	緻密	良好	外: 10YR4/2灰黄褐 内: 2.5Y6/2灰黄	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
54-3	ST62	土師器 皿	6.6	3.6	1.15	緻密	良好	外: 2.5Y6/2灰黄 内: 2.5Y6/1黄灰	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
54-4	ST62	鉄製品 鋏	19.8	4.2	0.9					
54-5	ST62	鉄製品 釘	[3.7]	[3.0]	0.9					木質付着
54-6	ST62	鉄製品 釘	4.0	2.6	0.6					木質付着
54-7	ST62	鉄製品 釘	[1.5]	0.6	0.4					
54-8	ST62	銅製品 キセル首部	[4.8]	1.6	2.2					羅宇が残存
54-9	ST62	銅・鉄製品 銭	3.2	3.7	0.7					4枚?: 寛永通寶 ほか・鉄銭2
54-10	ST62	木製品 数珠玉	0.6	0.7	0.5					
54-11	ST62	木製品 数珠玉	0.7	0.7	0.5					
54-12	ST62	木製品 数珠玉	0.7	0.7	0.5					
54-13	ST62	木製品 数珠玉	0.7	0.7	0.5					

I HZK1801地点（航空風洞実験室西地点）

図	遺構	種類	口径/ 長さ	底径/ 幅	器高/ 厚さ	胎土	焼成	色調	調整	備考
54-14	ST62	木製品 数珠玉	0.7	0.7	0.5					
54-15	ST62	木製品 数珠玉	0.7	0.7	0.5					
54-16	ST62	木製品 数珠玉	0.7	0.7	0.5					
54-17	ST62	木製品 数珠玉	0.7	0.8	0.5					
54-18	ST62	木製品 数珠玉	0.7	0.8	0.5					
54-19	ST62	木製品 数珠玉	0.7	0.8	0.5					
54-20	ST62	木製品 数珠玉	0.7	0.7	0.5					
54-21	ST62	木製品 数珠玉	0.7	0.7	0.4					
54-22	ST62	木製品 数珠玉	0.7	0.8	0.4					
54-23	ST62	木製品 数珠玉	0.7	0.7	0.5					
54-24	ST62	木製品 数珠玉	0.6	0.7	0.4					
54-25	ST62	木製品 数珠玉	0.9	0.9	0.6				側面に穿孔（貫通なし）	
54-26	ST62	木製品 数珠玉	0.7	0.7	0.4					
54-27	ST62	木製品 数珠玉	0.7	0.7	0.4					
54-28	ST62	木製品 数珠玉	0.7	0.7	0.4					
54-29	ST62	木製品 数珠玉	0.7	0.8	0.5					
54-30	ST62	木製品 数珠玉	0.7	0.8	0.5					
54-31	ST62	木製品 数珠玉	0.8	0.8	0.5					
54-32	ST62	木製品 数珠玉	0.7	0.8	0.4					
54-33	ST62	木製品 数珠玉	0.7	0.8	0.4					
54-34	ST62	木製品 数珠玉	0.7	0.7	0.5					
54-35	ST62	木製品 数珠玉	0.7	0.7	0.5					
54-36	ST62	木製品 数珠玉	0.7	0.8	0.5					
54-37	ST62	木製品 数珠玉	0.6	0.7	0.4					
54-38	ST62	木製品 数珠玉	0.6	0.8	0.4					
54-39	ST62	木製品 数珠玉	0.7	0.7	0.5					
54-40	ST62	木製品 数珠玉	0.6	0.7	0.3					
54-41	ST62	木製品 数珠玉	0.7	1.2	0.7					
54-42	ST62	木製品 数珠玉	0.7	1.1	0.7					
54-43	ST62	木製品 数珠玉	0.7	1.2	0.7					
54-44	ST62	木製品 数珠玉	0.7	1.2	0.7					
54-45	ST62	木製品 数珠玉	0.7	1.2	0.7					
54-46	ST62	木製品 数珠玉	0.7	1.2	0.7					

図	遺構	種類	口径/ 長さ	底径/ 幅	器高/ 厚さ	胎土	焼成	色調	調整	備考
54-47	ST62	木製品 数珠玉	0.7	1.2	0.7					
54-48	ST62	木製品 数珠玉	0.6	1.1	0.6					
54-49	ST62	木製品 数珠玉	0.7	1.2	0.7					
54-50	ST62	木製品 数珠玉	0.7	1.3	0.7					
54-51	ST62	木製品 数珠玉	0.7	1.1	0.6					
54-52	ST62	木製品 数珠玉	0.7	1.2	0.6					
54-53	ST62	木製品 数珠玉	0.7	1.2	0.7					
54-54	ST62	木製品 数珠玉	0.8	1.2	0.7					
54-55	ST62	木製品 数珠玉	0.6	1.2	0.6					
54-56	ST62	木製品 玉	0.6	0.7	0.3					
56-1	ST63	陶器 甕棺	59.4	28.8	66.8	緻密	良好	外：10YR5/3にぶい黄褐 内：2.5YR7/2明赤灰	外：タタキ，ナデ，施釉 内：タタキ，ナデ，施釉	ヨシ川の刻印有 底部に墨書有
56-2	ST63	土師器 皿	7.2	5.6	1.2	緻密，直径1～2mmの砂 粒を含む	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙 内：10YR8/3浅黄橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	
56-3	ST63	土師器 皿	7.1	5.5	1.2	緻密，直径1～3mmの砂 粒・赤色粒子を含む	良好	外：7.5YR7/3にぶい橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	
56-4	ST63	銅製品 キセル首部	[5.6]	2.7	1.5					羅宇の一部が残存
56-5	ST63	銅製品 キセル吸口	[5.6]	1.7	1.0					羅宇の一部が残存
56-6	ST63	鉄製品 釘	[3.9]	[1.1]	0.5					
56-7	ST63	鉄製品 釘	[3.1]	[1.5]	0.6					
56-8	ST63	鉄製品 釘	[3.7]	[1.1]	0.7					
56-9	ST63	銅製品 銭	2.7	2.7	1.0					6枚：寛永通寶
58-1	ST64	陶器 甕棺	54.8	26	72.7	緻密	良好	外：5YR2/2黒褐 内：5YR2/1黒褐	外：ナデ，施釉 内：ナデ，施釉	口縁部にメアト有
58-2	ST64	土師器 皿	6.5	3.2	1.4	緻密	良好	10YR7/4にぶい黄橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	
58-3	ST64	土師器 皿	6.7	3.5	1.3	緻密	良好	10YR7/4にぶい黄橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	
58-4	ST64	銅製品 キセル首部	[4.7]	2.6	1.2				断面六角形	
58-5	ST64	銅製品 キセル吸口	[10.5]	1.0	1.3				断面六角形	羅宇の一部が残存
58-6	ST64	木製品 七星板	12.2	[11.2]	0.9				八角形に加工，7箇所穿孔（本 来は8箇所か）	
60-1	ST65	陶器 甕棺	52.0	27.3	71.8	緻密，直径1～2mmの砂 粒・赤色粒子を少し含 む	良好	外：2.5YR2/1赤黒褐 内：7.5YR3/3暗褐	外：タタキ，ナデ，施釉 内：ナデ，施釉	口縁部・底部にメ アト有
60-2	ST65	土師器 皿	7.5	5.6	1.2	緻密，直径1～2mmの砂 粒を含む	良好	10YR6/3にぶい黄橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	
60-3	ST65	土師器 皿	7.4	5.3	1.2	緻密，直径1～3mmの砂 粒を含む	良好	10YR6/3にぶい黄橙	外：ナデ，糸切り，スス付着 内：ナデ	
60-4	ST65	鉄製品 釘	[1.3]	[0.9]	0.4					
60-5	ST65	銅・鉄製品 銭	4.1	6.8	3.6					6枚：寛永通寶ほ か・鉄銭有 布・指骨付着
60-6	ST65	銅製品 キセル吸口	[8.6]	1.1	2.6					
60-7	ST65	ガラス製品 玉	1.3	1.3	1.0					2.56g 孔に紐痕跡有
62-1	ST66	陶器 甕棺	52.3	27.8	70.3	緻密	良好	7.5YR2/2黒褐	外：タタキ，ナデ，施釉 内：ナデ，施釉	底部にメアト有

I HZK1801地点（航空風洞実験室西地点）

図	遺構	種類	口径/ 長さ	底径/ 幅	器高/ 厚さ	胎土	焼成	色調	調整	備考
62-2	ST66	土師器 皿	8.0	6.2	1.4	緻密, 直径1mm大の砂 粒を含む	良好	10YR6/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
62-3	ST66	土師器 皿	7.6	6.0	1.2	緻密, 直径1mm大の砂 粒・雲母片を少し含む	良好	外: 10YR7/3にぶい黄橙 内: 10YR7/2にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
62-4	ST66	銅・鉄製品 銭	3.5	3.7	2.4					7枚: 寛永通寶ほ か・鉄銭有 紙? 付着
64-1	ST67	陶器 甕棺	44.6	24.5	69.3	緻密, 直径1~2mmの砂 粒を少し含む	良好	外: 5YR2/2黒褐 内: 5YR2/3極暗赤褐	外: ナデ, 施釉 内: タタキ, ナデ, 施釉	口縁部・底部にメ アト有
64-2	ST67	土師器 皿	7.2	4.8	1.7	緻密, 直径1mm大の砂 粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
64-3	ST67	土師器 皿	11.6	6.6	2.4	緻密, 直径1mm大の砂 粒を含む	良好	10YR7/2にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ, 布跡	
66-1	SK68	土師器 皿	8.3	5.8	1.7	緻密, 直径1mm大の砂 粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
66-2	SK68	土師器 皿	8.4	6.0	1.6	緻密, 直径1mm大の砂 粒・雲母片を含む	良好	5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
66-3	ST68	銅製品 銭	2.6	2.9	1.3					6枚: 寛永通寶 木質・布付着
69-1	ST70	陶器 甕棺	34.3	19.7	52.1	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を含む	良好	外: 7.5YR3/1黒褐 内: 10YR3/2黒褐	外: ナデ, 施釉, 露胎 内: ナデ, 施釉	底部にメアト有
69-2	ST70	鉄製品 釘	[3.2]	[2.2]	0.4					木質付着
69-3	ST70	鉄製品 釘	[2.3]	1.5	0.4					木質付着
69-4	ST70	鉄製品 釘	[2.3]	0.6	0.4					
71-1	ST71	陶器 甕棺	54.8	28.3	75.2	緻密, 黒・赤色粒子を 含む	良好	外: 5YR3/2暗赤褐 内: 2.5YR5/6明赤褐	外: タタキ, ナデ, 施釉 内: タタキ, ナデ, 施釉	底部にメアト有
71-2	ST71周辺	陶器 皿	8.7	4.5	2.1	緻密	良好	外: 7.5YR8/1灰白 内: 10GY8/1明緑灰	外: 施釉, 露胎 内: 施釉, 施文	
71-3	ST71棺外	土師器 皿	8.5	7.2	1.2	緻密, 赤・白色粒子・ 雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
71-4	ST71周辺	陶器 人形	8.1	3.1	2.8	緻密	良好	2.5Y8/2灰白	外: ナデ, 施釉 内: ナデ, 施釉	狛抱き童子
71-5	ST71周辺	陶器 蓋	3.4	3.4	0.9	緻密	良好	10YR8/2灰白	外: 薄く施釉, 施文	車輪状文
71-6	ST71	鉄製品 釘	[3.8]	[2.5]	0.5					木質付着
71-7	ST71	鉄製品 釘	[3.8]	[2.2]	0.7					
71-8	ST71	鉄製品 釘	[2.3]	[1.4]	0.4					
71-9	ST71	陶器 碗	8.8	3.6	5.0	緻密, 直径1mm大の砂 粒を含む	良好	10YR8/1灰白	外: 施釉, 施文, 露胎 内: 施釉	草花文
73-1	ST72	陶器 甕棺	55.2	27.5	78.5	緻密, 直径1~3mmの砂 粒・赤色粒子を多く含 む	良好	外: 10YR6/4にぶい黄橙 内: 5YR6/6橙	外: タタキ, ナデ, 施釉 内: タタキ, ナデ, 施釉	底部にメアト有
73-2	ST72	陶器 碗	7.7	3.0	3.8	緻密	良好	外: 2.5Y6/2灰黄 内: 2.5Y6/1黄灰	外: 施釉, 施文, 露胎 内: 施釉	竹葉文
73-3	ST72	陶器 碗	7.6	3.0	4.0	緻密	良好	2.5Y6/1黄灰	外: 施釉, 施文, 露胎 内: 施釉	竹葉文
73-4	ST72	銅・鉄製品 鈔・銭	[7.2]	5.6	1.2					5枚: 寛永通寶ほ か 紙? 付着
75-1	ST73	陶器 甕棺	29.4	16.4	38.8	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を含む	良好	10YR4/2灰黄褐	外: ナデ, 施釉, 施文, 露胎 内: ナデ, 施釉	肩部に波状文・底 部に墨書有
75-2	ST73	土製品 鈴	5.3	6.2	3.0	緻密	良好 軟質	10YR7/3にぶい黄橙	外: 型作り, ナデ	おしどり型土鈴
75-3	ST73	白磁 紅血	5.3	1.7	1.9	緻密	良好	外: 7.5Y8/1灰白 内: N8/O灰白	外: 型作り, 施釉, 露胎 内: 施釉	体部外面に貝助状 文
75-4	ST73	白磁 紅血	4.7	1.7	1.6	緻密	良好	外: 5Y8/2灰白 内: 7.5Y8/1灰白	外: 型作り, 施釉, 露胎 内: 施釉	体部外面に貝助状 文
75-5	ST73	銅・鉄製品 銭	3.2	3.2	1.1					5枚: 寛永通寶ほ か・鉄銭・文銭有 繊維付着
77-1	SX74周辺	石製品 玉	0.5	0.6	0.35			緑色		0.13g

図	遺構	種類	口径/ 長さ	底径/ 幅	器高/ 厚さ	胎土	焼成	色調	調整	備考
79-1	ST75	陶器 甕棺	53.7	28.1	74.7	緻密, 直径1~4mmの砂 粒・赤色粒子を多く含 む	良好	7.5YR3/1黒褐	外: タタキ, ナデ, 施釉 内: ナデ, 施釉	口縁部・底部にメ アト有
79-2	ST75	陶器 挿鉢	(25.8)	12.0	10.5	やや粗い, 直径1mm台 の砂粒・赤色粒子を含 む	良好	5YR3/3暗赤褐	外: ナデ, 施釉, 露胎 内: ナデ, 施釉, スリ溝	
79-3	ST75	銅製品 銭	3.0	5.6	1.5					6枚: 寛永通寶
81-1	ST76	陶器 甕棺	56.2	28.8	82.2	緻密, 直径1~6mmの砂 粒・赤色粒子を含む	良好	外: 7.5YR3/4暗褐 内: 7.5YR5/2灰褐	外: ナデ, 施釉, 施文, 露胎 内: タタキ, ナデ, 施釉	口縁部にメアト有
81-2	ST76	銅製品 銭	2.4	2.4	0.1					寛永通寶
83-1	SX77	陶器 甕棺	52.0	28.0	75.4	緻密, 直径1~8mmの砂 粒・赤色粒子を多く含 む	良好	外: 5YR2/3極暗赤褐 内: 2.5YR4/3にぶい赤褐	外: タタキ, ナデ, 施釉, 露胎 内: ナデ, 施釉	
83-2	SX77	土師器 皿	7.3	3.5	1.3	緻密	良好	2.5Y7/3浅黄	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
83-3	SX77	土師器 皿	6.8	3.5	1.2	緻密, 直径1mm大の砂 粒・雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
83-4	SX77	木製品 櫛	[2.0]	[1.8]	0.5					
83-5	SX77	鉄製品 釘	[4.0]	[1.9]	0.6					木質付着
83-6	SX77	銅製品 銭	3.1	3.6	0.6					2枚
85-1	ST78	陶器 甕棺	51.6	28.5	79.5	緻密, 直径1~4mmの砂 粒・黒色粒子を少し含 む	良好	外: 5YR1.7/1黒 内: 5YR2/1黒褐	外: ナデ, 施釉, 露胎 内: ナデ, 施釉	
85-2	ST78	陶器 甕棺	(48.0)	29.8	[76.0]	緻密, 直径1~5mm大の 砂粒・赤色粒子を含む	良好	外: 5YR2/3極暗赤褐 内: 5YR4/4にぶい赤褐	外: タタキ, ナデ, 施釉, 施文 内: タタキ, ナデ, 施釉	肩部に2段連弧文 有
85-3	ST78	染付 碗	(10.2)	(4.2)	6.3	緻密	良好	7.5GY8/1明緑灰	外: 施釉, 施文, 露胎 内: 施釉	草花文
87-1	SX79	陶器 甕棺	(35.0)	19.1	52.7	緻密, 直径1mm大の黒 色粒子を含む	良好	10YR5/2灰黄褐	外: タタキ, ナデ, 施釉, 露胎 内: ナデ, 施釉	口縁・底部にメア ト有
87-2	SX79	陶器 甕棺		20.3	[34.3]	緻密	良好	2.5Y3/1黒褐	外: ナデ, 施釉 内: ナデ, 施釉	底部にメアト有
87-3	SX79	陶器 甕棺	(34.8)	(19.2)	54.8	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を含む	良好	7.5YR4/2灰褐	外: ナデ, 施釉, 露胎 内: ナデ, 施釉	
87-4	SX79	陶器 甕棺	(48.6)	(24.0)	72.2	緻密, 直径1~3mm大の 赤色粒子を多く含む	良好	外: 2.5YR2/2極暗赤褐 内: 2.5YR3/3暗赤褐	外: タタキ, ナデ, 施釉, 露胎 内: タタキ, ナデ, 施釉, 露胎	
87-5	SX79	陶器 甕棺	52.5	29.0	75.2	緻密, 直径1~10mm大 の砂粒を多く含む	良好	外: 5YR3/2暗赤褐 内: 5YR4/3にぶい赤褐	外: タタキ, ナデ, 施釉, 露胎 内: タタキ, ナデ, 施釉	
89-1	ST80	陶器 甕棺	53.6	28.2	73.8	緻密, 直径1~3mm大の 砂粒を多く含む	良好	外: 10YR4/4褐 内: 5YR4/4にぶい赤褐	外: タタキ, ナデ, 施釉 内: タタキ, ナデ, 施釉	底部にメアト有
89-2	ST80	銅製品 銭	2.3	2.3	0.15					
91-1	ST81	陶器 甕棺	51.0	28.5	80.0	やや緻密, 直径1~13 mmの砂粒・赤色粒子を 多く含む	良好	外: 10YR6/4にぶい黄橙 内: 7.5YR5/4にぶい褐	外: タタキ, ナデ, 施釉 内: ナデ, 施釉	底部にメアト有
91-2	ST81	木製品 玉	0.7	0.7	0.2					中心に穿孔
91-3	ST81	木製品 七星板	20.2	21.1	1.6				八角形に加工, 穿孔は8箇所	
91-4	ST81	銅製品 キセル首部	[2.6]	1.6	1.9					
91-5	ST81	銅製品 キセル吸口	[3.7]	1.0	1.2					
91-6	ST81	鉄製品 毛抜・鉄	[6.4]	[3.4]	1.4					
91-7	ST81	銅製品 銭	2.6	3.6	0.4					3枚: 寛永通寶
91-8	ST81	鉄製品 釘	[3.4]	[0.8]	0.7					
91-9	ST81 棺外	銅製品 銭	2.3	2.3	0.2					朝鮮通寶
93-1	SX82	陶器 甕棺	53.0		[31.0]	緻密, 直径1~5mmの砂 粒を多く含む	良好	外: 10YR3/4暗褐 内: 10YR5/3にぶい黄褐	外: タタキ, ナデ, 施釉, 露胎 内: タタキ, ナデ, 施釉	
93-2	SX82	鉄製品 釘	[2.3]	0.9	0.7					木質付着

I HZK1801地点（航空風洞実験室西地点）

図	遺構	種類	口径/ 長さ	底径/ 幅	器高/ 厚さ	胎土	焼成	色調	調整	備考
95-1	ST83	土師器 皿	7.8	5.8	1.0	緻密, 直径1mm大の砂 粒・雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ, 糸切り 内：ナデ	
95-2	ST83	土師器 皿	7.6	5.8	1.4	緻密, 直径1mm大の赤 色粒子・雲母片を少し 含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外：ナデ, 糸切り 内：ナデ	
95-3	ST83	土師器 皿	8.4	5.6	1.4	緻密, 直径1mm大の砂 粒・雲母片を少し含む	良好	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ, 糸切り 内：ナデ	
95-4	ST83	鉄製品 毛抜	[3.4]	[2.3]	1.8					錆による腐食が著 しい
95-5	ST83	鉄製品 毛抜	[5.3]	[1.8]	1.7					95-6と同一個体
95-6	ST83	鉄製品 毛抜	[4.5]	[1.1]	1.4					繊維片付着
95-7	ST83	銅製品 銭	2.7	2.7	0.8					6枚：寛永通寶で 文銭有
98-1	SX85	陶器 甕棺	48.0		[28.5]	緻密, 直径1~4mmの砂 粒・赤色粒子を多く含 む	良好	2.5YR3/3暗赤褐	外：ナデ, 施釉, 露胎 内：ナデ, 施釉	口縁部にメアト有
100-1	ST86	陶器 甕棺	55.5	30.0	82.2	緻密, 直径3~8mmの赤 色粒子を少し含む	良好	外：5R1.7/1赤黒 内：10R3/2暗赤褐	外：ナデ, 施釉, 露胎 内：ナデ, 施釉	肩部に刻印有 口縁部・底部にメ アト有
100-2	ST86	土師器 皿	7.5	3.3	1.2	緻密	良好	外：2.5Y5/3黄褐 内：10YR7/2にぶい黄橙	外：ナデ, 糸切り 内：ナデ	
100-3	ST86	土師器 皿	7.6	3.2	1.25	緻密	良好	10YR6/3にぶい黄橙	外：ナデ, 糸切り 内：ナデ	
100-4	ST86	鉄製品 毛抜	[7.6]	2.7	1.2					
100-5	ST86	金属製 玉	1.4	1.6	1.4					鉛か？ 12.27g
100-6	ST86	銅製品 銭	2.3	2.3	0.15					
100-7	ST86	銅製品 銭	2.5	2.5	0.2					
100-8	ST86	木製品 サイコロ	1.2	1.2	1.2				角すべて面取り	3.17g
100-9	ST86	木製品 サイコロ	1.2	1.2	1.2				角すべて面取り	3.17g
100-10	ST86	木製品 サイコロ	1.2	1.2	1.2				角すべて面取り	3.17g
100-11	ST86	ガラス 加工板	6.2	9.4	0.8				縁を面取り	
100-12	ST86	銅製品 金具	5.4	1.5	2.5					布付着
100-13	ST86	繊維 布地	[5.0]	[4.0]						
100-14	ST86	銅製品 キセル	12.8	1.1	2.4					金属（銅か真鍮） 製の延ベキセル
100-15	ST86	銅製品 キセル	21.5	0.9	1.7					羅宇は竹製
100-16	ST86	木製品 樹皮	[5.3]	[9.7]	0.2					
102-1	ST87	陶器 甕棺	39.0	21.1	60.6	緻密	良好	外：5YR2/3極暗赤褐 内：5YR2/2黒褐	外：タタキ, ナデ, 施釉, 露胎 内：タタキ, ナデ, 施釉	口縁部にメアト有 肩部に連弧文有
102-2	ST87	鉄製品 釘	[3.0]	[1.5]	0.3					木質付着
102-3	ST87	鉄製品 釘	[3.3]	[1.9]	0.4					木質付着
102-4	ST87	鉄製品 釘	[2.3]	[1.7]	0.5					木質付着
102-5	ST87	鉄製品 釘	[3.2]	[1.8]	0.4					木質付着
102-6	ST87	土師器 皿	6.0	4.4	1.1	緻密, 雲母片を少し含 む	良好	外：5YR6/4にぶい橙 内：5YR6/6橙	外：ナデ, 糸切り 内：ナデ	
102-7	ST87	土師器 皿	6.0	4.6	1.1	緻密, 直径1~2mmの砂 粒・雲母片を含む	良好	外：10YR6/3にぶい黄橙 内：7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ, 糸切り 内：ナデ	
102-8	ST87	銅製品 銭	[2.3]	[1.3]	0.1					大観通寶
104-1	ST88	陶器 甕棺	58.0	31.0	77.5	緻密, 直径1~2mmの砂 粒を少し含む	良好	外：2.5YR4/6赤褐 内：5YR3/2暗赤褐	外：タタキ, ナデ, 施釉, 露胎 内：タタキ, ナデ, 施釉	2段連弧文有 ST106, 111と接合

図	遺構	種類	口径/ 長さ	底径/ 幅	器高/ 厚さ	胎土	焼成	色調	調整	備考
104-2	ST88	土師器 皿	7.6	6.0	1.3	緻密, 直径1~3mmの砂 粒・赤色粒子・雲母片 を含む	良好	10YR7/2にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
104-3	ST88	土師器 皿	(7.2)	(5.0)	1.4	緻密, 直径1mm大の砂 粒・雲母片を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
104-4	ST111	銅製品 銚金具	[13.8]	[2.7]	1.2				金メッキ 丸形菊花形・花菱形	木質付着 (板材)
104-5	ST111	鉄製品 釘	[4.0]	[2.7]	0.4					
104-6	ST111	鉄製品 釘	[3.5]	[1.9]	0.4					
104-7	ST111	銅製品 銭	2.4	2.4	0.1					寛永通寶
105-1	ST119	土師器 皿	(8.4)	(6.4)	1.5	緻密, 雲母片を含む	良好	10YR6/4にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
105-2	ST119	鉄製品 棒状品	2.5	13.9	1.4					
105-3	ST119	銅製品 銚金具	[5.3]	6.0	1.0					木質付着 (板材)
105-4	ST119	銅製品 銭	2.8	3.1	1.4					6枚: 寛永通寶 布で覆われる
107-1	ST89	陶器 甕棺	54.0	27.6	73.0	緻密, 直径2~4mm大の 砂粒を多く含む	良好	外: 5YR5/4にぶい赤褐 内: 7.5YR6/3にぶい褐	外: ナデ, 施釉 内: ナデ, 施釉	底部に墨書有
107-2	ST89	土師器 皿	6.4	2.8	1.4	緻密	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
107-3	ST89	土師器 皿	6.6	3.6	1.4	緻密	良好	外: 10YR7/3にぶい黄橙 内: 10YR7/2にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り, 指オサエ 内: ナデ	
107-4	ST89	土師器 皿	7.6	6.0	1.4	緻密	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
107-5	ST89	金銅製品 銚金具	[4.5]	4.7	1.3					木質 (板材)・釘 付着
107-6	ST89	金銅製品 銚金具	[7.1]	3.1	1.1					木質 (板材)・釘 付着
107-7	ST89	金銅製品 銚金具	4.6	1.5	0.6					釘付着
107-8	ST89	鉄製品 毛抜	[2.3]	1.8	0.6					
107-9	ST89	鉄製品 釘	[4.1]	[3.1]	0.9					木質付着
107-10	ST89	鉄製品 釘	[4.4]	2.8	0.8					
107-11	ST89	銅製品 キセル首部	[6.1]	1.4	1.8					羅宇の一部が残存 布付着
107-12	ST89	銅製品 キセル吸口	[7.2]	1.2	1.2					羅宇の一部が残存
107-13	ST89	銅製品 銭	2.9	3.2	1.2					6枚: 寛永通寶
109-1	ST90	陶器 甕棺	61.0	26.8	75.8	緻密	良好	5YR2/3極暗赤褐	外: タタキ, ナデ, 施釉 内: タタキ, ナデ, 施釉	底部にメアト有
109-2	ST90	土師器 皿	7.8	4.2	1.8	緻密	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
109-3	ST90	土師器 皿	8.3	4.0	1.9	緻密	良好	外: 7.5YR6/4にぶい橙 内: 2.5Y6/6橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
109-4	ST90棺外	土師器 坏	(9.6)	4.8	2.7	緻密	良好	外: 7.5YR7/4にぶい黄橙 内: 7.5YR6/3にぶい褐	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
109-5	ST90	木製品 火入れ蓋	2.9	2.9	2.4				上下面に鋸目 金属製の紐は下 半に鈕固定用の木ねじが差し込 まれる	
109-6	ST90	木製品 火入れ容器	3.5	2.1	6.5				上下面に鋸目 金属製金具有	内部に炭化物有
109-7	ST90	木製品 扇	[22.6]	2.8	0.6				親骨2本・中骨10本・銀色の膜 は地紙の痕跡	
109-8	ST90	木製品 七星板	14.0	10.6	1.0				八角形に加工 穿孔は8箇所 (うち1箇所が未貫通)	桶転用品
109-9	ST90	鉄製品 火打金	11.3	3.3	0.7					22.4g
109-10	ST90	銅製品 キセル首部	[8.4]	1.8	2.1					羅宇の一部が残存

I HZK1801地点（航空風洞実験室西地点）

図	遺構	種類	口径/ 長さ	底径/ 幅	器高/ 厚さ	胎土	焼成	色調	調整	備考
109-11	ST90	銅製品 キセル吸口	[15.0]	1.0	1.0				吸口部に模様有	羅宇の一部が残存
109-12	ST90	銅製品 銭	2.8	2.7	0.9					6枚：寛永通寶で 文銭有
109-13	ST90	銅製品 銭	2.5	2.5	0.1					寛永通寶
111-1	ST91	陶器 甕棺	61.5	26.4	72.4	やや粗い、直径1～3mm の砂粒・黒色粒子を多く 含む	良好	5YR4/3にぶい赤褐	外：タタキ、ナデ、施釉、施文 内：ナデ、施釉	2段連弧文有 内部に付着物有
111-2	ST91	土師器 皿	8.3	3.2	2.0	緻密	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	
111-3	ST91	土師器 皿	8.0	4.0	2.0	緻密	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	
111-4	ST91	鉄製品 火打金	[7.9]	3.6	1.2					18.5g
111-5	ST91	鉄製品 釘	[1.9]	[1.6]						木質付着
111-6	ST91	鉄製品 釘	[3.1]	[1.9]	0.7					木質付着
111-7	ST91	鉄製品 釘	[3.3]	[1.9]	0.9					木質付着
111-8	ST91	鉄製品 釘	[3.7]	[1.5]	0.3					木質付着
111-9	ST91	鉄製品 釘	[1.5]	[1.5]	0.3					木質付着
111-10	ST91	鉄製品 釘	[4.2]	[1.3]	0.5					木質付着
111-11	ST91	鉄製品 釘	[2.9]	[1.4]	0.3					木質付着
111-12	ST91	鉄製品 毛抜	9.2	3.1	1.1					櫛付着
111-13	ST91	鉄製品 鉄	15.1	4.5	1.1					
111-14	ST91	銅製品 キセル首部	[8.5]	1.5	3.2					111-15と同一個体 羅宇の一部が残存
111-15	ST91	銅製品 キセル吸口	[7.2]	1.3	1.1					羅宇の一部が残存
111-16	ST91	銅製品 銭	2.4	2.6	0.4					2枚：寛永通寶で 文銭有 布付着
111-17	ST91	銅・鉄製品 銭	3.5	3.2	1.1					5枚：寛永通寶ほ か（鉄銭含む） 櫛付着
113-1	ST92	陶器 甕棺	49.2	22.9	73.3	緻密、直径1～3mmの砂 粒・赤色粒子を多く含 む	良好	外：7.5YR5/6明褐 内：10YR3/3暗褐	外：ナデ、施釉、露胎 内：タタキ、ナデ、施釉、露胎	
113-2	ST92	土師器 皿	(6.2)	(3.0)	1.4	緻密	良好	10YR6/4にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り、指オサエ 内：ナデ	
113-3	ST92	鉄製品 釘	[5.3]	1.1	0.5					近代以降 木質付着
115-1	ST93	陶器 甕棺	50.7	26.4	71.0	緻密	良好	外：5YR2/3極暗赤褐 内：5YR3/3暗赤褐	外：タタキ、ナデ、施釉、露胎 内：タタキ、ナデ、施釉、露胎	口縁部にメアト有
115-2	ST93	土師器 皿	7.9	3.0	1.5	緻密	良好	外：10YR4/2灰黄褐 内：10YR7/2にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	
115-3	ST93	銅製品 キセル首部	[5.9]	1.7	2.6					羅宇の一部が残存
115-4	ST93	銅製品 キセル吸口	[6.7]	1.3	1.2					羅宇の一部が残存
115-5	ST93	石製品 不明	2.1	2.1	0.3					環状に加工
115-6	ST93	銅製品 銭	2.8	2.8	1.2					2枚：寛永通寶 紙？付着
117-1	ST94	土師器 坏	9.5	5.2	2.3	緻密、直径1mm大の砂 粒・雲母片を少し含む	良好	5YR7/6橙	外：ナデ、糸切り、指オサエ 内：ナデ	
117-2	ST94	土師器 坏	9.2	5.4	2.0	緻密、直径1mm大の砂 粒・雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	
117-3	ST94	鉄製品 鉄	12.2	3.1	0.5					櫛付着
117-4	ST94	鉄製品 毛抜	9.2	2.5	0.9					櫛付着

3. 小結

図	遺構	種類	口径/ 長さ	底径/ 幅	器高/ 厚さ	胎土	焼成	色調	調整	備考
117-5	ST94	銅製品 銚金具?	0.4	0.6	0.1					0.04g
117-6	ST94	銅製品 銭	2.6	2.5	0.7					6枚:寛永通寶ほ か 布付着
119-1	ST95	陶器 甕棺	41.6	22.8	63.8	緻密, 直径1~5mmの赤 色粒子を多く含む	良好	7.5YR2/3極暗赤褐	外:タタキ, ナデ, 施釉, 露胎, 施文 内:タタキ, ナデ, 施釉	口縁部・底部にメ アト有 肩部に波状線有
119-2	ST95	土師器 皿	8.0	3.7	2.1	緻密	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外:回転ナデ, 糸切り 内:ナデ	
119-3	ST95	土師器 皿	7.8	3.6	1.95	緻密	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外:回転ナデ, 糸切り 内:ナデ	
119-4	ST95	鉄製品 鉄	12.8	3.3	0.8					布・球状不明品付 着
119-5	ST95	鉄製品 毛抜	[7.5]	[2.3]	0.7					木質付着
119-6	ST95	銅製品 銭	2.6	2.6	0.6					3枚:寛永通寶
119-7	ST95	銅製品 銭	2.7	2.7	0.7					3枚:寛永通寶
119-8	ST95	石製品 玉	0.5	0.5	0.4					0.18g
119-9	ST95	石製品 玉	0.6	0.6	0.3					0.22g
119-10	ST95	石製品 玉	0.6	0.5	0.3					0.13g
119-11	ST95	石製品 玉	0.9	0.6	0.3					0.27g
119-12	ST95	石製品 玉	0.5	0.5	0.4					0.14g
119-13	ST95	石製品 玉	0.5	0.5	0.4					0.18g
121-1	ST96	陶器 甕棺	50.0	26.0	71.4	緻密, 直径1mm大の黒 色粒子を含む	良好	外:7.5YR3/3暗褐 内:7.5YR2/3極暗褐	外:タタキ, ナデ, 施釉, 露胎 内:タタキ, ナデ, 施釉	底部にメアト有
121-2	ST96	土師器 皿	8.0	6.4	1.4	緻密, 直径1~2mmの砂 粒・赤色粒子・雲母片 を含む	良好	10YR6/2灰黄褐	外:ナデ, 糸切り 内:ナデ, 黒色顔料付着	
121-3	ST96	土師器 皿	7.9	5.6	1.7	緻密, 直径1~2mmの砂 粒・赤色粒子を含む	良好	5YR6/6橙	外:ナデ, 糸切り 内:ナデ	
121-4	ST96	土師器 皿	7.8	5.7	1.5	緻密, 直径1mm大の砂 粒・雲母片を含む	良好	10YR7/2にぶい黄橙	外:ナデ, 糸切り 内:ナデ, 黒色顔料付着	
121-5	ST96	鉄製品 釘	[3.2]	[2.4]	0.6					木質付着
123-1	ST97	陶器 甕棺	49.6	27.0	73.0	緻密, 直径1~4mmの砂 粒・黒・赤色粒子を少 し含む	良好	外:2.5YR2/2極暗赤褐 内:5YR3/3暗赤褐	外:タタキ, ナデ, 施釉 内:タタキ, ナデ, 施釉	底部に墨書有
123-2	ST97	木製品 七星板	[18.5]	11.5	0.6				穿孔は5箇所	桶転用品
123-3	ST97	銅製品 キセル首部	[5.5]	1.4	2.8					
123-4	ST97	陶器 碗	9.0	3.3	4.4	緻密	良好	2.5GY8/1灰白	外:施釉, ケズリ 内:施釉	
123-5	ST97	土師器 皿	8.0	4.0	1.45	緻密	良好	10YR6/3にぶい黄橙	外:ナデ, 糸切り, 指オサエ 内:ナデ	
123-6	ST97	土師器 皿	7.9	3.8	1.45	緻密	良好	10YR6/2灰黄褐	外:ナデ, 糸切り, 指オサエ 内:ナデ	
123-7	ST97	土師器 皿	7.9	3.2	1.35	緻密	良好	10YR6/3にぶい黄橙	外:ナデ, 糸切り, 指オサエ 内:ナデ	
123-8	ST97	土師器 皿	8.0	3.8	1.45	緻密	良好	10YR6/2灰黄褐	外:ナデ, 糸切り, 指オサエ 内:ナデ	
125-1	ST98	陶器 甕棺	55.2	27.6	78.0	緻密, 直径1~5mmの砂 粒・黒・赤色粒子を多 く含む	良好	外:10R2/1赤黒 内:10R2/2極暗赤褐	外:タタキ, ナデ, 施釉, 露胎 内:タタキ, ナデ, 施釉	口縁部・底部にメ アト有
128-1	SX100	銅製品 銭	2.6	2.7	0.7					5枚:古寛永通寶 ほかに1枚:治平 元寶有
128-2	SX100	銅製品 銭	2.5	2.5	0.15					寛永通寶
130-1	ST101	土師器 皿	8.1	6.6	1.1	緻密, 直径1mm大の砂 粒・雲母片を少し含む	良好	5YR6/4にぶい橙	外:ナデ, 糸切り 内:ナデ	

I HZK1801地点（航空風洞実験室西地点）

図	遺構	種類	口径/ 長さ	底径/ 幅	器高/ 厚さ	胎土	焼成	色調	調整	備考
130-2	ST101	土師器 皿	8.0	5.4	1.4	緻密, 直径1mm大の砂 粒・雲母片を少し含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外：ナデ, 糸切り 内：ナデ	
130-3	ST101	土師器 皿	8.5	6.0	1.4	緻密, 直径1mm大の砂 粒・雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ, 糸切り 内：ナデ	
130-4	ST101	石製品 玉	0.45	0.45	0.25			乳白色		滑石?
130-5	ST101	鉄製品 毛抜	7.7	2.4	1.1					櫛付着
130-6	ST101	鉄・銅製品 鈔・銭	13.9	4.4	1.9					6枚：寛永通寶で 文銭有・嘉祐通寶 櫛付着 裏面に布 付着
132-1	ST102	土師質 甕棺	46.0	26.8	64.0	緻密, 直径1~4mmの砂 粒・赤色粒子を多く含 む	やや 良好	7.5YR6/6橙	外：ハケメ, ナデ 内：ハケメ, ナデ	
132-2	ST102	土師器 皿	14.6	8.4	2.7	緻密, 直径1mm大の砂 粒・雲母片を含む	良好	外：7.5YR7/3にぶい橙 内：7.5YR8/3浅黄橙	外：ナデ, 糸切り, スス付着 内：ナデ	
132-3	ST102	銅製品 キセル吸口	[5.0]	1.5	1.4					羅宇は竹製, 一部 残存 132-4と同一個体
132-4	ST102	銅製品 キセル首部	[7.4]	1.5	3.1					羅宇の一部残存
132-5	ST102	鉄製品 釘	[1.1]	[1.4]	0.5					
132-6	ST102	鉄製品 釘	[1.2]	[0.5]	0.4					
132-7	ST102	鉄製品 釘	[1.2]	[1.0]	0.4					
132-8	ST102	鉄製品 釘	[1.3]	[0.5]	0.2					
132-9	ST102	鉄製品 鈔	[14.6]	3.5	0.8					骨片付着
132-10	ST102	鉄製品 毛抜	8.7	2.4	1.2					布付着
132-11	ST102	銅製品 銭	2.6	2.6	0.4					4枚：寛永通寶ほ か
134-1	ST103	陶器 甕棺		28.0	[58.0]	緻密, 直径1~2mmの砂 粒・赤色粒子を多く含 む	良好	外：10YR6/3にぶい黄橙 内：7.5YR5/2灰褐	外：ナデ, 施釉 内：ナデ, 施釉	底部にスス付着
134-2	ST103	木製品 七星板	[24.7]	[17.5]	0.9				八角形か, 穿孔は5箇所	
134-3	ST103	木製品 装飾具	[0.6]	0.8	0.05					
134-4	ST103	木製品 装飾具	0.75	0.8	0.1					
134-5	ST103	木製品 装飾具	0.75	0.8	0.1					
134-6	ST103	木製品 装飾具	[0.8]	0.8	0.1					
134-7	ST103	木製品 装飾具	0.75	0.8	0.08					
134-8	ST103	木製品 装飾具	[0.6]	0.75	0.05					
134-9	ST103	木製品 装飾具	[0.7]	0.75	0.1					
134-10	ST103	木製品 装飾具	0.75	0.85	0.05					
134-11	ST103	木製品 装飾具	0.7	0.75	0.05					
134-12	ST103	木製品 装飾具	[0.6]	0.75	0.05					
134-13	ST103	木製品 装飾具	0.4	0.4	0.05 以下					
134-14	ST103	木製品 装飾具	0.35	0.4	0.05 以下					
134-15	ST103	木製品 装飾具	0.35	0.4	0.05 以下					
134-16	ST103	木製品 装飾具	0.4	0.4	0.05 以下					

図	遺構	種類	口径/ 長さ	底径/ 幅	器高/ 厚さ	胎土	焼成	色調	調整	備考
134-17	ST103	木製品 装飾具	0.35	0.4	0.05 以下					
134-18	ST103	木製品 装飾具	[0.6]	0.8	0.15					中心の孔はナナメ に穿孔
134-19	ST103	木製品 装飾具	[0.5]	0.7	0.05					
134-20	ST103	木製品 装飾具	[0.6]	0.6	0.1					
134-21	ST103	木製品 装飾具	[0.5]	0.6	0.05					
134-22	ST103	木製品 装飾具	0.55	0.8	0.05					
134-23	ST103	木製品 装飾具	0.7	0.8	0.05					
134-24	ST103	木製品 装飾具	[0.7]	0.8	0.05					
134-25	ST103	銅製品 キセル首部	[9.0]	1.6	2.5					羅宇の一部が残存
134-26	ST103	銅・鉄製品 銭	2.9	5.3	1.5					5枚：寛永通寶ほ か モミガラ付着
137-1	SX105	石製品 玉	0.8	0.8	0.65			橙色	表面磨滅	0.28g
137-2	SX105	石製品 玉	0.9	0.9	0.65			赤色		メノウ製？ 0.25g
138-1	ST106	陶器 甕棺	58.0	30.0	91.6	緻密，直径1～4mmの砂 粒・赤色粒子を含む	良好	外：5YR3/1黒褐 内：5YR2/1黒褐	外：タタキ，ナデ，施釉 内：タタキ，ナデ，施釉	
138-2	ST106	土師器 皿	6.8	5.0	0.9	緻密，直径1mm大の砂 粒・雲母片を含む	良好	10YR7/2にぶい黄橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	
138-3	ST106	土師器 皿	6.9	5.0	1.1	緻密，直径1mm大の砂 粒・雲母片を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	
140-1	ST107	陶器 甕棺	49.0	25.8	66.4	緻密，直径1～3mm大の 砂粒を多く含む	良好	10YR6/2灰黄褐	外：タタキ，ナデ，施釉，露胎 内：タタキ，ナデ，施釉	底部に墨書有
140-2	SX123	銅製品 銭	2.7	2.6	0.2					2枚：寛永通寶ほ か
140-3	SX123	銅製品 銭	2.6	2.5	0.2					寛永通寶 布付着
140-4	SX123	銅製品 銭	2.5	2.5	0.2					寛永通寶 布付着
140-5	SX123	銅製品 銭	2.4	2.4	0.15					寛永通寶
140-6	SX123	銅製品 銭	2.4	2.4	0.15					寛永通寶
140-7	SX123	銅製品 銭	2.4	2.4	0.15					寛永通寶
140-8	SX123	銅製品 銭	2.4	2.4	0.15					寛永通寶
140-9	SX123	木製品 櫛	[2.3]	[2.8]	0.6					
140-10	SX123	土師器 皿	9.3	6.4	1.7	緻密，直径1～3mmの砂 粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/6橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ，指オサエ	
142-1	ST108	陶器 甕棺	49.6	27.0	72.6	緻密，直径1～3mmの砂 粒を少し含む	良好	5YR4/1褐灰	外：タタキ，ナデ，施釉 内：ナデ，施釉，露胎	
144-1	ST109	陶器 甕棺	54.0	27.7	72.7	緻密，直径1～3mmの砂 粒・赤色粒子を多く含 む	良好	外：7.5YR6/2灰褐 内：2.5YR3/2暗赤褐	外：タタキ，ナデ，施釉，露胎 内：タタキ，ナデ，施釉	底部にメアト有
144-2	ST109	銅製品 キセル首部	[4.0]	1.4	1.7					羅宇の一部が残存
144-3	ST109	銅製品 銭	3.0	3.2	0.7					2枚：寛永通寶
144-4	ST109	銅製品 銭	2.3	2.3	0.1					開元通寶
144-5	ST109	銅製品 銭	[2.1]	2.2	0.1					寛永通寶
144-6	ST109	銅製品 銭	2.3	2.3	0.1					寛永通寶
144-7	ST109	銅製品 銭	2.3	2.3	0.1					寛永通寶

I HZK1801地点（航空風洞実験室西地点）

図	遺構	種類	口径/ 長さ	底径/ 幅	器高/ 厚さ	胎土	焼成	色調	調整	備考
146-1	ST110	陶器 甕棺	49.0	26.7	70.7	緻密, 直径1~2mmの砂 粒・赤色粒子を少し含 む	良好	外: 2.5YR4/3にぶい赤褐 内: 2.5YR4/2灰赤	外: タタキ, ナデ, 施釉 内: タタキ, ナデ, 施釉	内外面に工具痕有
148-1	ST112	土師器 皿	7.2	3.5	1.15	緻密	良好	外: 7.5YR7/6橙 内: 2.5YR6/6橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
148-2	ST112	樹脂製? ボタン	1.4	1.4	0.3					
148-3	ST112	樹脂製? ボタン	1.1	1.1	0.3					
148-4	ST112	木製品 数珠玉	0.8	1.0	0.7					
148-5	ST112	木製品 数珠玉	0.9	0.9	0.7					
148-6	ST112	木製品 数珠玉	0.8	0.8	0.7					
148-7	ST112	木製品 数珠玉	0.7	0.7	0.6					
148-8	ST112	木製品 櫛	[1.9]	[1.4]	0.3					
148-9	ST112	木製品 メガネ入れ	[3.3]	[13.4]	0.3				縁に細かい穴が縫目状に等間隔 で空けられている	薄い板を折り曲げ て袋状にしている
148-10	ST112	銅・ガラス 製品 メガネ	11.9	4.5	0.5					
148-11	ST112	銅製品 メガネの ツル	13.1	3.5	0.7					ツルにメガネ入れ の木質付着
148-12	ST112	銅製品 銭	3.3	3.2	1.0					6枚: 寛永通寶 10・11のメガネと 銹着
151-1	ST115	土師器 皿	6.6	4.0	1.1	緻密	良好	10YR8/2灰白	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
151-2	ST115	土師器 皿	6.6	4.0	1.2	緻密	良好	10YR8/4浅黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
151-3	ST115	ガラス製品 玉	0.5	0.5	0.5			青色		0.17g
151-4	ST115	ガラス製品 玉	0.5	0.5	0.55			青色		0.18g
151-5	ST115	銅製品 銭	2.3	2.3	0.15					
151-6	ST115	銅製品 銭	4.0	2.6	0.3					2枚: 寛永通寶
151-7	ST115	銅製品 銭	2.4	2.4	0.2					
151-8	ST115	銅製品 銭	2.3	2.3	0.2					寛永通寶
151-9	ST115	鉄製品 釘	[1.6]	0.4	0.2					
151-10	ST115	鉄製品 釘	[1.4]	[0.6]	0.2					
153-1	ST117	陶器 甕棺	53.2	28.8	76.5	緻密, 直径1~2mmの砂 粒・赤色粒子を含む	良好	外: 7.5YR3/4暗褐 内: 7.5YR2/1黒	外: タタキ, ナデ, 施釉, 露胎 内: タタキ, ナデ, 施釉	底部胎土に青いゴ ム状のものが混入
156-1	ST118	鉄製品 刀子	[10.2]	2.0	0.9					両端部欠損 繊維・木質付着
156-2	ST118	鉄製品 刀子?	[13.3]	2.2	0.1					両端部欠損
156-3	ST118	銅製品 キセル吸口	[6.3]	0.9	1.9					
156-4	ST118	鉄製品 釘	[2.9]	2.4	0.3					木質付着
156-5	ST118	鉄製品 釘	[2.5]	1.1	0.2					木質付着
156-6	ST118	鉄製品 釘	[1.8]	0.8	0.3					木質付着
156-7	ST118	金銅製品 鋳金具	[7.8]	5.0	0.6				金メッキ	漆・木質 (板材) 付着
156-8	ST118	金銅製品 鋳金具	[6.9]	4.4	0.6					木質付着

3. 小結

図	遺構	種類	口径/ 長さ	底径/ 幅	器高/ 厚さ	胎土	焼成	色調	調整	備考
156-9	ST118	金銅製品 銚金具	8.7	7.8	0.2				金メッキ, 模様有	紙付着
156-10	ST118	金銅製品 銚金具	9.1	7.0	0.2				金メッキ, 模様有	木材・紙付着
157-1	ST118	金銅製品 銚金具	[2.8]	1.3	1.3				金メッキ	木質(板材)付着
157-2	ST118	金銅製品 銚金具	1.4	1.5	0.4				金メッキ	木質付着
157-3	ST118	金銅製品 銚金具	1.4	1.5	0.4				金メッキ	木質付着
157-4	ST118	金銅製品 銚金具	1.4	1.3	0.3				金メッキ	木質付着
157-5	ST118	金銅製品 銚金具	1.3	1.3	0.3				金メッキ	木質付着
157-6	ST118	金銅製品 銚金具	1.4	1.4	0.4				金メッキ	木質付着
157-7	ST118	金銅製品 銚金具	1.4	1.4	0.3				金メッキ	木質付着
157-8	ST118	金銅製品 銚金具	1.4	1.4	0.3				金メッキ	木質付着
157-9	ST118	金銅製品 銚金具	1.4	1.4	0.3				金メッキ	木質付着
157-10	ST118	金銅製品 銚金具	1.4	[2.1]	0.9				金メッキ	木質(板材)付着
157-11	ST118	金銅製品 銚金具	1.5	1.5	0.5					
157-12	ST118	金銅製品 銚金具	1.4	1.4	0.3				金メッキ	紙付着
157-13	ST118	金銅製品 銚金具	[1.4]	1.5	0.5					
157-14	ST118	金銅製品 銚金具	1.4	1.4	0.4				金メッキ	紙付着
157-15	ST118	金銅製品 銚金具	1.5	1.5	0.4					
157-16	ST118	金銅製品 銚金具	1.5	1.5	0.4					
157-17	ST118	金銅製品 銚金具	1.5	1.5	0.5					
157-18	ST118	金銅製品 銚金具	1.4	1.4	0.6				金メッキ	
157-19	ST118	金銅製品 銚金具	1.4	1.4	0.5				金メッキ	
157-20	ST118	金銅製品 銚金具	1.7	1.6	0.5					
157-21	ST118	金銅製品 銚金具	1.4	[3.4]	1.3				金メッキ	木質(板材)付着
157-22	ST118	金銅製品 銚金具	1.5	[2.3]	1.3				金メッキ	木質(板材)付着
157-23	ST118	金銅製品 銚金具	1.4	1.4	0.7				金メッキ	紙付着
157-24	ST118	金銅製品 銚金具	[1.2]	1.3	0.4					木質付着
157-25	ST118	金銅製品 銚金具	1.5	[2.9]	0.8				金メッキ	木質(板材)付着
157-26	ST118	金銅製品 銚金具	6.2	1.9	0.3				金メッキ, 渦巻?文有	木材(漆)・紙付着
157-27	ST118	金銅製品 銚金具	6.2	1.9	0.2				金メッキ	木材(漆)・紙付着
157-28	ST118	金銅製品 銚金具	6.4	1.3	0.2				金メッキ	木材(漆)付着
157-29	ST118	金銅製品 銚金具	[6.1]	1.3	0.2				金メッキ, 模様有	木材(漆)付着
157-30	ST118	金銅製品 銚金具	[6.0]	1.2	0.1				金メッキ, 模様有	紙付着
157-31	ST118	金銅製品 銚金具	[5.6]	1.3	0.4				金メッキ	木材(漆)付着

I HZK1801地点（航空風洞実験室西地点）

図	遺構	種類	口径/ 長さ	底径/ 幅	器高/ 厚さ	胎土	焼成	色調	調整	備考
157-32	ST118	金銅製品 鋳金具	7.4	1.5	0.2					木質付着
157-33	ST118	金銅製品 鋳金具	[5.2]	1.3	0.2				金メッキ	木材(漆)付着
157-34	ST118	金銅製品 鋳金具	[10.1]	1.6	0.2					木質付着
157-35	ST118	金銅製品 鋳金具	[2.6]	1.4	0.2					裏面に漆付着
157-36	ST118	金銅製品 鋳金具	4.1	4.1	0.3				金メッキ	紙付着
157-37	ST118	金銅製品 鋳金具	3.9	3.9	0.3				金メッキ, 菊花文有	木材・紙付着
157-38	ST118	金銅製品 鋳金具	3.1	3.1	0.3				金メッキ, 菊花文有	木材・釘付着
157-39	ST118	金銅製品 鋳金具	2.9	3.0	0.2				金メッキ	紙付着
157-40	ST118	金銅製品 鋳金具	2.0	2.0	0.3				金メッキ, 菊花文有	紙付着
157-41	ST118	金銅製品 鋳金具	6.1	6.1	0.3				金メッキ, 模様(魚々子・松の 葉など)有	木質付着
160-1	SK121	銅製品 銭	2.9	2.7	0.7					5枚:寛永通寶 160-2と藁状繊維 で結束
160-2	SK121	銅製品 銭	2.6	2.6	0.1					寛永通寶で文銭有 繊維付着
162-1	ST126	陶器 甕棺	54.9	26.4	75.2	緻密, 直径1~2mmの砂 粒を含む	良好	外:5YR3/2暗赤褐 内:7.5YR5/2灰褐	外:タタキ, ナデ, 施釉 内:タタキ, ナデ, 施釉	口縁部にメアト有 底部に墨書・メア ト有
162-2	ST126	土師器 皿	8.1	7.0	1.2	緻密, 直径1mm大の砂 粒・雲母片を含む	良好	外:10YR7/2にぶい黄橙 内:10YR7/3にぶい黄橙	外:ナデ, 糸切り 内:ナデ	
162-3	ST126	土師器 皿	8.0	6.0	1.4	緻密	良好	外:2.5Y7/3浅黄 内:10YR7/4にぶい黄橙	外:ナデ, 糸切り 内:ナデ	
162-4	ST126	土師器 皿	7.5	5.4	1.2	緻密, 直径1mm大の砂 粒・雲母片を含む	良好	7.5YR8/3浅黄橙	外:ナデ, 糸切り 内:ナデ	
162-5	ST126	土師器 皿	7.7	3.9	1.6	緻密	良好	外:7.5YR7/3にぶい橙 内:7.5YR7/4にぶい橙	外:ナデ, 糸切り, 指オサエ 内:ナデ	
162-6	ST126	土師器 坏	(11.0)	6.5	2.0	緻密, 直径1mm大の砂 粒を含む	良好	外:5YR6/6橙 内:5YR5/8明赤褐	外:ナデ, 糸切り 内:ナデ	
162-7	ST126	鉄製品 釘	[2.0]	[1.3]	0.3					
162-8	ST126	鉄製品 釘	[2.6]	[1.8]	0.4					
162-9	ST126	鉄製品 火打金	2.7	[6.1]	0.8					934g
162-10	ST126	銅製品 キセル首部	[9.4]	1.6	2.5					羅宇の一部残存
162-11	ST126	銅製品 キセル吸口	[7.0]	1.0	1.1					羅宇の一部残存
164-1	ST127	陶器 甕棺	34.8	17.7	46.9	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を含む	良好	外:7.5YR4/2灰褐 内:5YR2/2黒褐	外:ナデ, 施釉, 露胎, 施文 内:ナデ, 施釉	肩部に波状文 底部にメアト有
164-2	ST127	銅・鉄製品 銭	3.2	3.3	2.0					5枚:寛永通寶 植物片付着
166-1	ST128	土師器 皿	(7.6)	(6.0)	1.1	緻密	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外:ナデ, 糸切り 内:ナデ	
166-2	ST128	土師器 皿		6.0	[0.8]	緻密	良好	外:7.5YR6/4にぶい橙 内:7.5YR6/6橙	外:ナデ, 糸切り 内:ナデ	
166-3	ST128	銅製品 不明金具	1.3	2.0	0.3				銅線を輪状に成形	
168-1	ST129	鉄製品 鉄	12.9	3.6	1.2					
170-1	ST130	銅製品 銭	2.4	2.4	0.15					寛永通寶 木質付着
170-2	ST130	銅製品 銭	2.5	2.5	0.15					寛永通寶 植物質付着
170-3	ST130	銅製品 銭	2.4	2.4	0.15					寛永通寶 植物質付着
170-4	ST130	銅製品 銭	2.3	2.2	0.1					

3. 小結

図	遺構	種類	口径/ 長さ	底径/ 幅	器高/ 厚さ	胎土	焼成	色調	調整	備考
172-1	SK131	鉄製品 釘	[5.4]	[1.2]	0.4					木質付着
172-2	SK131	鉄製品 釘	[6.2]	[2.1]	0.8					木質付着
172-3	SK131	鉄製品 釘	[7.5]	[2.4]	0.8					木質付着
172-4	SK131	鉄製品 釘	[6.7]	[3.1]	0.7					木質付着
172-5	SK131	鉄製品 釘	[5.9]	[1.8]	0.4					木質付着
172-6	SK131	鉄製品 釘	[6.9]	[2.3]	0.6					木質付着
172-7	SK131	鉄製品 釘	[2.9]	[3.2]	0.7					木質付着
172-8	SK131	鉄製品 釘	[7.4]	[3.1]	0.6					
172-9	SK131	鉄製品 釘	[4.7]	[3.2]	0.7					木質付着
174-1	ST132	陶器 甕棺	54.2	29.8	72.5	緻密	良好	外：7.5YR4/2灰褐 内：10YR3/3暗褐	外：タタキ、ナデ、施釉、露胎 内：タタキ、ナデ、施釉	口縁部に丸い刻印 有
174-2	ST132	鉄製品 釘	[2.2]	[1.6]	0.3					木質付着
174-3	ST132	鉄製品 釘	[4.0]	[1.0]	0.7					木質付着
174-4	ST132	鉄製品 釘	[4.0]	[1.3]	0.5					
174-5	ST132	鉄製品 銭	3.1	3.0	0.5					2枚：不明
174-6	ST132	銅・鉄製品 銭	2.9	2.9	0.4					2枚：寛永通寶ほ か・鉄銭有
176-1	ST133	陶器 甕棺		30.0	[54.8]	緻密、直径1～5mmの砂 粒・黒色粒子を少し含 む	良好	外：5YR2/3極暗赤褐 内：5YR3/4暗赤褐	外：タタキ、ナデ、施釉、露胎 内：ナデ、施釉	底部に墨書有
176-2	ST133	磁器 皿	(11.2)	(6.2)	2.2	緻密	良好	10GY8/1明緑灰	外：施釉、施文、露胎 内：施釉、施文	草花文、藤、網目
176-3	ST133	土師器 皿	7.0	3.8	1.3	緻密	良好	10YR7/4にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	
176-4	ST133	土師器 皿	6.6	4.0	1.6	緻密	良好	10YR7/4にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	
179-1	SK136	土師器 皿	(7.5)	(5.6)	1.3	緻密、雲母片を少し含 む	良好	外：2.5Y3/1黒褐 内：7.5YR8/4浅黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	
179-2	SK136	土師器 皿	8.0	5.2	1.4	緻密、直径1mm大の砂 粒・雲母片を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	
179-3	SK136	土師器 皿	7.6	5.5	1.7	緻密、直径1～2mmの砂 粒を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	
179-4	SK136	土師器 皿	7.4	4.9	1.8	緻密、直径1mm大の砂 粒・雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	
179-5	SK136	土師器 杯	(12.3)	(7.8)	2.3	緻密、直径1～3mmの砂 粒を含む	良好	10YR7/4にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ、指オサエ	
181-1	ST137	陶器 甕棺	53.4	28.0	76.2	緻密、直径1～8mmの砂 粒を多く含む	良好	外：2.5YR3/1暗赤灰 内：2.5YR2/1赤黒	外：タタキ、ナデ、施釉、露胎 内：タタキ、ナデ、施釉	底部にメアト有
181-2	ST137	鉄製品 釘	[3.1]	1.1	0.3					
181-3	ST137	鉄製品 釘	[2.6]	[1.2]	0.3					
181-4	ST137	鉄製品 釘	[2.1]	[1.4]	0.3					木質付着
181-5	ST137	鉄製品 釘	[1.1]	2.5	0.7					木質付着
183-1	ST138	土師器 皿	8.7	6.5	1.3	緻密、直径1～3mmの砂 粒・雲母片を多く含む	良好	外：10YR6/3にぶい黄橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	
183-2	ST138	鉄製品 鉄	14.7	5.3	1.1					繊維・木質付着
183-3	ST138	銅製品 銭	2.1	2.1	0.15					寛永通寶
183-4	ST138	銅製品 銭	2.2	2.2	0.1					寛永通寶

I HZK1801地点（航空風洞実験室西地点）

図	遺構	種類	口径/ 長さ	底径/ 幅	器高/ 厚さ	胎土	焼成	色調	調整	備考
183-5	ST138	銅製品 銭	2.4	2.4	0.15					寛永通寶
183-6	ST138	銅製品 銭	2.5	2.5	0.15					寛永通寶
183-7	ST138	銅製品 銭	2.5	2.5	0.15					寛永通寶で文銭
183-8	ST138	銅製品 銭	2.5	2.5	0.1					寛永通寶
185-1	SK139	土師器 皿	6.3	3.6	1.5	緻密	良好	外：10YR4/2灰黄褐 内：7.5YR4/4褐	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	
187-1	SK140	染付 碗	9.6	4.0	5.6	緻密	良好	N8/0灰白	外：施釉，露胎，施文 内：施釉	草花文，雲文有 底部に「大明年製」
187-2	SK140	土師器 皿	7.1	5.4	1.2	緻密，雲母片を多く含 む	良好	10YR7/4にぶい黄橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	
187-3	SK140	石製品 玉	0.8	0.8	[0.6]			赤色		メノウ製？ 0.20g
189-1	ST141	陶器 甕棺	52.0	26.5	71.4	緻密，直径1～4mmの砂 粒・黒・赤色粒子を少 し含む	良好	外：2.5YR2/2極暗赤褐 内：10R4/1暗赤灰	外：タタキ，ナデ，施釉 内：タタキ，ナデ，施釉	口縁部・底部にメ アト有
189-2	ST141	鉄製品 釘	[3.0]	[0.7]	0.3					木質付着
189-3	ST141	鉄製品 釘	[2.0]	[0.6]	0.3					木質付着
189-4	ST141	鉄製品 釘	[2.0]	[1.0]	0.4					木質付着
190-1	ST143	白磁 皿	8.5	3.4	2.4	緻密	良好	10Y7/1灰白	外：施釉，露胎 内：施釉	
190-2	ST144	土師器 皿	8.5	6.2	1.4	緻密，直径1～2mmの砂 粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	
192-1	ST145	土師器 皿	8.4	6.5	1.6	緻密，直径1～2mmの砂 粒を含む	良好	10YR6/3にぶい黄橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	
192-2	ST145	鉄製品 毛抜	8.9	6.5	1.1					櫛付着
192-3	ST145	銅製品 銭	2.7	2.7	0.7					5枚：寛永通寶
195-1	ST147	陶器 甕棺	56.4	25.0	69.6	緻密，直径1～2mmの砂 粒・赤色粒子を少し含 む	良好	外：5YR3/4暗赤褐 内：2.5YR4/3にぶい赤褐	外：タタキ，ナデ，施釉 内：タタキ，ナデ，施釉	口縁部・底部にメ アト有
195-2	ST147	土師器 皿	8.8	6.8	1.7	緻密，直径1～2mmの砂 粒・赤色粒子を含む	良好	外：7.5YR7/3にぶい橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	
197-1	ST148	陶器 甕棺	(52.6)	29.1	73.6	緻密，直径1～4mm大の 砂粒を多く含む	良好	外：7.5YR4/4褐 内：10YR4/4褐	外：タタキ，ナデ，施釉 内：タタキ，ナデ，施釉	底部にメアト有
199-1	ST149	鉄製品 釘	[2.9]	0.9	0.4					
202-1	ST151	陶器 甕棺		25.6	[49.2]	緻密，直径2～4mm大の 赤色粒子を多く含む	良好	外：7.5YR3/4暗褐 内：7.5YR2/2黒褐	外：タタキ，ナデ，施釉 内：タタキ，ナデ，施釉	
202-2	ST151	陶器 甕棺		(27.8)	[24.5]	緻密，直径1～3mmの砂 粒を含む	良好	外：5YR2/1黒褐 内：5YR4/4にぶい赤褐	外：ナデ，施釉，露胎 内：ナデ，化粧土	
202-3	ST151	磁器 碗	8.2	3.0	4.75	緻密	良好	N8/0灰白	外：施釉，施文，露胎 内：施釉	九大食器
204-1	ST152	陶器 甕棺		25.2	[62.0]	緻密，直径1～8mm大の 砂粒を多く含む	良好	外：5YR3/4暗赤褐 内：5YR6/2灰褐	外：タタキ，ナデ，施釉，露胎 内：タタキ，ナデ，施釉	底部にメアト有
204-2	ST152	鉄製品 釘	[2.8]	1.2	0.4					
207-1	遺構外	陶器 甕棺	(60.0)		[34.3]	緻密，直径2～4mmの砂 粒を少し含む	良好	10YR3/1黒褐	外：タタキ，ナデ，施釉，露胎 内：ナデ，施釉	
207-2	遺構外	陶器 甕棺	(29.1)	20.4	49.7	緻密，直径1mm弱の砂 粒を多く含む，黒・赤 色粒子を含む	良好	外：2.5YR4/2灰赤 内：5YR4/2灰褐	外：タタキ，施釉，露胎 内：タタキ，施釉	口縁部にメアト有
207-3	遺構外	陶器 甕棺		28.0	[19.1]	緻密，直径1～2mmの砂 粒を少し含む	良好	5YR4/1褐灰	外：ナデ，施釉 内：ナデ，施釉	
207-4	遺構外	土師器 皿	8.2	5.0	2.3	緻密，直径1mm大の砂 粒・雲母片を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り，スス付着 内：ナデ	
207-5	遺構外	白磁 紅皿	4.2	1.3	1.1	緻密	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙 内：10GY8/1明緑灰	外：型作り，施釉，露胎 内：施釉	体部外面に貝肋状 文
207-6	遺構外	白磁 紅皿	4.9	1.3	1.5	緻密	良好	外：7.5Y7/1灰白 内：10Y8/1灰白	外：型作り，施釉，露胎 内：施釉	体部外面に貝肋状 文
207-7	遺構外	銅製品 キセル吸口	[6.8]	1.0	1.0					羅宇の一部が残存

図	遺構	種類	口径/ 長さ	底径/ 幅	器高/ 厚さ	胎土	焼成	色調	調整	備考
207-8	遺構外	銅製品 キセル首部	[4.3]	1.0	[1.9]				断面六角形	羅宇の一部が残存
207-9	遺構外	銅製品 キセル吸口	[5.9]		1.0					
207-10	遺構外	銅製品 キセル吸口	[9.9]		1.0				草花文有	布付着 羅宇の一部が残存
207-11	遺構外	銅製品 キセル?	[4.5]		[1.3]					
207-12	遺構外	銅製品 キセル?	[4.4]		0.5					
207-13	遺構外	鉄製品 鉄・毛抜	[12.7]	[5.4]	2.0					木質付着
207-14	遺構外	鉄製品 鉄	[8.5]	[4.7]	1.4					
207-15	遺構外	銅製品 鈴	2.6	1.7	0.8					木質付着
207-16	遺構外	銅製品 飾り金具	[6.4]	0.5	0.1				振り加工	
207-17	遺構外	銅製品 金具	[5.3]	[2.3]	0.5					
207-18	遺構外	金銅製品 鍔金具	1.4	1.4	0.5				金メッキ	
207-19	遺構外	金銅製品 鍔金具	[4.5]	1.5	0.9				金メッキ・模様(魚々子)有	木質付着
207-20	遺構外	金銅製品 鍔金具	[7.1]	[3.0]	[2.5]					木質付着
207-21	遺構外	金銅製品 鍔金具	[4.9]	[2.7]	3.0					木質付着
207-22	遺構外	金銅製品 鍔金具	3.3	3.2	0.4				金メッキ・模様有	紙付着
207-23	遺構外	鉄製品 釘	[3.7]	[2.1]	0.5					
207-24	遺構外	鉄製品 釘	[3.3]	[1.6]	0.7					木質付着
207-25	遺構外	鉄製品 釘	[4.2]	[1.6]	0.6					木質付着
207-26	遺構外	鉄製品 釘	[3.3]	[1.5]	0.5					木質付着
207-27	遺構外	鉄製品 釘	[3.5]	[1.2]	0.6					
207-28	遺構外	鉄製品 釘	[3.8]	[1.8]	0.4					木質付着
207-29	遺構外	鉄製品 釘	6.6	1.1	0.3					
207-30	遺構外	鉄製品 釘	[6.7]	1.2	0.3					
207-31	遺構外	鉄製品 釘	[1.2]	0.3	0.2					207-21の固定用か
207-32	遺構外	木製品 扇	[4.6]	[1.3]	0.7					要部分
207-33	遺構外	銅製品 銭	2.6	2.5	0.4					2枚：寛永通寶 紙付着
207-34	遺構外	銅製品 銭	2.4	2.6	0.4					モミガラ付着
207-35	遺構外	銅製品 銭	2.4	2.4	0.3					2枚：寛永通寶
207-36	遺構外	銅製品 銭	2.6	2.7	0.5					4枚：古寛永通寶 ほか
207-37	遺構外	銅製品 銭	2.6	3.6	0.6					4枚：寛永通寶ほ か 布付着
207-38	遺構外	銅製品 メダル	3.0	2.5	0.6					森永キャラメルのお まけ スピードスケート

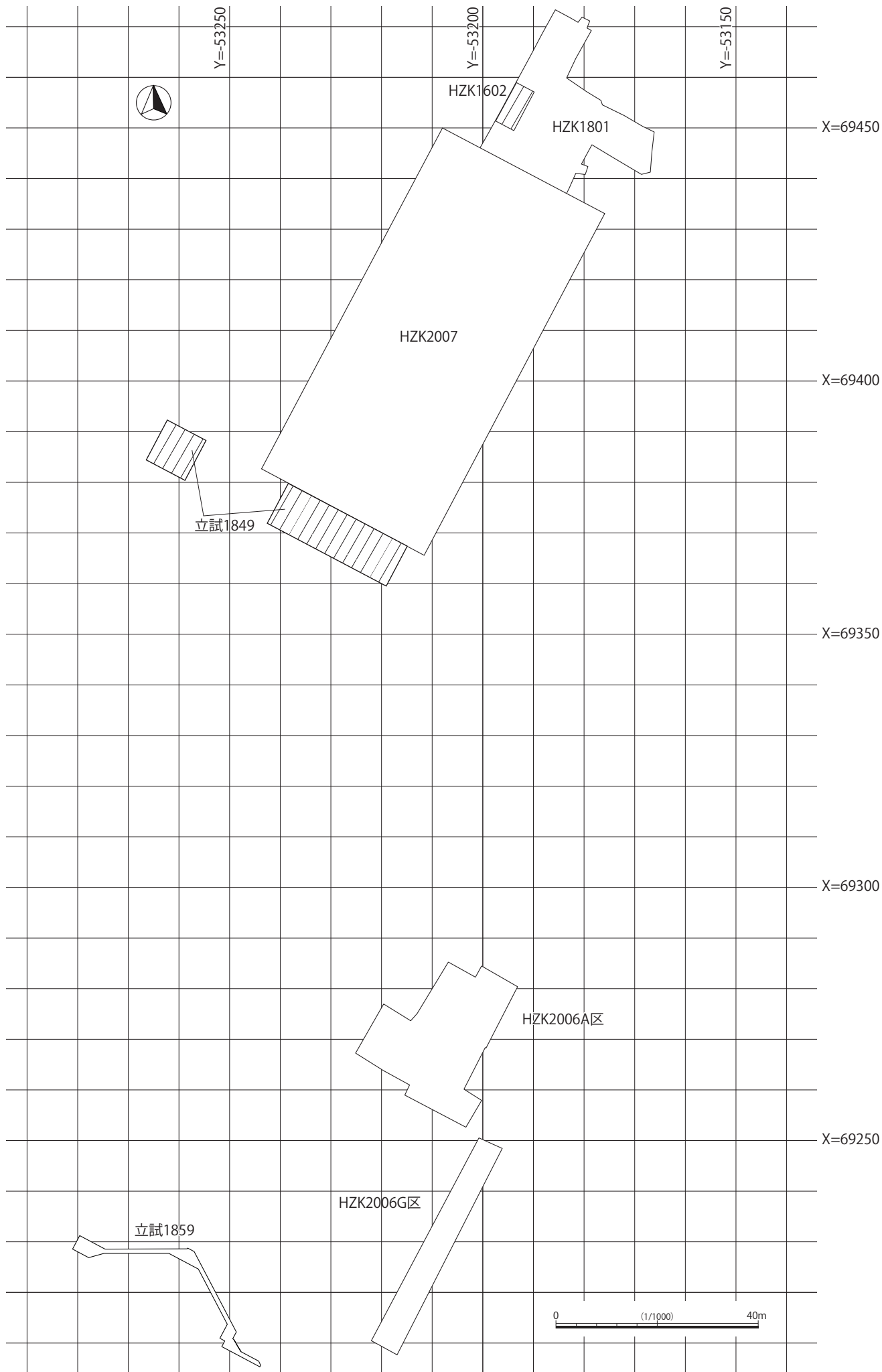
Ⅱ まとめ

1. はじめに

明治33（1900）年測量の陸地測量部作成の地形図（第1図）によれば、九州大学が創立された1911年以前の箱崎キャンパス跡地は、箱崎の住宅地が及ばない荒蕪地であった。そして、その北東部の鉄道線路西側一帯が米一丸墓として墓地が営まれていた。箱崎キャンパス南東部の工学部本館北側の地蔵の森からその北東部に墓地が広がっていることが見てとれる。1911年に九州帝国大学が創立されるに及んで、その墓地は撤去されたようで、明治44（1911）年作成の地形図には墓地はなく松林に変更されている。2016年8月の船舶海洋工学実験室周辺の試掘において、近世～近代の甕棺3基と人骨が検出された。当初、試掘主体の福岡市経済観光文化局文化財活用部は、本調査ではなく工事掘削時における慎重調査の判断を下した。これに対し、九州大学埋蔵文化財検討ワーキンググループならびに九州大学埋蔵文化財調査室では、近世甕棺と人骨の遺存状態および明治33年測量図から判断して、この地点に良好な近世墓地が存在する可能性があるかと判断し、学術調査として発掘調査（HZK1801地点）を実施することとした（第2図）。その結果、HZK1801地点は多くの桶棺墓や甕棺墓からなる近世墓地であり、しかも人骨の遺存が良好なものであることが明らかとなった。また、2019年2月の工



第1図 明治33（1900）年測量の陸地測量部地図



第2図 調査地点

学部本館と本部第一庁舎をつなぐ配電線路改修工事のための試掘調査（立試1859地点）では、中世の貿易陶磁器や土壙墓が発見され、この地点に中世墓地が存在する可能性が高まった。さらにはHZK2006地点では、中世の木棺墓と共に火葬土坑が多数検出された。したがって、地蔵の森から北側の船舶海洋工学実験室周辺まで中世から近世や近代の墓地が続くことが明らかとなったのである。

『九州大学箱崎キャンパス発掘調査報告6』と『九州大学箱崎キャンパス発掘調査報告7』では、地蔵の森や工学部本館以南の箱崎キャンパス跡地東南部の発掘調査を報告した。これらの地点は、古代末期から中世の集落遺跡であることが判明している（宮本 2023）。それらの集落遺跡は12世紀後半～13世紀前半の第1段階、13世紀後半～14世紀前半の第2段階、14世紀後半～15・16世紀の第3段階に分けられる。古代末期から中世にかけて箱崎遺跡の居住域が筥崎宮周辺を中心にして、次第に北側の箱崎キャンパス東南部の箱崎サテライト（旧工学部本館などの国の登録有形文化財指定地域）まで拡大していったことが明らかとなっている。居住域の拡大とともに、その北側に古代末期から中世の墓域が広がって行ったのである。近世になると、箱崎の集落域は宿場町として筥崎宮周辺に収束し、さらにその周りに農村や漁村が散在していたであろう。その状況は、明治33（1900）年の地形図（第1図）に近い土地環境であったであろう。地蔵の森北側の近世墓地は、人里離れた箱崎の共同墓地として営まれていた景観がよみがえったのである。

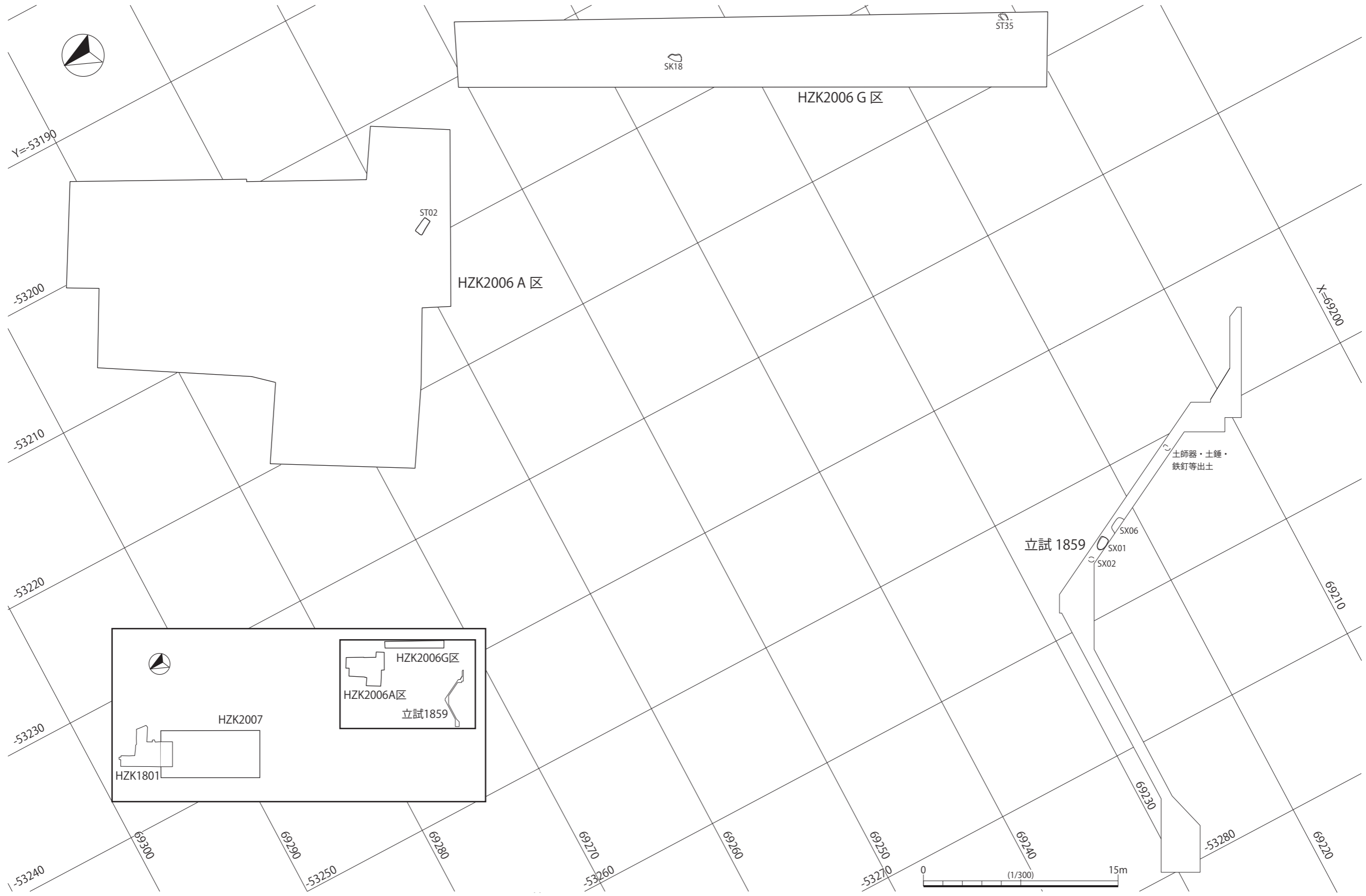
2. 遺構の変遷

墓地遺構が最初に発見されたのは、立試1849地点からHZK1602地点・HZK1801地点の集落遺跡の北側地点に当たっている（第2図）。発掘調査地点は、建物地点あるいは汚染土壌地点を除いて実施したものであり、未調査の空白地点にも本来墓地が存在していたことは、容易に想像できるであろう。これらの墓葬は、木棺墓・土壙墓、火葬土坑、近世桶棺墓・甕棺墓からなっている。以下、墓葬の種類別にその内容や分布状況を述べていきたい。

（1）木棺墓・土壙墓（第3図、第1表）

木棺墓・土壙墓は立試1859地点とHZK2006地点G区・A区南端から発見されている（第3図）。本部第一庁舎付近には木棺墓・土壙墓4基が存在している。発見された墓葬の分布からみると、本部第一庁舎部分は、古代末～中世前期の木棺墓地であったと想像される。木棺墓として認定したものは、鉄釘が土壙内部から発見されたものであるが、鉄釘が発見されなかった土壙墓も木棺墓であった可能性は高い。

HZK2006地点A区ST02は、長軸が130cmと小型であり、被葬者が成人であれば屈肢葬ないし屈葬で葬られていたであろう。副葬品を見ると、頭部側に龍泉窯系青磁碗1点と土師皿4点が副葬されており、青磁碗が12世紀中頃～13世紀初頭のものであり、集落遺跡第1段階のものである。この時期の木棺墓は、工学部本館西側で福岡市教育委員会が発掘した箱崎遺跡第102次の3区ST1150・1160と5区のST5040の3基の木棺墓が存在している（本田編 2023）。集落遺跡第1段階は、調査区の箱崎遺跡の砂州が安定して箱崎遺跡が箱崎キャンパス東南部まで延びる段階である。箱崎遺跡の居住域が北側に延び、さらにその北側に墓地が営まれたのであった。また、立試1859地点のSX01から人骨が出土しており、土壙墓をなす。付近からは、12世紀後半の白磁皿4点、13世紀前半の龍泉窯系青磁碗1点が出土している。これらがSX01の副葬品である可能性もあり、集落遺跡第1段階の木棺墓が立試1859地点のSX01ないしその付近にあった可能性がある。



第3図 HZK2006・立試1859地点の木棺墓・土墳墓

HZK2006地点G区ST35は白磁碗1点と白磁皿4点が副葬された木棺墓である。白磁碗は13世紀後半～14世紀前半のもので、集落遺跡第2段階の木棺墓である。SK18は発掘時の所見では土坑と判断されたものであるが、土坑内部から人骨片が出土していることと、土坑の肩部近くから14世紀初頭～14世紀後半の龍泉窯青磁碗が出土している。砂地での発掘であるとともに、土坑の半分が攪乱を受けていることから、本来は青磁碗が副葬品であったと考え、集落遺跡第2段階の土壙墓と考えられる。

この他、HZK2007地点から土壙墓ST21が検出された。土壙墓ST21は頭蓋骨とともに、土師器坏が1点出土しており、副葬品と考えられる。火葬土坑SK20を土壙墓ST21が切って作られている（第4・5図）。火葬土壙墓は集落遺跡第3段階の14世紀後半～15・16世紀の中世後期のものである。中世後期の火葬土坑を切って作られていることから、火葬土坑より新しい墓葬である。また、土壙墓ST21は長軸84cmと小型の墓壙であり、被葬者の成人男性は屈葬で埋葬されたものであろう。そうであるならば、中世末から近世初頭の土壙墓（木棺墓）の可能性もある。土壙墓ST21はHZK2007地点の南西部に位置するところからも、中世後期の火葬土坑と近世中・後期の桶棺墓・甕棺墓の間をつなぐ土壙墓である可能性が高いであろう。

第1表 HZK2006・2007他地点 中世の木棺墓・土壙墓一覧

※乳児0-1歳、幼児1-6歳、小児6-12歳、若年12-20歳、成年20-40歳、熟年40-60歳、老年60歳以上、成人は20歳以上とする

調査地点	地区	遺構番号	遺構名	人骨所見				鉄釘	年代	副葬品		銭貨		備考
				葬法	改葬など	年齢	性別			土器	その他	寛永通宝	その他	
2006	A	ST02	木棺墓	木棺				5	12～13世紀	土師皿(4) 青磁碗(1)				釘5本全てに木質付着 青磁碗より年代判定
2006	G	SK18	土壙墓	長方形木棺?	屈葬	熟年	男性		14世紀代	青磁碗(1)				青磁碗より年代判定
2006	G	ST35	木棺墓					13	14世紀前半	白磁碗(1) 白磁皿(4)				釘13本全てに木質付着 白磁碗より年代判定
立試 1859		SX01	土坑	土壙墓?		不明	不明							
立試 1859		番号 なし	土坑?					1	12世紀後半～ 13世紀前半	白磁皿(4) 青磁碗(1)				
2007		ST21	土壙墓	土壙墓		成人	男性		16～17世紀?	土師器坏				

(2) 火葬土坑（第4図、第2表）

火葬土坑は、土壙内部に木炭と少量の火葬骨が検出されたものである。HZK2007地点の火葬土坑SK24の所見からすれば、1辺70cm程度の方形木棺に納められた遺体を木棺ごと燃やす火葬場として用いられており、火葬後は拾骨され、蔵骨器などに納められて別の地点に埋葬されたものである。本調査区では埋葬地点は発見されておらず、埋葬地としての候補地は地蔵の森周辺などの未調査区が挙げられるが、箱崎遺跡の外に持ち出された可能性もある。

火葬土坑は、HZK2006地点とHZK2007地点南西部に分布している。HZK2006地点で17基、HZK2007地点では21基が検出された。これら両者の間は約80m離れており（第2図）、この間にも火葬土坑が分布していた可能性がある。第4図の火葬土坑の分布を眺めるならば、西北方向から東南方向に列をなしていた可能性があり、少なくとも4列をなしていた可能性がある。さらに列の中でもHZK2007地点の西南部の列の中にもいくつかの塊状の分布が認められる。SK61・57・53・56・54が一まとまり、SK38・35・42・36が一まとまり、SK01・03・04・05・06が一まとまり、SK14・20・40・22・24が一まとまりという四つのまとまりからなっている。こうした列とまとまりが何を表すかは、親族単位など様々な想定は可能であるが、正確な意味は不明である。第2表にあるように、土坑内に認められる土師器は、副葬品というより、火葬に際して何らかの祭祀的に供えられたものという意味合いがある

と思われる。HZK2006地点 G 区の SK13と SK19の木炭の放射性炭素年代はいずれも15世紀前半を示している。また、第4列目の HZK2007地点の SK24は、北宋の治平元寶と明の永樂通寶の貨幣がそれぞれ1枚出土している。同じ第4列の SK57から永樂通寶1枚が、さらに HZK2007地点南西部の火葬土坑 SK57でも永樂通寶1枚が出土している。永樂通寶は初鑄が1411年で、日本では室町時代から江戸時代初期まで流通している。これらの火葬土坑が15・16世紀の集落遺跡第3段階の時期に伴うものであると判断される。

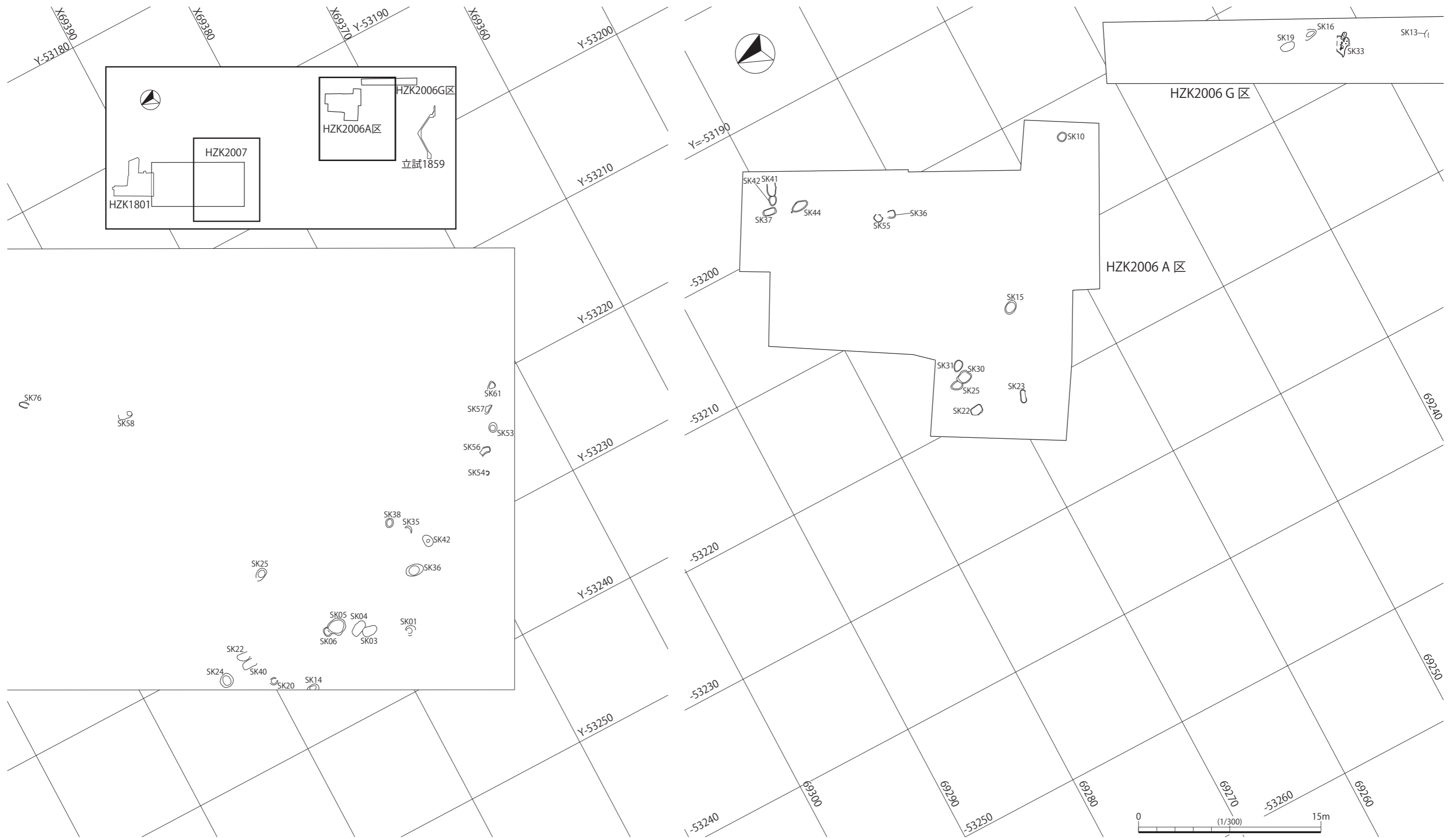
本遺跡の近くの勝軍地藏堂板碑は、最も古いものが貞和二（1346）年で、14世紀後半のものが主体であるが、最も新しいもので応永年間（1394～1427年）のものがあり、14世紀後半～15世紀前半のものである。これらの一部は地藏松原にあったと『筑前国続風土記拾遺』などに記載されている（福岡市教育委員会文化財整備課 1992）。地藏松原の正確な場所は不明であるが、本遺跡近くの工学部本館から地藏の森あたりが候補に挙げられるであろう⁽¹⁾。14世紀後半～15・16世紀は、集落遺跡第3段階に相当するが、この段階は HZK2003・2101地点で瓦葺建物や板碑など寺院遺構が存在する可能性のある段階である（宮本 2023）。同時期の火葬土坑の南側に寺院遺構や板碑が存在し、火葬土坑と寺院遺構は何らかの関係があると考えられる。

(3) 桶棺墓（木棺墓）・甕棺墓（第5図、第3・4表）

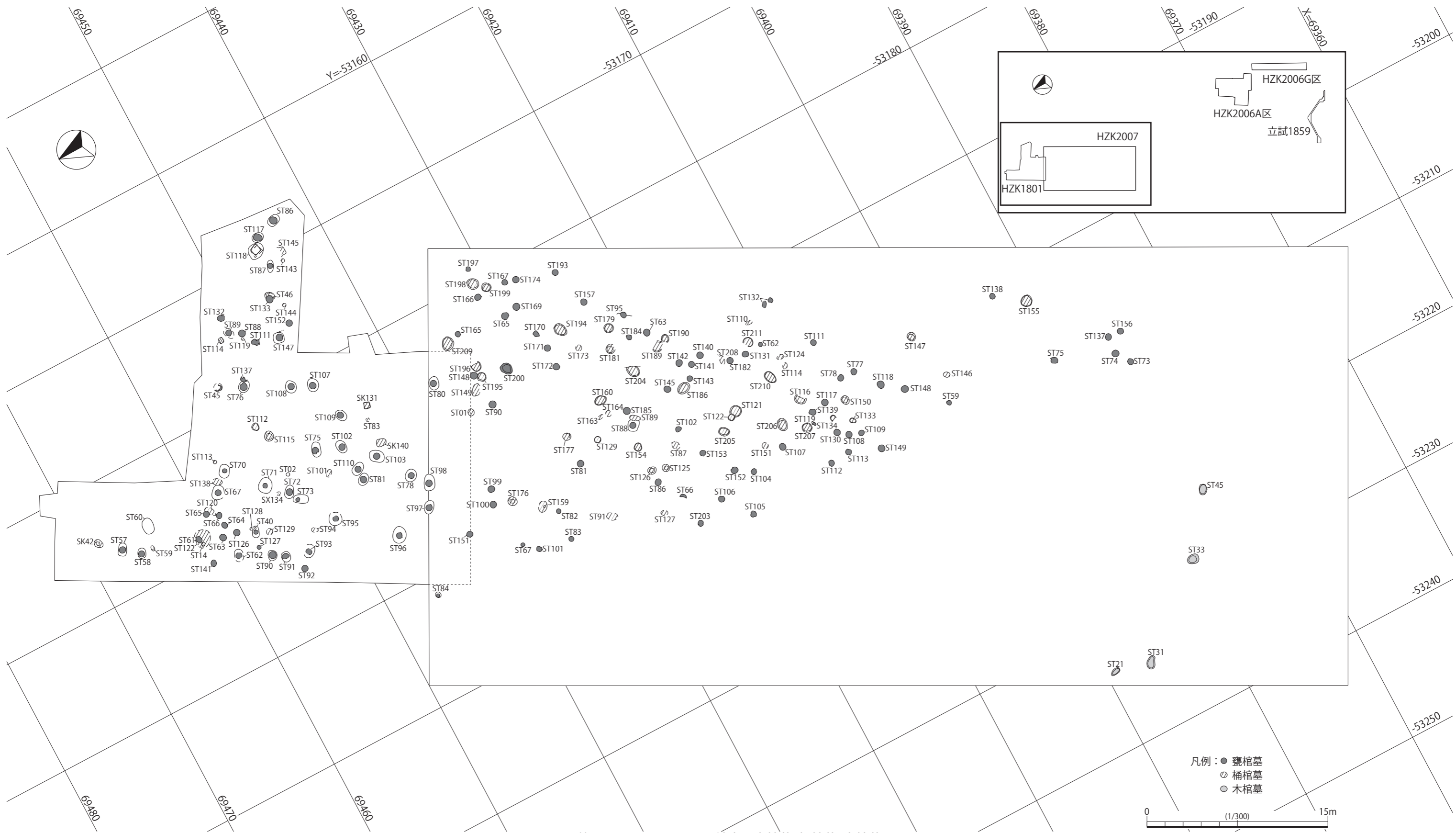
桶棺墓と甕棺墓は、HZK1801地点と HZK2007地点のみに認められる。第5図の分布図から見ても、桶棺墓と甕棺墓は混在してまとまって分布している。それに対して、単独に認められる HZK2007地点 ST45・33・31は、桶棺墓と甕棺墓と分布域を大きく異にしている。また、ST33からは鉄釘が出土しており木棺墓と考えられている。ST33の墓壙の長軸は90cmであり、成人男性の被葬者は屈葬で埋葬されていたものと考えられる。すでに木棺墓として紹介した ST21も成人男性の小型木棺墓であり、同様の葬法が認められる。ST45からは明の洪武通寶（1368～1398年）が出土しており、14世紀後半以降となる。ST21を含め ST45・33・31は、分布上、HZK2007地点の火葬土坑と重なっている。さらに、ST21は火葬土坑を切って作られている。したがって、中世後期の火葬土坑と近世の桶棺墓・甕棺墓の時期的に中間に位置する木棺墓と考えられる。これら木棺墓の年代は、中世末から近世初頭と考えられる。

HZK1801地点と HZK2007地点では、桶棺墓は77基以上（第3表）、甕棺墓は117基以上（第4表）が検出された。桶棺墓と甕棺墓は共に、寛永通寶が副葬されている。いわゆる六道銭であるが、寛永通寶は初鑄が1636年であり、両墓制はおおむね17世紀後半以降のものとなる。HZK1801・HZK2007地点では遊離した状態で墓石が発見されているが、その中で年号のわかる最も古いものは元禄9（1696）年であり、17世紀末のものである。甕棺墓の甕の型式（東中川 2000）からも17世紀後半と18・19世紀のものであり、両墓制はおおむね17世紀後半～19世紀のものであると考えられる。ただし、桶棺墓が寛永通寶のみで鉄銭は六道銭に僅かにしか使われていないのに対し、甕棺墓は六道銭において寛永通寶に比べ鉄銭が多く使われている。これは、相対的に桶棺墓に比べ甕棺墓がより年代の新しい時期により造墓されていることを示している。

桶棺墓と甕棺墓は共に副葬品が、六道銭や土師皿以外に、キセル、鋏、毛抜、櫛がセットとなっている。第3表と第4表に示すように、これらの組み合わせにおいて、桶棺墓と甕棺墓における差異はみられない。また、男女の性別による副葬品構成の差異も認められない。特殊な副葬品として七星板が挙げられるが、HZK1801地点の ST57・64・81・90・97・103の6基の甕棺墓と、HZK2007地点の ST140・172の甕棺墓で出土している。いずれも判別できるもので18・19世紀の甕棺墓で、男性の被



第4図 HZK2006・2007地点の火葬土坑



第5図 HZK1801・2007地点の甕棺墓・桶棺墓・木棺墓

葬者が多い傾向にある。桶棺墓・甕棺墓地の中でも全体的に北側に分布しており、しかも甕棺墓である点からも近世墓地でも比較的新しい段階のものに副葬されたと判断される。七星板は中国の葬具の一つであり、儒教的葬祭と関係している（藤澤 2016）。七星板は、江戸時代に導入され、七星板の存在を記した日記などから、18世紀中葉から19世紀中葉に用いられたとされる（水野 1995）。本墓地においても、七星板は甕棺内部人骨の下部に敷かれたような状態で出土しているとともに、18・19世紀の甕棺である点からも、文献記録と同じような傾向を示している。

『筑前国続風土記』卷之十八糟屋郡表（貝原益軒編 1973）によれば、寛永8（1631）年に地蔵松原に地蔵堂が建立されている。集落遺跡第3段階の中世後期にみられた寺院が、引き続き工学部本館からその北側の地蔵の森付近に存在していた可能性がある。箱崎キャンパス跡地では近世遺構が井戸2基しか検出されておらず、未調査区である工学部本館から地蔵の森付近に近世遺構が存在する可能性があるからである。17世紀後半～19世紀の桶棺墓と甕棺墓は、この近世寺院と関係していたであろう。17世紀後半の寛文期以降に、江戸幕府は檀家制度によりキリスト教禁教政策を推し進めて行く。これに呼応して設けられた特定寺院に付属する檀家の墓地が、桶棺墓・甕棺墓群であったと言えよう。

第2表 HZK2006・2007地点 火葬土坑一覽

※乳児0-1歳，幼児1-6歳，小児6-12歳，若年12-20歳，成年20-40歳，熟年40-60歳，老年60歳以上，成人は20歳以上とする

調査地点	地区	遺構番号	遺構名	人骨所見				鉄釘	年代	副葬品		銭貨		備考
				葬法	改葬など	年齢	性別			土器	その他	寛永通寶	その他	
2006	A	SK10	火葬土坑	火葬	拾骨有り									
2006	A	SK15	火葬土坑	火葬	拾骨有り	成人	男性?							
2006	A	SK22	火葬土坑	火葬	拾骨有り									
2006	A	SK23	火葬土坑	火葬	拾骨不明			2						
2006	A	SK25	火葬土坑	火葬	拾骨有り	成人								
2006	A	SK30	火葬土坑	火葬	拾骨有り			2		木製玉(13) (一連の数珠か)				
2006	A	SK31	火葬土坑	火葬	拾骨有り									
2006	A	SK36	火葬土坑	火葬	拾骨有り									出土遺物なし
2006	A	SK37	火葬土坑	火葬	拾骨有り									
2006	A	SK41	火葬土坑	火葬	拾骨有り	成人		7						骨付着の釘1本あり
2006	A	SK42	火葬土坑	火葬	拾骨有り			1						
2006	A	SK44	火葬土坑	火葬	拾骨不明			9		土師皿(1)				釘9本のうち1本に木質付着
2006	A	SK55	火葬土坑	火葬	拾骨有り									
2006	G	SK13	火葬土坑	火葬	拾骨有り			15世紀前半 (放射性炭素年代)	土師皿(1)	木製玉(8) (一連の数珠か)				<SK13の南> 被熱していない人骨が若干混入 <SK13の東> 動物骨混入
2006	G	SK16	火葬土坑	火葬	拾骨不明	成人								出土遺物なし
2006	G	SK19	火葬土坑	火葬	拾骨有り			15世紀前半 (放射性炭素年代)						出土遺物なし
2006	G	SK33	火葬土坑	火葬	拾骨有り			5						茶毘の場ではない可能性あり
2007		SK01	火葬土坑											

II まとめ

調査地点	地区	遺構番号	遺構名	人骨所見				鉄釘	年代	副葬品				銭貨		備考
				葬法	改葬など	年齢	性別			土器	その他	寛永通寶	その他			
2007		SK03	火葬土坑	火葬土坑	拾骨有り	不明	不明									出土遺物なし
2007		SK04	火葬土坑	火葬	拾骨有り	不明	不明									
2007		SK05	火葬土坑	火葬	拾骨有り	成人	不明									
2007		SK06	火葬土坑	火葬	拾骨有り	不明	不明									出土遺物なし
2007		SK14	火葬土坑													出土遺物なし
2007		SK20	火葬土坑	火葬	拾骨有り	不明	不明	2								釘2本のうち1本に木質付着
2007		SK22	火葬土坑	火葬	拾骨有り	不明	不明									出土遺物なし
2007		SK24	火葬土坑	方形木棺	拾骨有り	成人	不明	3	15世紀以降	土師皿(2)	割りピン状鉄製金具(4)		治平元寶(北宋銭)(1), 永楽通寶(1)		銭(永楽通寶)より年代判定	
2007		SK25	火葬土坑	火葬	拾骨不明	不明	不明									茶毘の場ではない可能性あり 出土遺物なし
2007		SK35	火葬土坑	火葬	拾骨不明	不明	不明									
2007		SK36	火葬土坑	火葬	拾骨不明	成人	不明									
2007		SK38	火葬土坑	不明		不明	不明									茶毘の場ではない可能性あり
2007		SK42	火葬土坑	火葬	拾骨不明	不明	不明									茶毘の場ではない可能性あり
2007		SK53	火葬土坑	火葬	拾骨不明	不明	不明									茶毘の場ではない可能性あり 出土遺物なし
2007		SK54	火葬土坑													茶毘の場ではない可能性あり 出土遺物なし
2007		SK56	火葬土坑													茶毘の場ではない可能性あり
2007		SK57	火葬土坑	火葬	拾骨不明	不明	不明		15世紀以降	土師皿・坏			永楽通寶(1)		銭(永楽通寶)より年代判定	
2007		SK58	火葬土坑	火葬	拾骨不明	不明	不明									
2007		SK61	火葬土坑	火葬	拾骨不明	成人	不明									
2007		SK76	火葬土坑	火葬	拾骨不明	不明	不明		17世紀以降				1			銭(寛永通寶)より年代判定

第3表 HZK2007・1801地点 土壇墓(木棺墓・桶棺墓) 一覧

※乳児0-1歳, 幼児1-6歳, 小児6-12歳, 若年12-20歳, 成年20-40歳, 熟年40-60歳, 老年60歳以上, 成人は20歳以上とする

調査地点	遺構番号	遺構名	人骨所見				鉄釘	年代	副葬品					銭貨		備考	
			葬法	改葬など	年齢	性別			土器	キセル	ハサミ	毛抜	櫛	その他	寛永通寶		その他
2007	ST21	土壇墓	土壇墓		成人	男性			土師器坏								
2007	ST31	木棺墓	土壇墓	改葬不明	成人	不明											
2007	ST33	木棺墓	土壇墓(木棺?)	改葬不明	成人	男性?											出土遺物なし
2007	ST45	木棺墓	土壇墓(木棺?)	改葬不明	不明	不明		14世紀後半以降	土師器坏			1				洪武通寶(1), 天禧通寶(1)	銭(洪武通寶)より年代判定
2007	ST87	桶棺墓	木棺	改葬無し	成人	女性?		17世紀後半以降	土師皿		1		1	扇の要(1), 筭(1)	3	紹聖元寶(1), 元豊通寶(1)	銭(寛永通寶)より年代判定
2007	ST89	桶棺墓	土壇墓(木棺?)	改葬不明	不明	不明										不明(6)	
2007	ST91	桶棺墓	土壇墓(木棺?)	改葬無し	成人	女性	13		土師皿(2)								

2. 遺構の変遷

調査地点	遺構番号	遺構名	人骨所見				鉄釘	年代	副葬品						銭貨		備考
			葬法	改葬など	年齢	性別			土器	キセル	ハサミ	毛抜	櫛	その他	寛永通寶	その他	
2007	ST110	桶棺墓	土壇墓(木棺?)	改葬不明	不明	不明		14世紀後半以降	土師器坏(2)		2					元祐通寶(1), 祥符元寶(1), 洪武通寶(1), 祥符通寶(1), 無文銭(4), 不明(1)	銭(洪武通寶)より年代判定
2007	ST114	桶棺墓	不明	改葬不明	成年	男性		17世紀以降	土師皿(2)		1	1	1		5	無文銭(1)	銭(寛永通寶)より年代判定
2007	ST116	桶棺墓	木棺	改葬無し	不明	男性	1		土師皿(2)		1	1					
2007	ST121	桶棺墓	土壇墓	改葬不明	不明	不明			土師皿(2)		1		1				
2007	ST122	桶棺墓	土壇墓	改葬不明	不明	不明											墓でない可能性あり
2007	ST124	桶棺墓	不明	改葬不明	成人	女性?	1										墓でない可能性あり
2007	ST125	桶棺墓	木棺	改葬不明	成人	女性?		17世紀以降	土師皿(2) 土師坏		1	1			6		銭(寛永通寶)より年代判定
2007	ST126	桶棺墓	木棺	改葬不明	熟年-老年	男性		17世紀以降	土師皿(2)	1	1				1	銅製鋸金具(扇型) 不明銅銭(5)	銭(寛永通寶)より年代判定
2007	ST127	桶棺墓	木棺	改葬不明	成年	男性											
2007	ST129	桶棺墓	土壇墓	改葬不明	未成人(幼児)	不明		17世紀後半以降	白磁ミニチュア高坏(1), 碗(1), 染付ミニチュア碗(1)						6		銭(寛永通寶)より年代判定
2007	ST133	桶棺墓	木棺	改葬無し	老年	女性	8		土師皿(2)								
2007	ST134	桶棺墓	土壇墓	改葬不明	成人	女性	3									銅製鋸金具	
2007	ST146	桶棺墓	木棺	改葬無し	不明	不明	1	17世紀後半以降	土師皿	1	1	1	1		4	銅製金具(2) 不明銅銭(2)	銭(寛永通寶)と人骨コラーゲンによる放射性年代測定により判定
2007	ST147	桶棺墓	土壇墓(木棺?)	改葬不明	成人	不明	1				1						
2007	ST150	桶棺墓	土壇墓	改葬不明	成人	不明		17世紀以降	土師皿(2)						6	無文銭(1)	銭(寛永通寶)より年代判定
2007	ST151	桶棺墓	木棺	改葬不明	成人	男性		17世紀後半以降	土師器坏(2)		1	1	1		6		銭(寛永通寶)より年代判定
2007	ST154	桶棺墓	土壇墓(木棺?)	改葬不明	幼児	不明		17世紀後半以降							6		銭(寛永通寶)より年代判定
2007	ST155	桶棺墓	木棺	改葬不明	不明	不明	4	17世紀以降				1			2	鉄製品(刀子), 3連の玉 鉄銭(6)	銭(寛永通寶)より年代判定
2007	ST159	桶棺墓	木棺	改葬無し	成年	女性		15~16世紀?	土師器片							銅製品(弁)	
2007	ST160	桶棺墓	土壇墓(木棺?)	改葬無し	成人	男性	1	17世紀後半以降	土師皿		1	1			2	釘状鉄製品(半環状)	銭(寛永通寶)より年代判定
2007	ST163	桶棺墓	土壇墓	改葬無し	不明	男性		17世紀以降?	土師皿(2)		1				2		銭(寛永通寶)より年代判定
2007	ST164	桶棺墓	木棺	改葬無し	成年-熟年	女性			土師皿(2)								人骨コラーゲンによる放射性炭素年代測定により判定
2007	ST173	桶棺墓	木棺	改葬無し	成年	女性	2	17~18世紀?	土師皿								人骨コラーゲンによる放射性炭素年代測定により判定
2007	ST176	桶棺墓	土壇墓	改葬不明	成人	不明			土師皿(2)	1							
2007	ST177	桶棺墓	木棺	改葬無し	成年	女性			土師皿							水晶製玉	
2007	ST179	桶棺墓	土壇墓	改葬不明	熟年	不明		18世紀以降	土師皿(2)		2	2			4	鉄銭(1), 不明(1)	銭(寛永通寶)より年代判定

II まとめ

調査地点	遺構番号	遺構名	人骨所見				鉄釘	年代	副葬品						銭貨		備考	
			葬法	改葬など	年齢	性別			土器	キセル	ハサミ	毛抜	櫛	その他	寛永通寶	その他		
2007	ST181	桶棺墓	土墳墓	改葬不明	不明	不明		17世紀後半以降 (18世紀以降?)			1					2	鉄銭(3)	銭(寛永通寶)より年代判定 鉄銭が含まれている場合は18世紀以降か
2007	ST186	桶棺墓	土墳墓	改葬不明	不明	不明		13世紀中頃～ 14世紀初頭	土師皿(2), 青磁碗									青磁碗より年代判定
2007	ST187	桶棺墓	土墳墓	改葬不明	不明	不明												出土遺物なし
2007	ST189	桶棺墓	土墳墓	改葬不明	不明	不明			土師皿					銅製鋳金具				
2007	ST190	桶棺墓	土墳墓?		不明	不明		17世紀以降	土師皿			1			4	祥符元寶(1),至道元寶(1), 洪武通寶(1)	銭(寛永通寶)より年代判定	
2007	ST194	桶棺墓	土墳墓	改葬不明	不明	不明		17世紀後半以降	白磁碗, 土師皿(2), 船徳利(1)	1	1		1	銅製鋳金具, 板状鉄製品	6		銭(寛永通寶)より年代判定	
2007	ST195	桶棺墓	土墳墓	改葬不明	不明	不明		17世紀以降	土師皿(2)		1	1		銅製飾り金具, 漆膜	1	不明(5)	銭(寛永通寶)より年代判定	
2007	ST196	桶棺墓	土墳墓	改葬不明	不明	不明		17世紀以降				1			1	銅銭(4), 不明(1)	銭(寛永通寶)より年代判定	
2007	ST198	桶棺墓	土墳墓	改葬不明	成人	男性?			陶碗, 土師皿(2), 土師器片		1	1		石製玉		銅銭(1), 不明(6)		
2007	ST199	桶棺墓	土墳墓	改葬不明	不明	不明			土師皿(1)		1		1					
2007	ST204	桶棺墓	土墳墓	改葬不明	不明	不明		17世紀以降			1	1			6		銭(寛永通寶)より年代判定	
2007	ST205	桶棺墓						17世紀以降	土師皿(1)		1	1	1		6		銭(寛永通寶)より年代判定	
2007	ST206	桶棺墓	土墳墓	改葬不明	不明	不明		17世紀後半以降	土師坏(2)		1	2? 同一個体か?	1		6		銭(寛永通寶)より年代判定	
2007	ST207	桶棺墓	土墳墓	改葬不明	不明	不明		17世紀以降	土師坏(1)		1				5	無文銭(1)	銭(寛永通寶)より年代判定	
2007	ST208	桶棺墓	土墳墓 (木棺?)	改葬不明	不明	不明		17世紀後半以降	土師皿(2)		1	1		銅製の板	6	不明(5)	銭(寛永通寶)より年代判定	
2007	ST209	桶棺墓	土墳墓	改葬不明	不明	不明	1	17世紀後半以降	土師皿(2)		1	1	1		6		銭(寛永通寶)より年代判定	
2007	ST210	桶棺墓	土墳墓	改葬不明	成人	不明			土師皿(2)					ガラス玉				
2007	ST211	桶棺墓	土墳墓	改葬不明				17世紀以降	土師皿(3)		1	1			4	紹聖元寶(1)	銭(寛永通寶)より年代判定	
1801	ST01	桶棺墓	土墳墓 (木棺?)	改葬あり	成年	男性										洪武通寶, 慶長通寶, 元豊通寶, 祥符通寶, 嘉祐通寶		
1801	ST02	桶棺墓			小児	判定不能												出土遺物なし
1801	ST14	桶棺墓			若年後半以上	不明								金属片				
1801	SK42	桶棺墓					1											
1801	ST46	桶棺墓	不明	改葬有り	成年	不明	2											
1801	ST47	桶棺墓	土墳墓 (木棺?)	改葬不明	成人	不明	2		土師皿(2)									
1801	ST59	木棺墓	方形木棺	改葬無し	成年	女性?		17世紀以降	土師皿(2)						5	不明(2)	銭(寛永通寶)より年代判定	
1801	ST60	木棺墓	長方形木棺	改葬無し	成年	男性	5	17世紀以降	土師皿(2)			1		刀子か?	5	無文銭(1)	銭(寛永通寶)より年代判定	
1801	ST83	桶棺墓	土墳墓 (木棺?)	改葬無し	老年	女性		17世紀以降	土師皿(3)			1か2			6		銭(寛永通寶)より年代判定	
1801	ST94	桶棺墓			成人	不明		17世紀以降	土師坏(2)		1	1	1	青銅製品	1	不明(5)	銭(寛永通寶)より年代判定	

調査地点	遺構番号	遺構名	人骨所見				鉄釘	年代	副葬品						銭貨		備考
			葬法	改葬など	年齢	性別			土器	キセル	ハサミ	毛抜	櫛	その他	寛永通寶	その他	
1801	ST101	桶棺墓	土墳墓(木棺?)	改葬不明	成年	女性		17世紀以降	土師皿(3)		1	1	1	石製玉	5	嘉祐通寶(1)	銭(寛永通寶)より年代判定
1801	ST112	桶棺墓			不明	不明		17世紀以降	土師皿				1	メガネ, メガネ入れ, ボタン(2), 木製玉(4)	6		銭(寛永通寶)より年代判定
1801	ST113	桶棺墓			不明	不明											
1801	ST114	桶棺墓	土墳墓(木棺?)	改葬不明	熟年	不明											
1801	ST115	桶棺墓	円形木棺		熟年	不明	2	17世紀以降	土師皿(2)					ガラス製玉(2)	2	不明(3)	銭(寛永通寶)より年代判定
1801	ST118	桶棺墓	方形木棺				3			1				鉄製刀子, 鉄製品(刀子?), 金銅製鋸金具(長方形2, 大型L字型2, 円形25, 楕円形6, 長楕円形4, 円形6(菊花文, 魚々子, 毛彫りなどの装飾あり))			
1801	ST119	桶棺墓			不明	不明		17世紀以降	土師皿					棒状鉄製品, 鋸金具	6		銭(寛永通寶)より年代判定
1801	ST120	桶棺墓	土墳墓(木棺?)	改葬不明	不明	不明											
1801	ST122	桶棺墓	土墳墓(木棺?)	改葬無し	成年	不明	1										
1801	ST128	桶棺墓	土墳墓(木棺?)	改葬不明	老年	不明			土師皿(2)					銅製(線様)金具			
1801	ST129	桶棺墓	方形木棺	改葬無し	成年後半	不明					1						
1801	ST130	桶棺墓	土墳墓(木棺?)	改葬不明	成人	男性?		17世紀以降							3?	不明(1)	銭(寛永通寶)より年代判定
1801	SK131	桶棺墓	方形木棺	改葬有り	不明	不明	9										
1801	SX134	桶棺墓	土墳墓(木棺?)	改葬不明	成年-熟年	不明											
1801	ST138	桶棺墓	土墳墓(木棺?)	改葬無し	成年-熟年	男性		17世紀以降	土師皿		1				6		銭(寛永通寶)より年代判定
1801	SK140	桶棺墓	土墳墓		不明	不明			染付茶碗, 土師皿					石製玉			
1801	ST143	桶棺墓			不明	不明			白磁皿								
1801	ST144	桶棺墓			不明	不明			土師皿								
1801	ST145	桶棺墓			若年-成年前半	不明		17世紀以降	土師皿			1	1		4	不明(1)	銭(寛永通寶)より年代判定
1801	ST149	桶棺墓			成年	女性	1										

第4表 HZK2007・1801地点 甕棺墓一覧

※乳児0-1歳, 幼児1-6歳, 小児6-12歳, 若年12-20歳, 成年20-40歳, 熟年40-60歳, 老年60歳以上, 成人は20歳以上とする

調査地点	遺構番号	遺構名	人骨所見				鉄釘	年代	副葬品						銭貨		備考
			葬法	改葬など	年齢	性別			土器	キセル	ハサミ	毛抜	櫛	その他	寛永通寶	その他	
2007	ST59	甕棺墓	甕棺	改葬無し	老年	男性	4	17世紀後半以降						青銅製鋸杖	5		銭(寛永通寶)より年代判定
2007	ST62	甕棺墓	甕棺	改葬不明	幼児-小児	不明		18~19世紀	土師皿(1), 白磁紅玉					銅製鈴(2), 銅製加工品	4	不明(2), 鉄銭(1)	甕棺より年代判定

II まとめ

調査地点	遺構番号	遺構名	人骨所見				鉄釘	年代	副葬品						銭貨		備考	
			葬法	改葬など	年齢	性別			土器	キセル	ハサミ	毛抜	櫛	その他	寛永通寶	その他		
2007	ST63	甕棺墓	甕棺	改葬無し	成人	女性	1	18~19世紀		1	1		1			2	鉄銭(4)	甕棺より年代判定
2007	ST65	甕棺墓	甕棺	改葬有り	不明	不明		18~19世紀	土師皿(2)							3	不明(3)	甕棺より年代判定
2007	ST66	甕棺墓	甕棺	改葬有り				18~19世紀										甕棺より年代判定
2007	ST67	甕棺墓	甕棺	改葬不明	乳幼児	不明	1	17世紀後半	土師皿(2), 白磁紅皿							4	無文銭(2)	甕棺より年代判定
2007	ST73	甕棺墓	甕棺	改葬不明	成人	不明		17世紀以降				1				2		銭(寛永通寶)より年代判定
2007	ST74	甕棺墓	甕棺	改葬不明	不明	不明		18~19世紀										甕棺より年代判定
2007	ST75	甕棺墓	甕棺	改葬有り	成年	女性		18~19世紀	土師皿(1)							1	不明(1)	甕棺より年代判定
2007	ST77	甕棺墓	甕棺	改葬無し	老年	女性		18~19世紀	土師皿(2), 染付碗(1)							5	不明(6)	甕棺より年代判定
2007	ST78	甕棺墓	甕棺	改葬無し	熟年	男性	1	18~19世紀	土師皿(2)	1		1		柁目板		2	鉄銭(3), 無文銭(2), 不明(1)	甕棺より年代判定
2007	ST81	甕棺墓	甕棺	改葬有り	不明	不明		18~19世紀	土師器片									甕棺より年代判定
2007	ST82	甕棺墓	甕棺	改葬無し	小児	不明			土師皿(2), 白磁紅皿					土人形(2) (虚無僧, 大黒天)			不明(6)	
2007	ST83	甕棺墓	甕棺	改葬有り	成人	不明												
2007	ST84	甕棺墓	甕棺	改葬不明	不明	不明		17世紀前半										甕棺より年代判定
2007	ST86	甕棺墓	甕棺	改葬有り	不明	不明			土師皿(2), 陶器花瓶									
2007	ST88	甕棺墓	甕棺	改葬無し	老年	男性	7		土師皿(3)	1	2							
2007	ST90	甕棺墓	甕棺	改葬不明	不明	不明		18~19世紀										甕棺より年代判定
2007	ST95	甕棺墓	甕棺	改葬不明	成人	不明												
2007	ST99	甕棺墓	甕棺	改葬有り	老年	男性	2											
2007	ST100	甕棺墓	甕棺	改葬不明	熟年	男性	3	17世紀以降	土師皿(2)	1				石製玉		4	鉄銭(2)	銭(寛永通寶)より年代判定
2007	ST101	甕棺墓	甕棺	改葬無し	老年	男性												
2007	ST102	甕棺墓	甕棺	改葬有り	成人	男性	2	18~19世紀	土師皿(2), 陶器碗		1	1				5	無文銭(1)	甕棺より年代判定
2007	ST104	甕棺墓	甕棺	改葬有り	不明	不明		18~19世紀										甕棺より年代判定
2007	ST105	甕棺墓	甕棺	改葬有り	不明	不明												
2007	ST106	甕棺墓	甕棺	改葬有り	不明	不明		18~19世紀	土師器坏 (1)									甕棺より年代判定
2007	ST107	甕棺墓	甕棺	改葬不明	老年	女性	2	18~19世紀	土師皿(2)							6		甕棺より年代判定
2007	ST108	甕棺墓	甕棺	改葬不明	老年	女性	4	18~19世紀	土師質鉢 (1)	1			1	扇の骨(2)		2	鉄銭(2)	甕棺より年代判定
2007	ST109	甕棺墓	甕棺	改葬無し	熟年	男性		18~19世紀	土師皿(3)	1			1	煙草入れ金 具(4), 筭				甕棺より年代判定
2007	ST111	甕棺墓	甕棺	改葬有り	不明	不明												
2007	ST112	甕棺墓	甕棺	改葬有り	成人	不明		17世紀後半	土師器坏 (2)							6		甕棺より年代判定
2007	ST113	甕棺墓	甕棺	改葬有り				18~19世紀	土師皿(1)									甕棺より年代判定
2007	ST117	甕棺墓	甕棺	改葬無し	老年	男性	2	17世紀以降	土師皿(1)	1	2	1		扇(3)		2	不明(3)	銭(寛永通寶)より年代判定
2007	ST118	甕棺墓	甕棺	改葬不明	老年	男性?		18~19世紀	土師皿(1)	1				木製釧, ガ ラス製玉 (3), 石製 玉(2)		3	鉄銭(3)	甕棺より年代判定

2. 遺構の変遷

調査地点	遺構番号	遺構名	人骨所見				鉄釘	年代	副葬品						銭貨		備考	
			葬法	改葬など	年齢	性別			土器	キセル	ハサミ	毛抜	櫛	その他	寛永通寶	その他		
2007	ST119	甕棺墓	甕棺	改葬有り	乳幼児	不明	1	17世紀前半～後半	陶器壺棺の飾り									甕棺より年代判定
2007	ST130	甕棺墓	甕棺	改葬不明	熟年	男性		18～19世紀	土師皿(2)	1	2	1		煙草入れ金具(3)	4	鉄銭(2), 無文銭(1)		甕棺より年代判定
2007	ST131	甕棺墓	甕棺	改葬有り	成人(歯牙)	不明		18～19世紀										甕棺より年代判定
2007	ST132 棺外	甕棺墓	甕棺	改葬不明	成人	不明	2	17世紀以降	土師皿(1)・坏(2)・高台付坏(5)	1					1			棺外出土遺物含む 銭(寛永通寶)より年代判定
2007	ST137	甕棺墓	甕棺	改葬有り	不明	不明		18～19世紀						小刀				甕棺より年代判定
2007	ST138	甕棺墓	甕棺	改葬有り	熟年	男性								簪状製品				
2007	ST139	甕棺墓	甕棺	改葬無し	老年	男性	1	18～19世紀	陶器蓋(1), 土師器坏(2)	3	2	1		加工板材				甕棺より年代判定
2007	ST140	甕棺墓	甕棺	改葬無し	老年	男性	1	18～19世紀		2				七星板				甕棺より年代判定
2007	ST141	甕棺墓	甕棺	改葬不明	老年	女性			土師皿(1)	1	1			加工板材(2)		銅銭(3)		
2007	ST142	甕棺墓	甕棺	改葬無し	成年	女性	2	17世紀以降	土師皿(3)		1	1			3	鉄銭(4)		銭(寛永通寶)より年代判定
2007	ST143	甕棺墓	甕棺	改葬不明	成年	男性			土師皿(2)	1		1		扇				
2007	ST145	甕棺墓	甕棺	改葬無し	老年	男性		18～19世紀	土師皿(2)		1	1						甕棺より年代判定
2007	ST148	甕棺墓	甕棺	改葬不明	成年	不明		18～19世紀	土師皿(2)			1						甕棺より年代判定
2007	ST149	甕棺墓	甕棺	改葬有り	成人	男性?		18～19世紀										甕棺より年代判定
2007	ST152	甕棺墓	甕棺	改葬有り	不明	不明		18～19世紀	陶器高台付坏(1)									甕棺より年代判定
2007	ST153	甕棺墓	甕棺	改葬有り	不明	不明		18～19世紀	土師皿(1)									甕棺より年代判定
2007	ST156	甕棺墓	甕棺	改葬有り	不明	不明	1	18～19世紀										甕棺より年代判定
2007	ST157	甕棺墓	甕棺	改葬有り	熟年	女性		17世紀以降		1	1				5			銭(寛永通寶)より年代判定
2007	ST165	甕棺墓	甕棺	改葬有り	不明	不明												
2007	ST166	甕棺墓	甕棺	改葬不明	熟年以上	女性		17世紀以降	土師皿(2)	2	1	1		ガラス製玉	2	不明(2)		銭(寛永通寶)より年代判定
2007	ST167	甕棺墓	甕棺	改葬無し	老年	男性		18～19世紀	土師皿(2)		1			石製玉	2	鉄銭(4)		甕棺より年代判定
2007	ST169	甕棺墓	甕棺	改葬無し	熟年	女性		18～19世紀	土師皿(2)		1							甕棺より年代判定
2007	ST170	甕棺墓	甕棺	改葬有り	不明	不明	2	18～19世紀										甕棺より年代判定
2007	ST171	甕棺墓	甕棺	改葬不明	成年	男性	1	18～19世紀	土師皿(2)		1	1	1		8	鉄銭(3)		甕棺より年代判定
2007	ST172	甕棺墓	甕棺	改葬不明	熟年	男性		18～19世紀	土師皿(2)	1	1		1	加工板材(2), 七星板	2	鉄銭(4)		甕棺より年代判定
2007	ST174	甕棺墓	甕棺	改葬無し	熟年以上	女性		18～19世紀	土師皿(2)	1	1	1			5	無文銭(2)		甕棺より年代判定
2007	ST182	甕棺墓	甕棺	改葬有り	成人	不明			土師皿(1), 花瓶		2	1			4	不明(2)		花瓶は棺外出土
2007	ST184	甕棺墓	甕棺	改葬有り	不明	不明	1											
2007	ST185	甕棺墓	甕棺	改葬有り	不明	不明		18～19世紀	土師皿(1)		1		1					甕棺より年代判定 副葬品は棺外出土
2007	ST193	甕棺墓	甕棺	改葬不明	老年	女性	3	17世紀以降	土師皿(1)		1	1			1	鉄銭(4)		銭(寛永通寶)より年代判定
2007	ST197	甕棺墓	甕棺	改葬有り	不明	不明		18～19世紀			1	1						甕棺より年代判定

II まとめ

調査地点	遺構番号	遺構名	人骨所見				鉄釘	年代	副葬品						銭貨		備考
			葬法	改葬など	年齢	性別			土器	キセル	ハサミ	毛抜	櫛	その他	寛永通寶	その他	
2007	ST200	甕棺墓	甕棺	改葬有り	乳幼児	不明		17世紀前半	土師皿(1)		1	1	1	石製玉	7		甕棺より年代判定 副葬品は棺外出土
2007	ST203	甕棺墓	甕棺	改葬有り	不明	不明											
1801	ST40	甕棺墓	甕棺	改葬有り	若年	男性		17世紀後半									甕棺より年代判定
1801	ST45	甕棺墓	甕棺		成年- 熟年	女性		17世紀後半, 18~19世紀	陶器碗(1), 土師皿(1)								甕棺より年代判定
1801	ST57	甕棺墓	甕棺	改葬不明	成年	男性	6	17世紀以降	土師皿(2)			1	1	鏡箱(蓋・身各1), 青銅製柄鏡, 七星板	2	鉄銭(3)	銭(寛永通寶)より年代判定
1801	ST58	甕棺墓	甕棺	改葬有り	成年前 半	女性		18~19世紀	土師皿(2)		1	1			6		甕棺より年代判定
1801	ST61	甕棺墓	甕棺	改葬無し	熟年	女性	2	18~19世紀	土師皿(1)	1		1			1	鉄銭(4)	甕棺より年代判定
1801	ST62	甕棺墓	甕棺	改葬無し	老年	男性	3	18~19世紀	土師皿(2)	1	1		木製丸玉(31), 木製玉(紡錘形)(15), 石製玉(1)	2	鉄銭2枚?	玉(計46個)は一連の数珠と考えられる 甕棺より年代判定	
1801	ST63	甕棺墓	甕棺	改葬不明	老年	男性	3	18~19世紀	土師皿(2)	1			石製玉	6		甕棺より年代判定	
1801	ST64	甕棺墓	甕棺	改葬無し	老年	女性		18~19世紀	土師皿(2)	1			七星板			甕棺より年代判定	
1801	ST65	甕棺墓	甕棺	改葬無し	老年	男性	1		土師皿(2)	1			ガラス製玉(1)	5	鉄銭(1)	銭6枚は錆着し指の骨付着	
1801	ST66	甕棺墓	甕棺	改葬無し	老年	男性		18~19世紀	土師皿(2)				加工板	5	鉄銭(2)	甕棺より年代判定	
1801	ST67	甕棺墓	甕棺	改葬無し	老年	男性		18~19世紀	土師皿(2)							甕棺より年代判定	
1801	ST70	甕棺墓	甕棺	改葬不明	幼児	判定不能	3	18~19世紀								甕棺より年代判定	
1801	ST71	甕棺墓	甕棺	改葬無し	老年	男性	3	18~19世紀	陶器皿, 土師皿, 陶器蓋, 染付湯呑				陶器人形(1)			甕棺より年代判定	
1801	ST72	甕棺墓	甕棺	改葬無し	成年後 半	女性		18~19世紀	陶器茶碗(2)		1			4	開元通寶(1)	甕棺より年代判定	
1801	ST73	甕棺墓	甕棺	改葬無し	乳児	判定不能		18~19世紀	白磁紅血(2), 土師質鈴(オシドリ)					4	鉄銭(1)	甕棺より年代判定	
1801	ST75	甕棺墓	甕棺	改葬不明	成年	女性		18~19世紀	陶器播鉢(1)					6		甕棺より年代判定	
1801	ST76	甕棺墓	甕棺	改葬不明	熟年以上	不明		18~19世紀						1		甕棺より年代判定	
1801	ST78	甕棺墓	甕棺	改葬有り	熟年	女性		18~19世紀	染付茶碗(1)							甕棺より年代判定 明 甕棺2個出土	
1801	ST80	甕棺墓	甕棺	改葬有り				18~19世紀							不明	甕棺より年代判定	
1801	ST81	甕棺墓	甕棺	改葬有り	成年	不明	1	18~19世紀		1	1	1	木製玉, 七星板	3	朝鮮通寶(棺外)	甕棺より年代判定	
1801	ST86	甕棺墓	甕棺	改葬不明	熟年	男性		18~19世紀	土師皿(2)	2		1	鉛製玉, 木製サイコロ(3), 樹皮, ガラス板, 織物(布地), 銅製金具(煙草入れ)		不明(2)	甕棺より年代判定	
1801	ST87	甕棺墓	甕棺	改葬無し	小児	判定不能	4		土師皿(2)						大観通寶(1)		
1801	ST88	甕棺墓	甕棺		成人	不明		18~19世紀	土師皿(2)								甕棺より年代判定
1801	ST89	甕棺墓	甕棺	改葬不明	若年後 半~成 年前半	女性	2	18~19世紀	土師皿(3)	1		1	鍔金具(3), 同一木箱の一連金具)	6		甕棺より年代判定	

2. 遺構の変遷

調査地点	遺構番号	遺構名	人骨所見				鉄釘	年代	副葬品						銭貨		備考	
			葬法	改葬など	年齢	性別			土器	キセル	ハサミ	毛抜	櫛	その他	寛永通寶	その他		
1801	ST90	甕棺墓	甕棺	改葬無し	老年	男性		18~19世紀	土師皿(2) ・坏(1)	1					木製火入れ, 扇, 七星板, 鉄製火打金	7		甕棺より年代判定
1801	ST91	甕棺墓	甕棺	改葬不明	成年	女性	7	18~19世紀	土師皿(2)	1	1	1	1	鉄製火打金	5	鉄銭(2)	甕棺より年代判定	
1801	ST92	甕棺墓	甕棺	改葬有り	熟年以上	男性	1 (近代以降)	18~19世紀	土師皿(1)									甕棺より年代判定
1801	ST93	甕棺墓	甕棺	改葬無し	老年	男性		18~19世紀	土師皿(1)	1					石製品(環状に加工)	2		甕棺より年代判定
1801	ST95	甕棺墓	甕棺	改葬無し	熟年以上	女性		18~19世紀	土師皿(2)		1	1			石製玉(6)	6		甕棺より年代判定
1801	ST96	甕棺墓	甕棺	改葬有り	成人	男性	1	17世紀後半	土師皿(3)									甕棺より年代判定
1801	ST97	甕棺墓	甕棺	改葬有り	老年	男性	1	18~19世紀	陶器茶碗(1), 土師皿(4)	1					七星板			甕棺より年代判定
1801	ST98	甕棺墓	甕棺	改葬有り				18~19世紀										甕棺より年代判定
1801	ST102	甕棺墓	甕棺	改葬有り	成年	不明	4	17世紀以降	土師皿	1	1	1				3	無文銭(1)	土師器甕棺銭(寛永通寶)より年代判定
1801	ST103	甕棺墓	甕棺	改葬不明	成年	男性		17世紀以降		1					七星板, スパンコール状木製品(22)	4	鉄銭(1)	銭(寛永通寶)より年代判定
1801	ST107	甕棺墓	甕棺	改葬不明	熟年	女性		18~19世紀										甕棺より年代判定
1801	ST108	甕棺墓	甕棺	改葬不明	不明	不明		18~19世紀										甕棺より年代判定
1801	ST109	甕棺墓	甕棺	改葬不明	熟年	男性		18~19世紀		1						4	開元通寶(1), 不明(1)	甕棺より年代判定
1801	ST110	甕棺墓	甕棺	改葬有り	不明	不明		18~19世紀										甕棺より年代判定
1801	ST111	甕棺墓	甕棺	改葬有り	熟年	不明	2	17世紀以降							鍔金具(2)	1		銭(寛永通寶)より年代判定
1801	ST117	甕棺墓	甕棺	改葬有り	不明	不明		18~19世紀										甕棺より年代判定
1801	ST126	甕棺墓	甕棺	改葬無し	熟年-老年	男性	2	18~19世紀	土師皿(4), 土師器坏	1					鉄製火打金			甕棺より年代判定
1801	ST127	甕棺墓	甕棺(小形)	改葬無し	幼児	判定不能		18~19世紀								5	銅銭・鉄銭(枚数不明)	甕棺より年代判定
1801	ST132	甕棺墓	甕棺	改葬有り	熟年	男性	3	18~19世紀								1	鉄銭(1), 不明(2)	甕棺より年代判定
1801	ST133	甕棺墓	甕棺	改葬有り					土師皿(2), 印判手皿									
1801	ST137	甕棺墓	甕棺	改葬有り	不明	不明	4	18~19世紀										甕棺より年代判定
1801	ST141	甕棺墓	甕棺	改葬無し	若年	女性	3	18~19世紀										甕棺より年代判定
1801	ST147	甕棺墓	甕棺	改葬有り	不明	不明		18~19世紀	土師皿									甕棺より年代判定
1801	ST148	甕棺墓	甕棺	改葬有り	不明	不明		18~19世紀										甕棺より年代判定
1801	ST151	甕棺墓	甕棺	改葬有り														甕棺2個出土 九大食器茶碗
1801	ST152	甕棺墓	甕棺	改葬不明	若年-成年前半	不明	1											

3. おわりに

箱崎キャンパス跡地東南部には箱崎遺跡が広がるが、工学部本館より南側は居住地であり、それより北の地蔵の森以北は墓域が広がるという歴史的な空間が発掘調査により明らかとなった。居住地の集落遺跡では、古代末から中世にかけて大きく3段階の変遷が明らかとなっていた（宮本 2023）。居住地の北側の墓地もそれに対応して墓葬が形成されていたことが明らかとなった。

集落遺跡第1段階の12世紀後半～13世紀前半は、宇美川や綿打川などから押し出された土砂によって形成された砂州が安定した段階に、箱崎遺跡の掘立柱建物と井戸を中心とした集落遺構が箱崎キャンパス跡地の工学部本館南側まで延びてきている。その段階に、集落の北側に貿易陶磁器などを副葬した木棺墓が形成され始める（第3図）。この時期は、箱崎遺跡は中国商人街などの国際交易都市として活動する時期であり、貿易陶磁器が副葬品として用いられている。続く13世紀後半～14世紀前半の集落遺跡第2段階には、元寇防塁が形成される時期であるが、引き続き工学部本館北側の地蔵の森付近で木棺墓が形成された（第3図）。

こうした状況が大きく転換するのは、中世後期の14世紀後半～15・16世紀の集落遺跡第3段階である。この段階では、元寇防塁が維持されず、区画溝や建物の方位が変化し、都市区画が変わるとともに、瓦葺建物などの建物群が作られている。HZK2006地点からHZK2003地点では、板碑が遊離した状態で出土している。それら板碑の年号は、文和年間（1352～1356年）、応永年間（1394～1428年）、宝徳3（1451）年、享禄5（1532）年といった14世紀後半～16世紀の集落遺跡第3段階のものである。同時期の板碑は、地蔵松原から移されたとされる勝軍地蔵堂板碑にも認められる（福岡市教育委員会文化財整備課 1992）。このような板碑の出土からも、瓦葺建物は寺院の堂宇である可能性があり、それらは工学部本館西側のHZK2003・2101地点で建造されたと考えられる。この段階に、地蔵の森北側のHZK2006地点やHZK2007地点では火葬土坑が存在し、荼毘に付す火葬場となっている（第4図）。墓域そのものの存在は不明であるが、葬法を含めて中世後期は生活様式が大きく転換している。その後の、中世末から近世初頭にかけては、集落遺跡の状況は不明であるが、墓地はさらに北側へ延び、HZK2007地点南端で16世紀～17世紀前半の小型の木棺墓が出現する（第5図）。

さらに、その北側に築造されるのが、17世紀後半～19世紀の桶棺墓と甕棺墓からなる近世墓地である（第5図）。近世には、工学部本館から地蔵の森付近に寺院が存在していた可能性がある。近世の箱崎は、筥崎宮周辺の宿場町として中世までの居住域が縮小している。そうした宿場町を中心とした住民や農民・漁民がこの寺院の檀家となり、檀家制度としてこのような近世墓地が創設されたものと考えられる。その近世墓地は、相対的に桶棺墓から甕棺墓へと葬法が移っていたものと考えられる。

以上のように、12世紀後半～14世紀前半の中世前期の集落遺跡第1・第2段階は、地蔵の森周辺に貿易陶磁を副葬品にした木棺墓が造営され、14世紀後半～16世紀の中世後期には、一部地域を重ねながら相対的に北側に火葬土坑が設けられた。さらに北側のHZK2007地点南端では、中世末～近世初頭の屈葬による小型の木棺墓が形成されている。17世紀後半～19世紀の近世には、さらに北側に桶棺墓と甕棺墓からなる近世墓地が形成された。このように、中世～近世の箱崎遺跡では、その北端において次第に北側に向けて墓地が拡大していく様が明らかとなったのである。（宮本一夫）

注

- 1 『筑前国続風土記』巻之十八糟屋郡表（貝原益軒編 1973）には、「地蔵堂は……箱崎の外北の方にあり。」「地蔵堂は寛永八年に、忠文公是を建立したまふ。」「地蔵堂ある故、松原と云。」とある。地蔵松原の由来は、箱崎

の北にあって地蔵堂があるところからきている。寛永8（1631）年に地蔵堂が箱崎の北に建立された記録から、工学部本館から地蔵の森付近には、近世に寺院が存在していたことが考えられる。

参考文献

- 貝原益軒編 1973『筑前国続風土記』巻之十八糟屋郡表、名著出版、394頁
- 東中川忠美 2000「陶器の編年」『九州陶磁の編年 九州近世陶磁学会10周年記念』九州近世陶磁学会
- 福岡市教育委員会文化財整備課 1992『福岡市の板碑』
- 藤澤典彦 2016「近世七星板の展開」『元興寺研究所研究報告2015—水野正好所長追悼論文集』元興寺文化財研究所、179-182頁
- 本田浩二郎（編）2023『箱崎68—第102次・第103次・第118次調査報告—』福岡市埋蔵文化財調査報告書第1485集、福岡市教育委員会
- 水野正好 1995「紙魚想考（五）」『奈良大学紀要』第35号、139-148頁
- 宮本一夫 2023「まとめと展望」『九州大学箱崎キャンパス発掘調査報告7 箱崎遺跡—HZK1903・1904・2101地点—』九州大学埋蔵文化財調査報告第10集、256-268頁

報告書抄録

ふりがな	はごぎいせき—HZK1801ちてん—							
書名	箱崎遺跡—HZK1801地点—							
副書名	九州大学箱崎キャンパス発掘調査報告10							
シリーズ名	九州大学埋蔵文化財調査室報告							
シリーズ番号	第13集							
編著者名	谷 直子 (編)・齋藤瑞穂・宮本一夫							
編集機関	九州大学埋蔵文化財調査室							
所在地	〒812-8581 福岡市東区箱崎6丁目10-1							
発行年月日	2025年10月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 m ²	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
はごぎいせき 箱崎遺跡 HZK1801地点	ふくおかしひがしく 福岡市東区 はごぎ 箱崎 6 丁目	40131	2639	33° 37' 30"	130° 25' 36"	2018.5.21 ～ 2018.11.8	700	学術研究
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
HZK1801地点	集落跡・墓地	近世	木(桶)棺墓・土坑墓・甕棺墓		近世甕棺・七星板・扇・キセル・鉢・毛拔・銅製金具・陶製人形・土師皿・銭貨			
要約	<p>本報告書では、箱崎遺跡九州大学箱崎キャンパス内の HZK1801地点の報告を行った。本地点は、旧船舶海洋工学実験室建物の北側にあり、近世の甕棺墓が確認された HZK1602地点の範囲を含んでいる。既報の中世の木棺墓や火葬土坑が見つかった HZK2006地点や、火葬土坑や近世の甕棺墓が多く検出された HZK2007地点の北に位置する。調査の結果、土坑墓（木棺墓・桶棺墓含む）22基・甕棺墓51基・甕棺片出土集中部7箇所・土坑20基・性格不明遺構5基を検出した。その結果、良好な人骨のほか、多くの遺物が出土した。特に七星板は今までに類例の少ない資料である。近世墓の埋葬習俗の一端が明らかとなる重要な調査成果を得られた。</p>							

箱崎遺跡

— HZK1801地点 —

九州大学埋蔵文化財調査室報告 第13集

令和7年(2025)10月31日

発行 九州大学埋蔵文化財調査室
福岡市東区箱崎6-10-1

印刷 シモダ印刷株式会社
熊本県熊本市中央区上水前寺2丁目16-16

